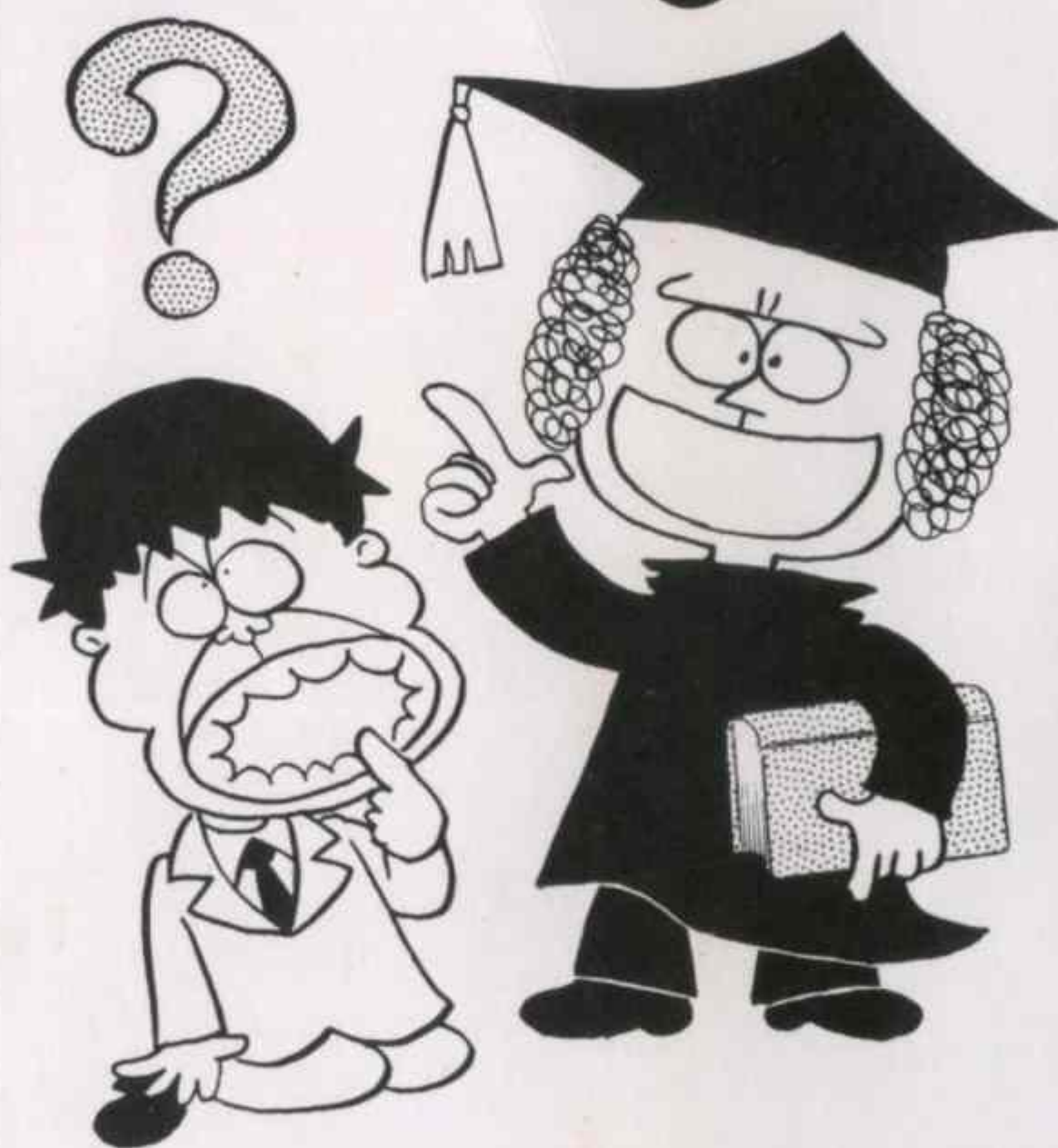


教 学 博 士



みなもと 太郎

数学博士



みなもと 太郎

教学博士

目 次

第 1 章	色心不二	3
第 2 章	因果とは	46
第 3 章	三世の生命	65
第 4 章	生死不二	96
第 5 章	有情と非情	121
第 6 章	成仏とは	153
第 7 章	十界論	166
終 章	仏の生命	234

第 1 章

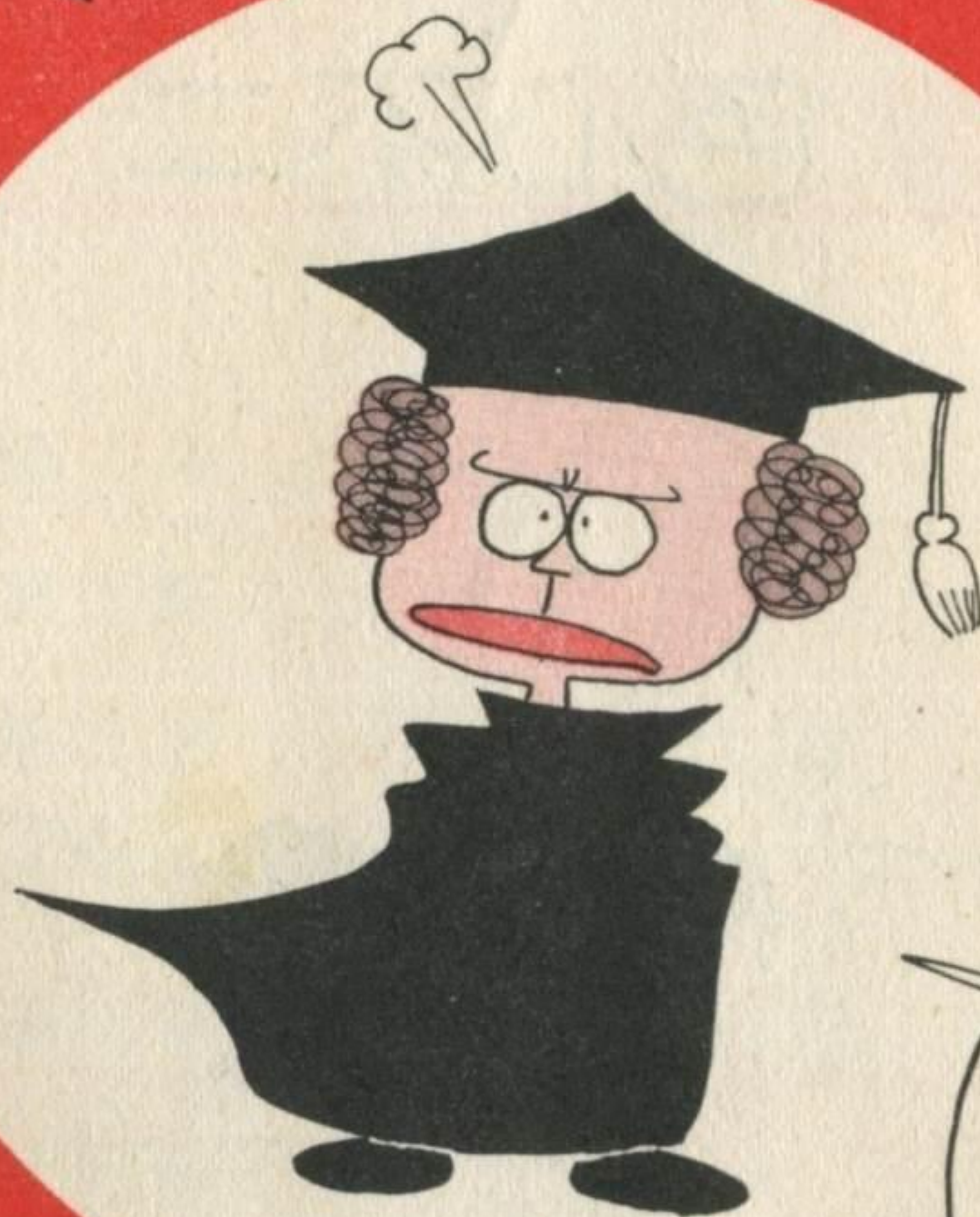
色心不二



えー、私が
キョウガク博士で
あります

狂学博士じゃ
ないっ

共学博士
でもないの

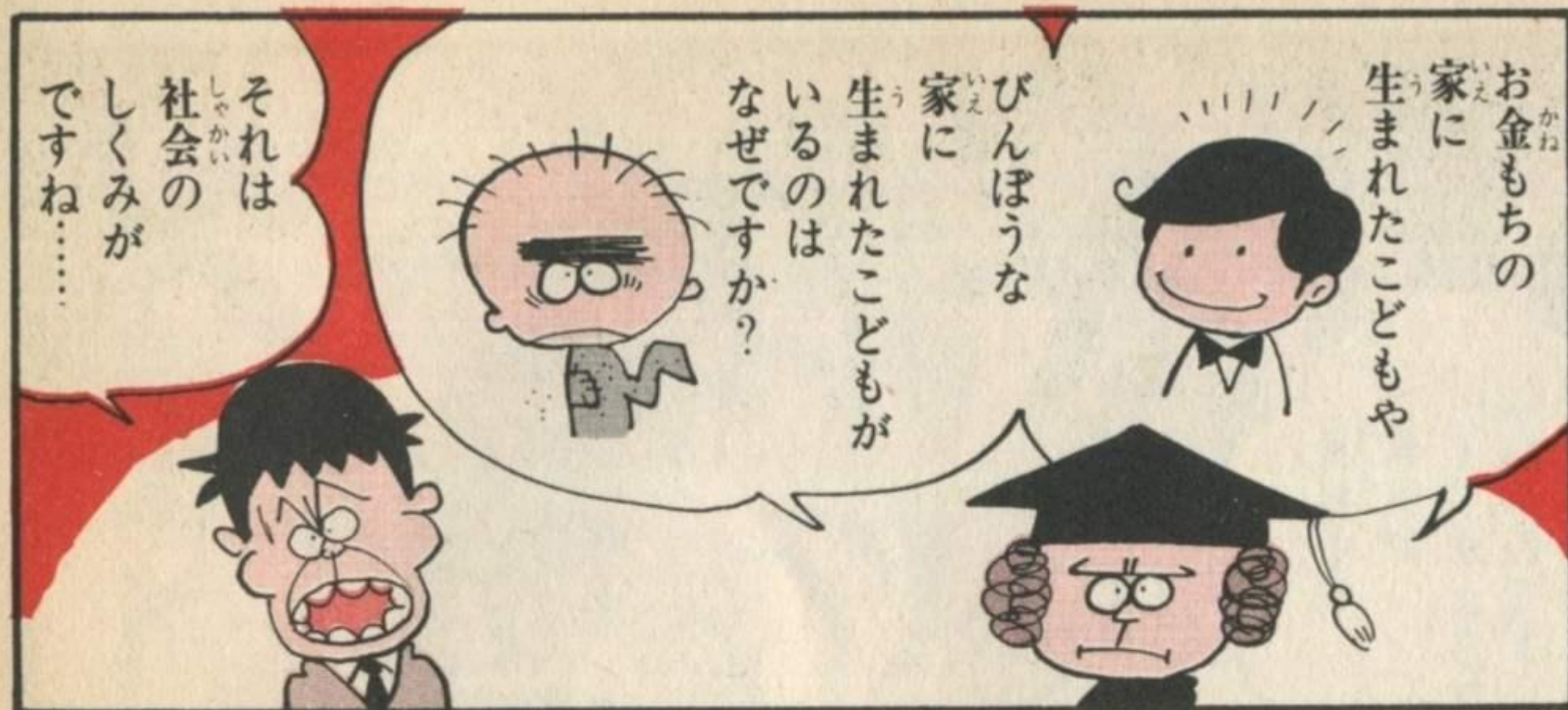


驚愕博士
じゃないよっ
おどろいて
どうすんの

私は
みなさんと
いっしょに
教学を
勉強
するので
あります
じゃ
さっそく
はじめよ







ドカーン

世界中で戦争がくりかえされているのです

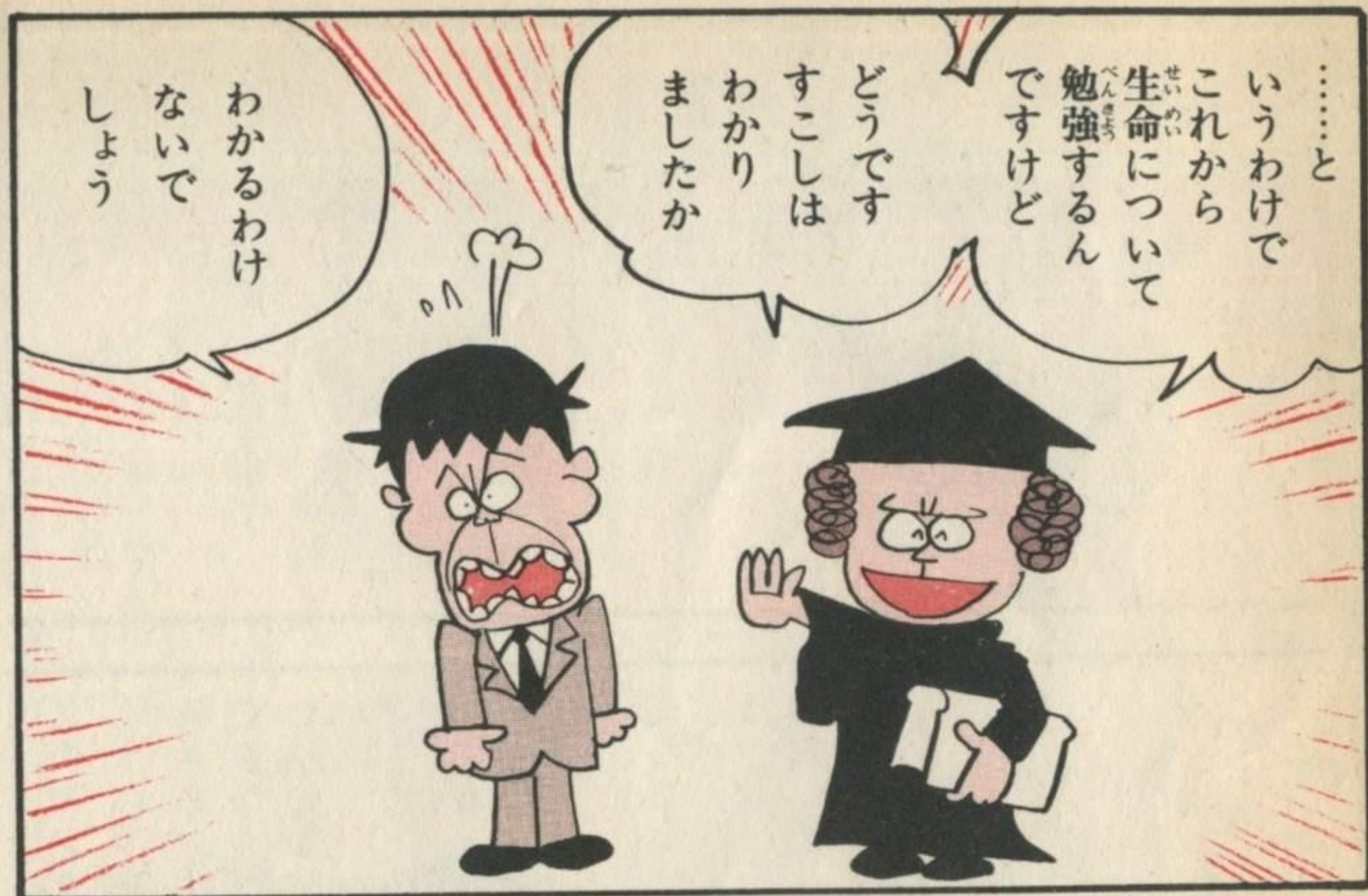
わあっ

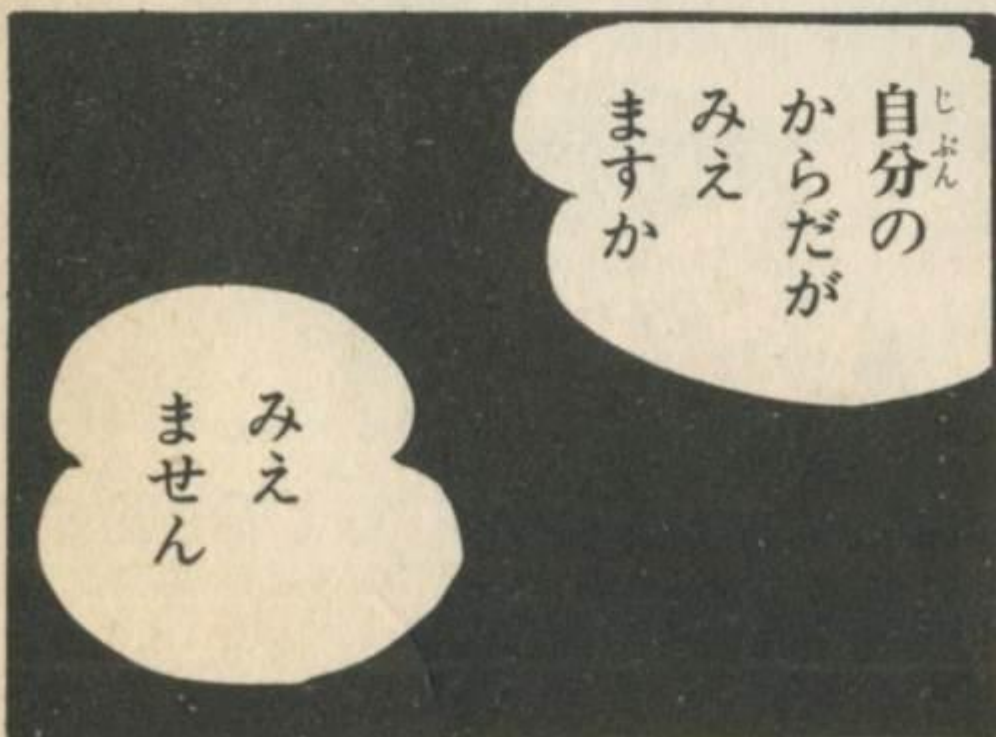
死んでいった人たちの生命はどこへいったんですかね……
お空へのぼっていったんでしょう

あんたそれほんきでしんじてるんですか!!

いやただなんとなく







じゃー
あんた
死んじやつ
たん
です
ね

生きて
ますよ!!

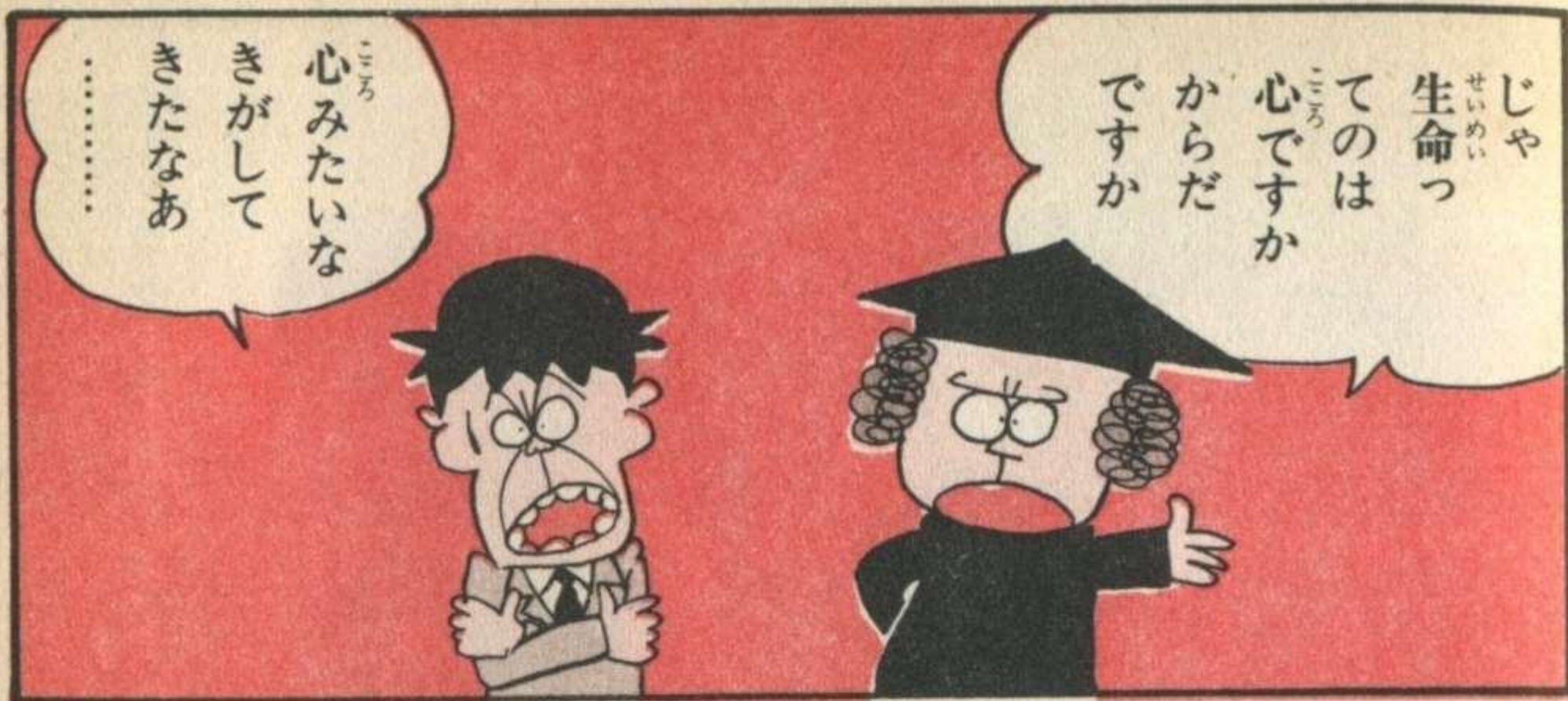
ほう
なぜ
わかるの?

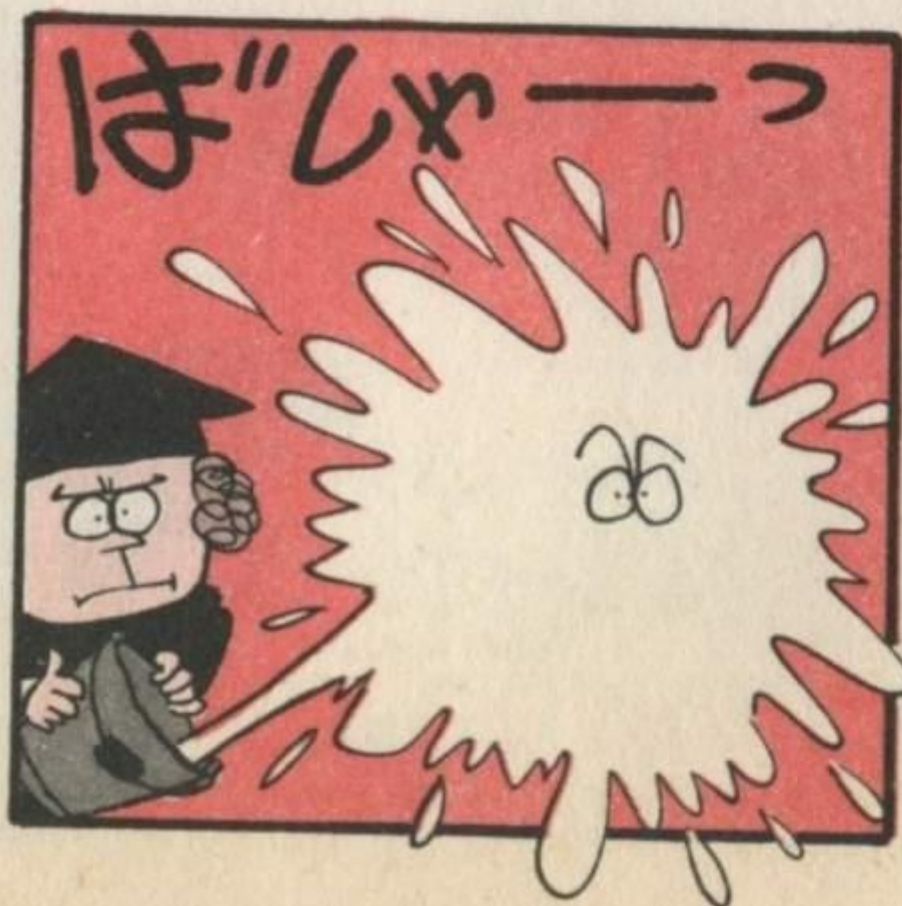
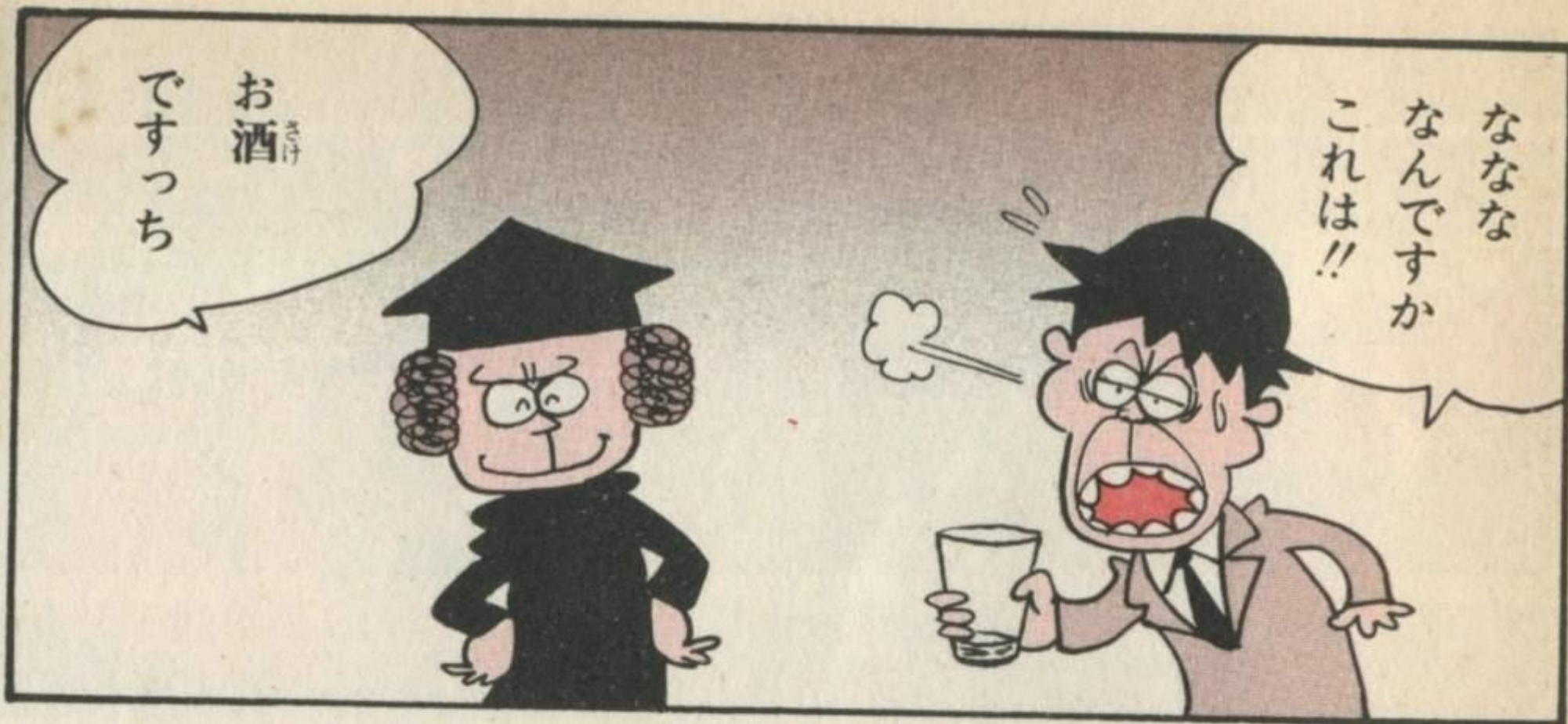
かんが
考える
ことが
できる
からです
こころ
心が
あるから
ですよ!

わかり
ました
目を
あけて

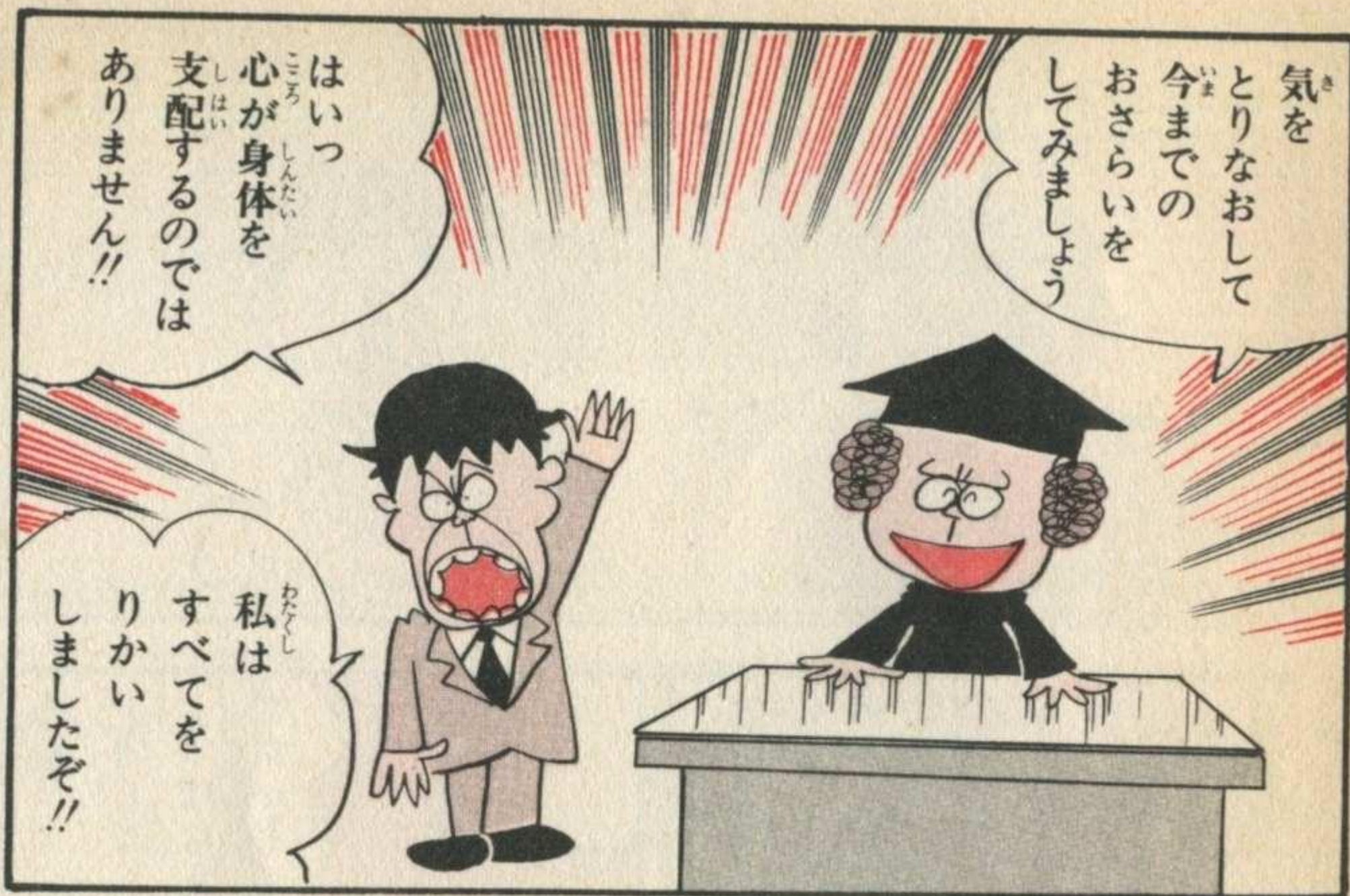
はいっ

あー
ほっと
した

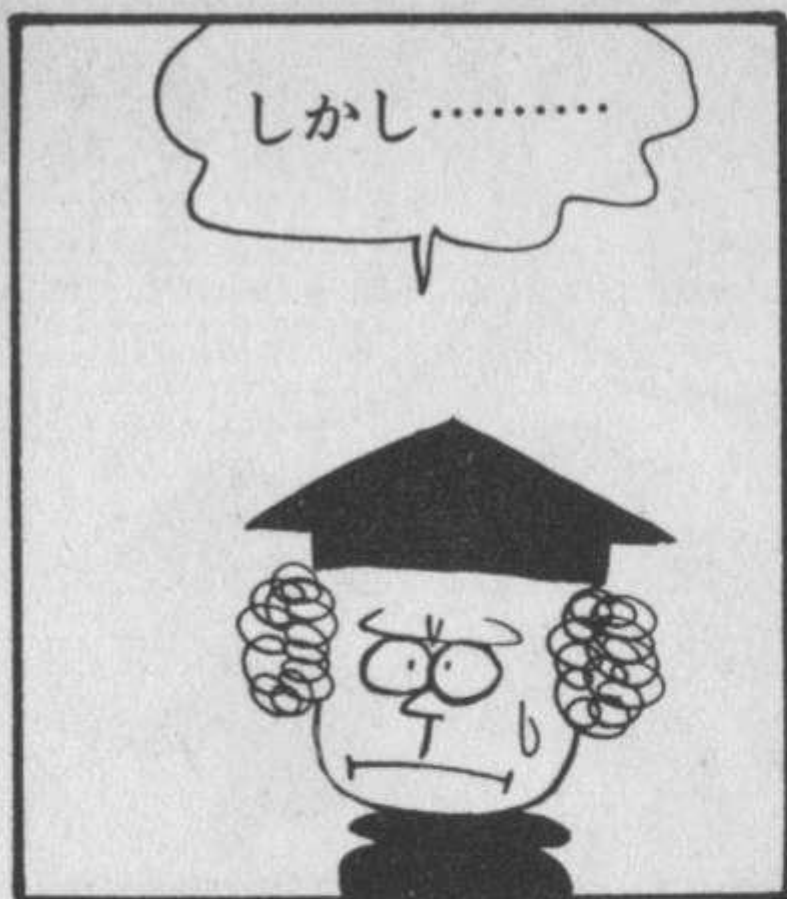


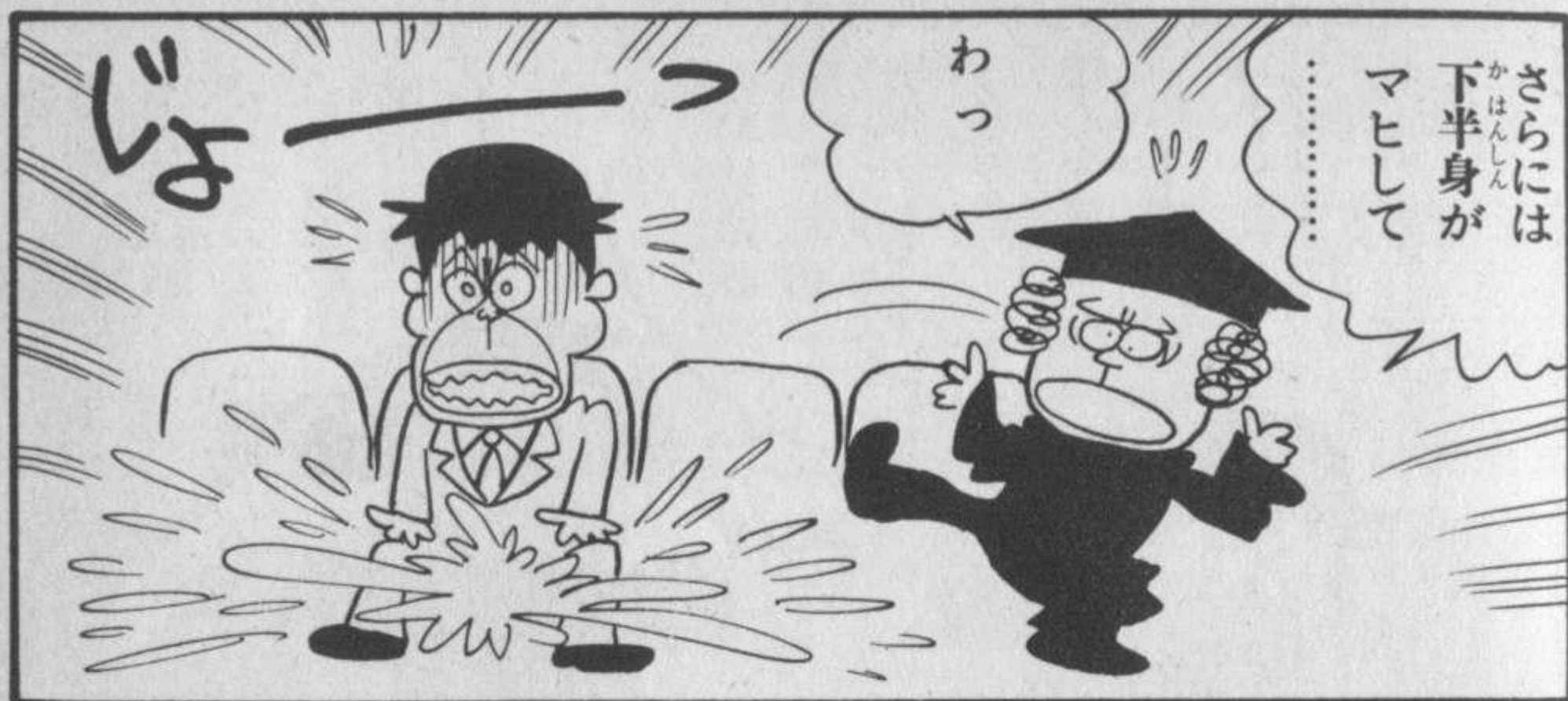


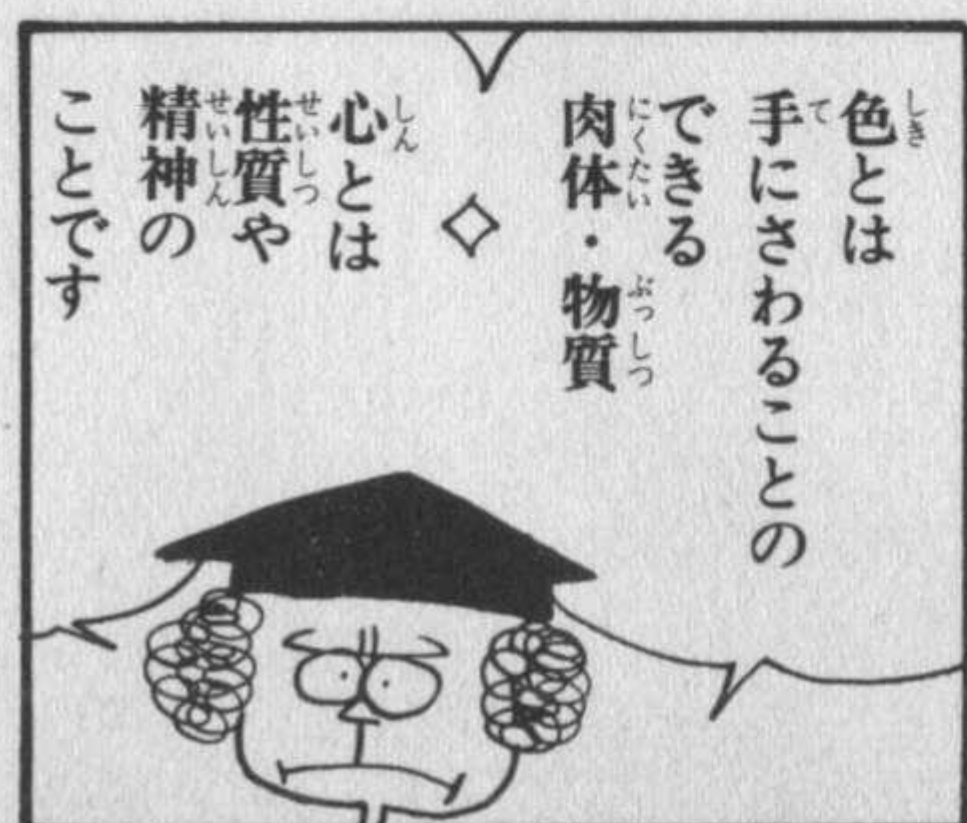


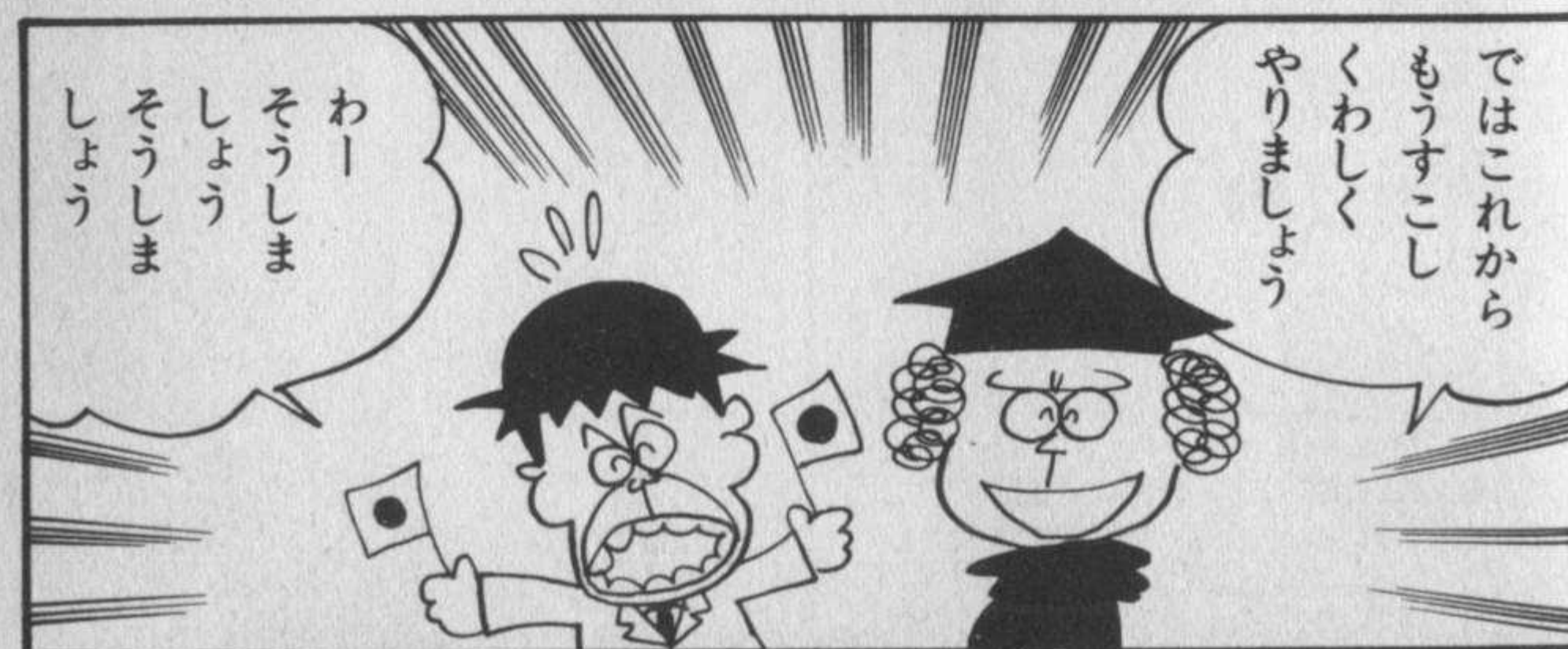
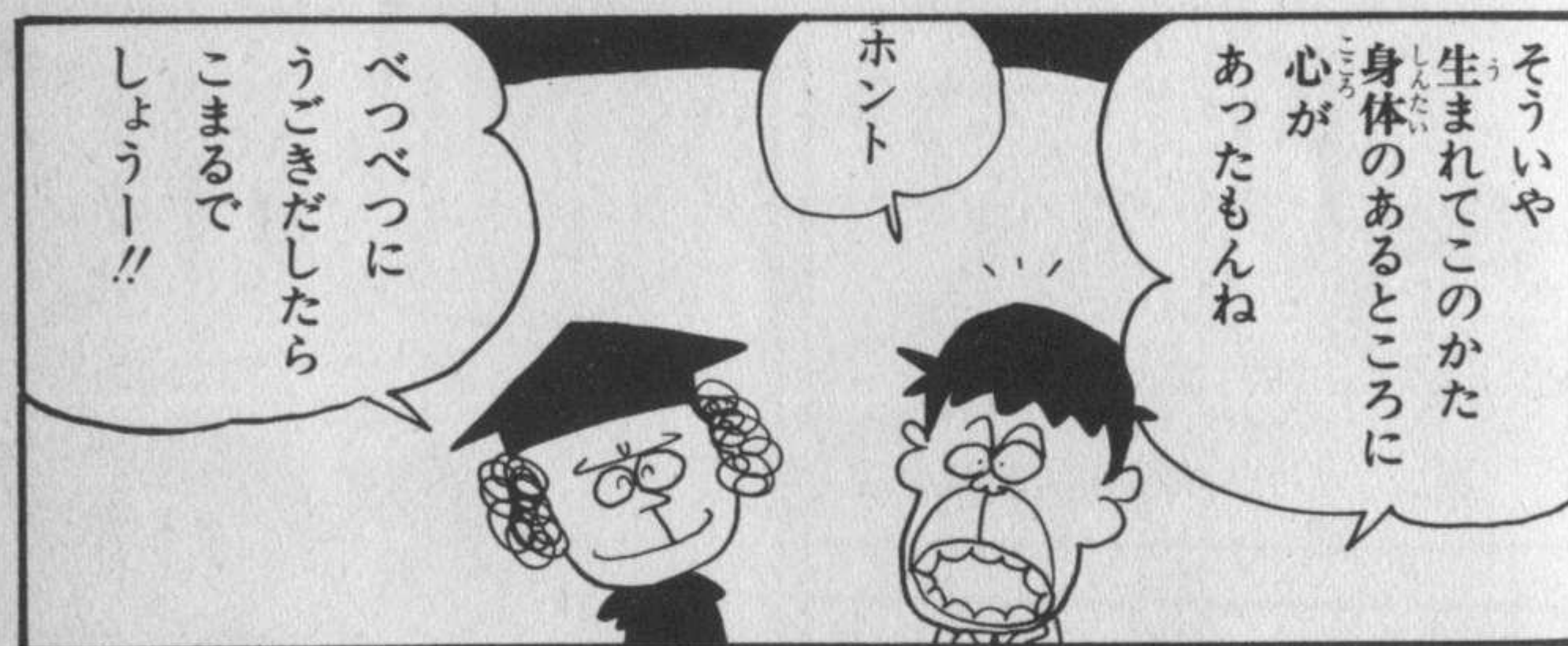














第1章 色心不二



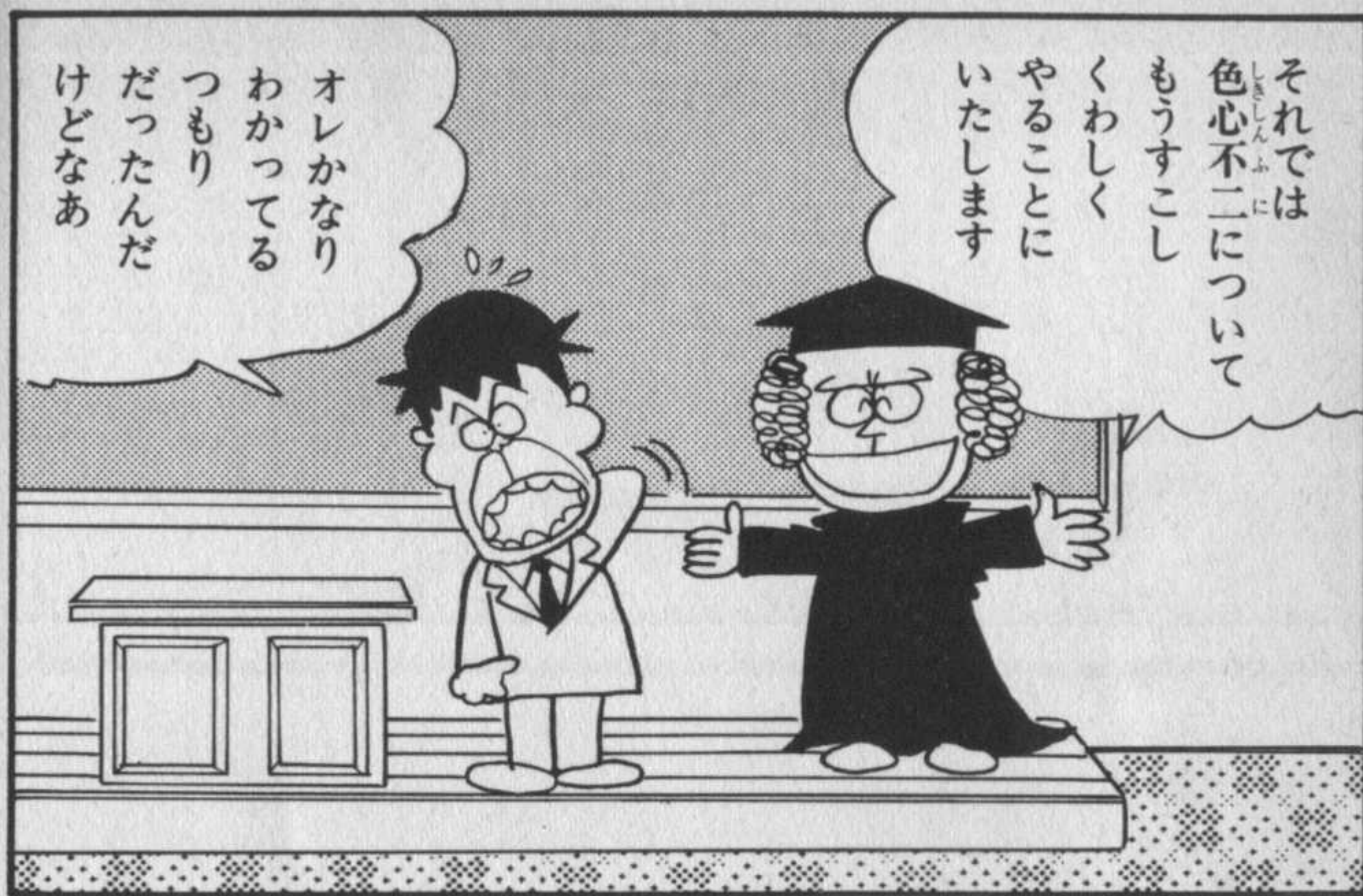


第1章 色心不二









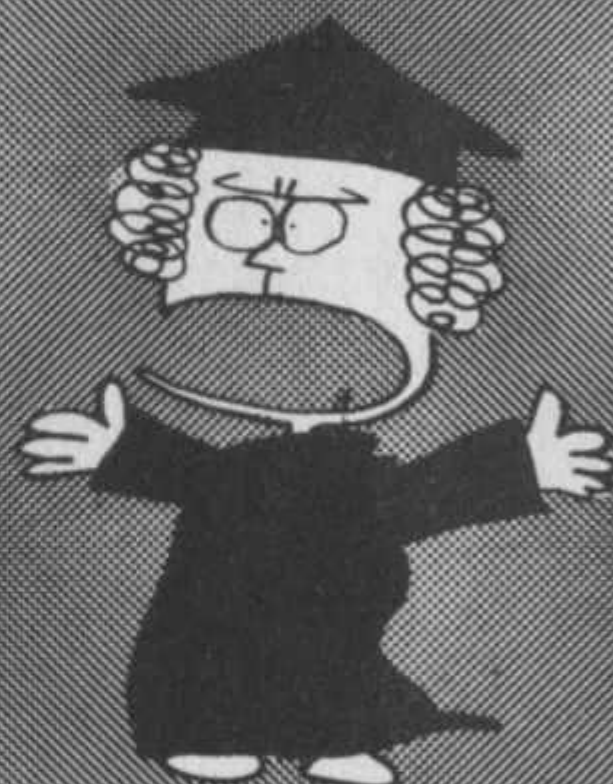
第1章 色心不二



あなたが
夜^{よる}ねている
ときに

あなたの
心^{こころ}は
どこへいつて
いるんですか！

ど、どこにも
ありません
けどね

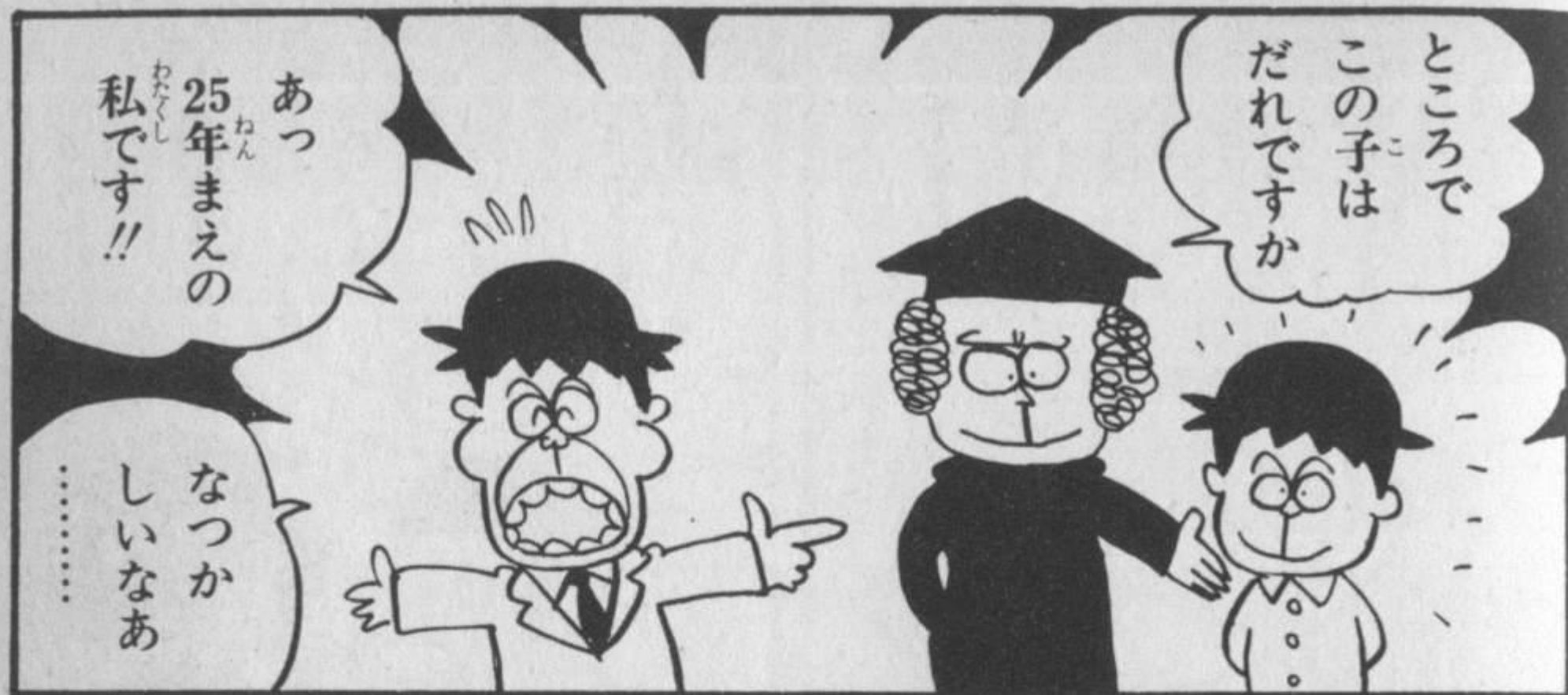


あなたの心は
35^{ねん}年かん
身体^{しんたい}とともに
あるんじゃない
んですか

ま、ま
れいがいは
あるもん
ですよっちや

ゆめも
みるしさ





ところが
げんだい
科学では
なかみは
まいにち
毎日
かわって
いくんだと
いうことが
わかってい
るの
です
よ

ほう

あなたが
35年ねんまえに
うまれてから……

おぎゃー

あそんだり
ごはんを
たべたり

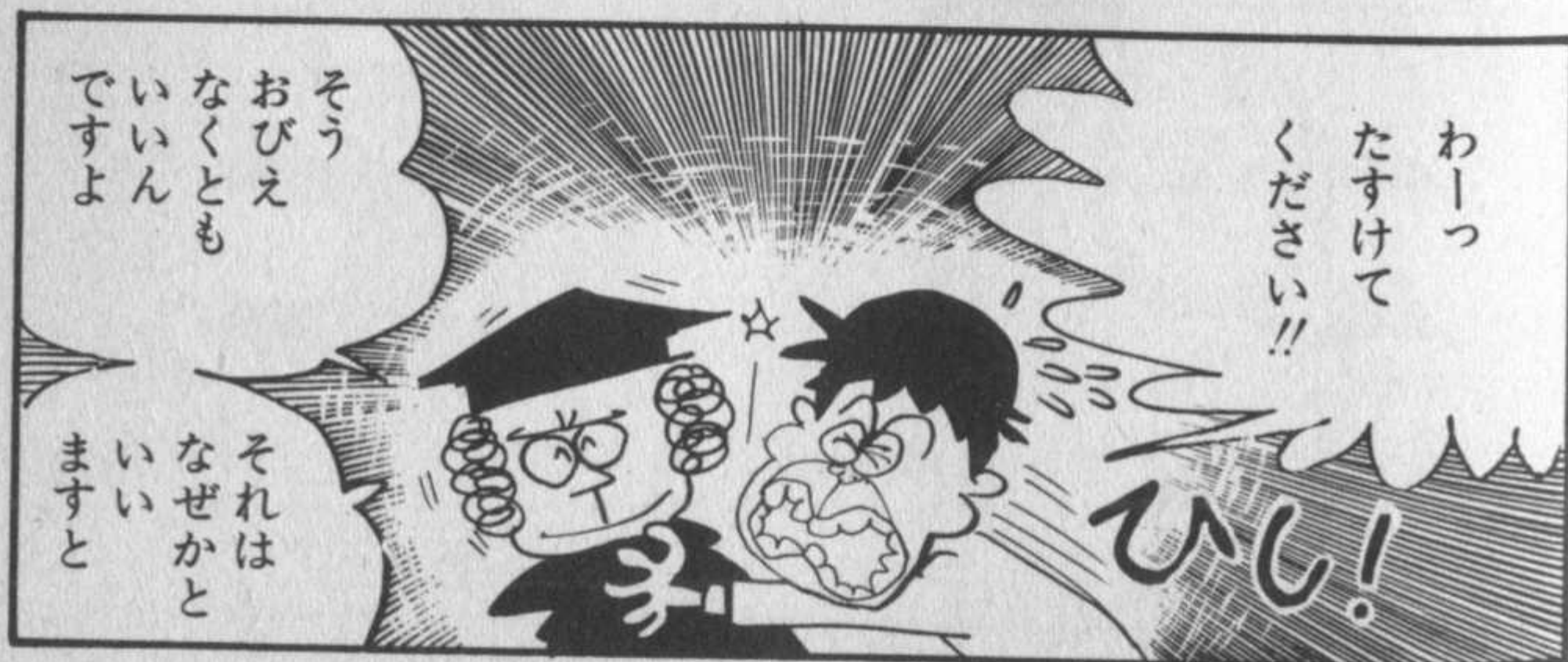
おふろに
はいったり

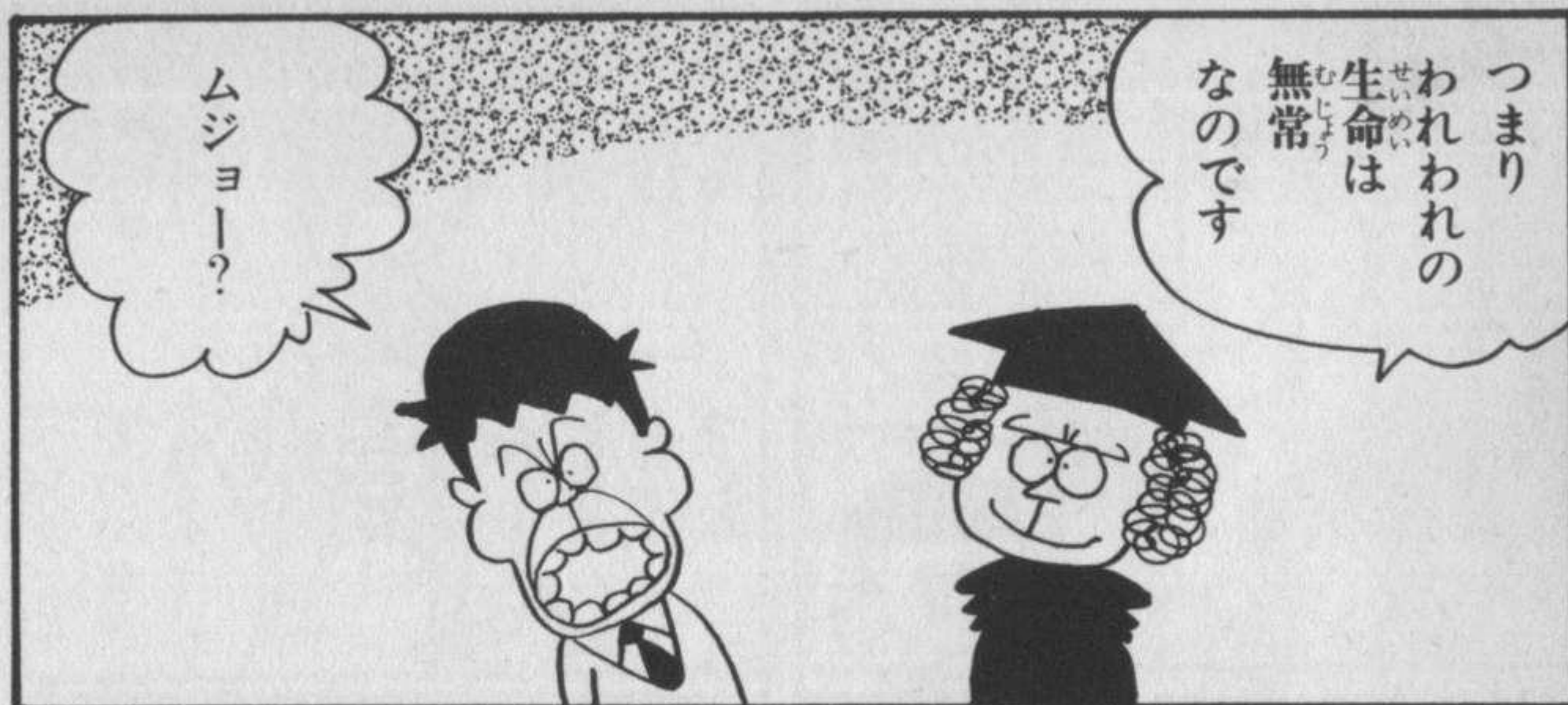
よる
夜ねたり

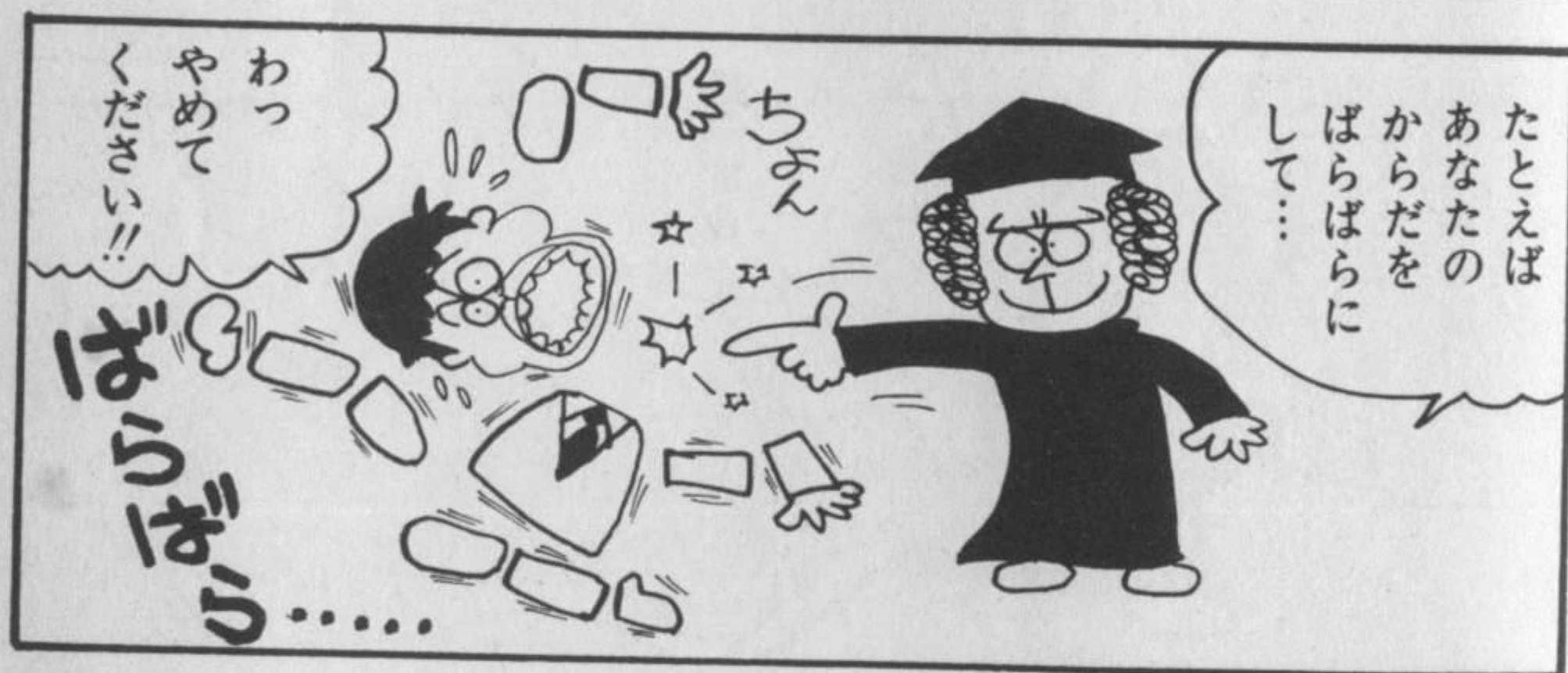
が

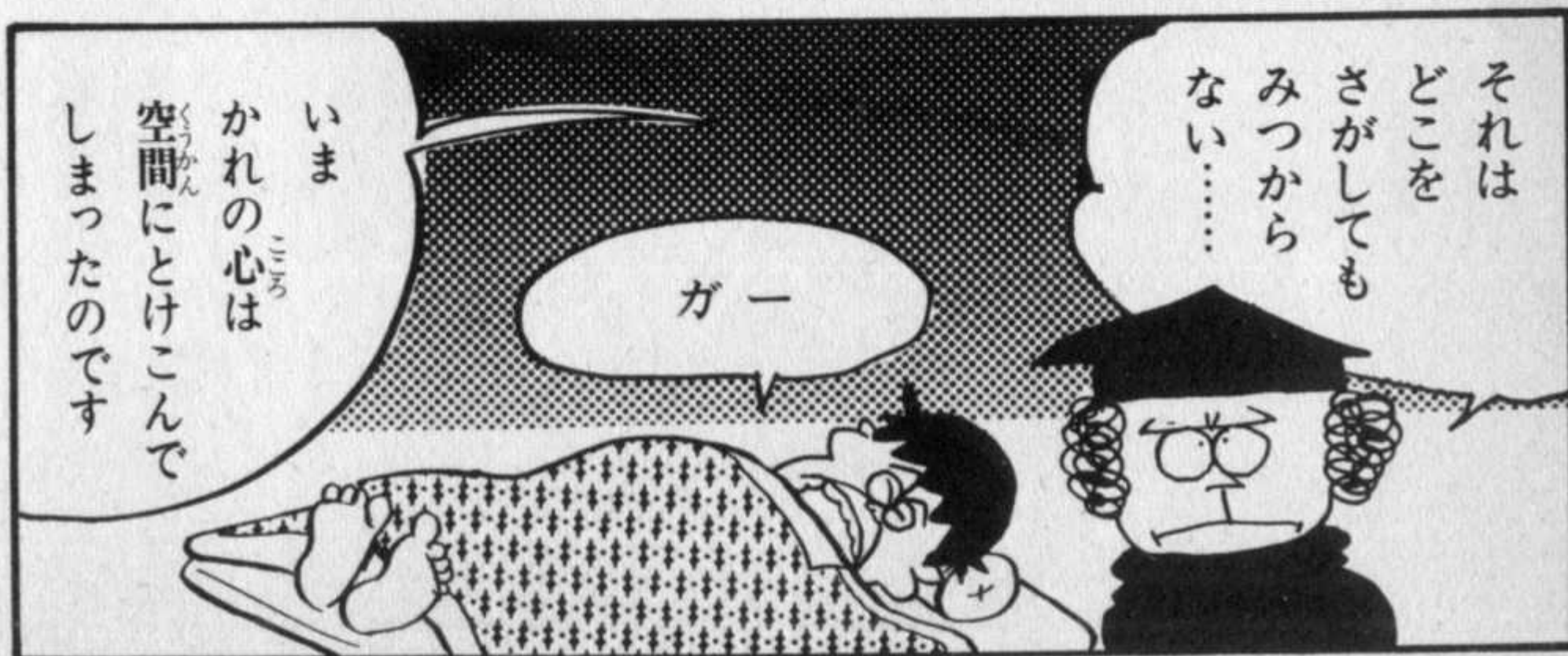
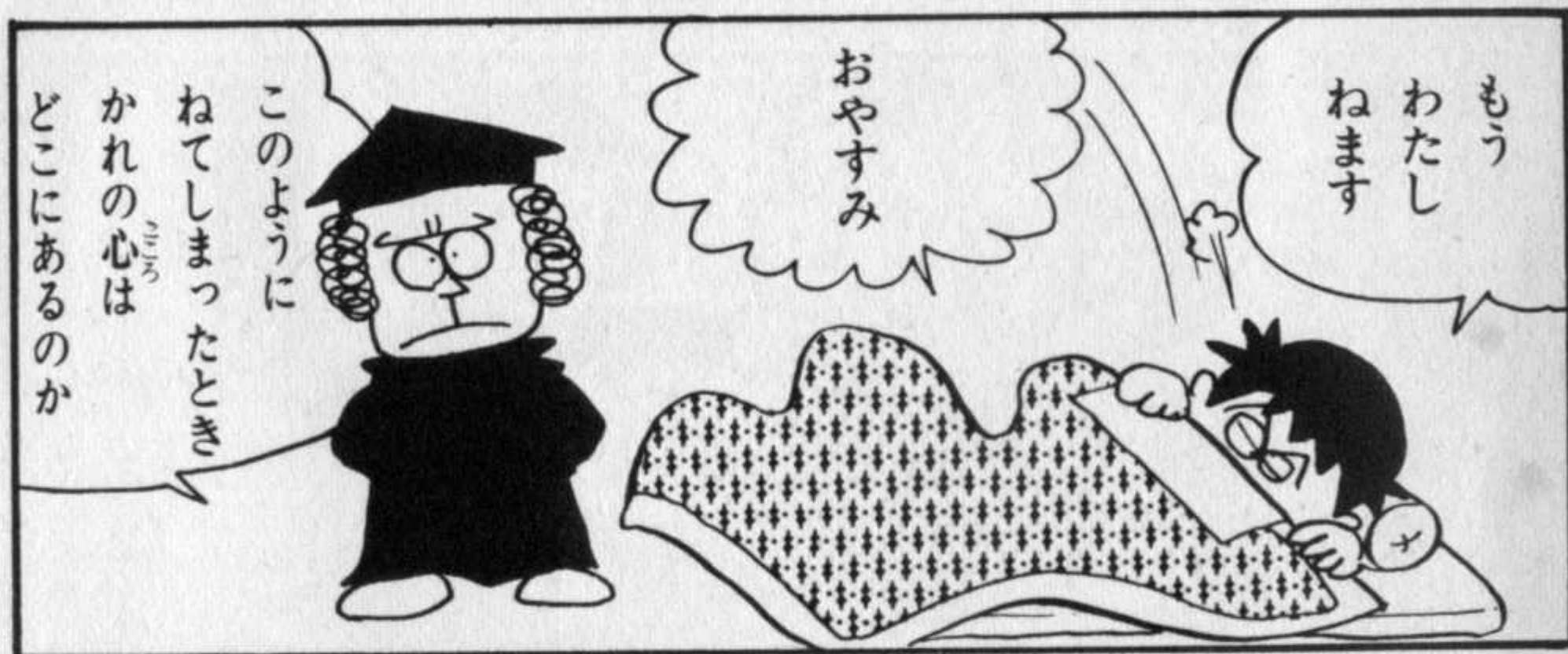
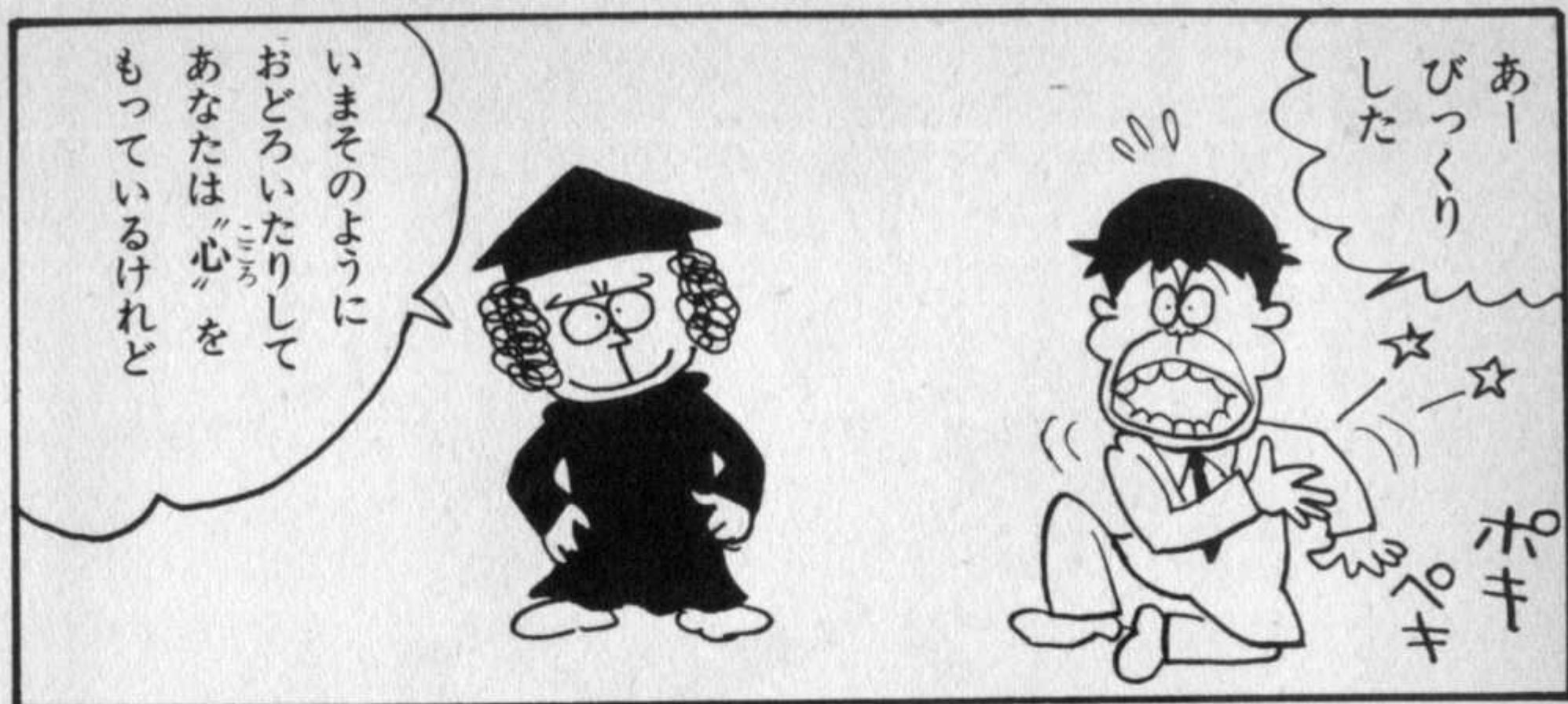
トイレに
はいったり
して……

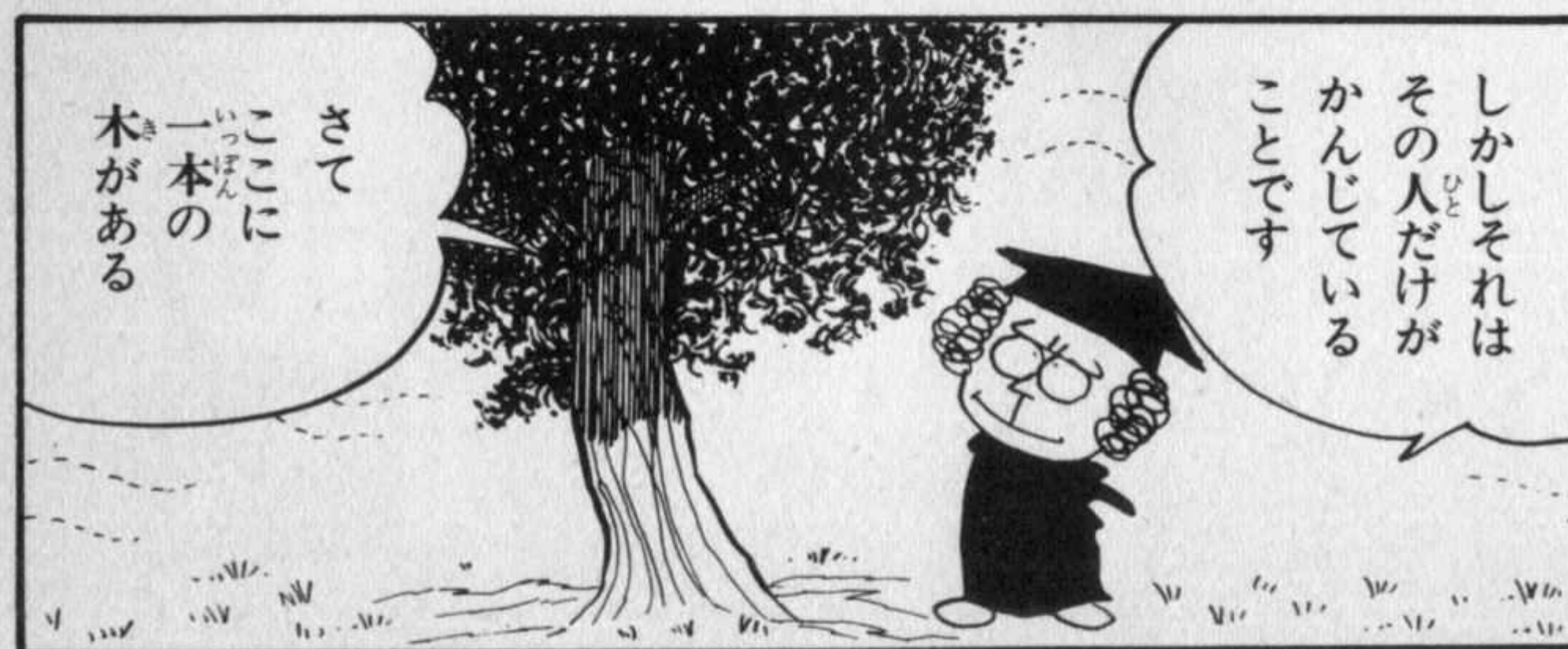
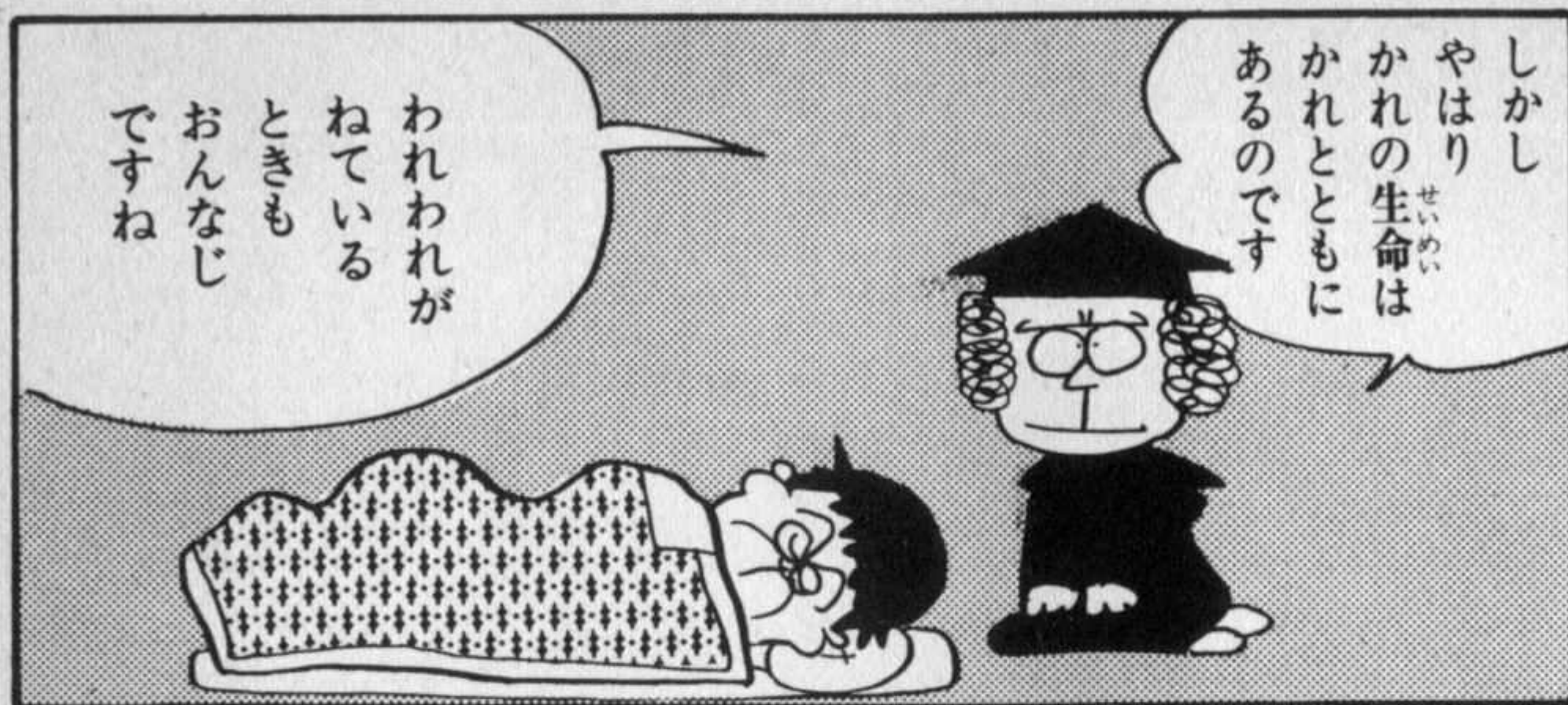
みちやあ
いや!!













この木の命は
花をさかせ
葉をしげらせ
ようぶんをすつて
せいちようし

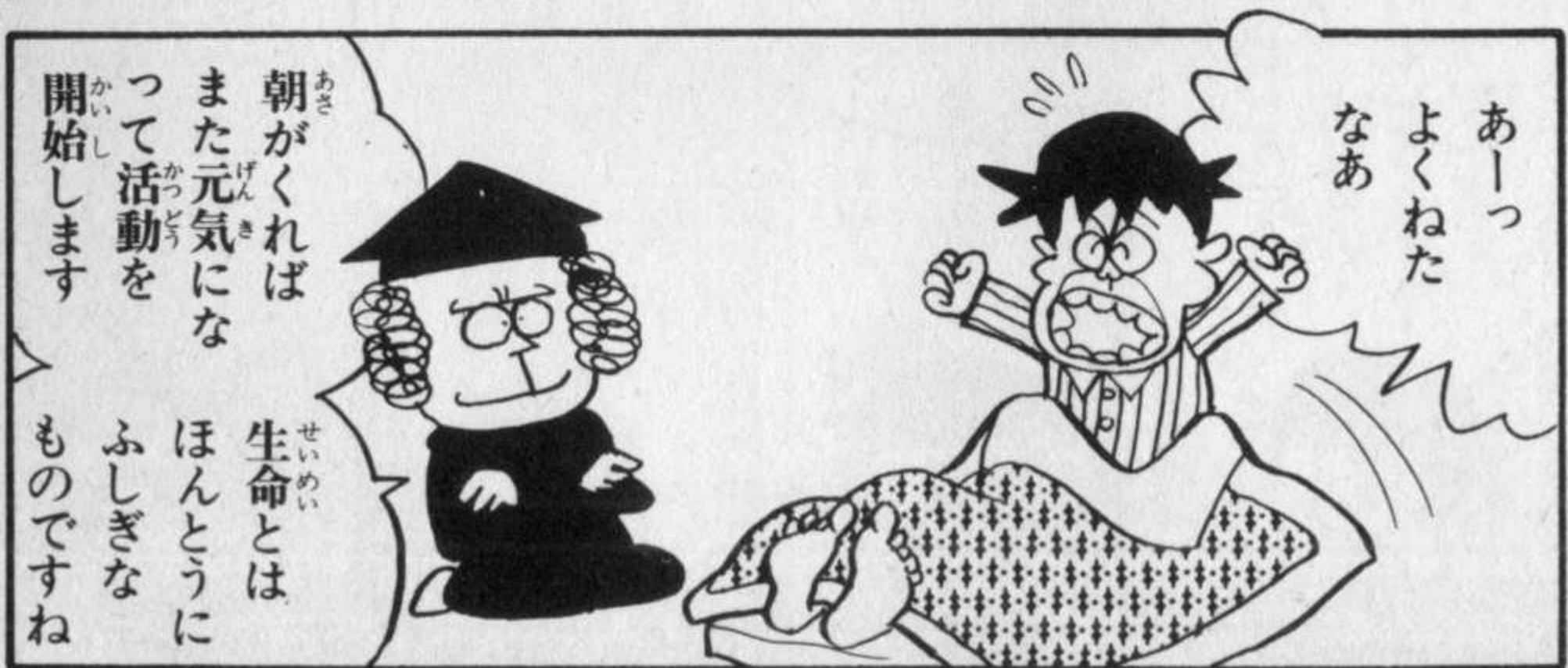
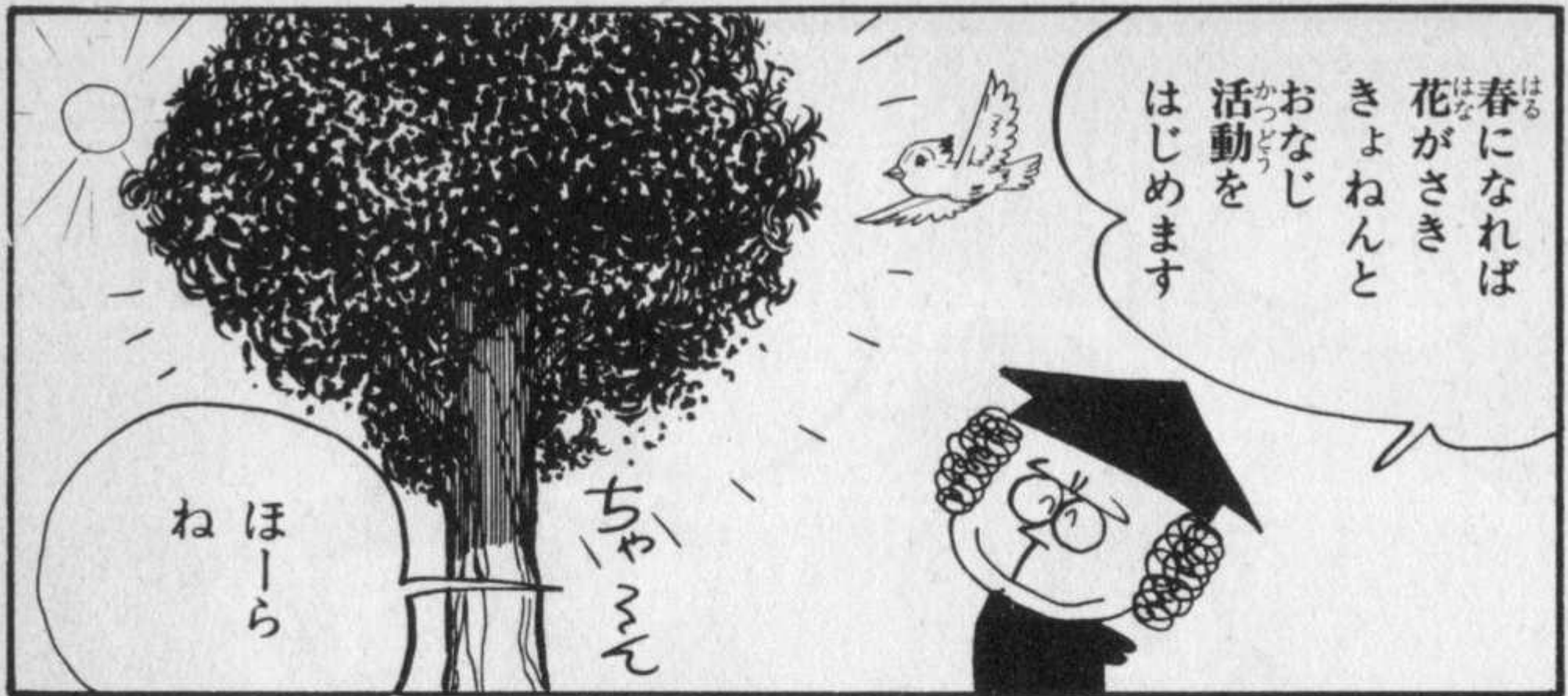
さかんに
うごいて
います

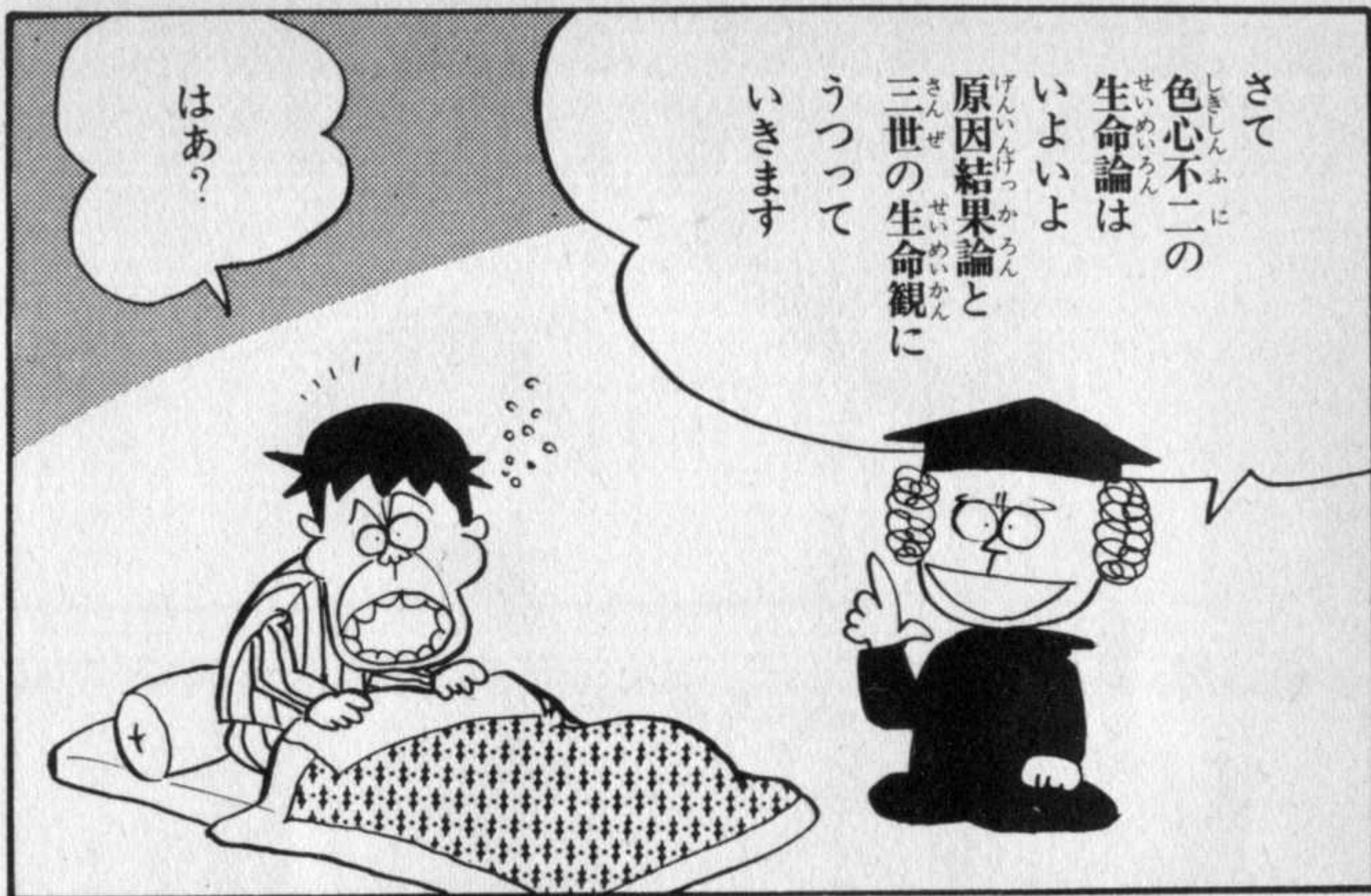


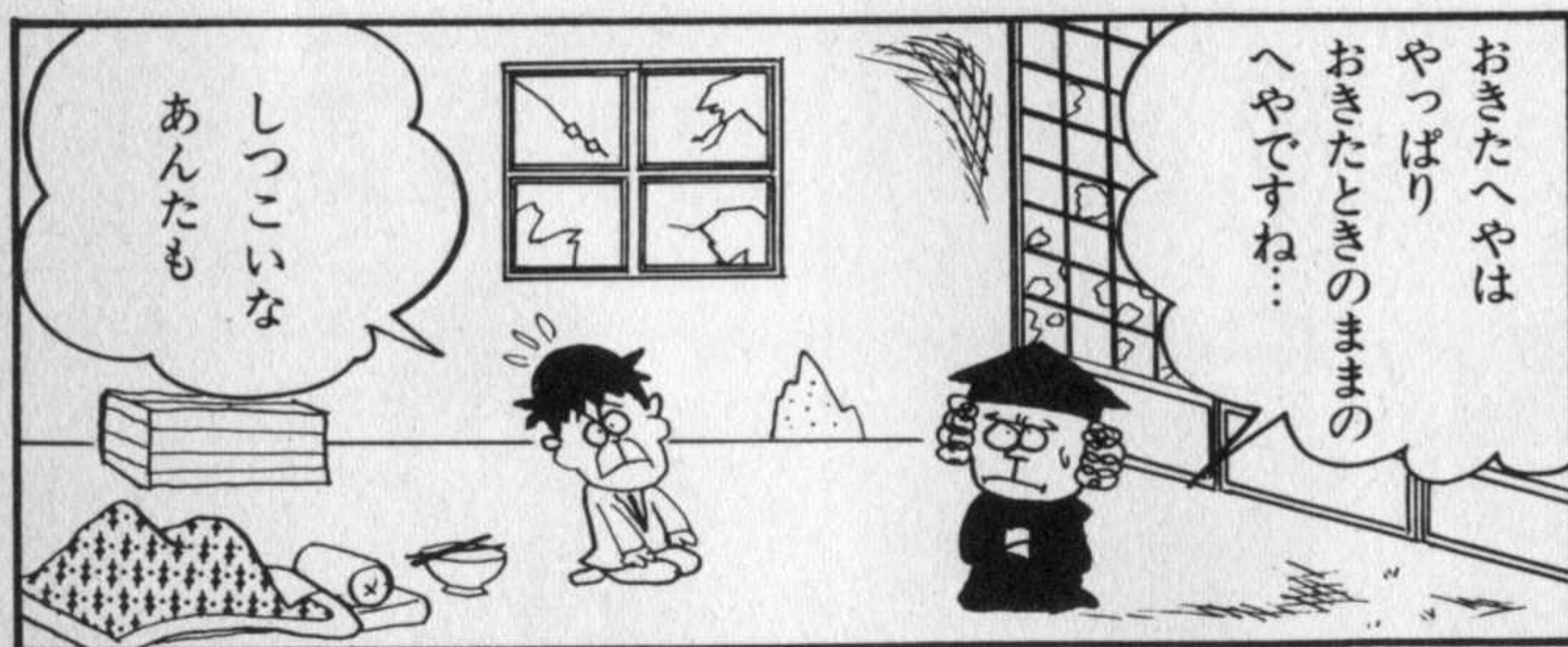
しかし冬になると
それらの機能は
ほとんどとまり
かれたように
なってしまう

しかし木は
死んでは
いないのです

時が
きて……







あなたは
いったん
ねて意識が
空間に
とけこんだのに
やはりおなじ
じょうたいで
目がさめる!!

サクラの木は
サクラ
ドングリの木は
やっぱりおなじ
ドングリが
春になると
花ひらく!!

ながい
セリフだなあ

色心不二の
生命で
あるいじょう
とうぜんですよ

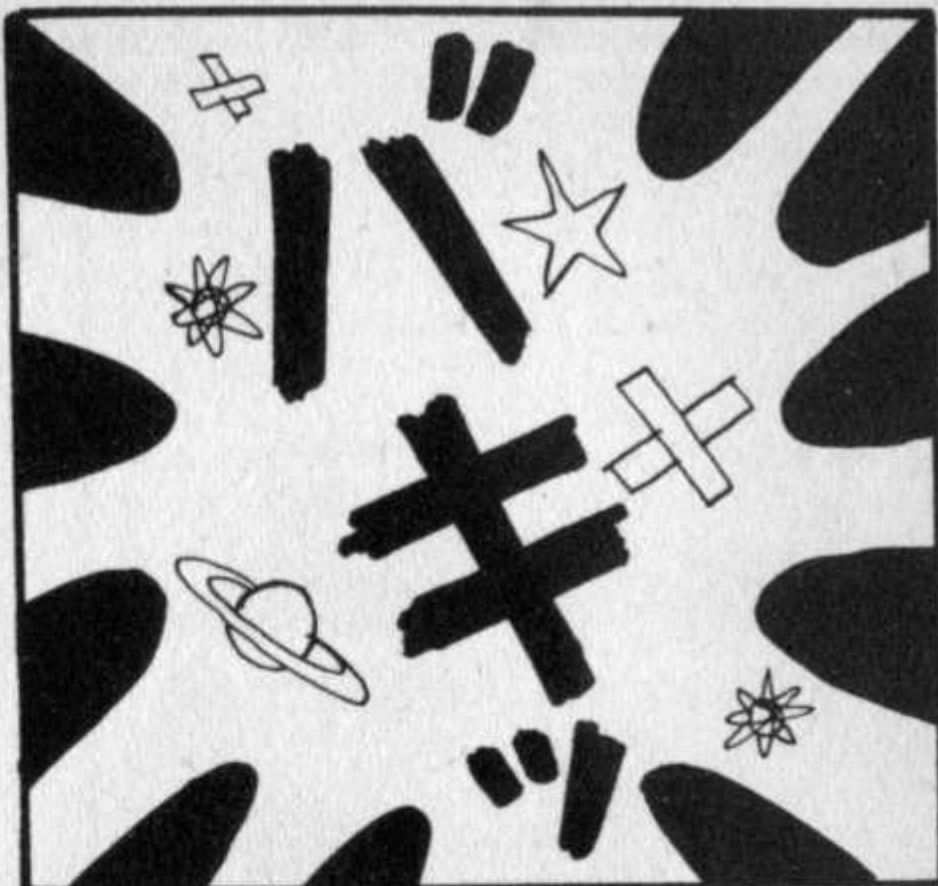
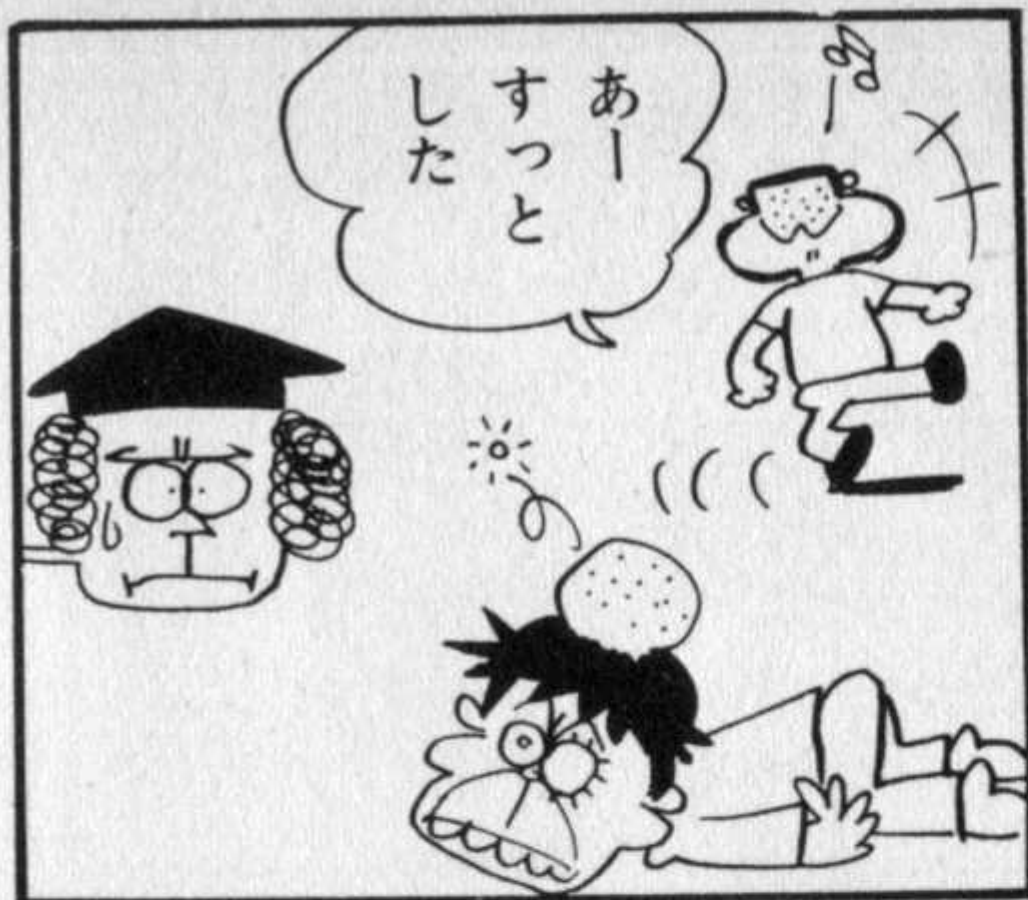
そこです
私の
いいたい
のは!!

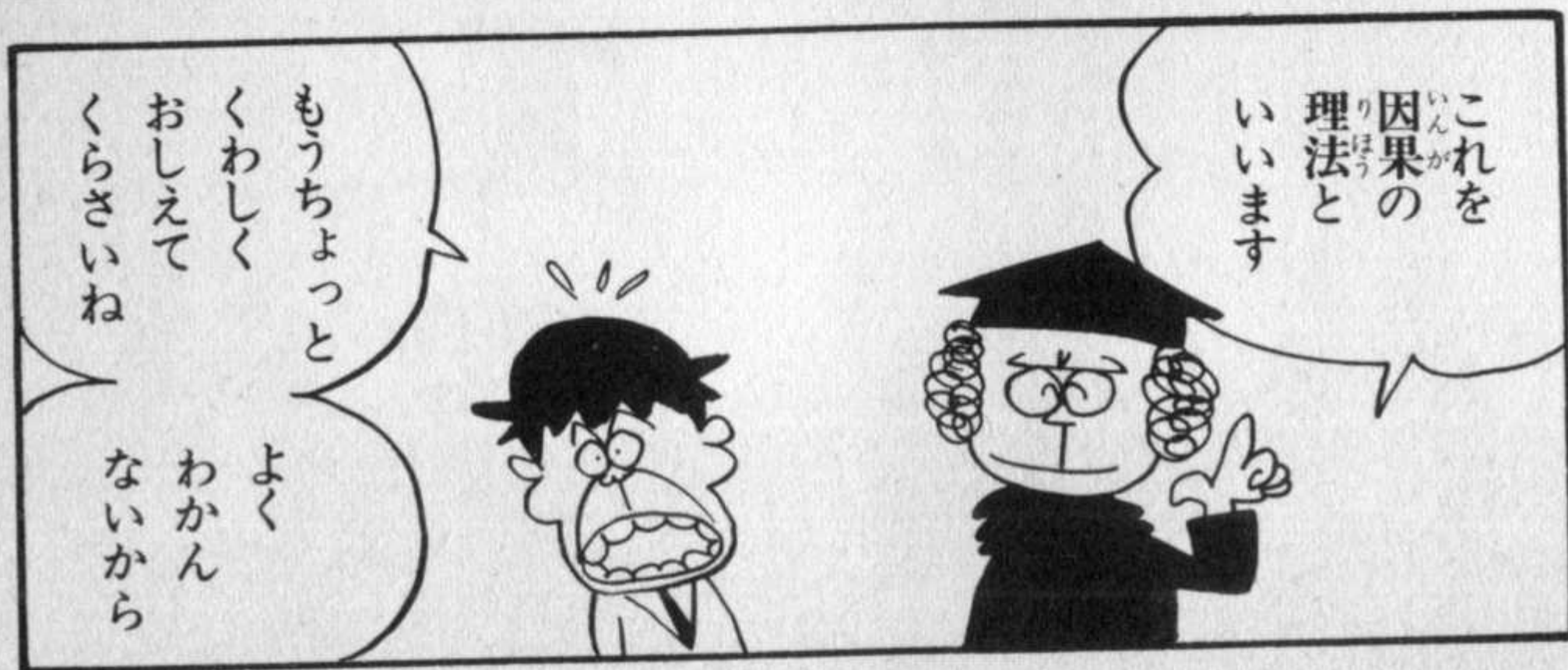
ここでまた
むかしの
あなたに
とうじょう
してもらい
ましょう

また
ですか
……

あなたは
いまをさること
25年まえ……

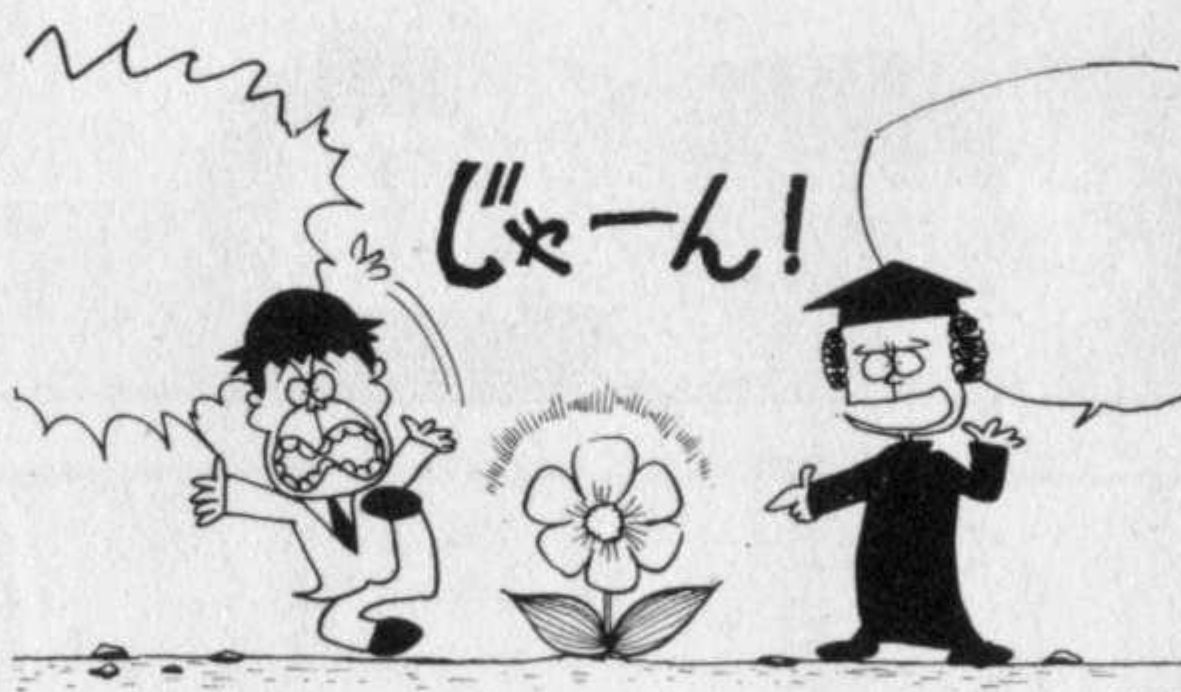






第2章

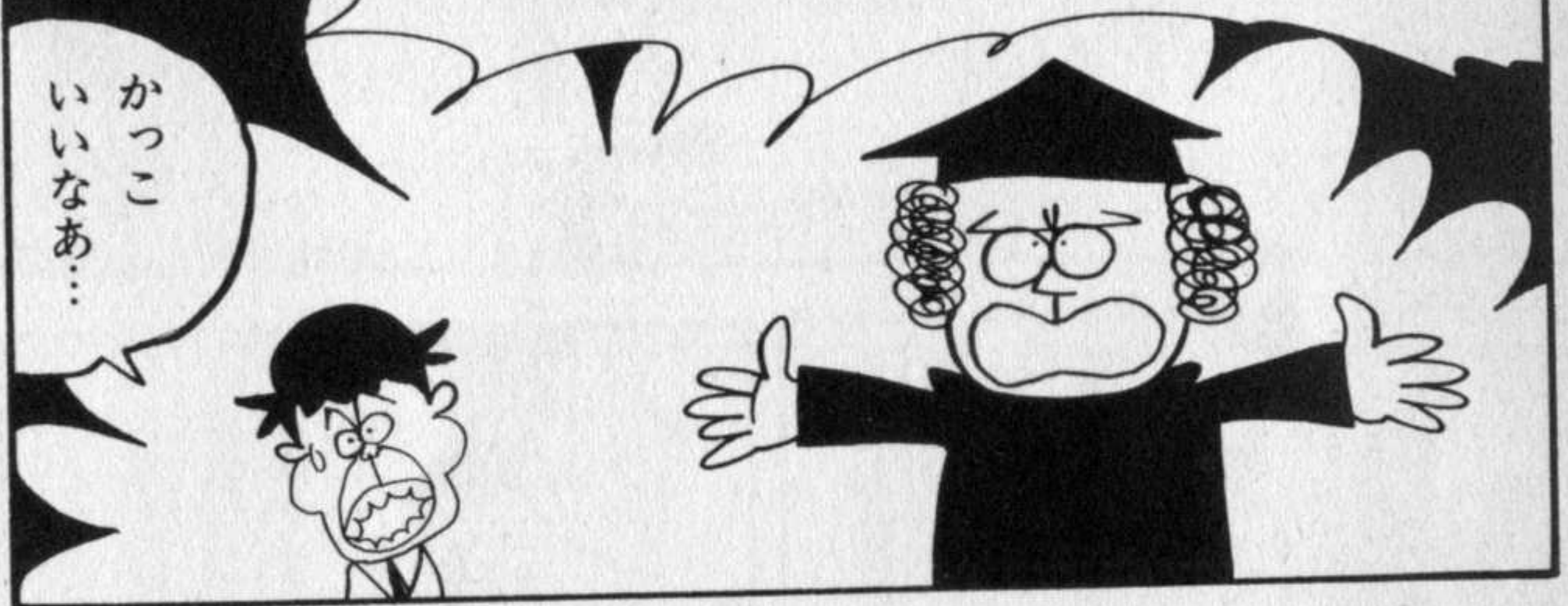
因果とは



第2章 因果とは

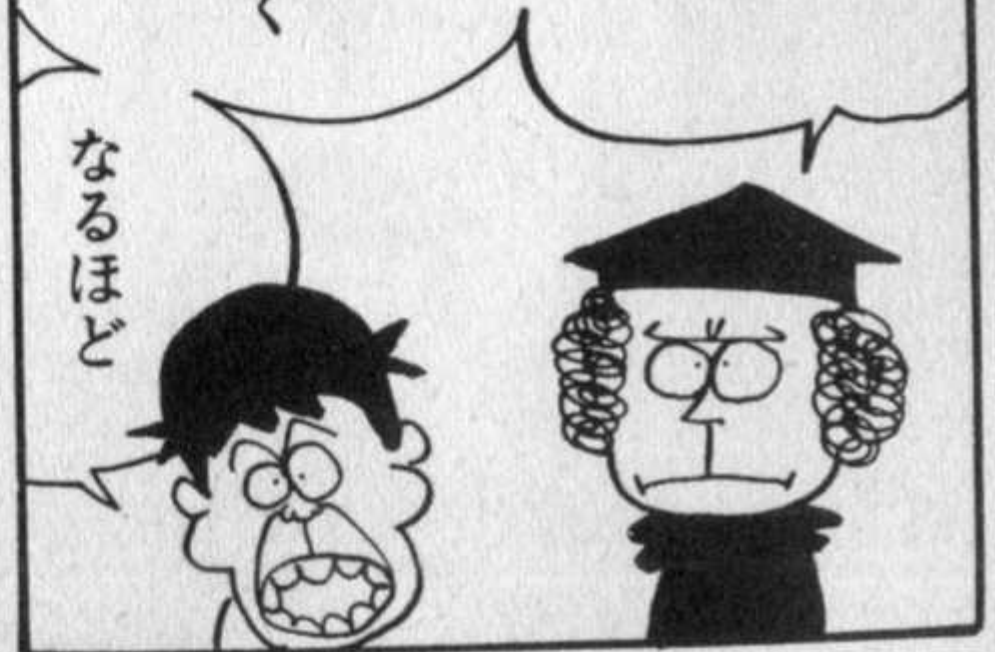


真の
 仏教とは
 科学的な
 ものであり
 科学は
 仏法を
 しようめいし
 仏法はつねに
 科学を
 リードしつつけ
 また科学への
 指針で
 なければ
 ならないので
 あります!!



ですから
 真実の仏教は
 生命とはなにかと
 いうことを
 把握しており
 また人類を絶対的な
 しあわせへとみちびく
 力をはつき
 できるのです

なるほど

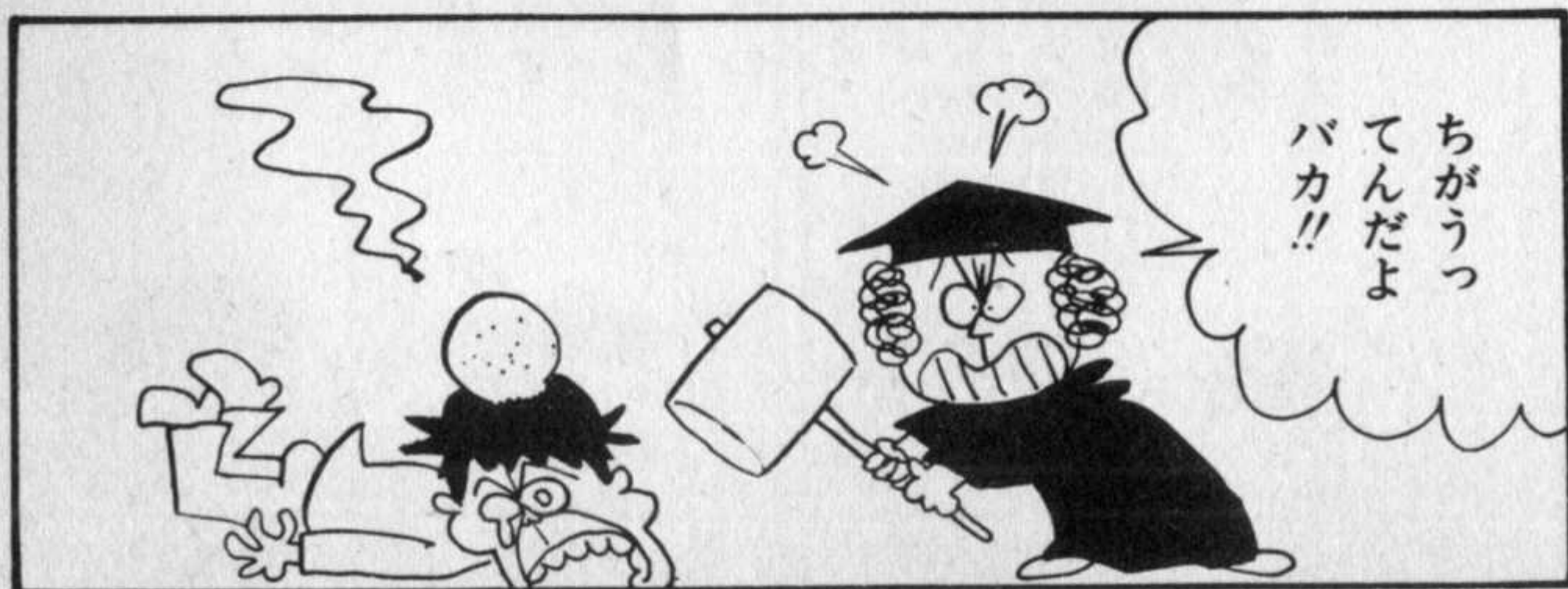


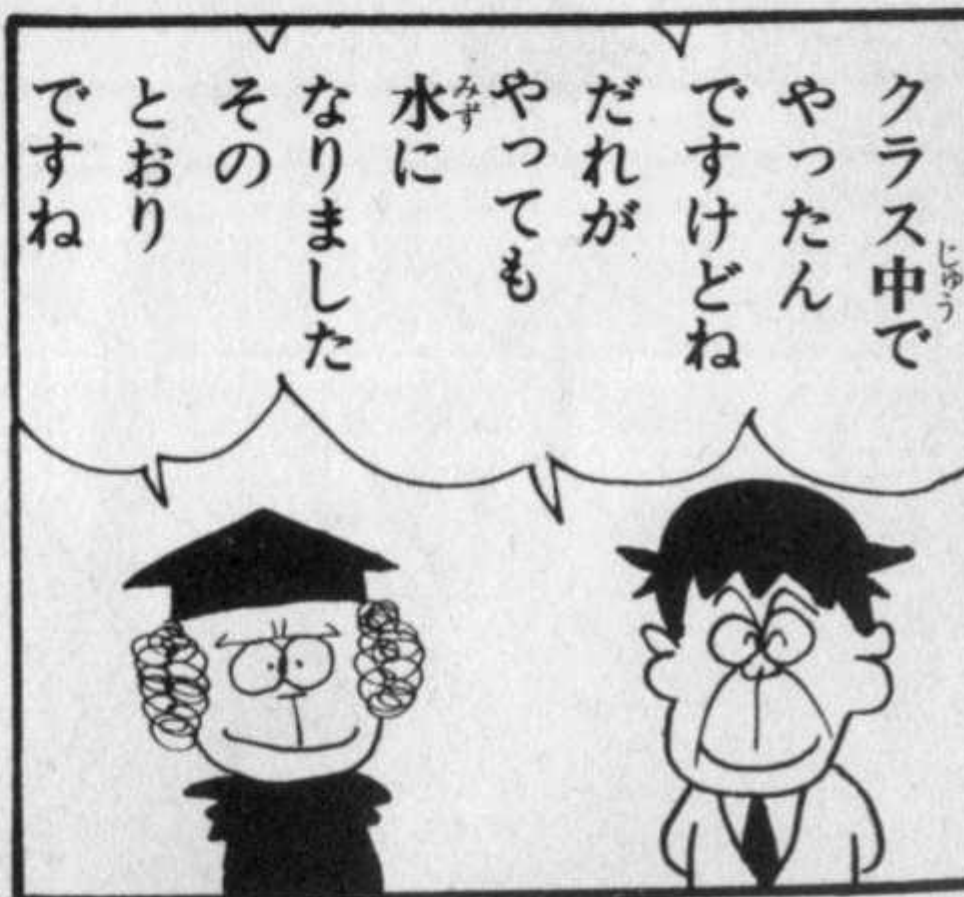
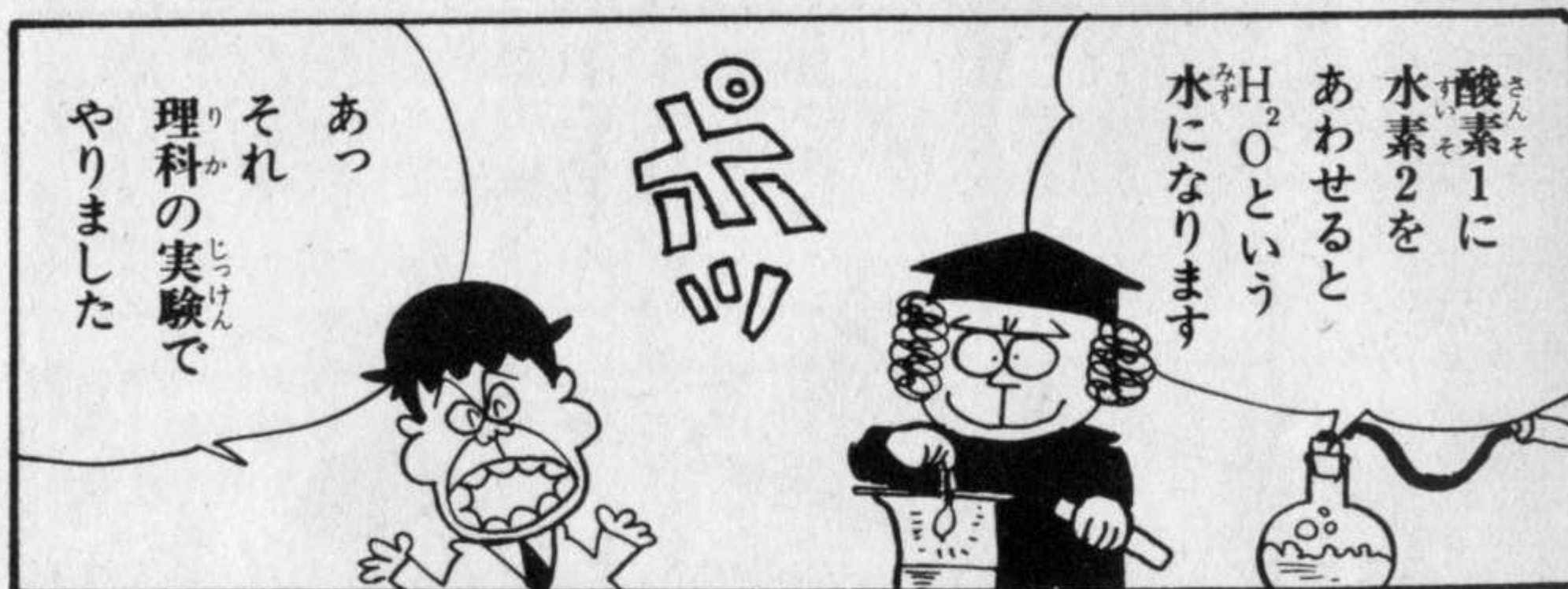
私はまた
 死んだ人に
 ひつような
 ものかと
 おもってました

なんのために
 教学の勉強を
 してるんですか!!

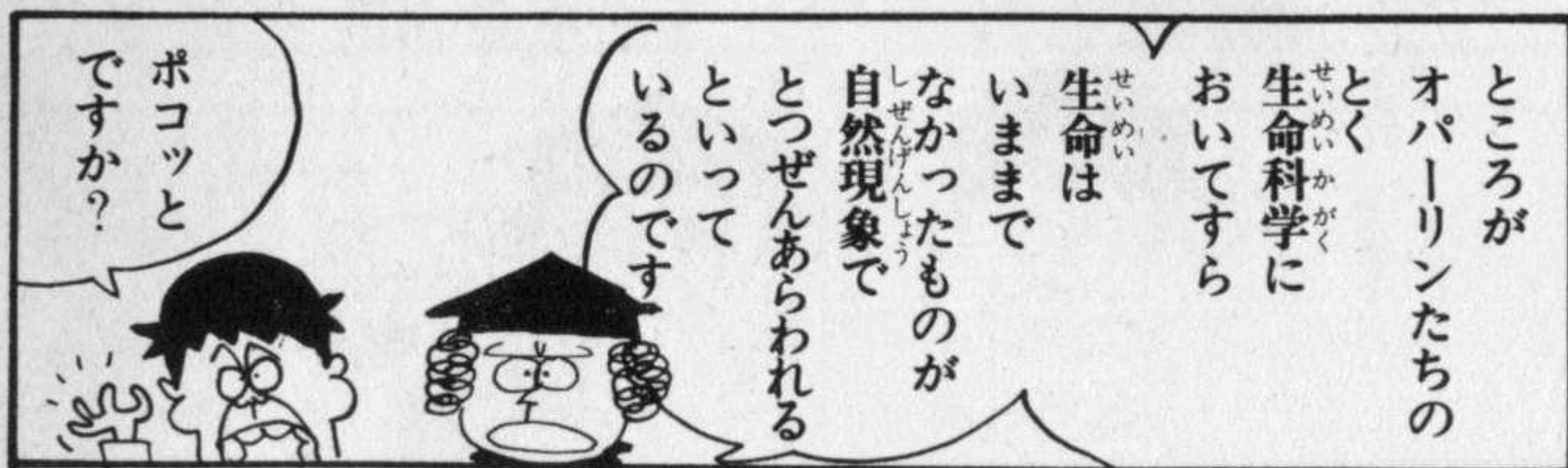
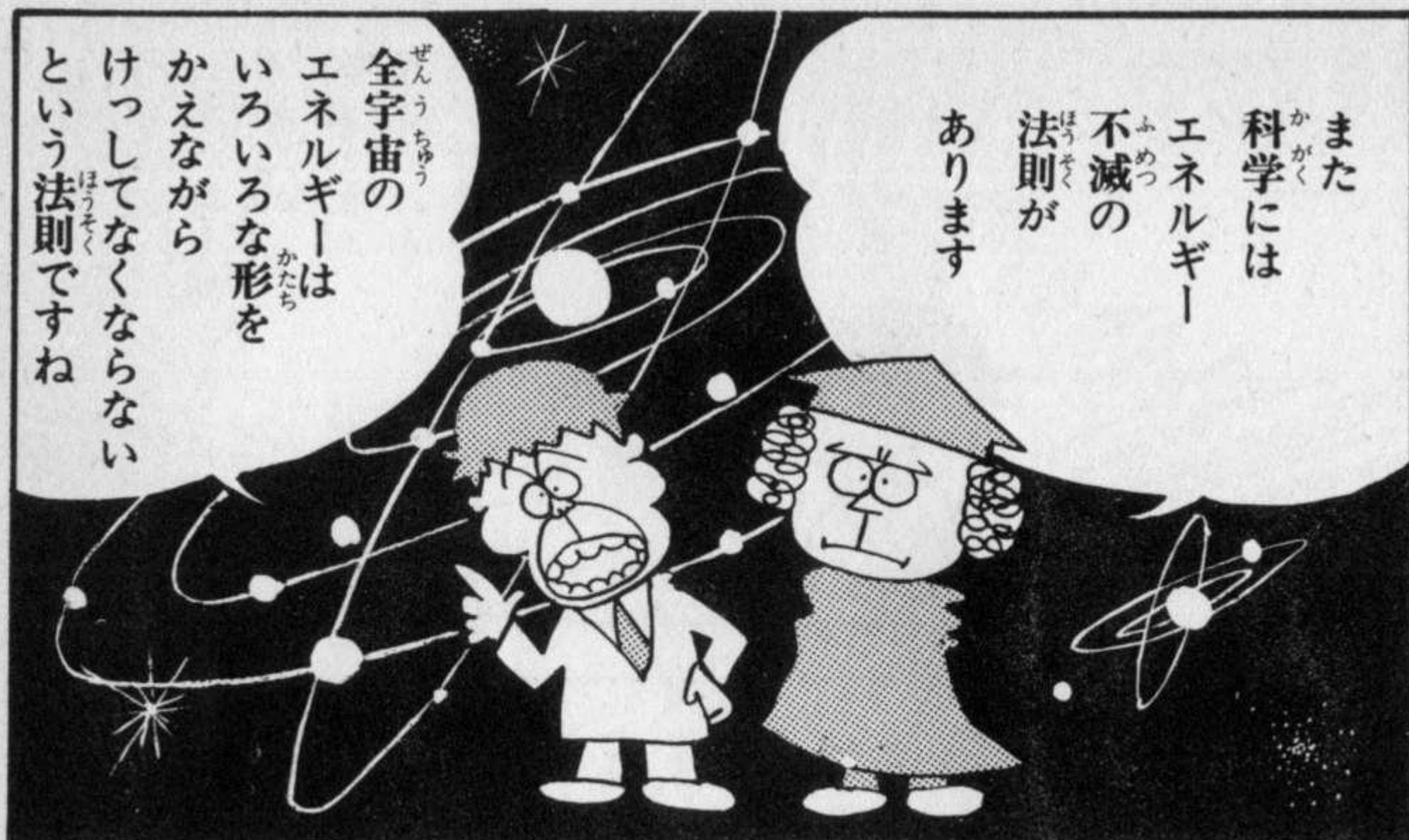


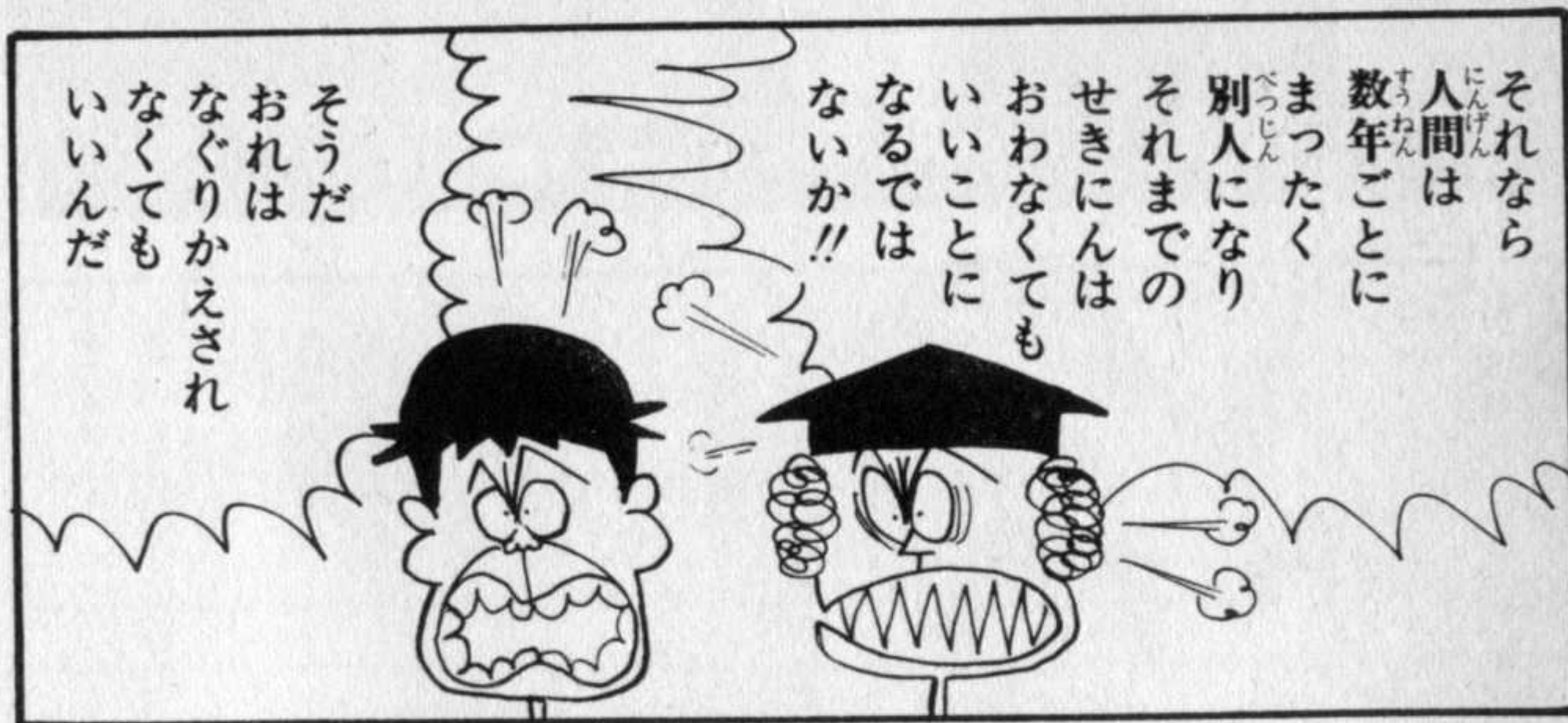
第2章 因果とは

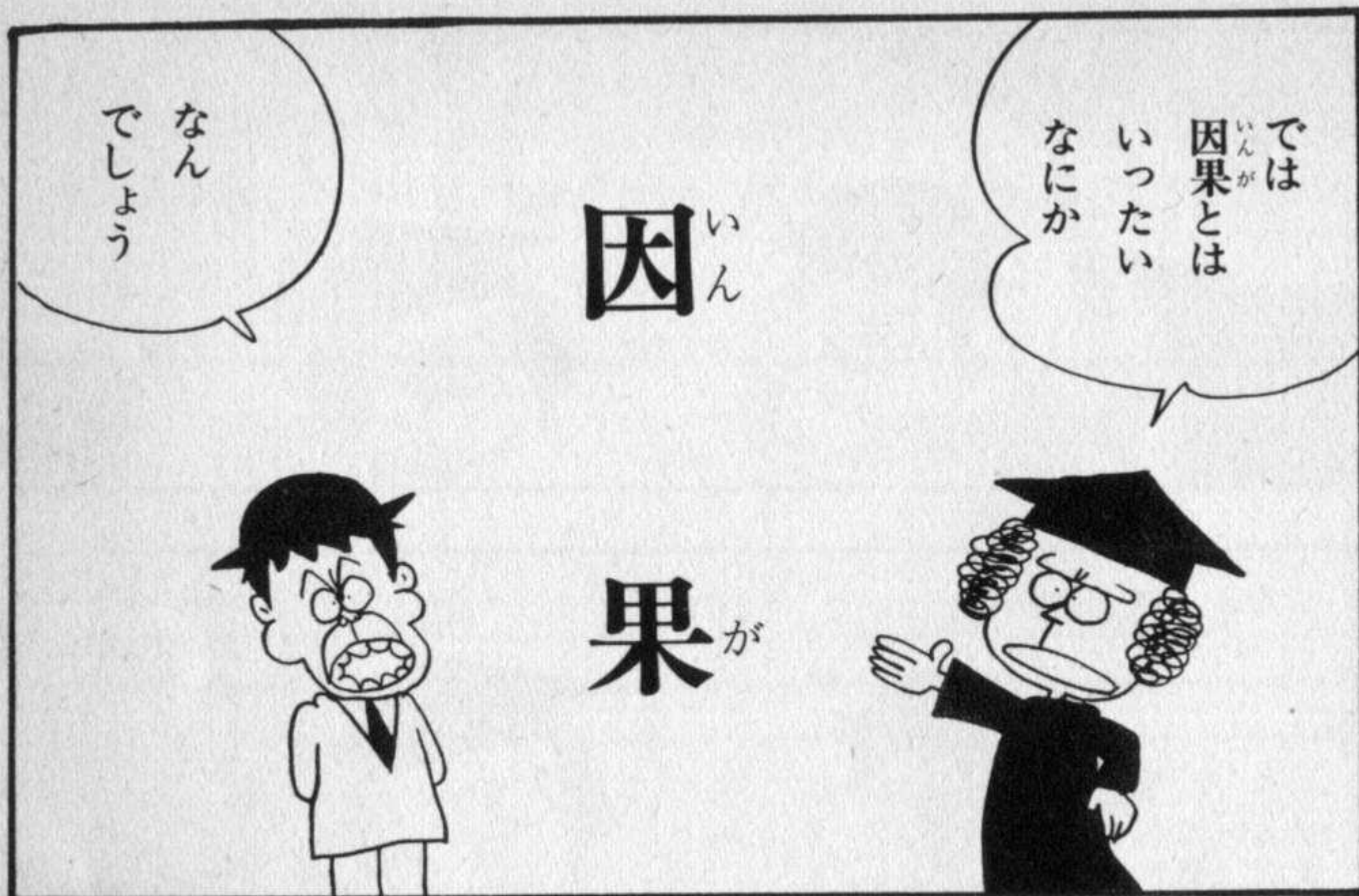


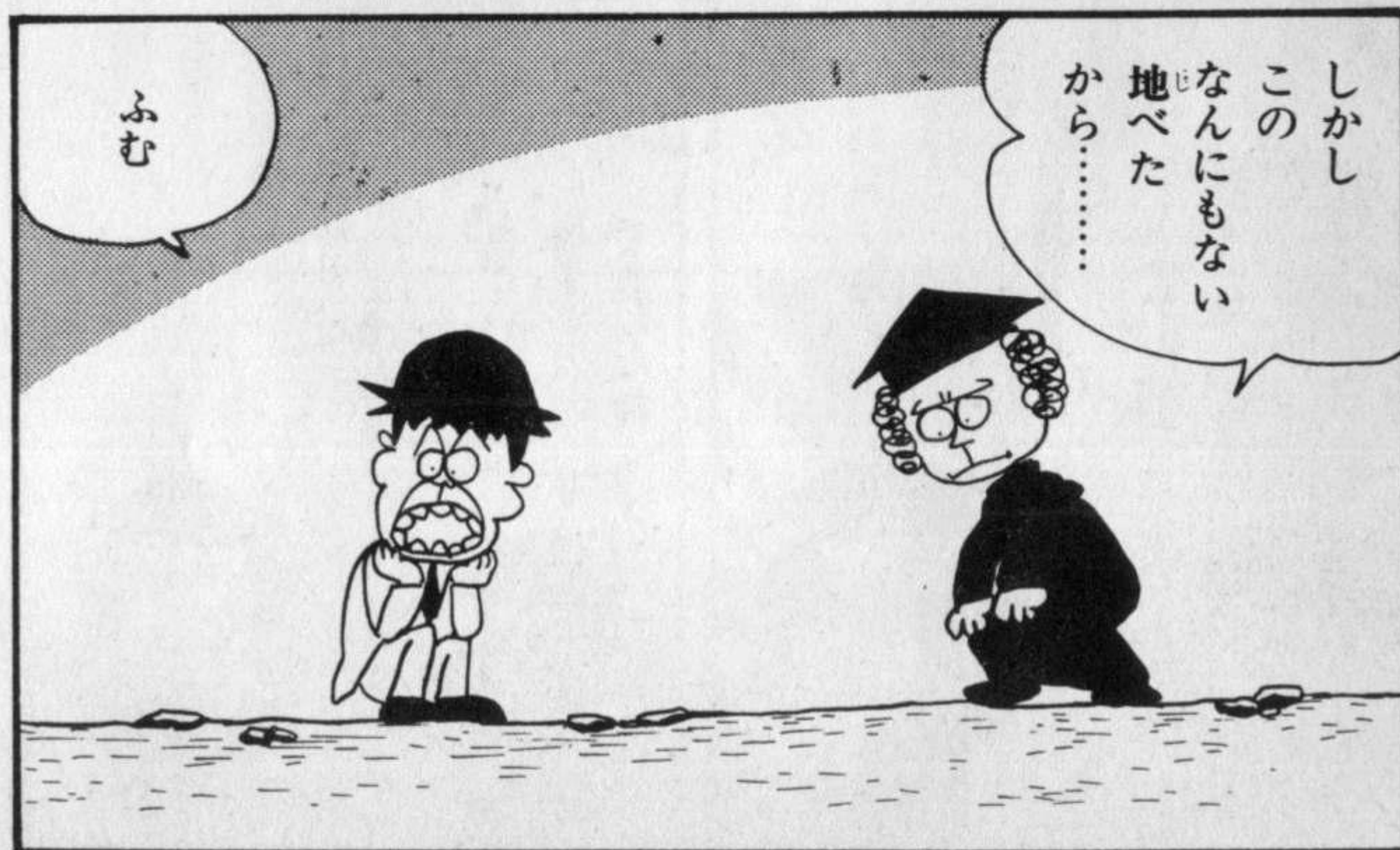
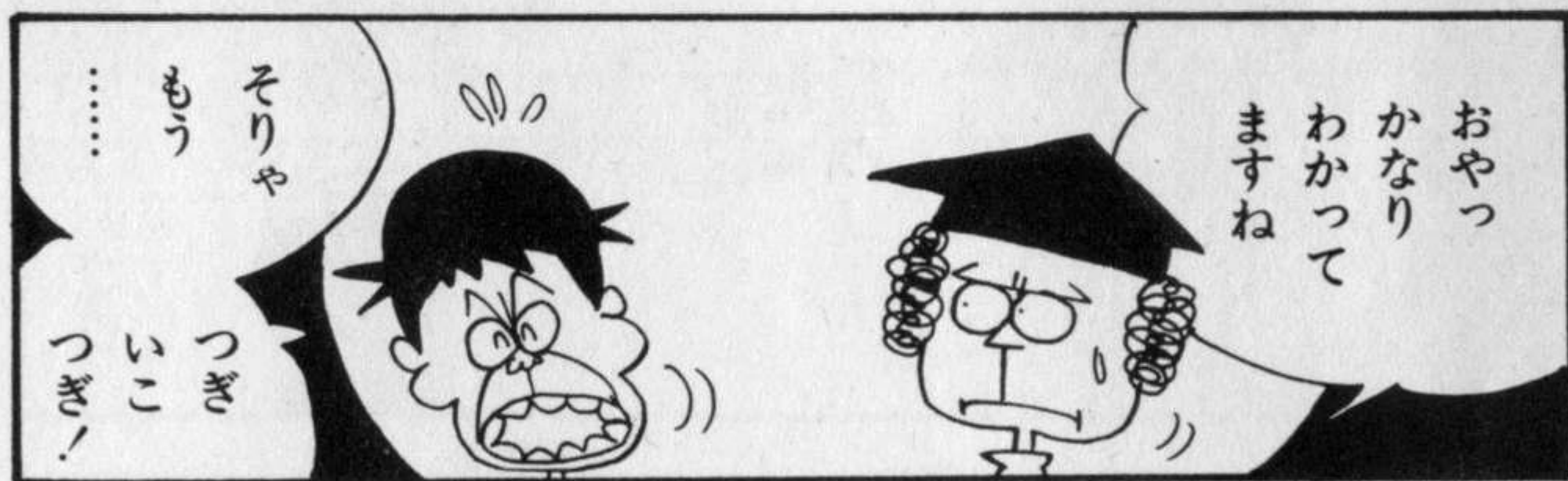
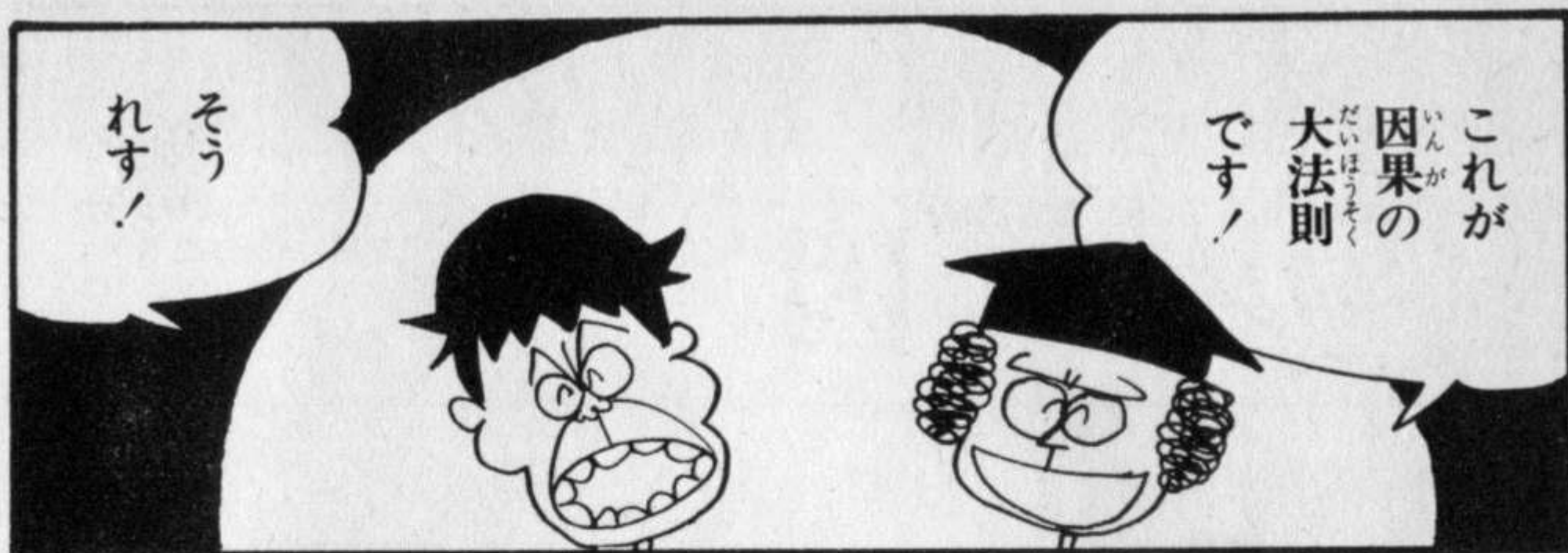


第2章 因果とは

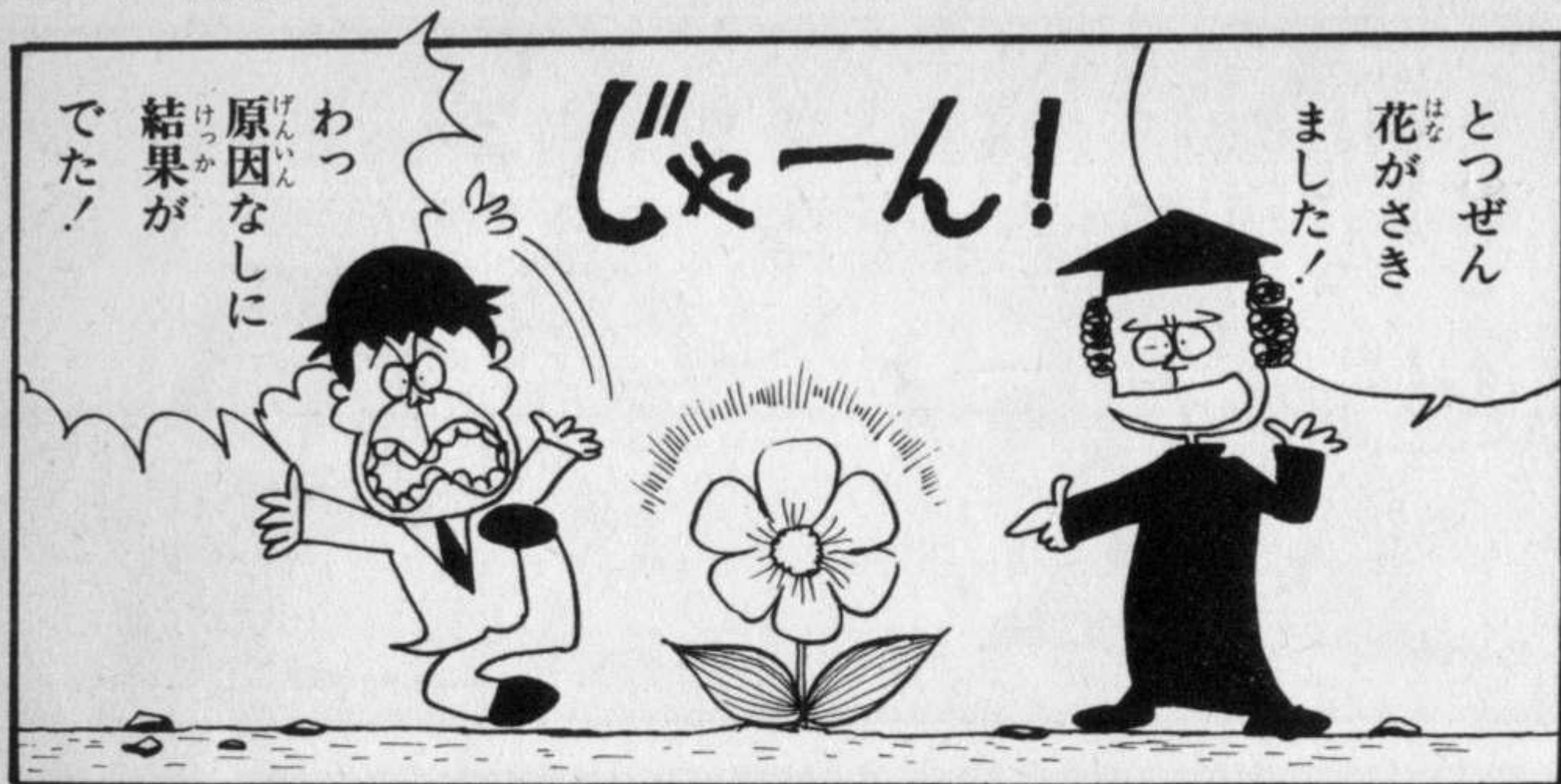






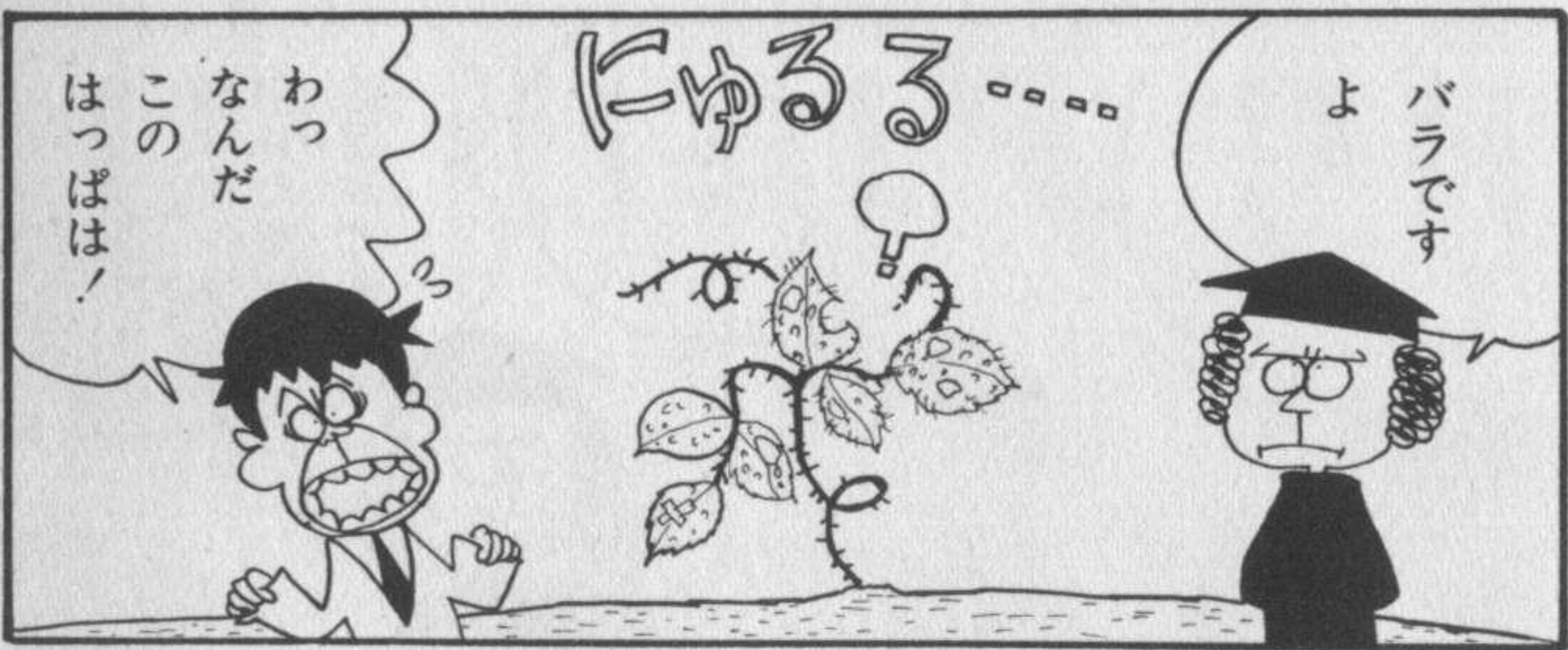
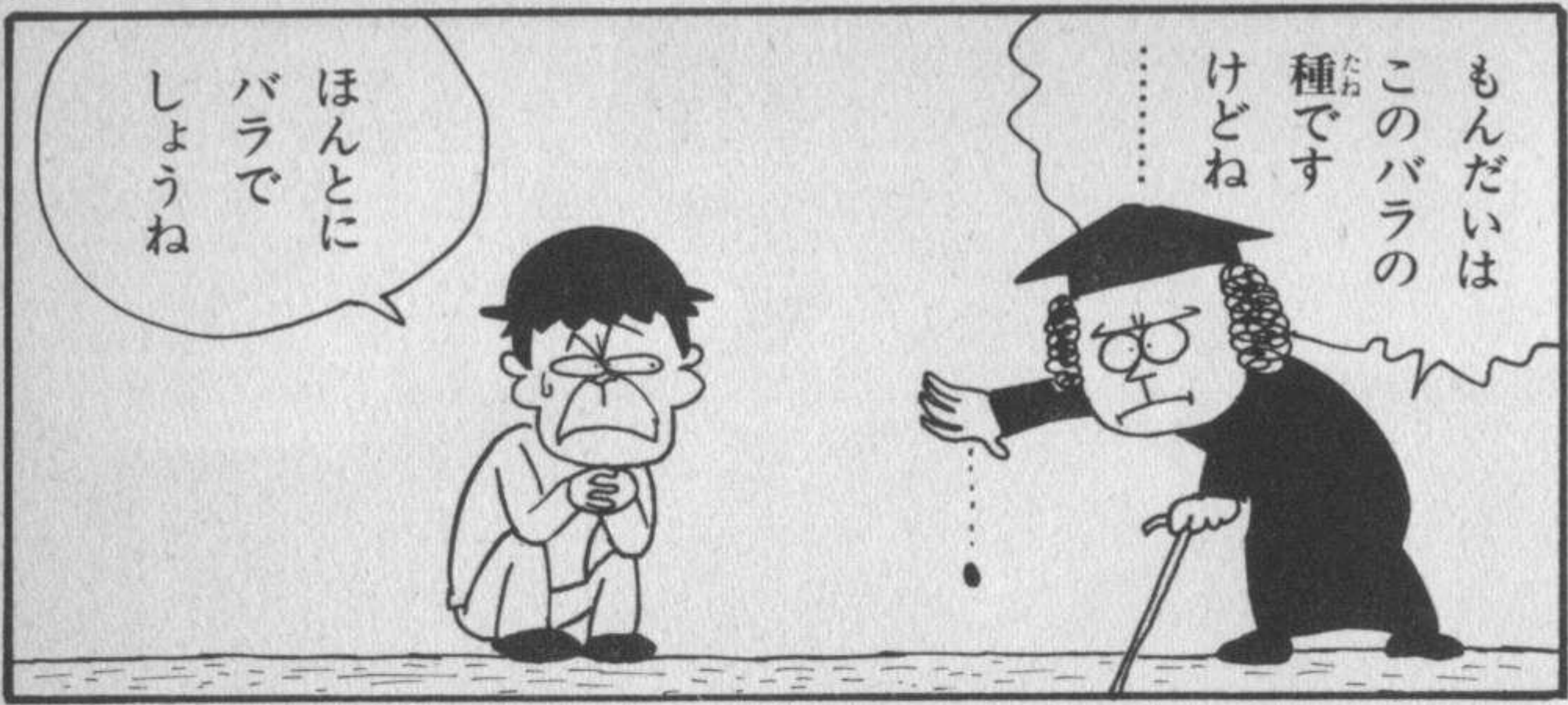


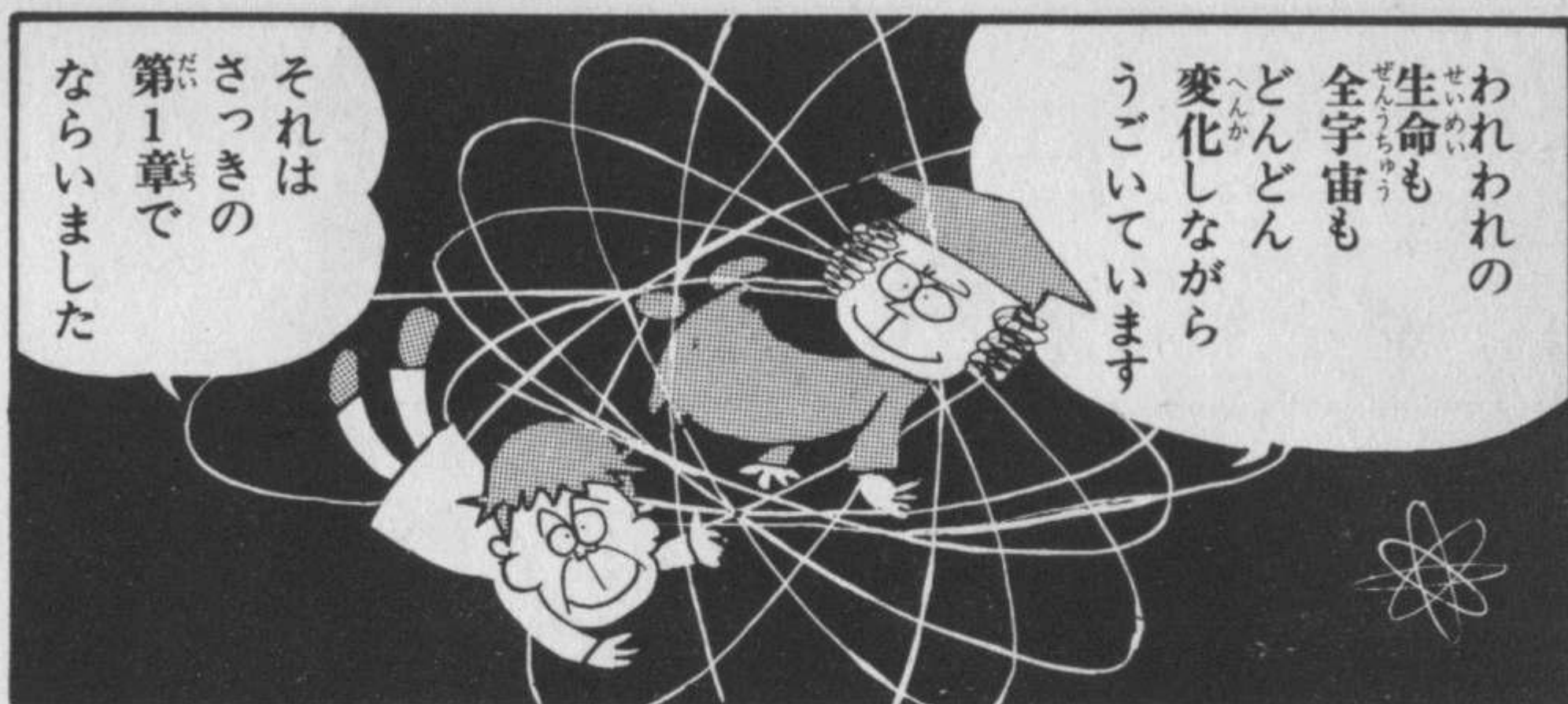
第2章 因果とは





第2章 因果とは





第2章 因果とは

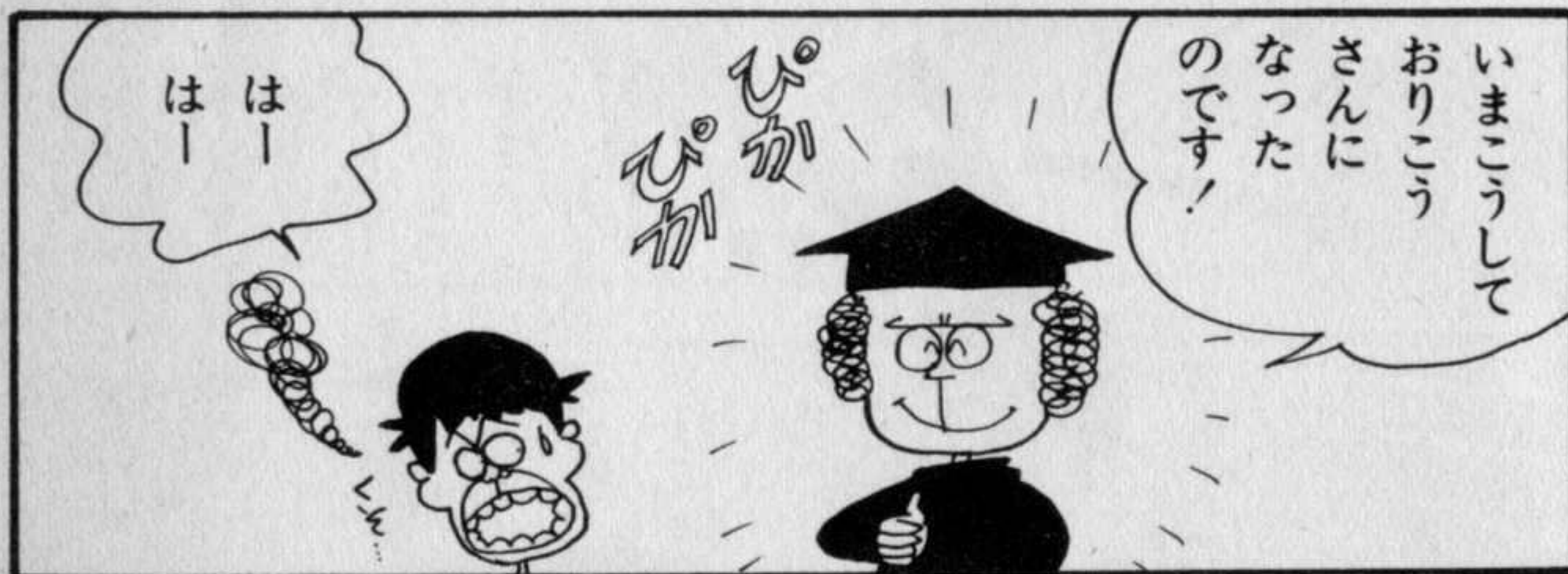


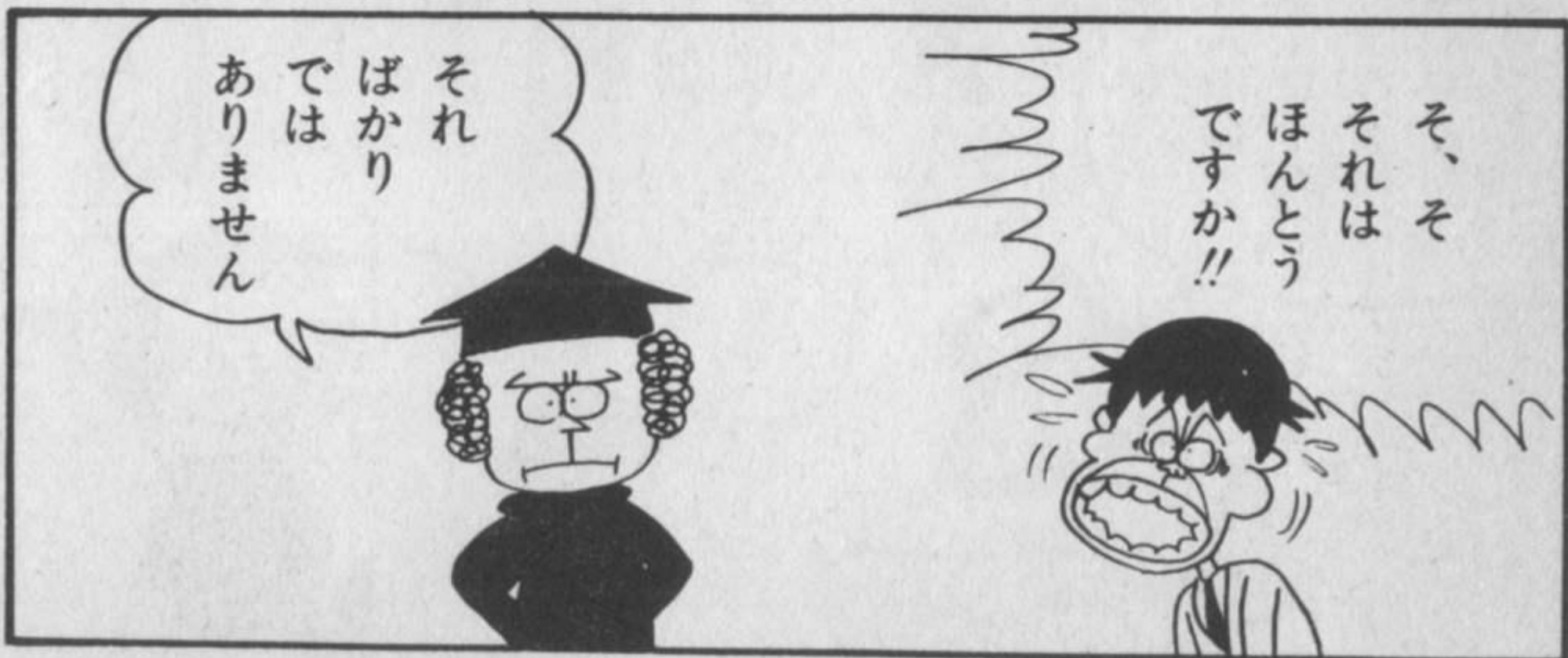


とうぜんの
ことですが
この因果の
理法は
自然現象だけに
かぎられて
いるのでは
ありません

われわれ人間の
“色心”つまり
精神と肉体の
すべてに
あてはまってくる
大原理なのです

第2章 因果とは



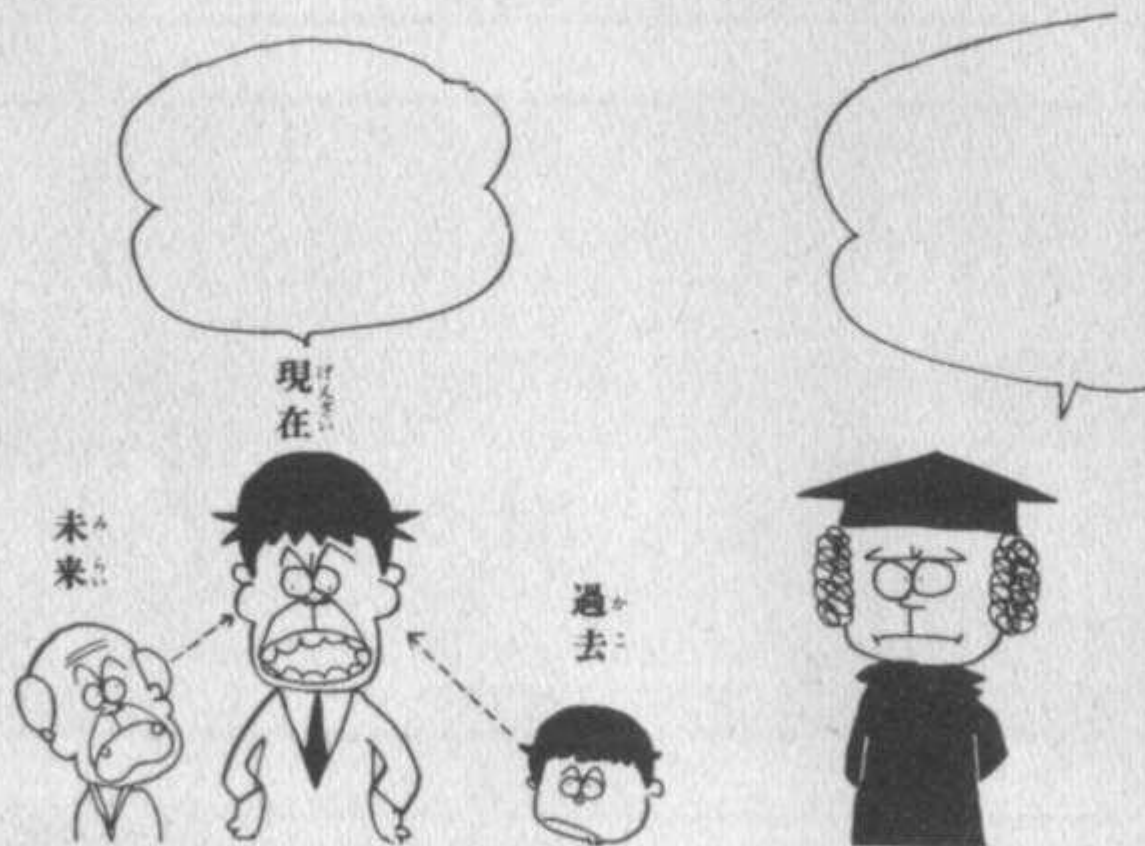


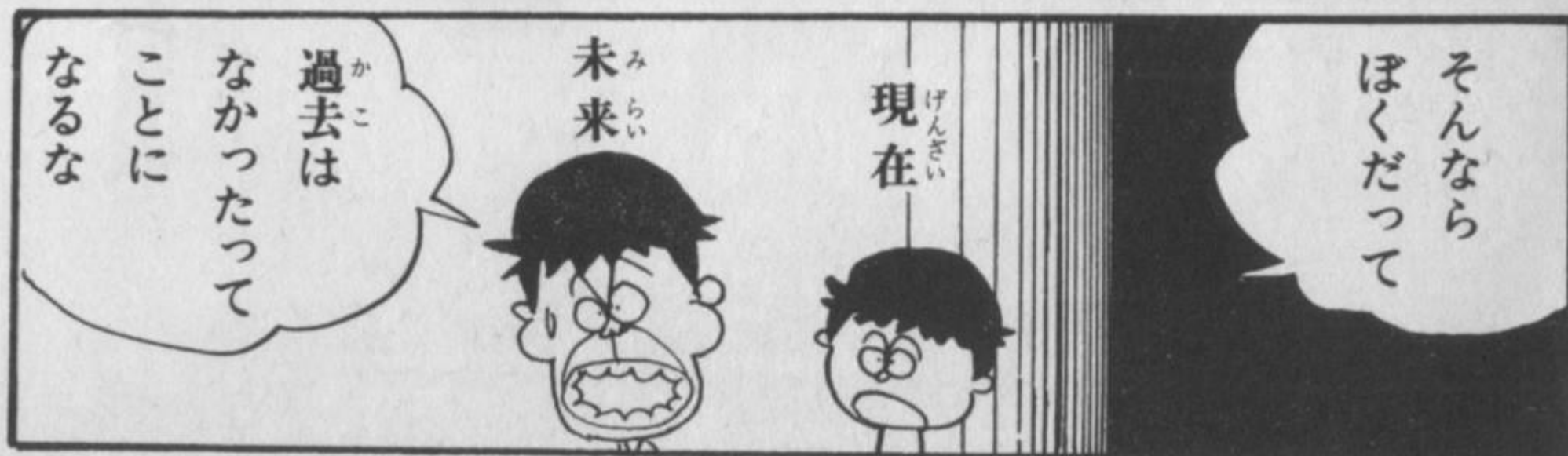
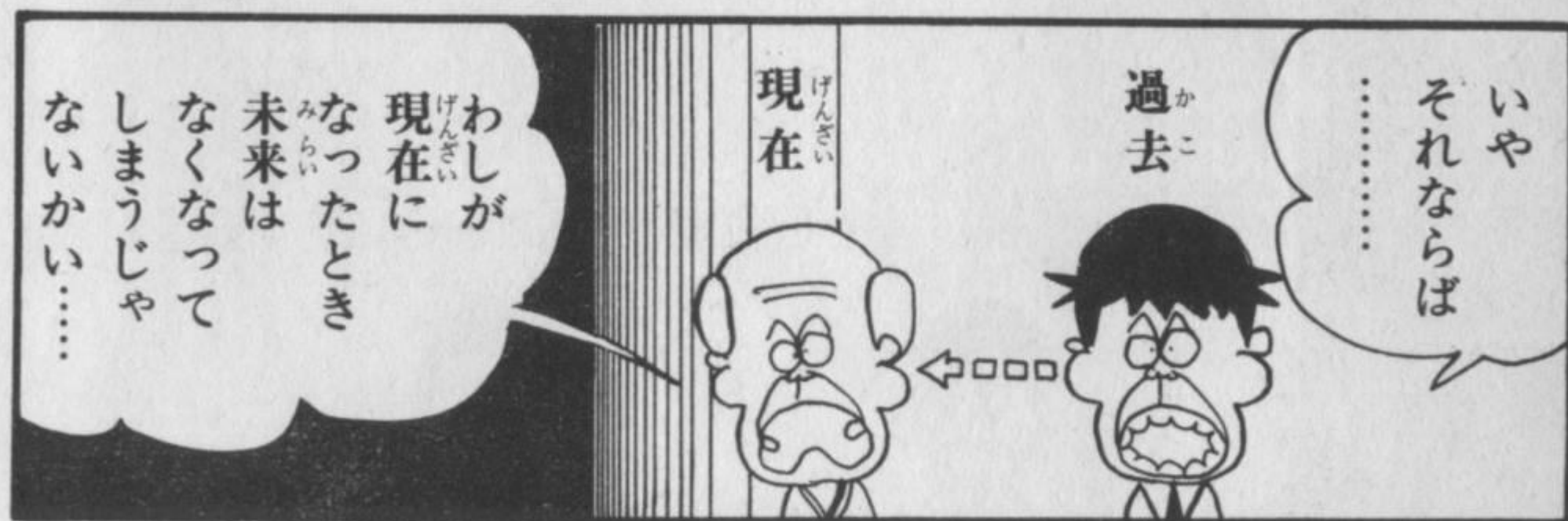
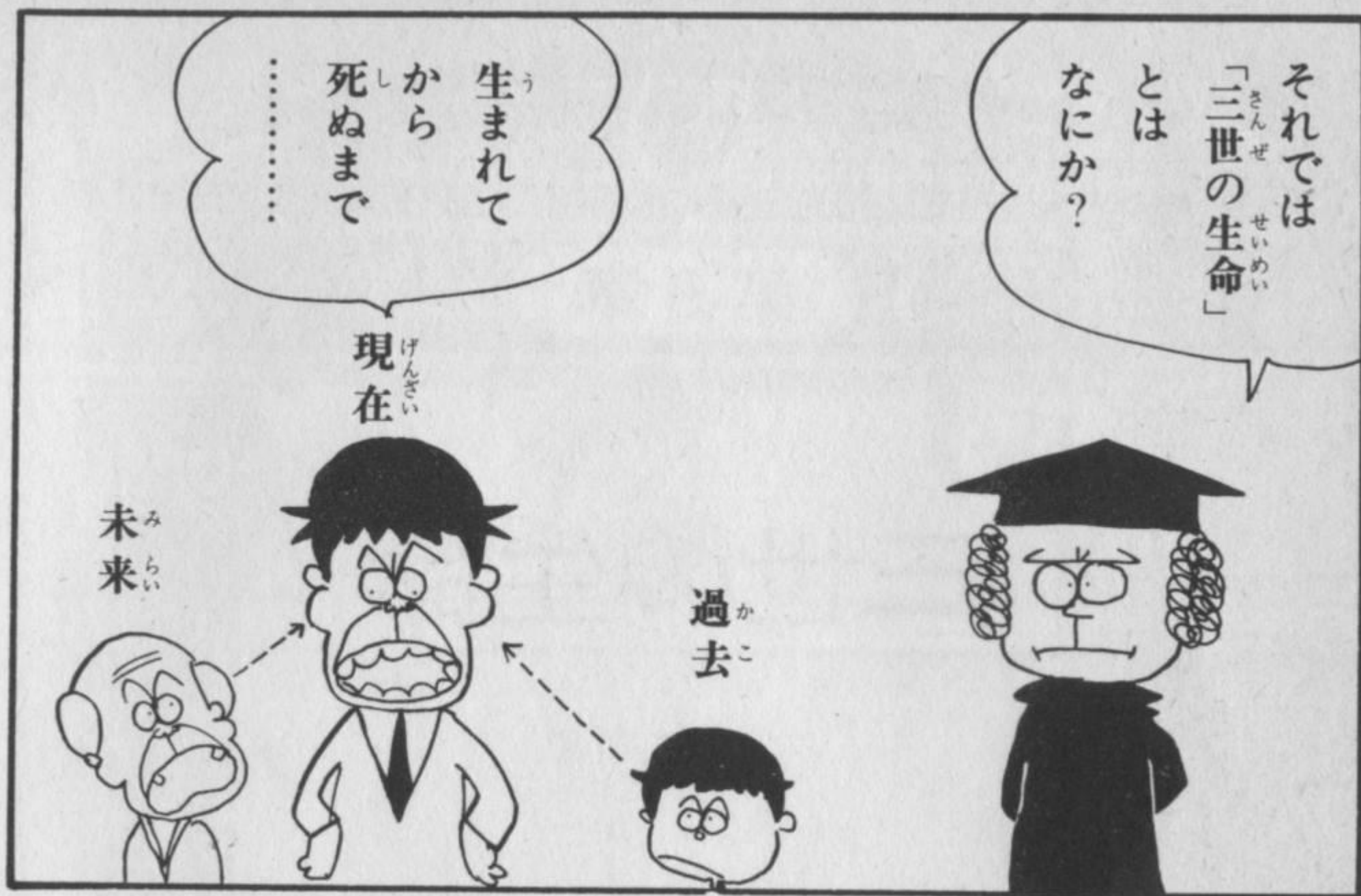




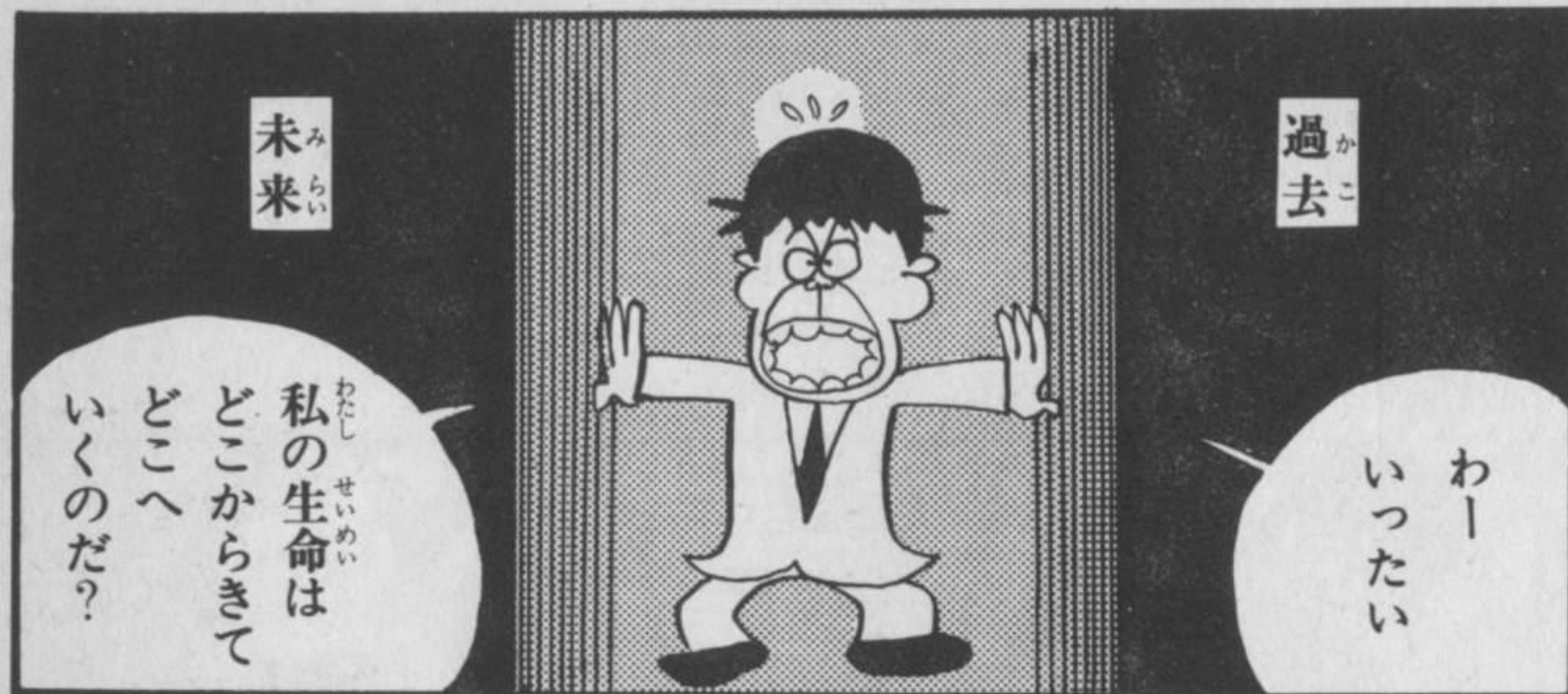
第3章

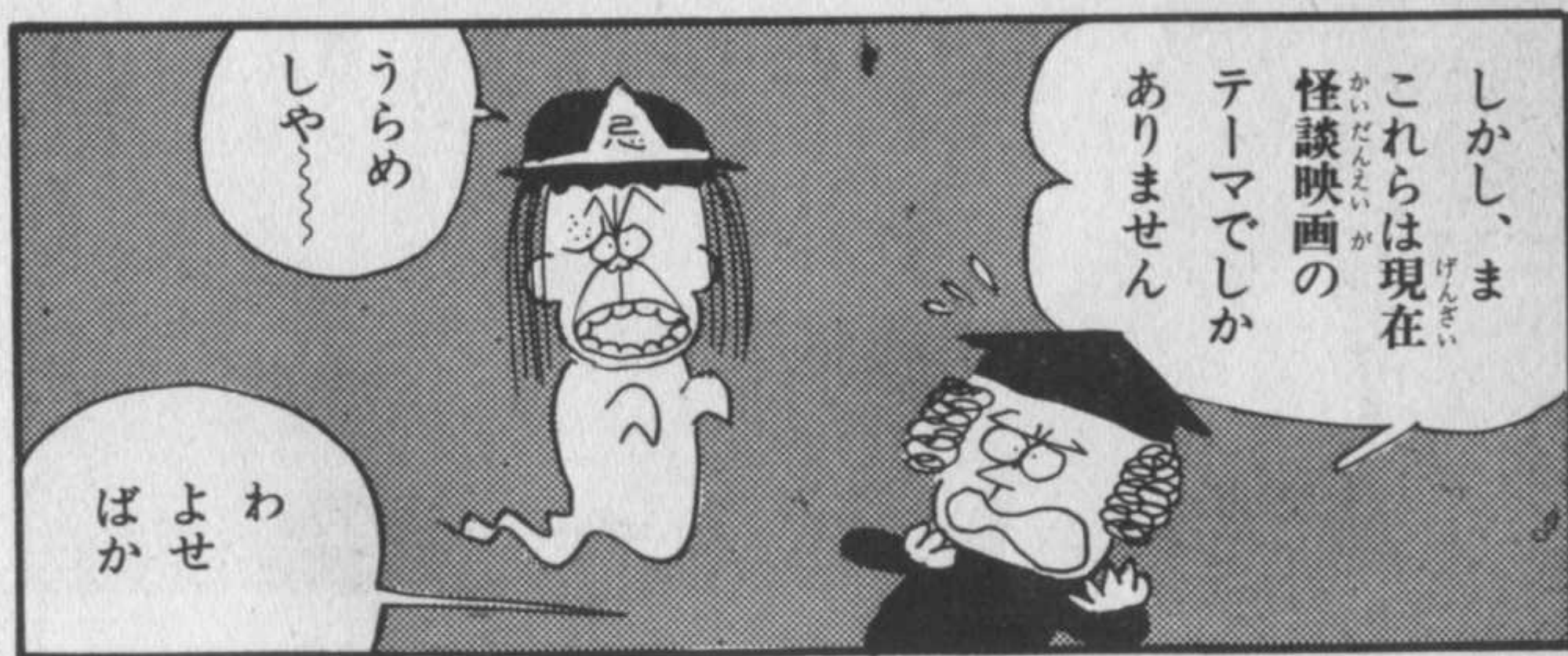
三世の生命





第3章 三世の生命









第3章 三世の生命



はなしを
ぐーっと
過去に
もどします

地球が誕生したのは
約四十億年まえと
いわれています

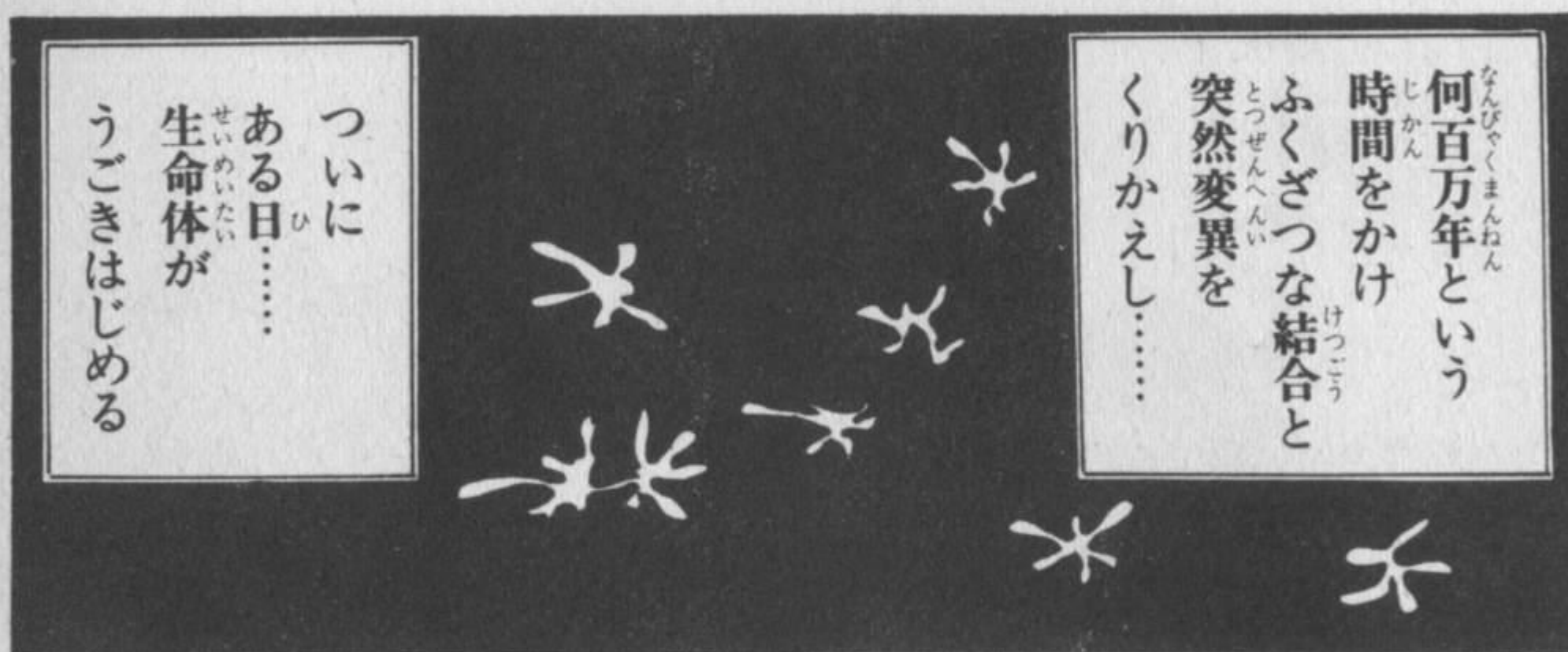
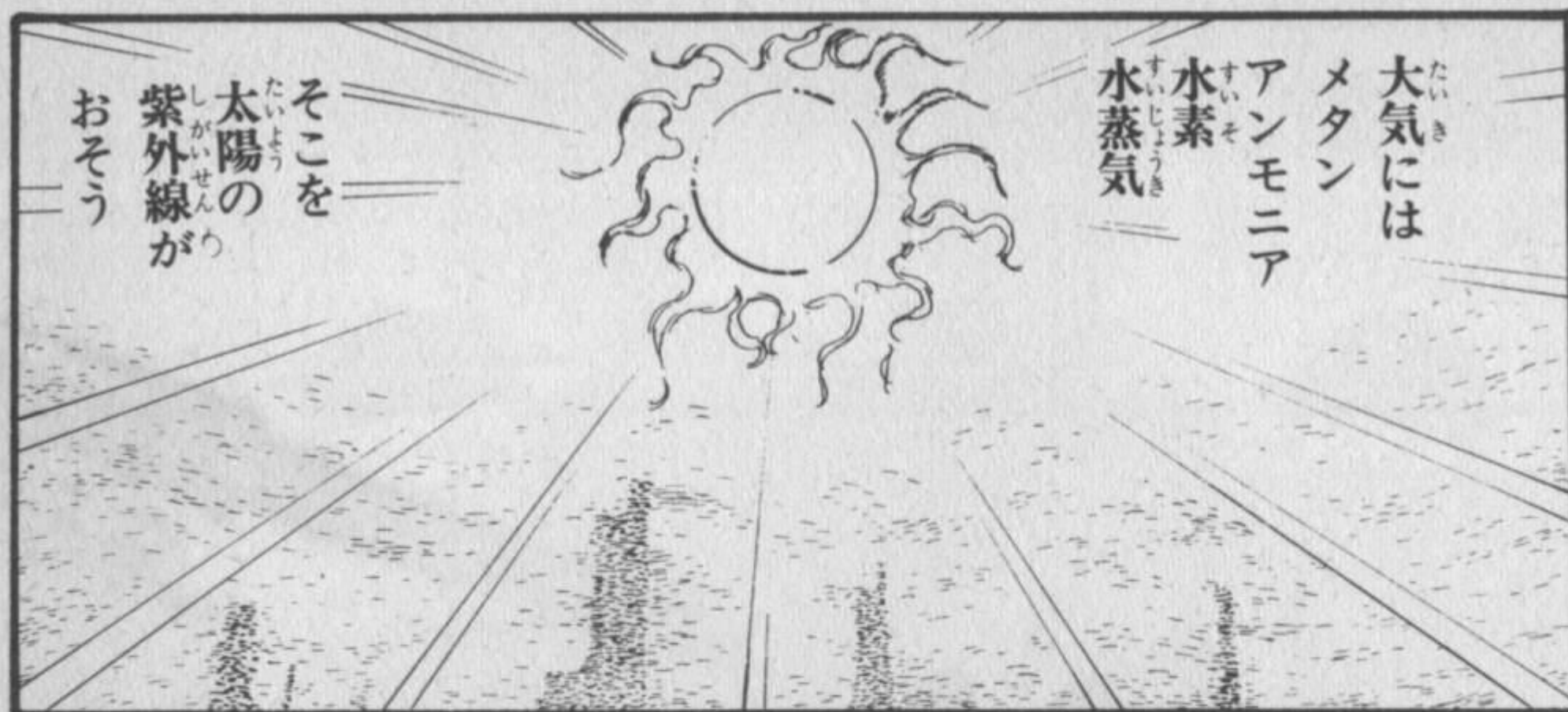
ひえてかたまり
生命体の
発生すべき
条件のそろうのが

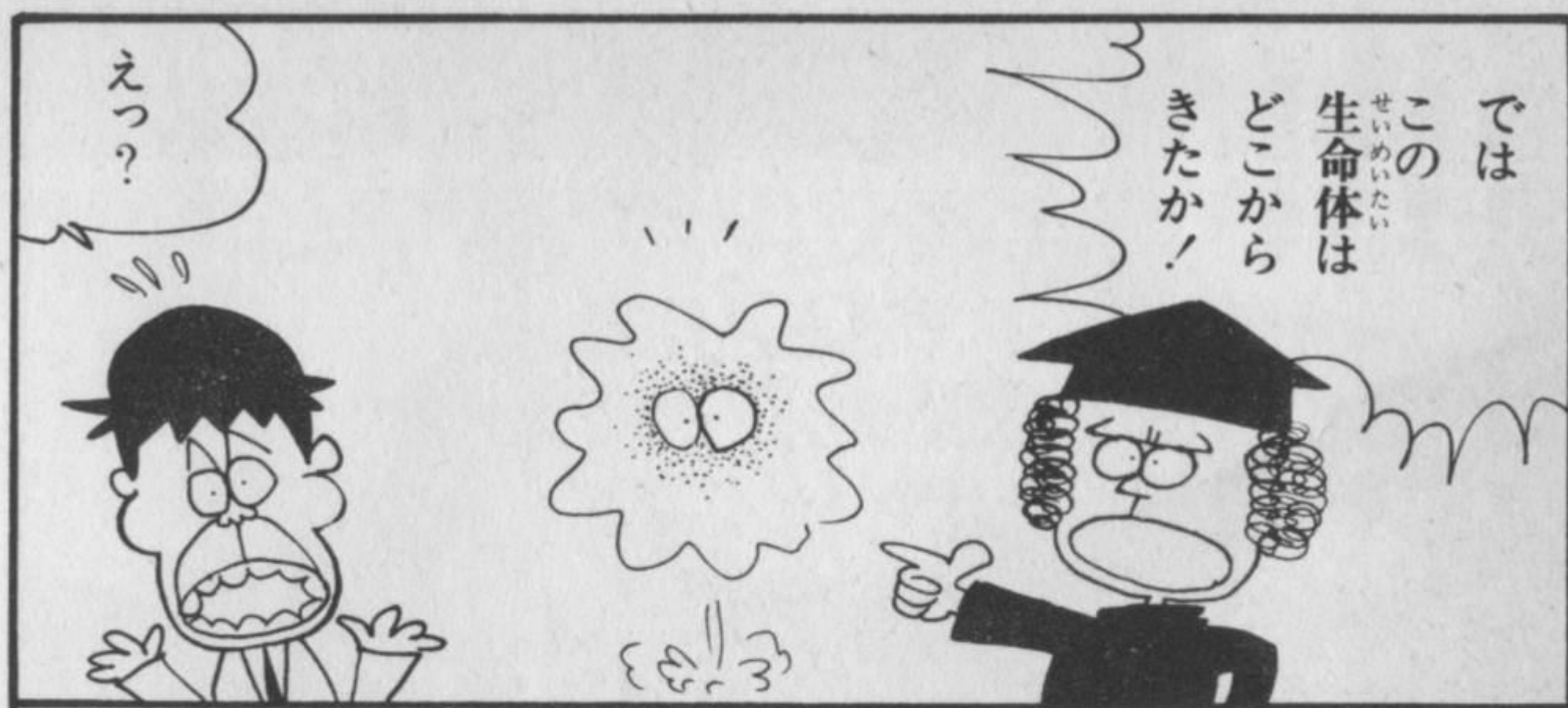
地球上に
あるのはただ
岩石と水

そして
大気

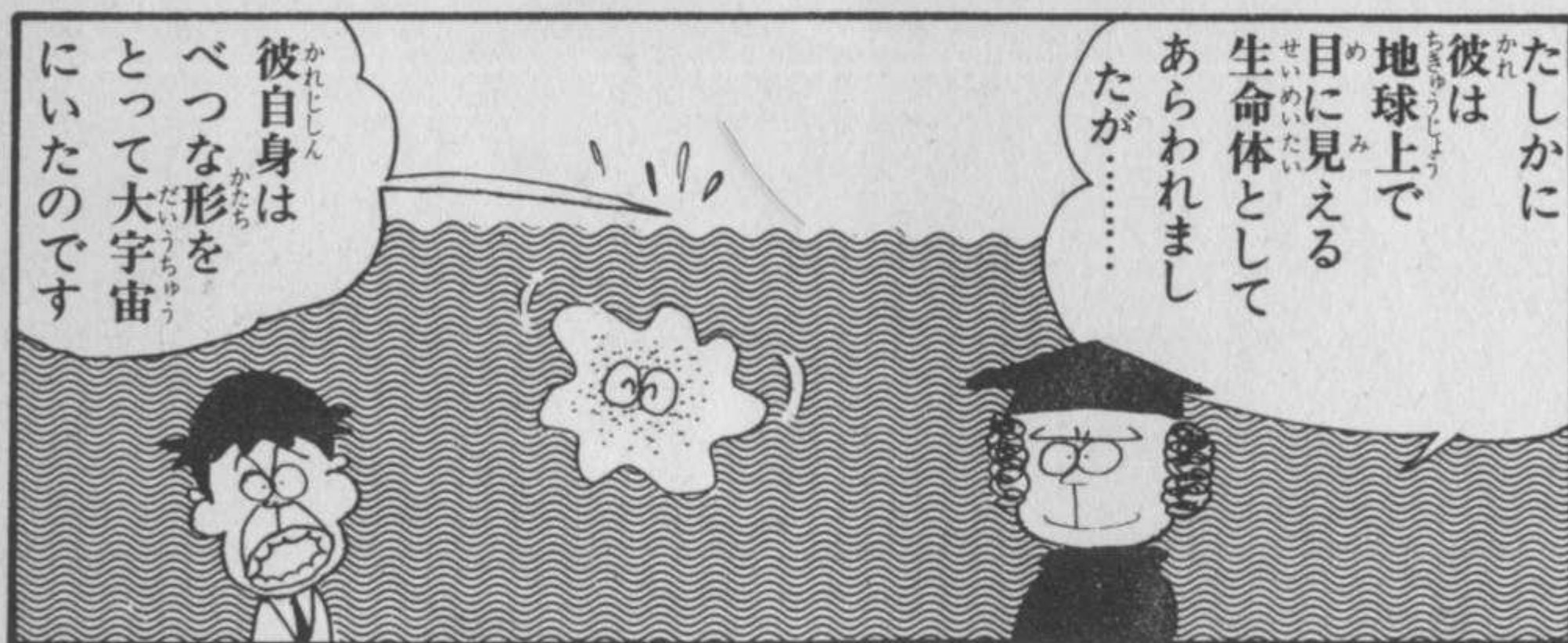
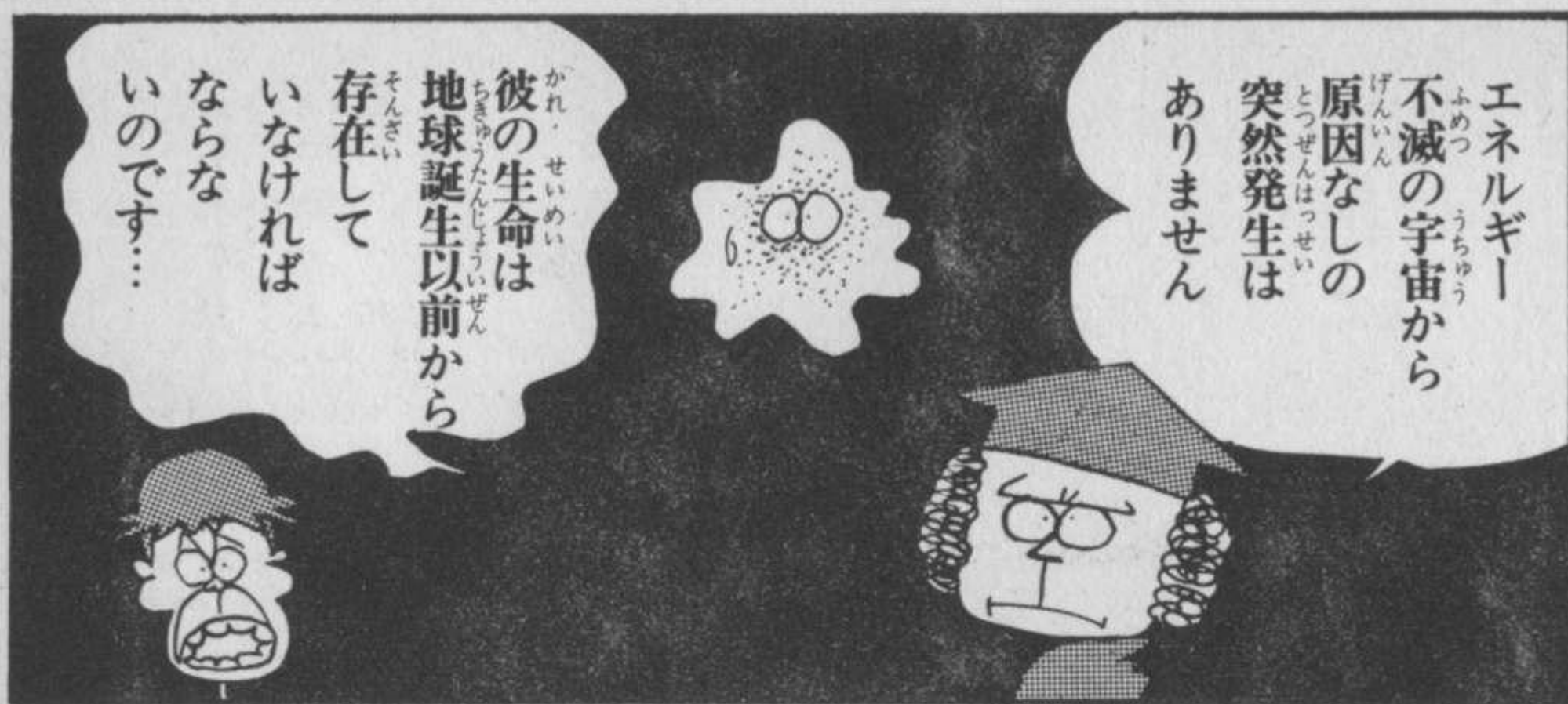
約三十億
年まえ

第3章 三世の生命





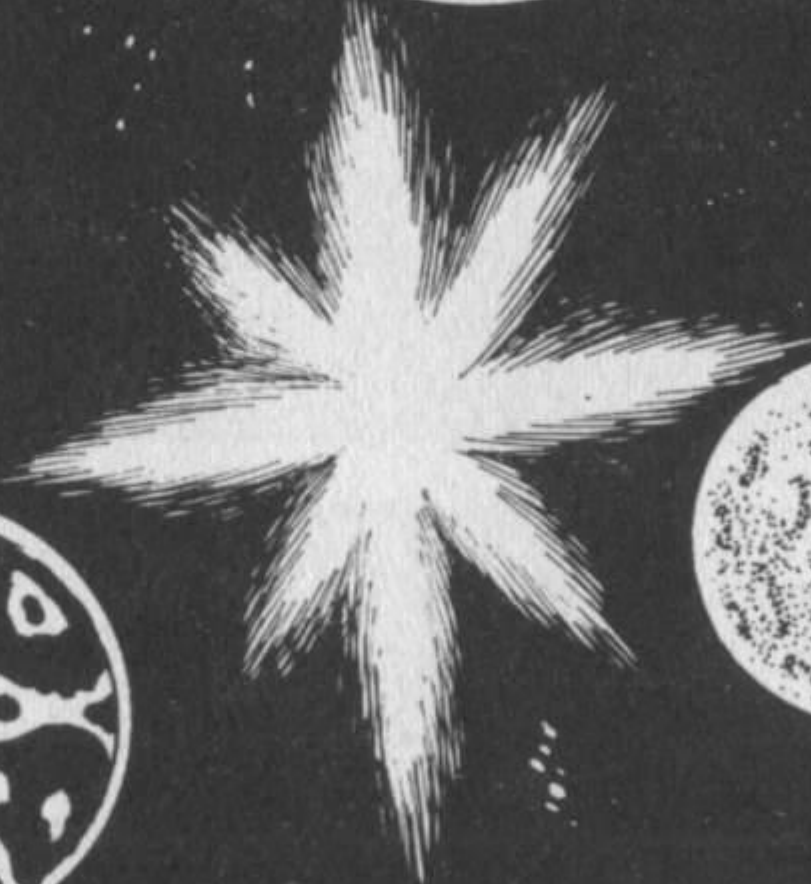
第3章 三世の生命



私たちは
過去数^か千^{すう}億^{せん}年^{おくねん}の昔^{むかし}
どこかの星^{ほし}の上^{うへ}で
くらしていて



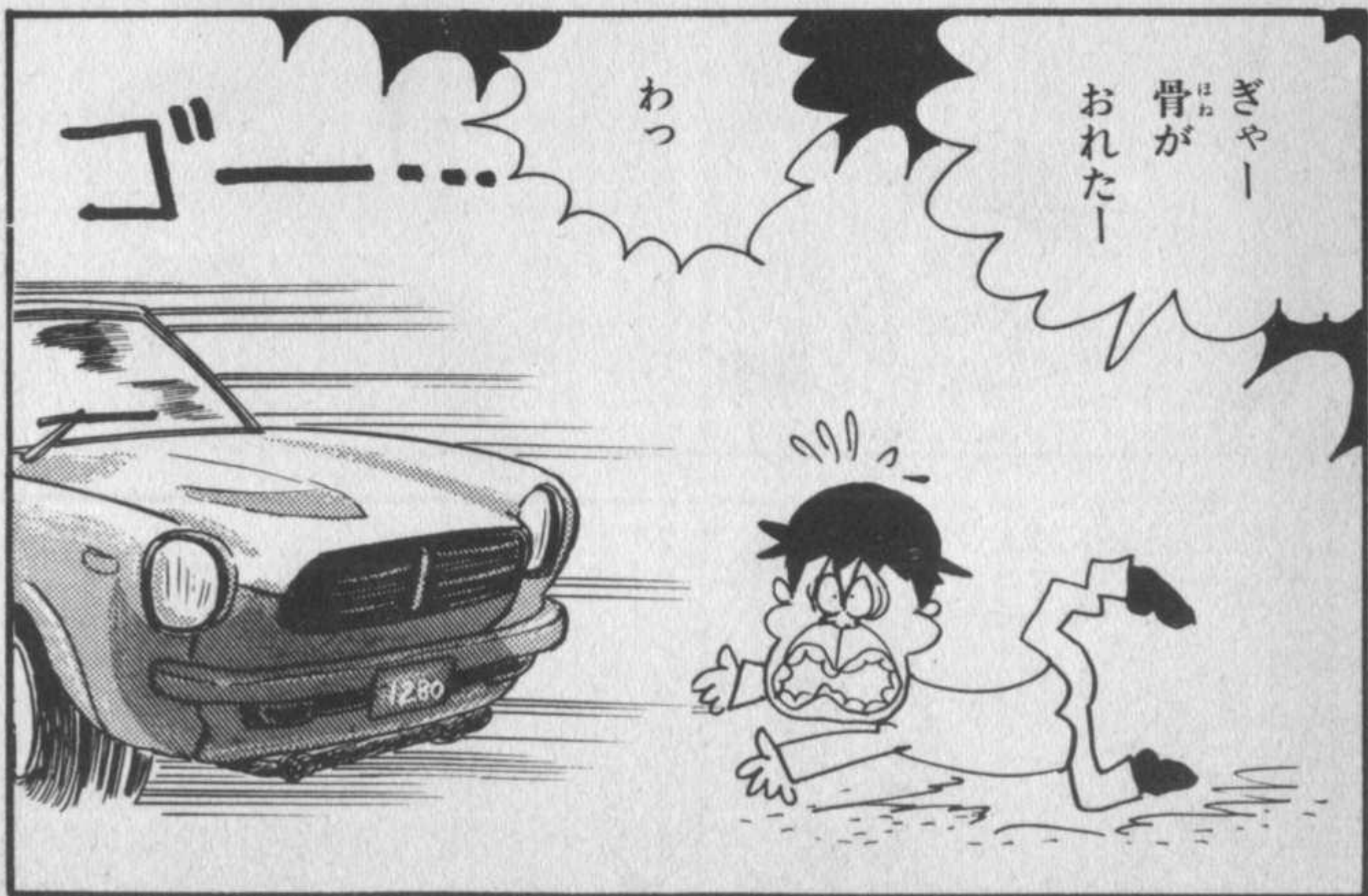
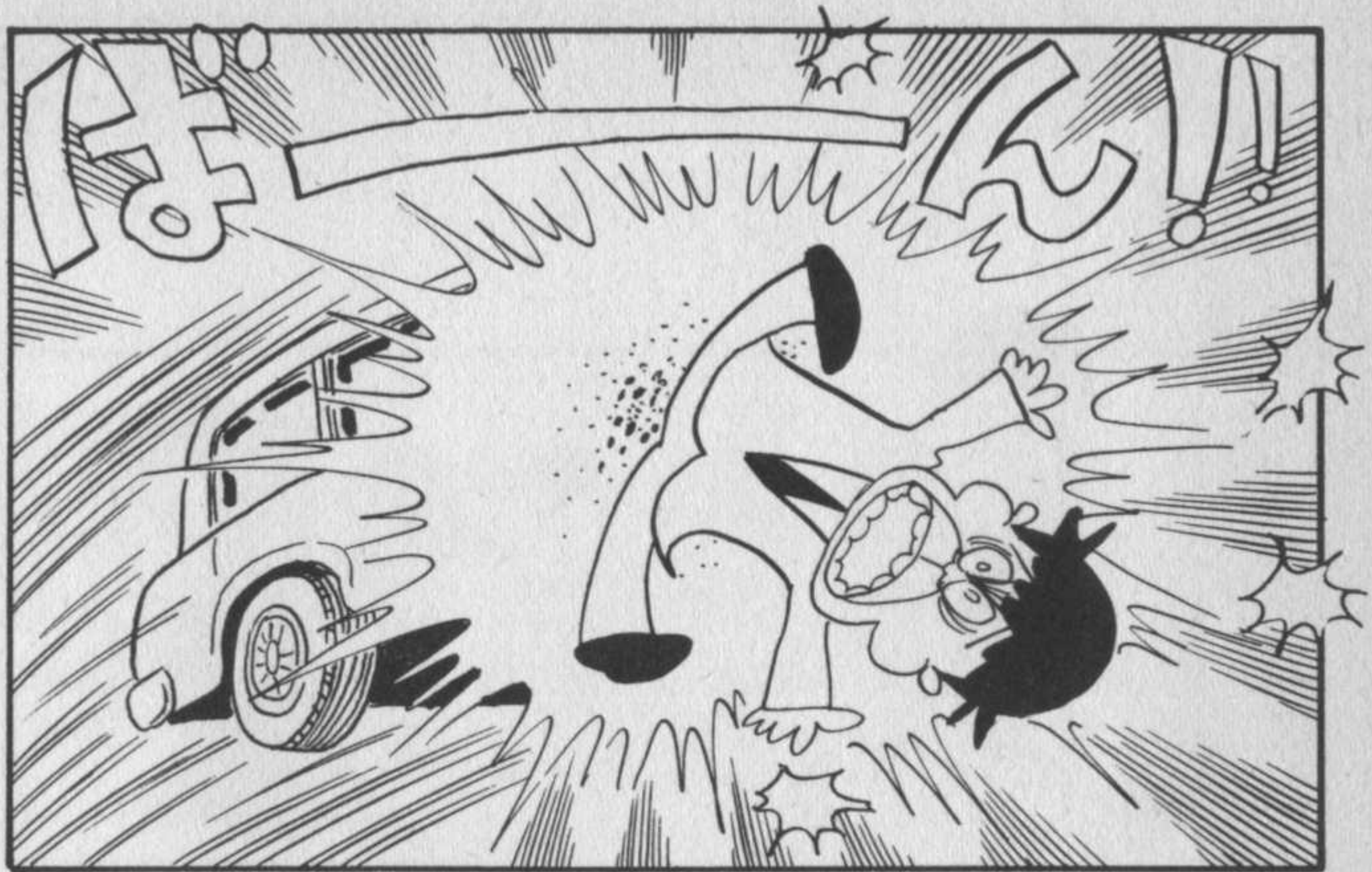
そして
現在^{げんざい}
おなじような
すがたを
して……



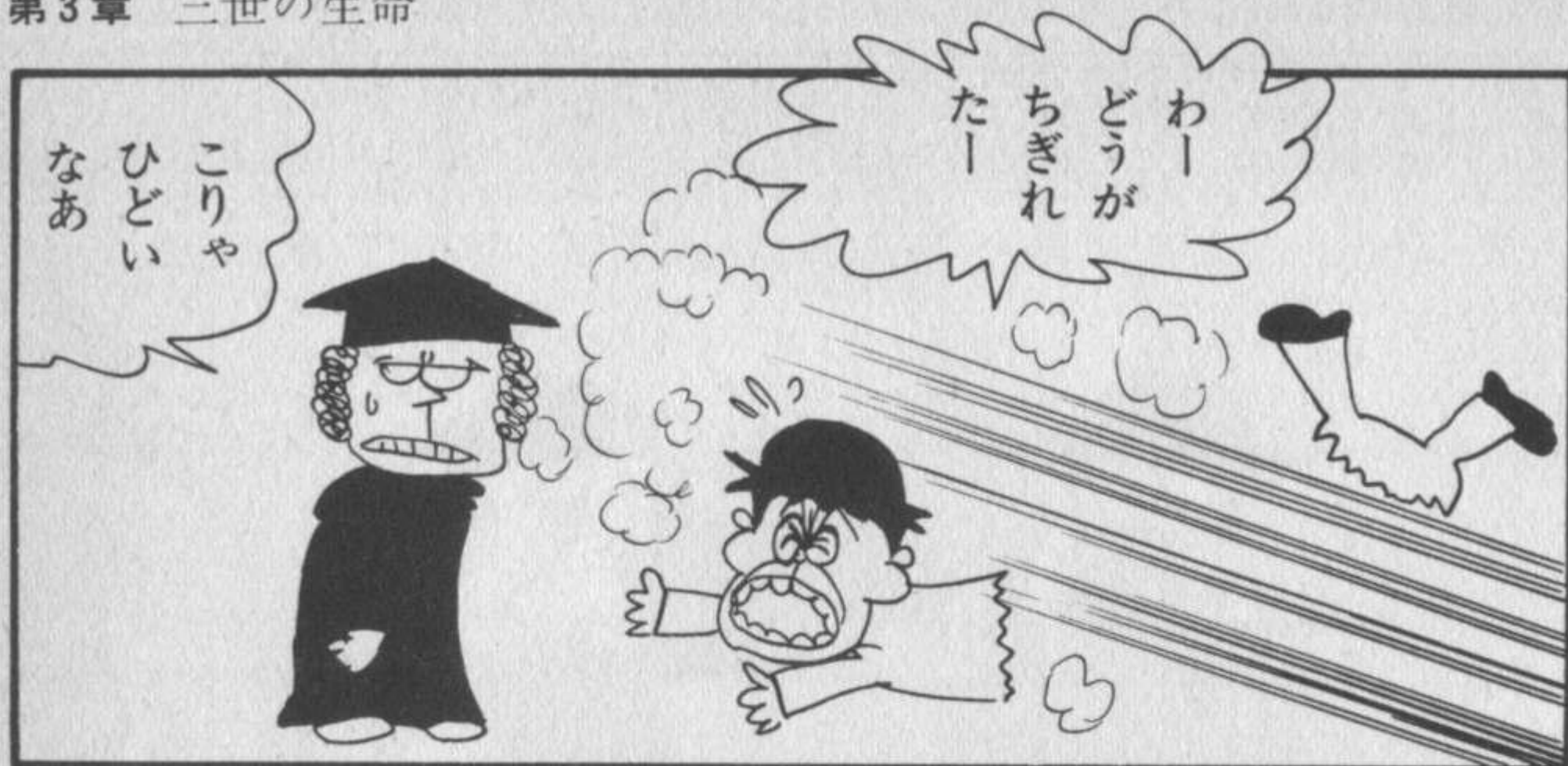






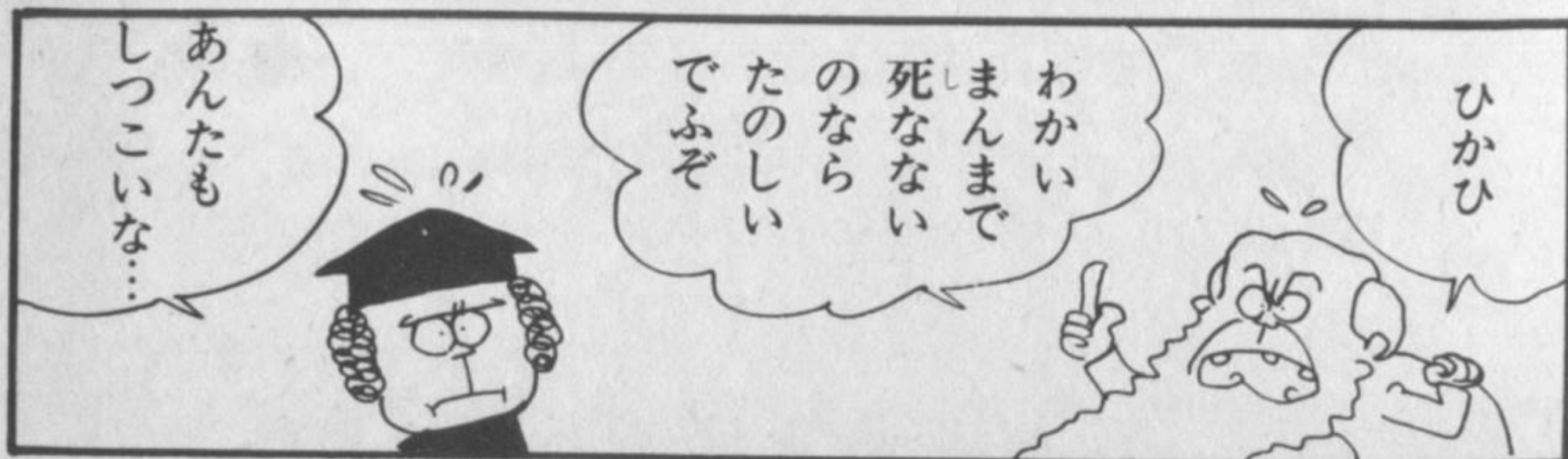
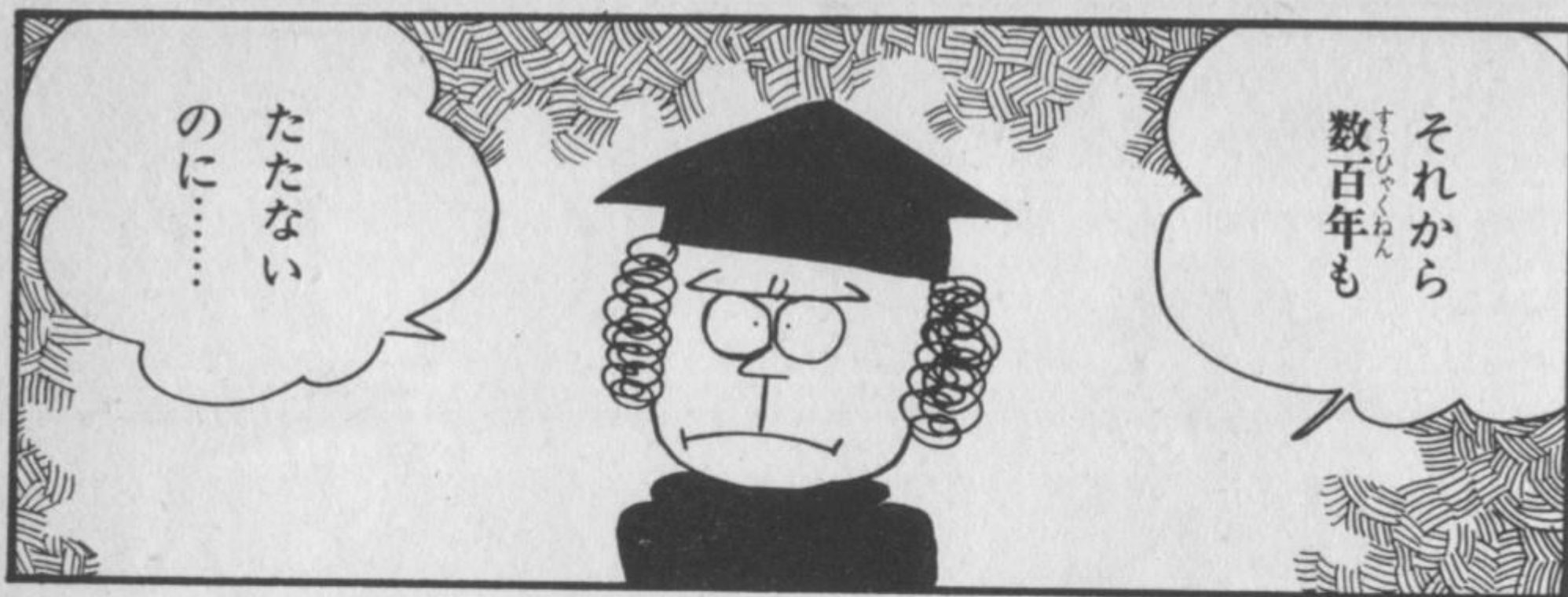


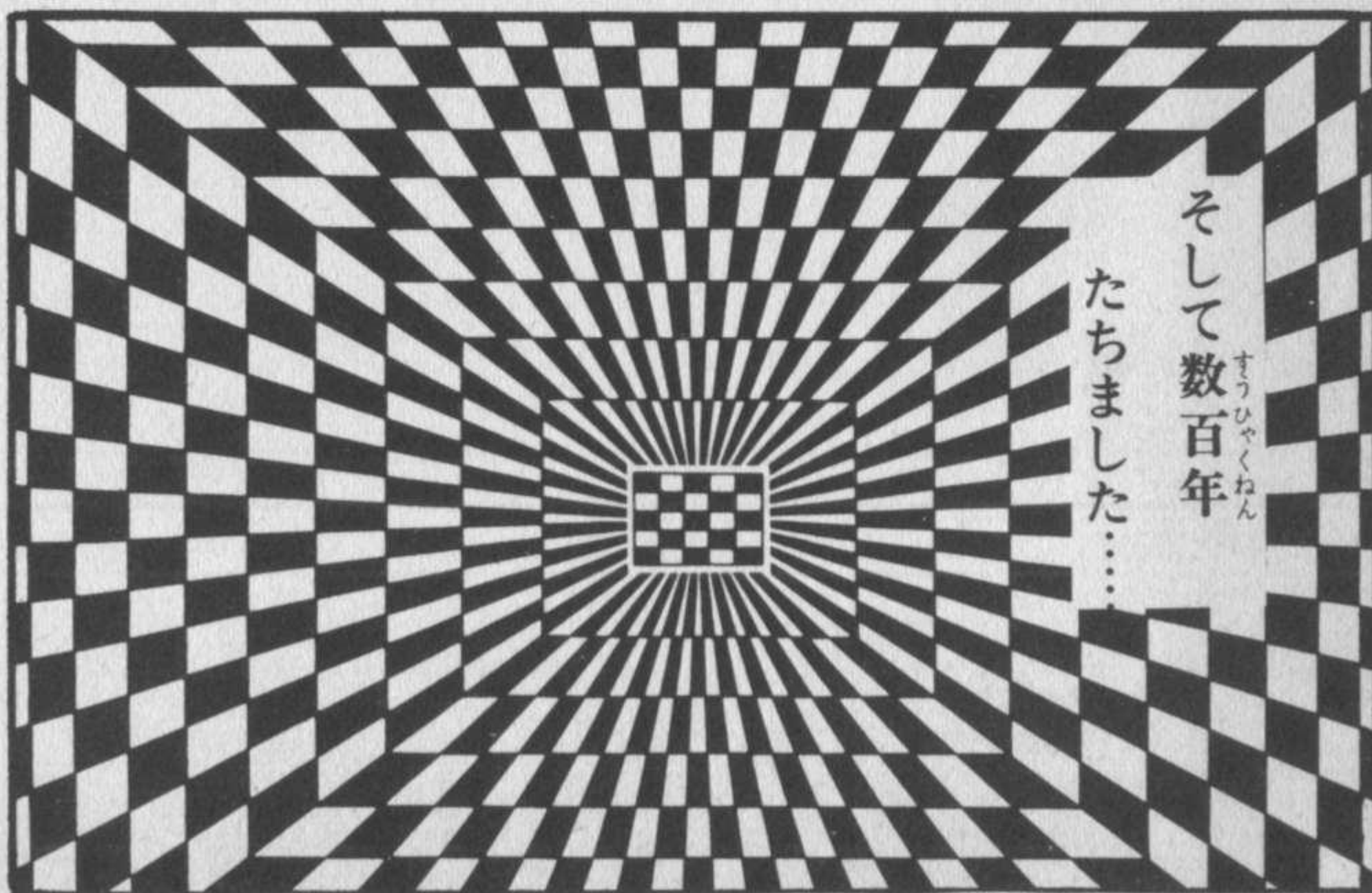
第3章 三世の生命



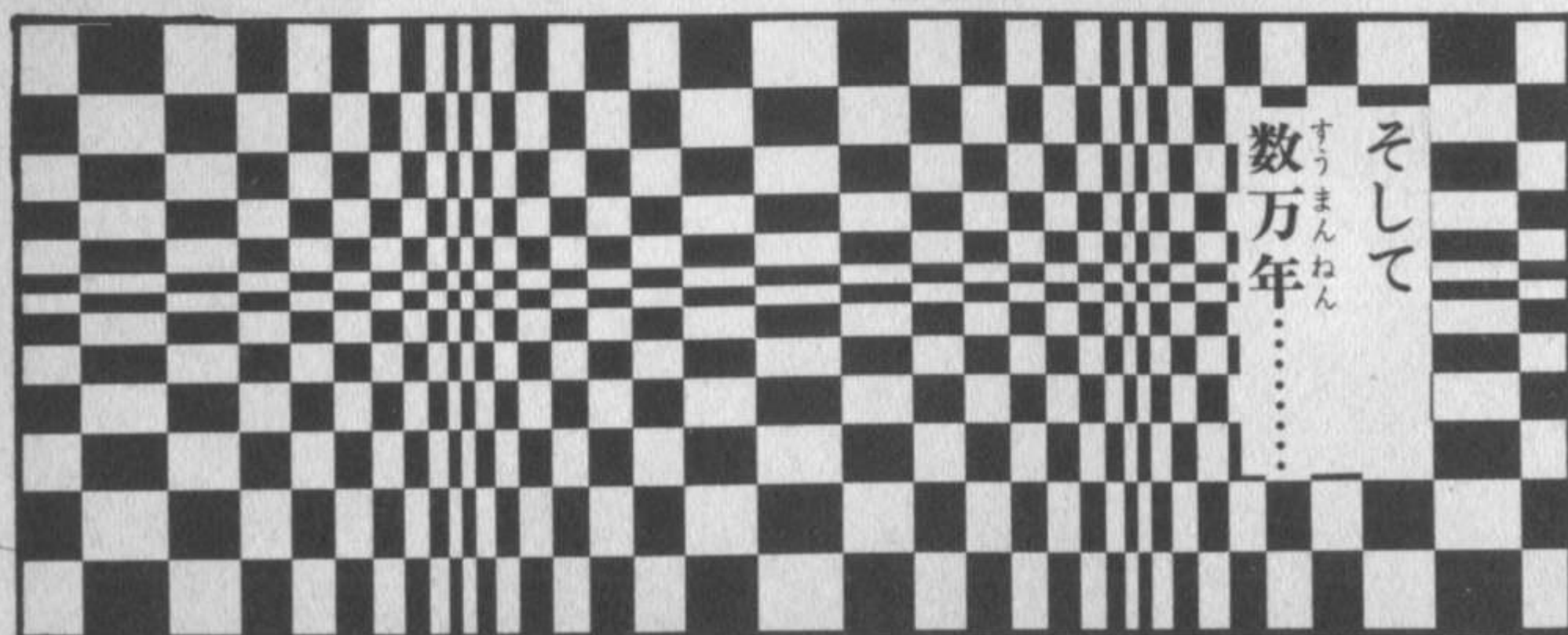


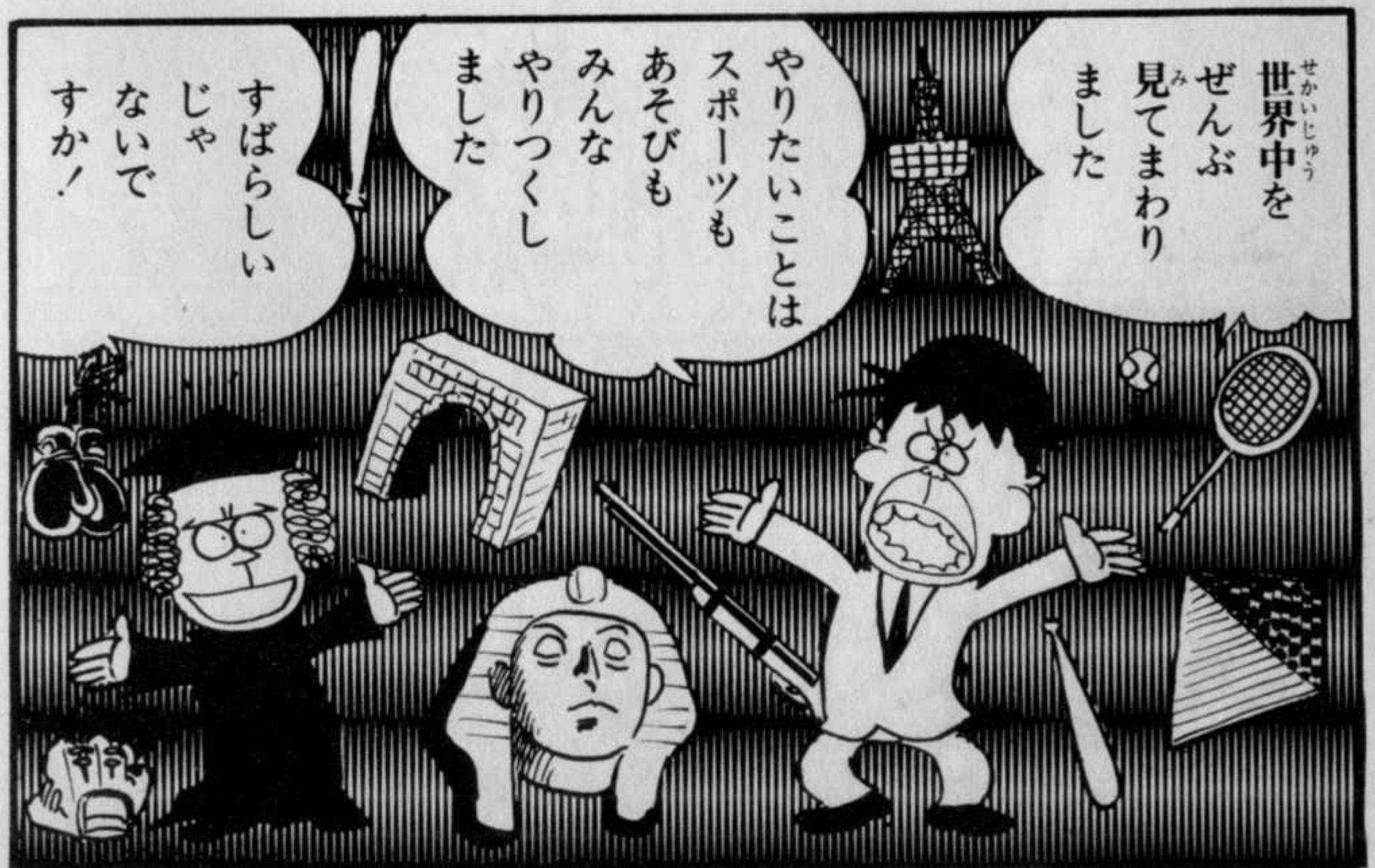
第3章 三世の生命



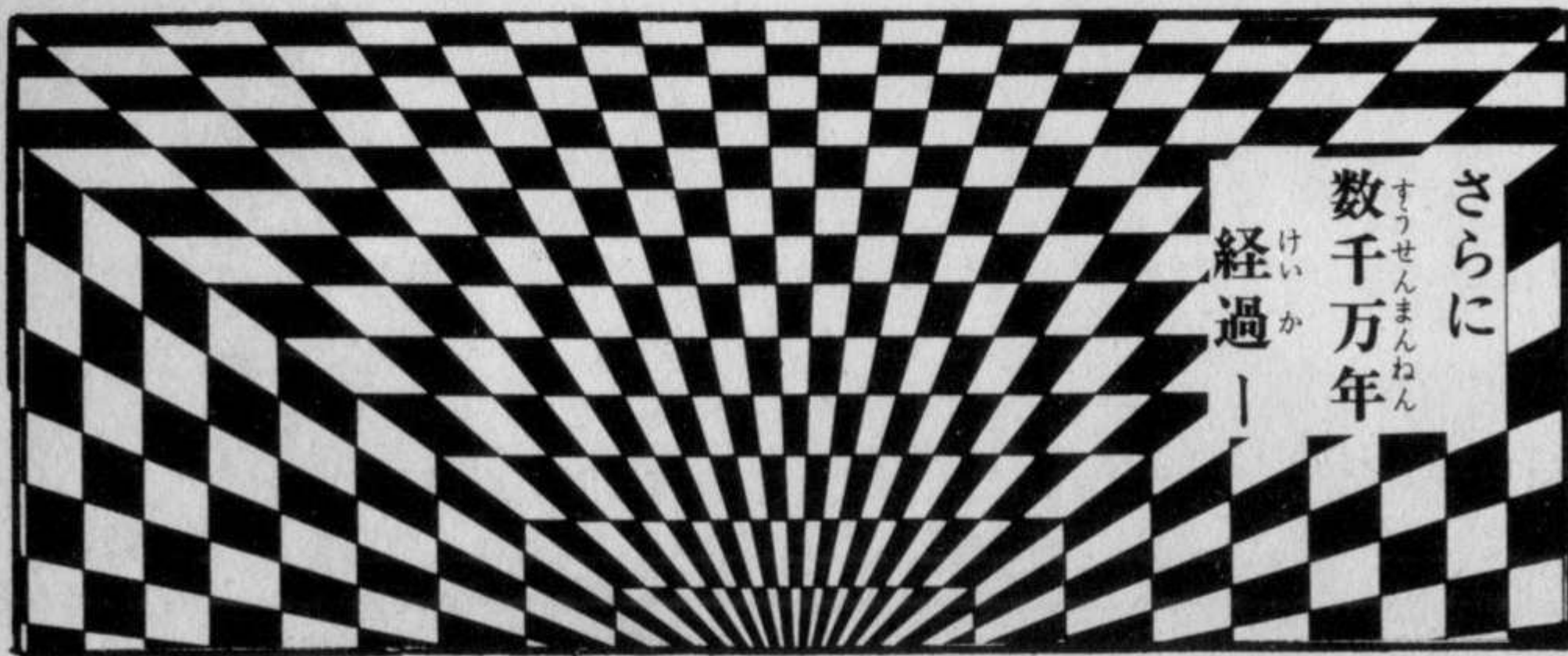
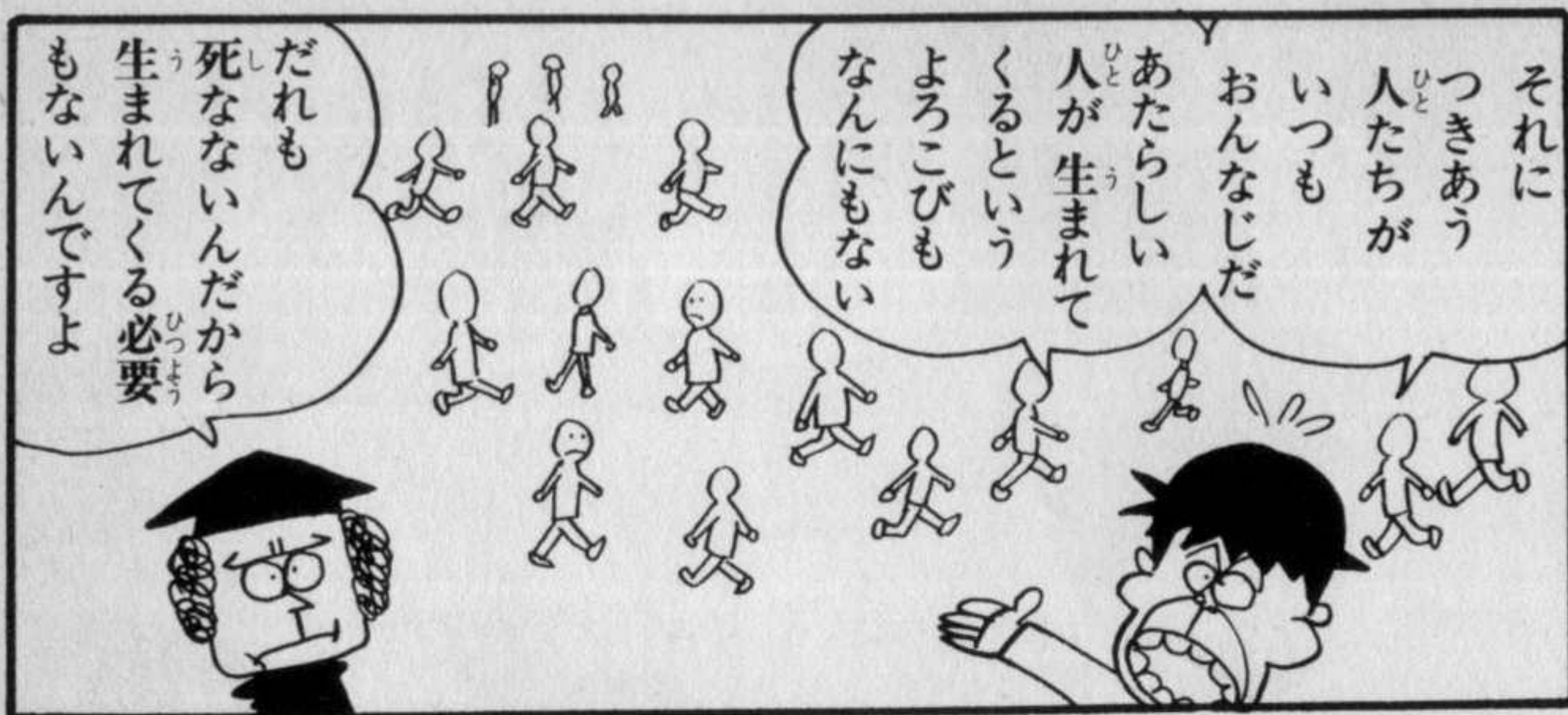


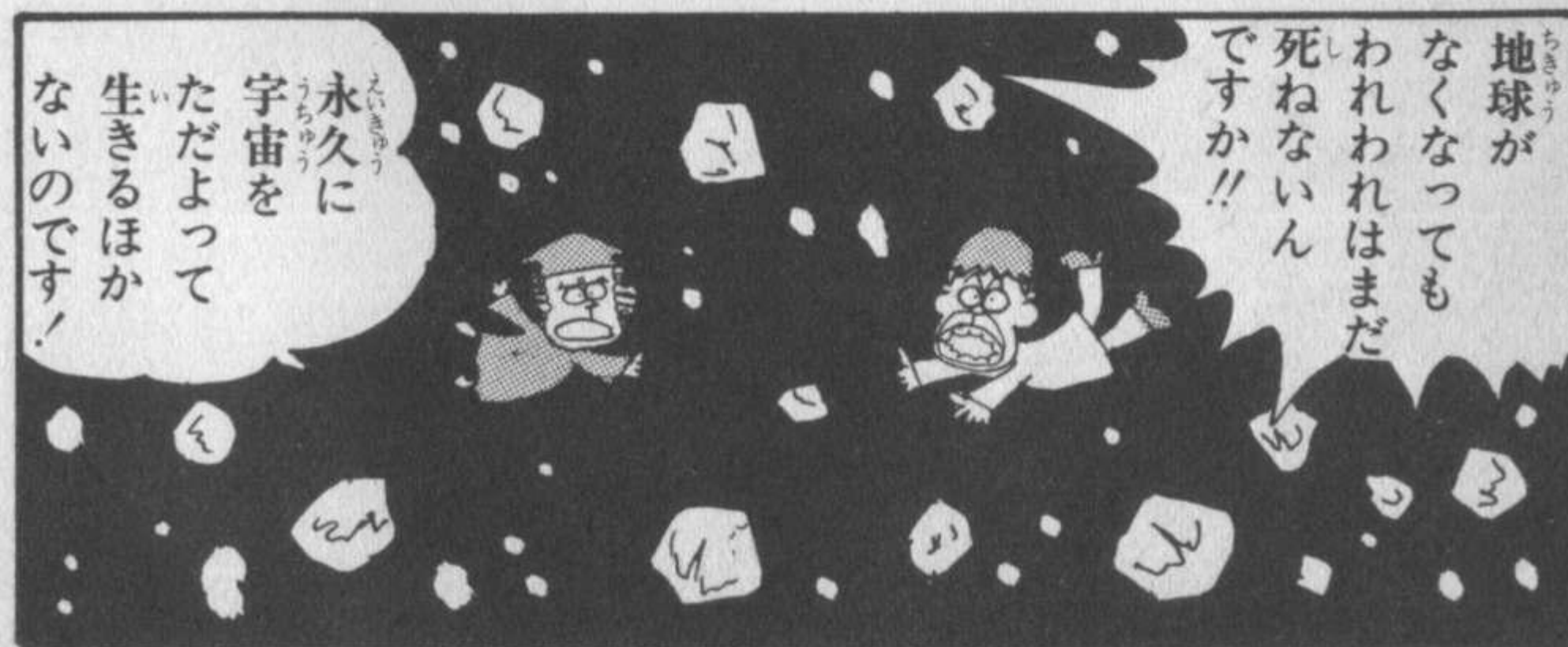
第3章 三世の生命



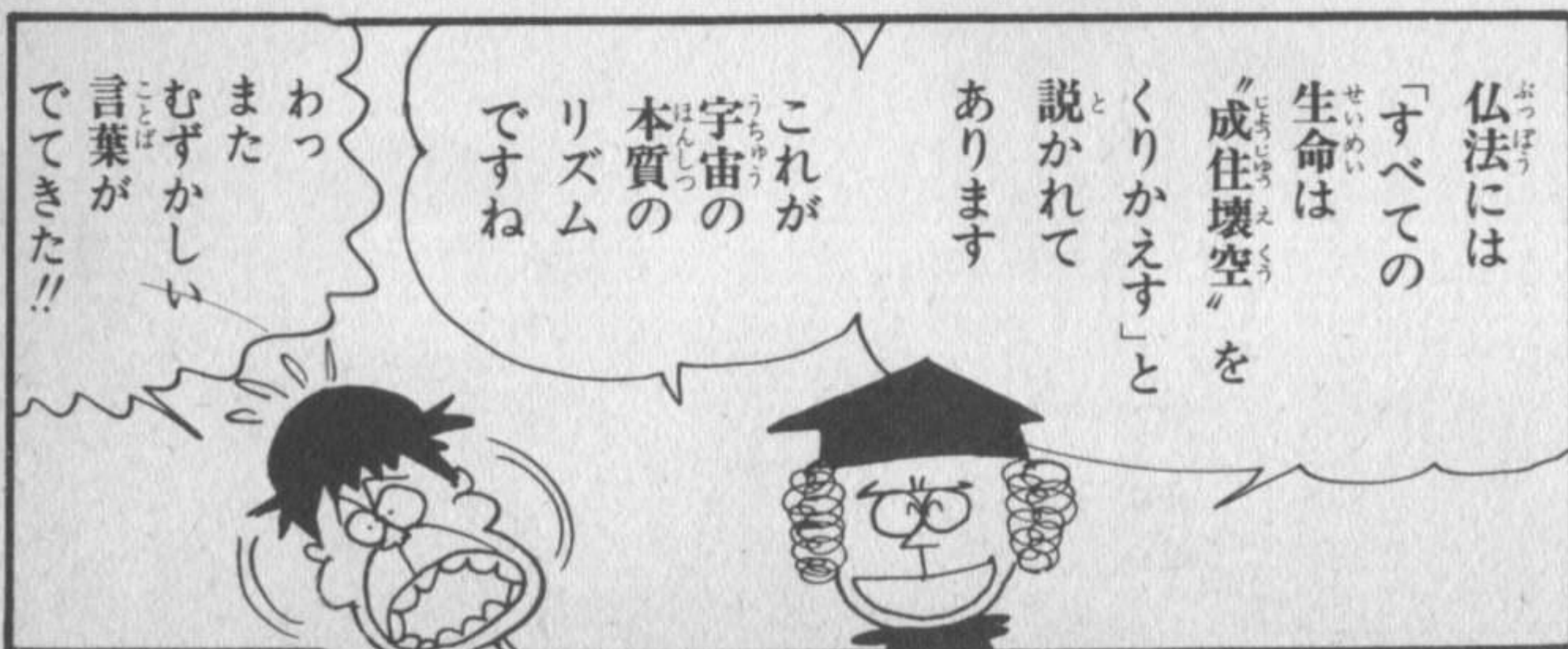
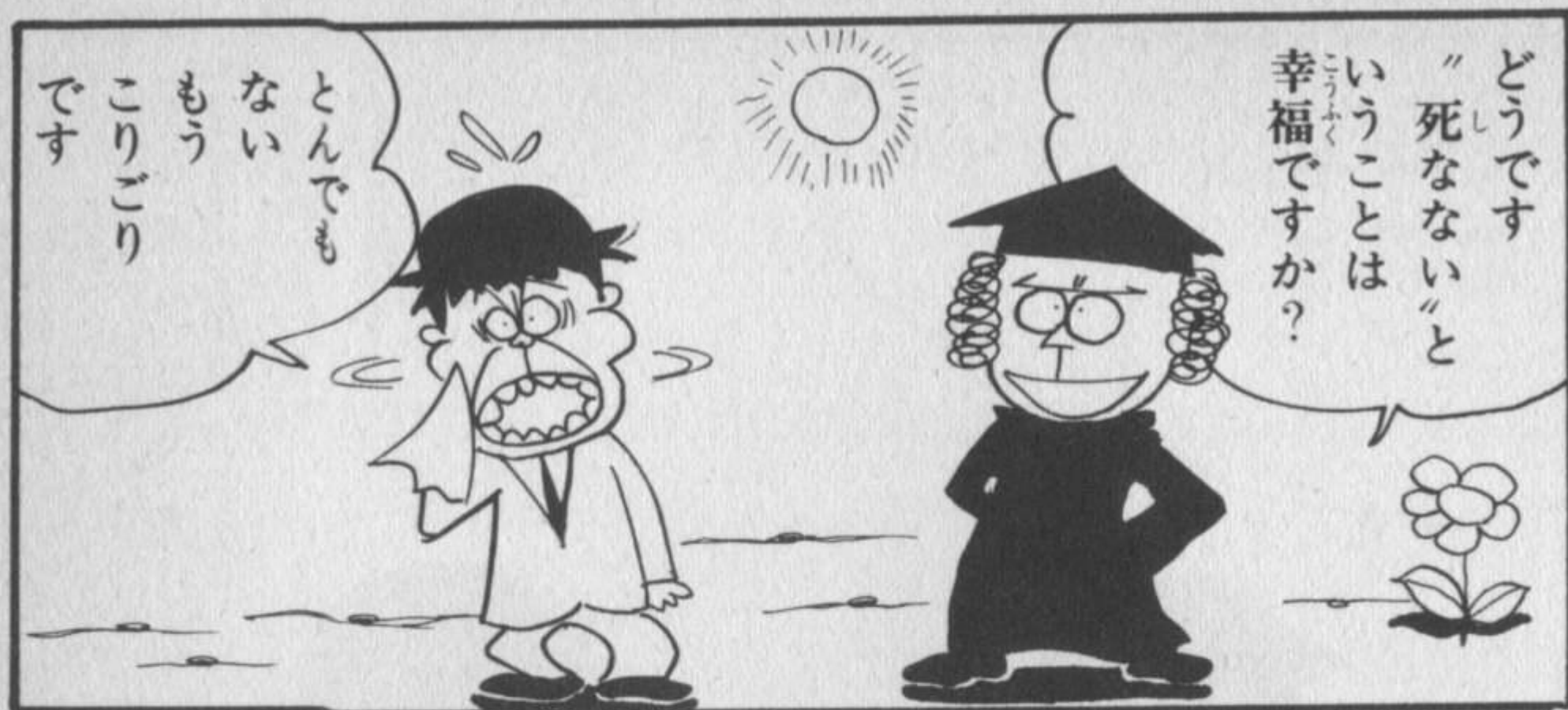


第3章 三世の生命





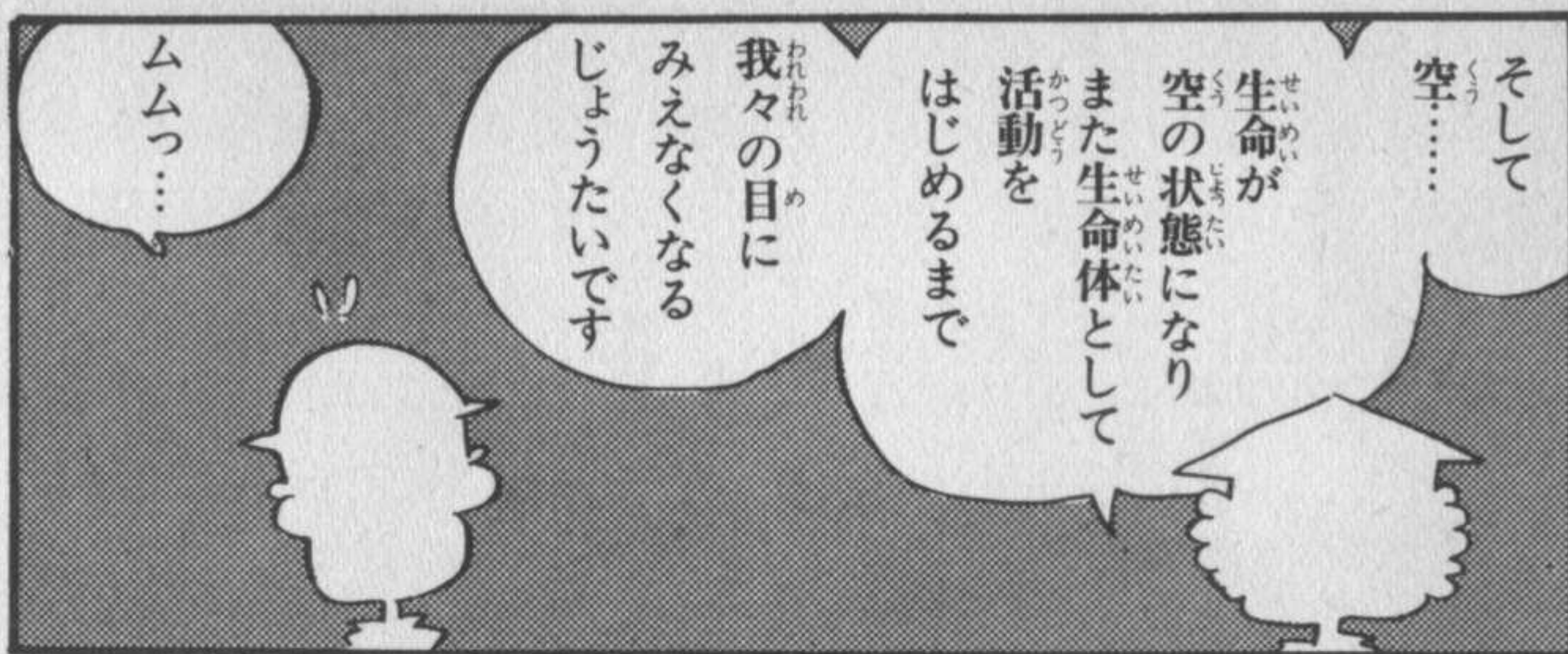
第3章 三世の生命





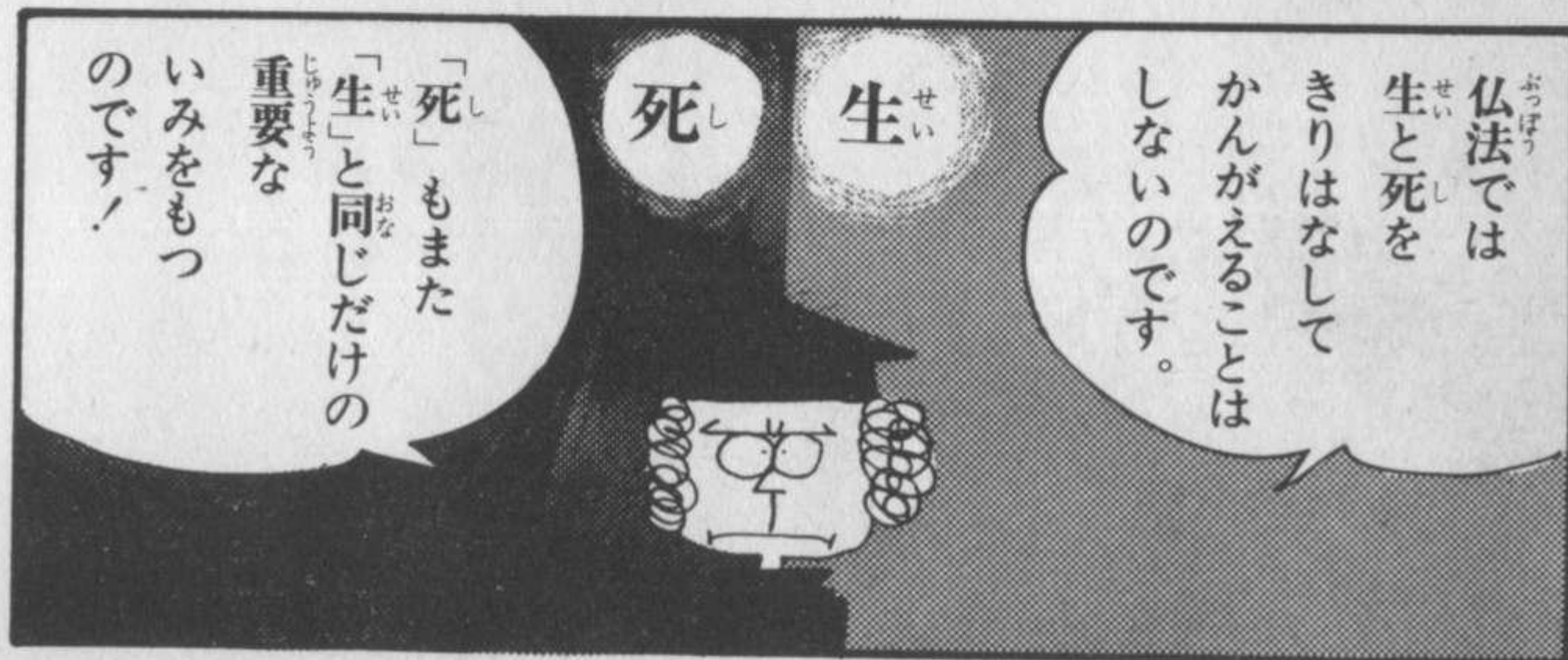
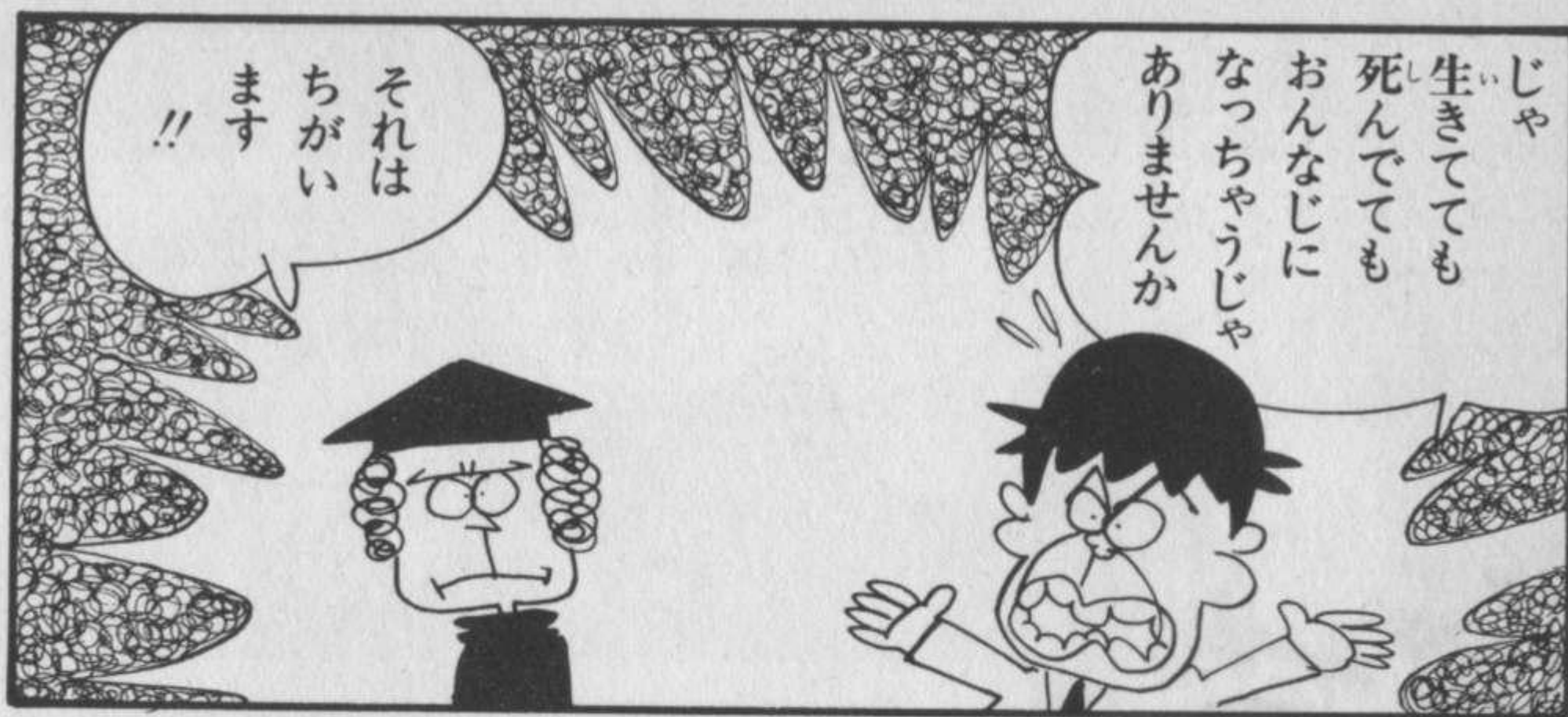
第3章 三世の生命



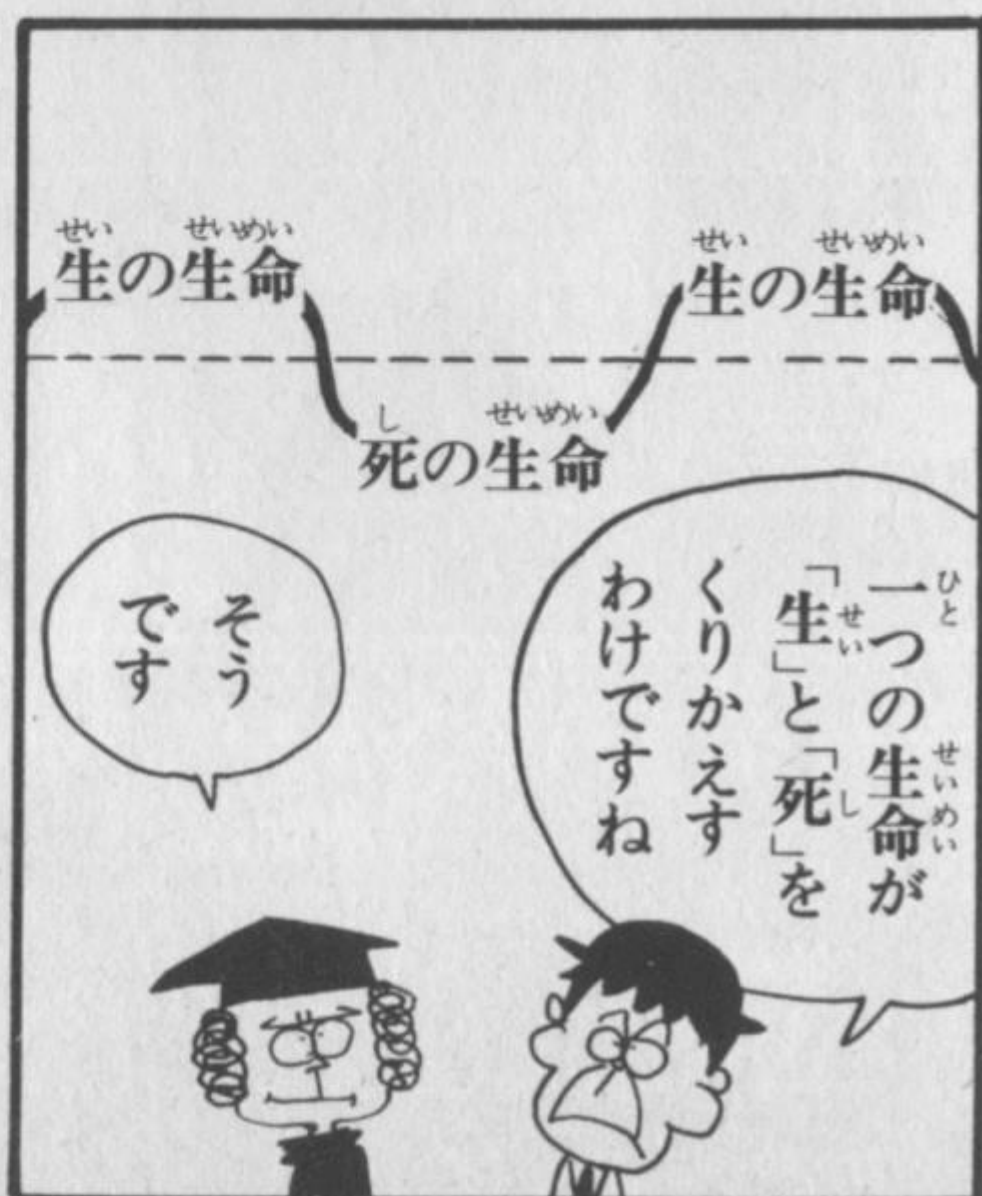


第3章 三世の生命



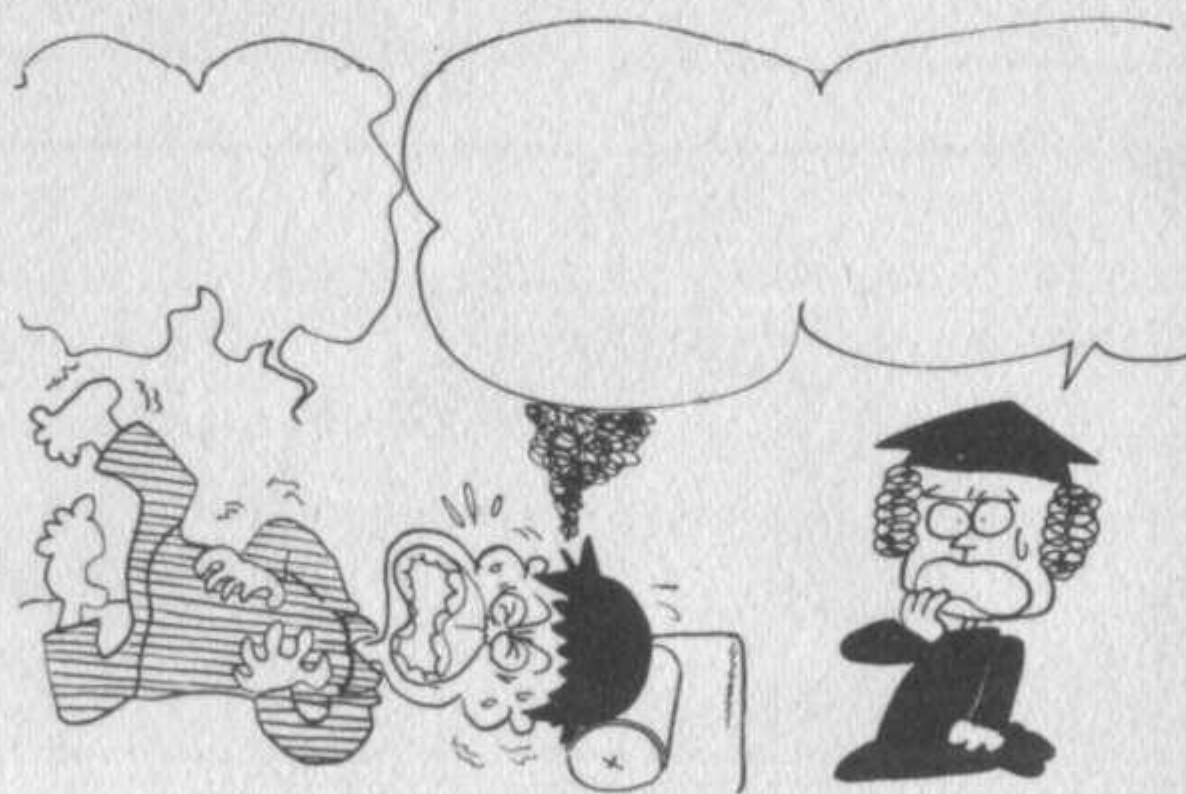


第3章 三世の生命

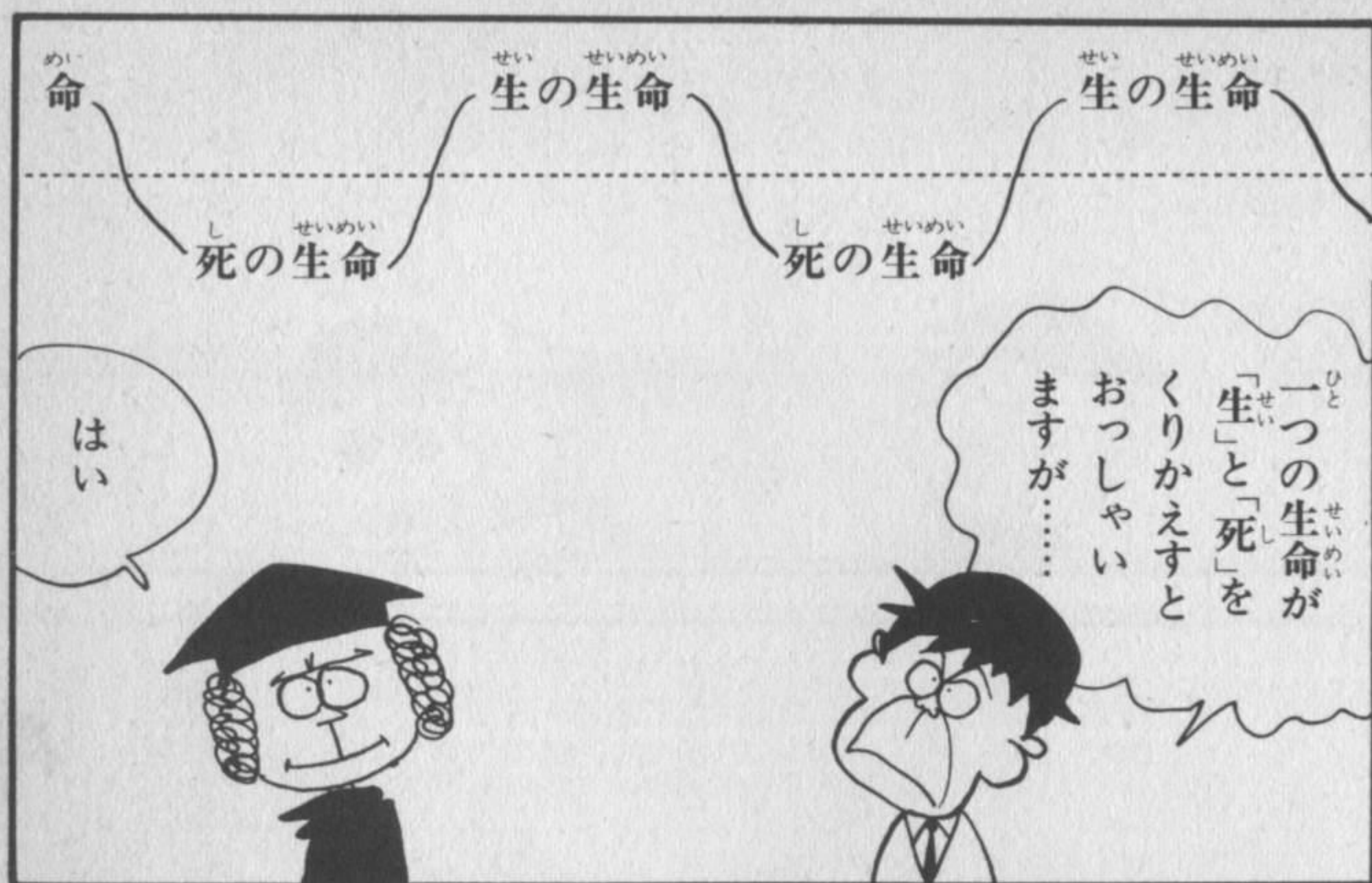


第 4 章

生死不二



第4章 生死不二



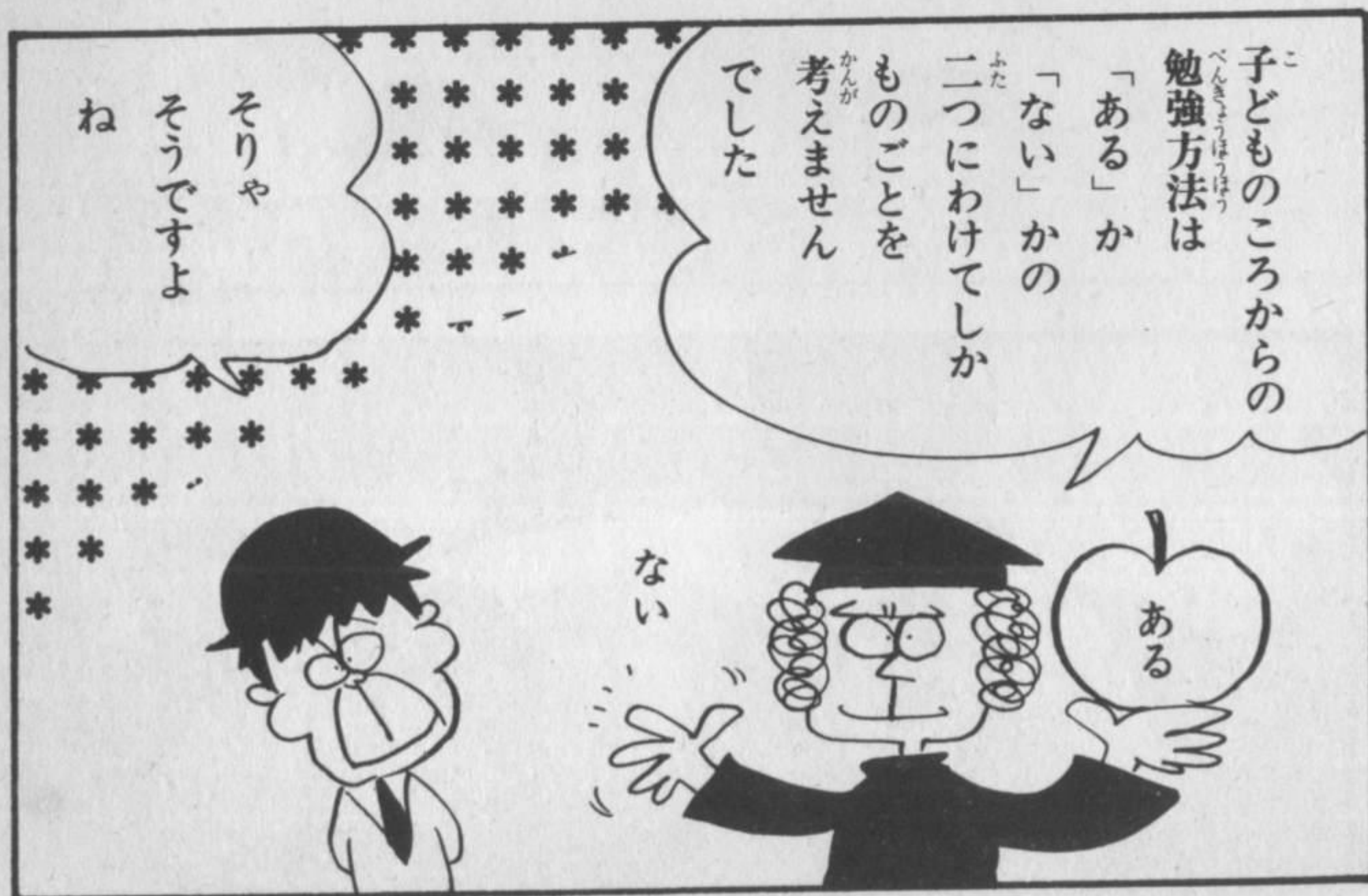
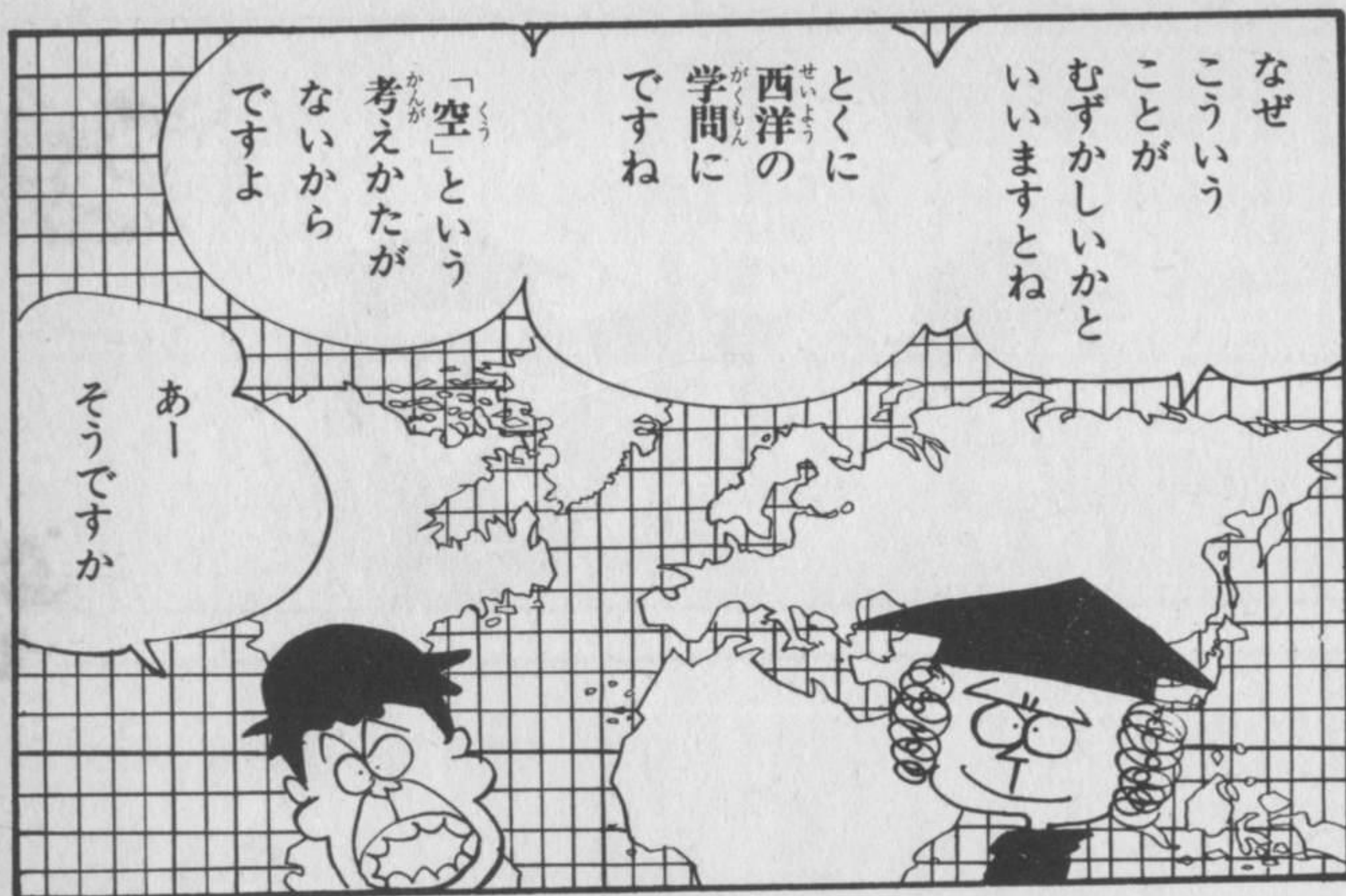


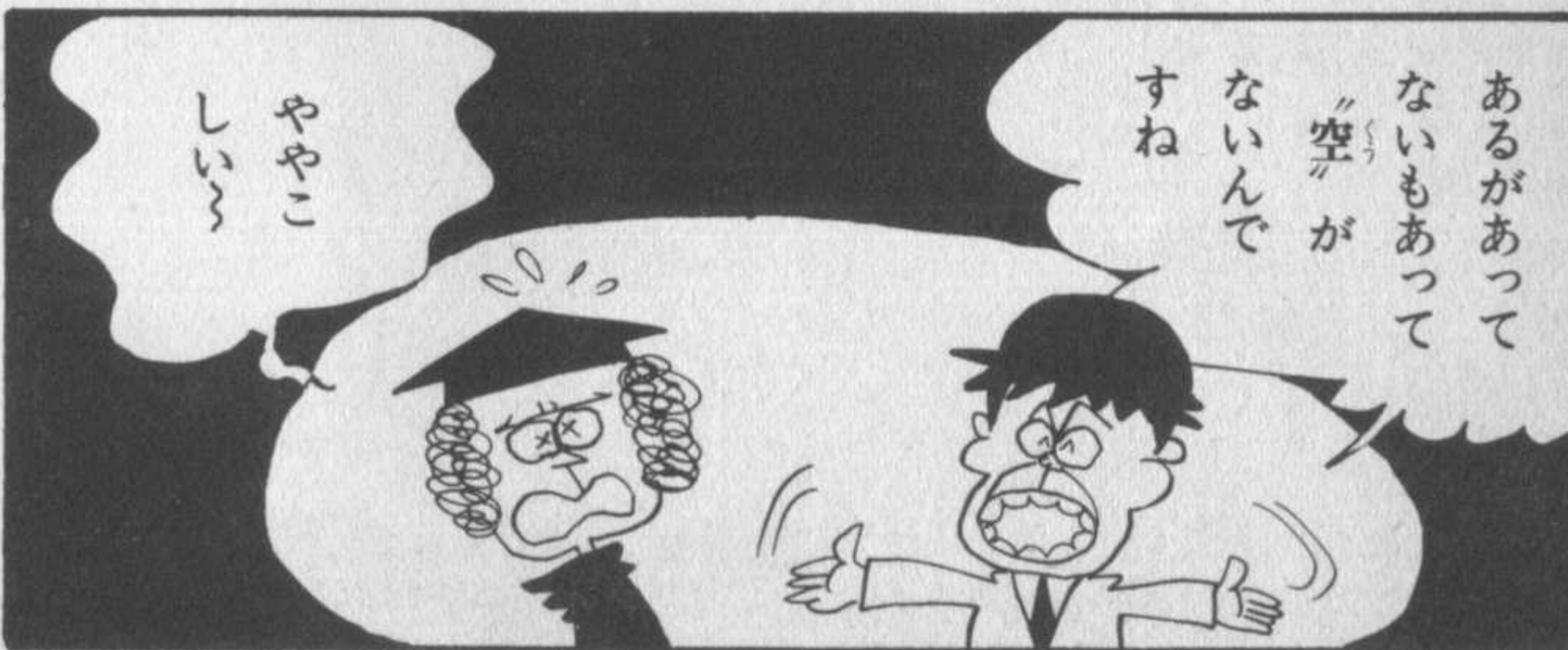










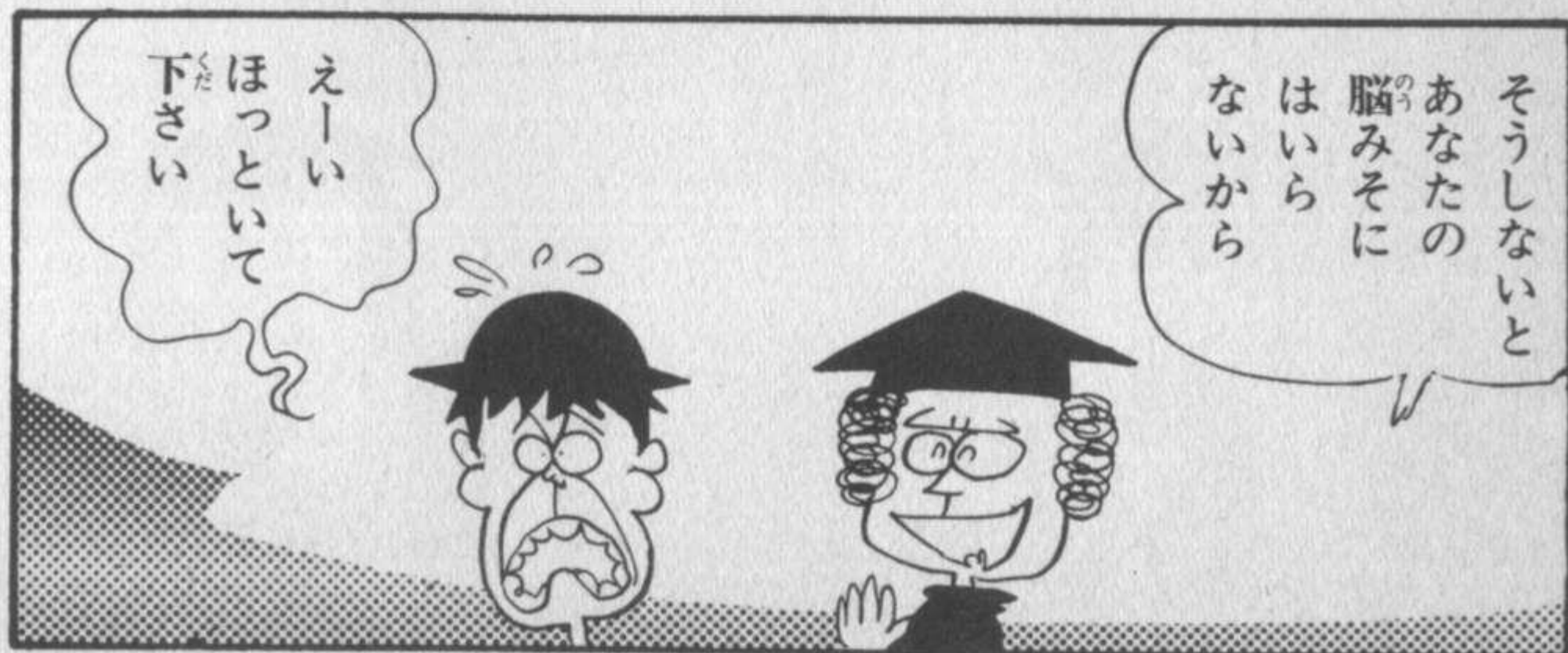
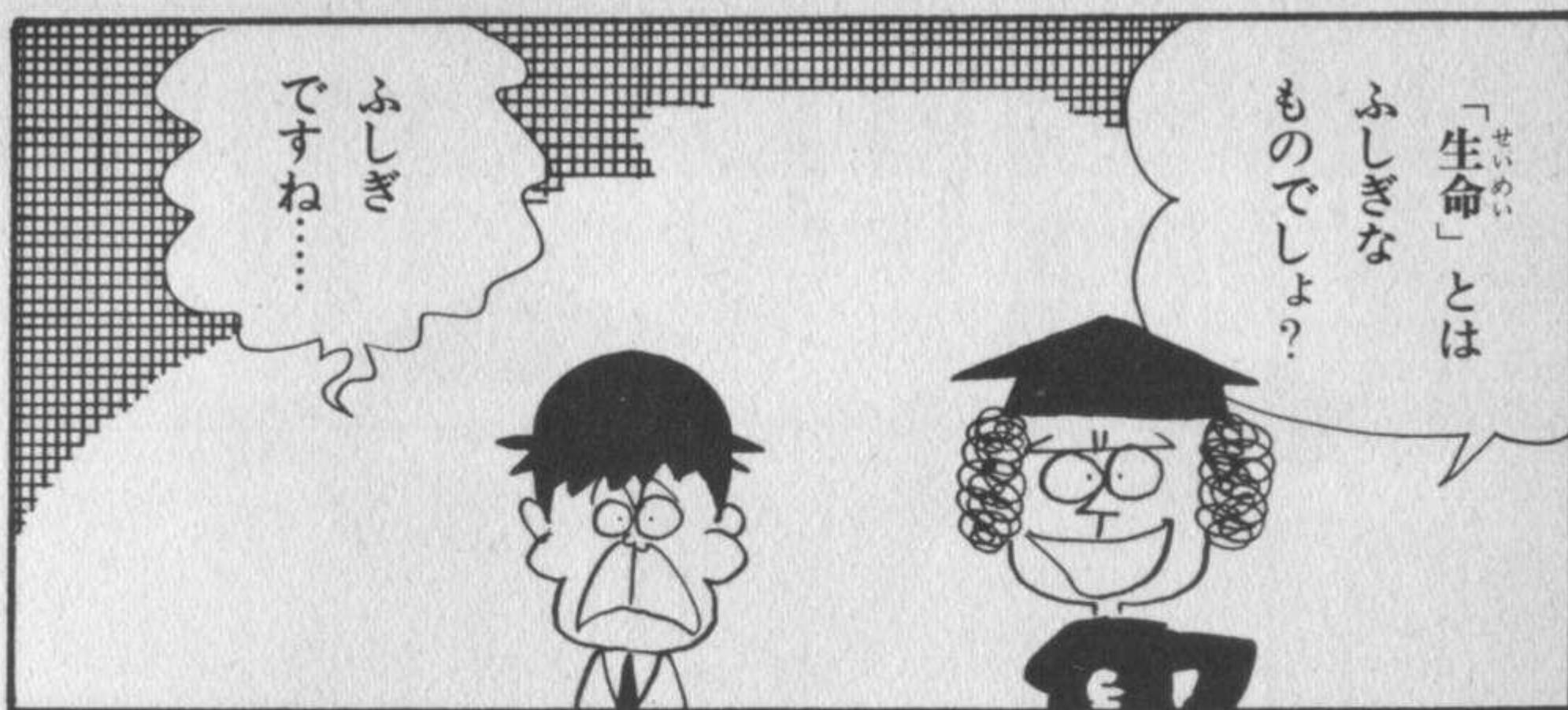


第4章 生死不二

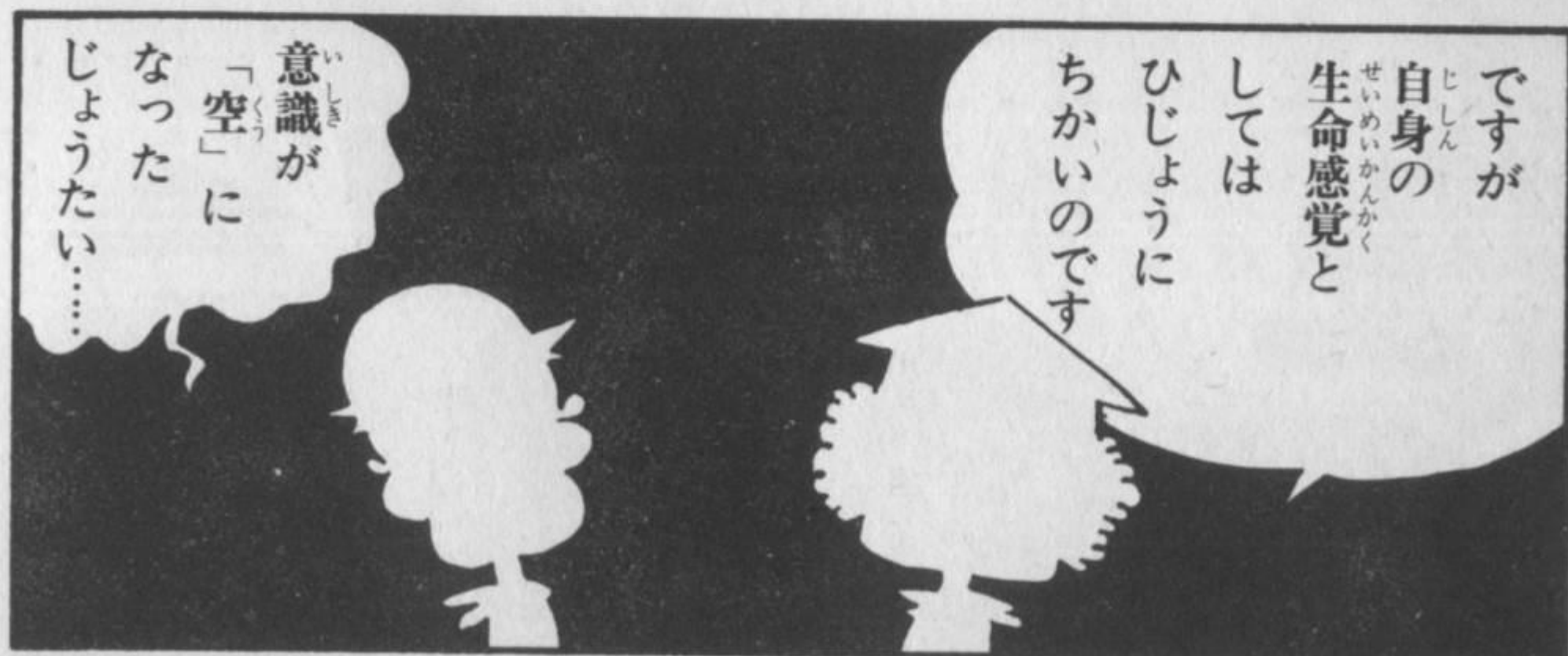


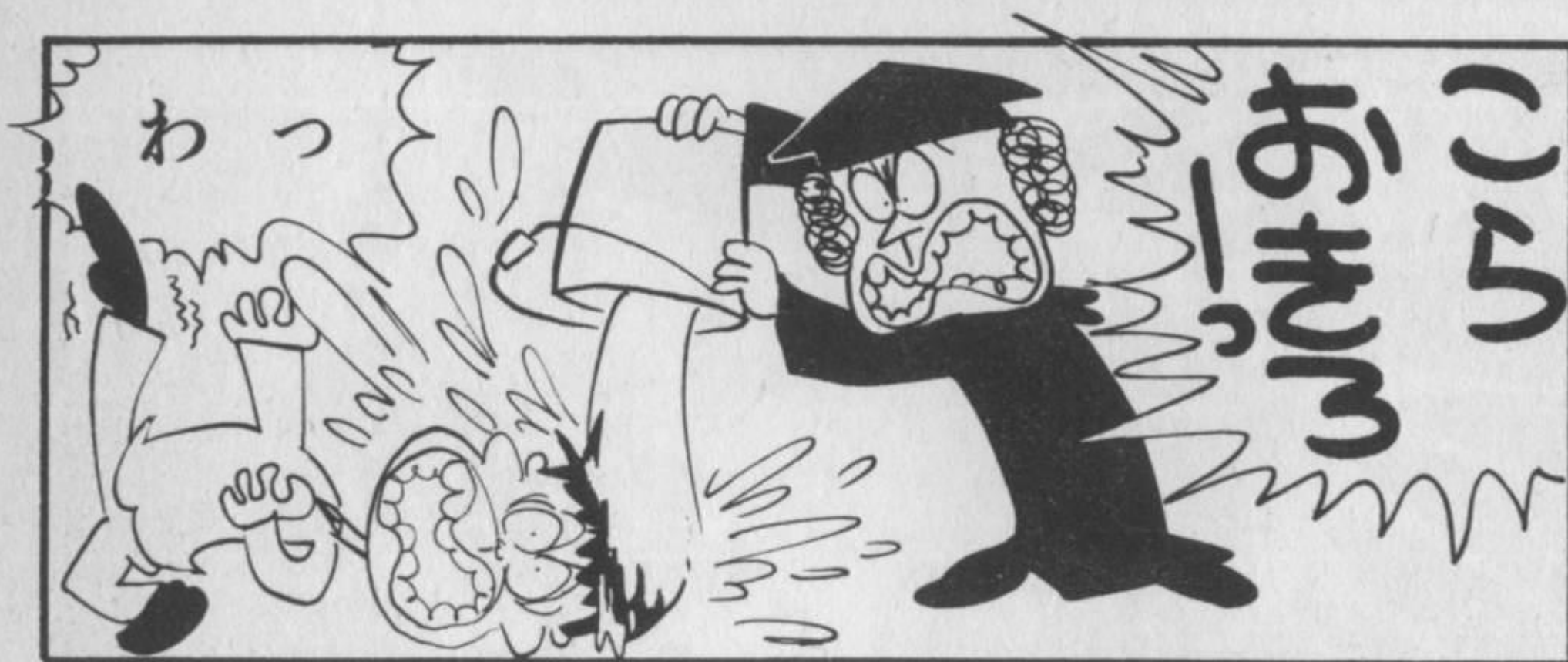
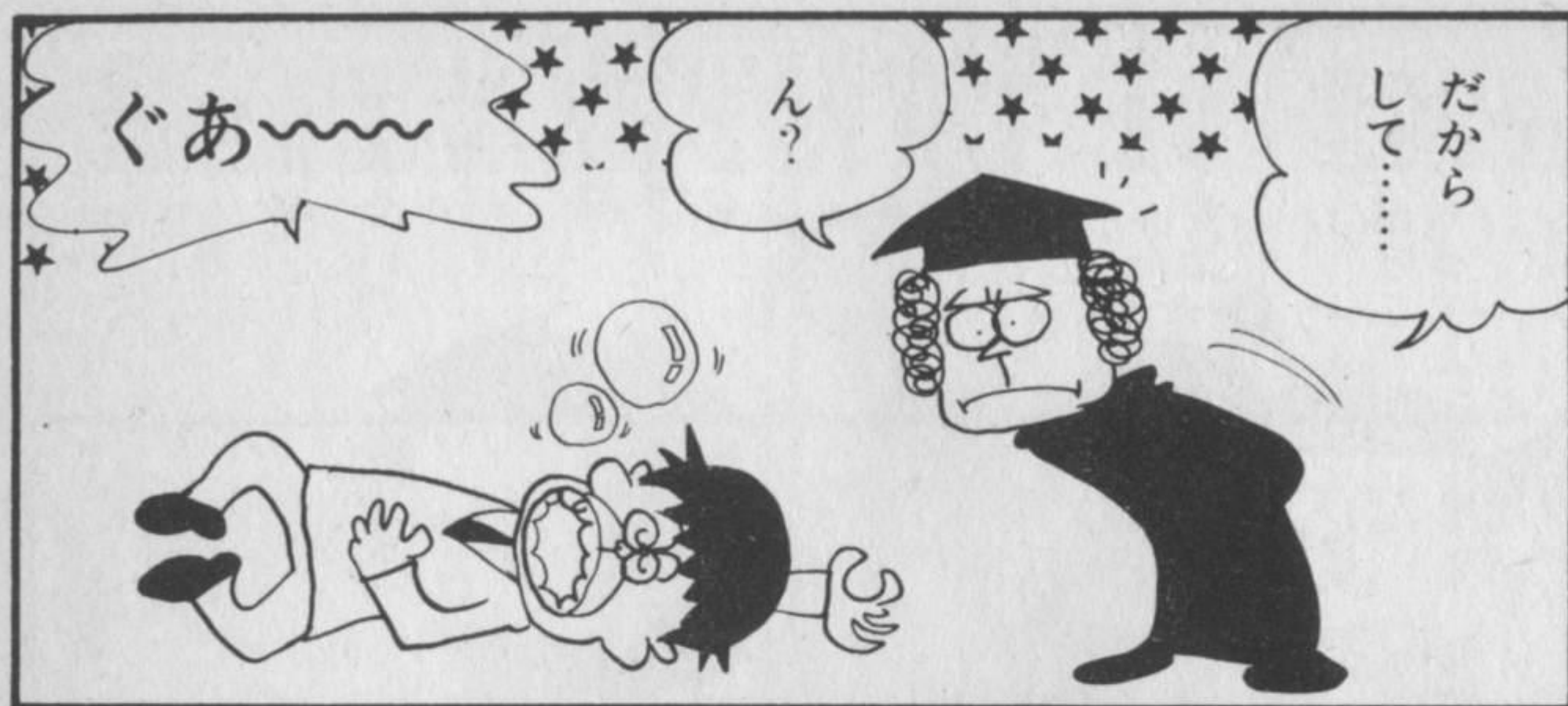












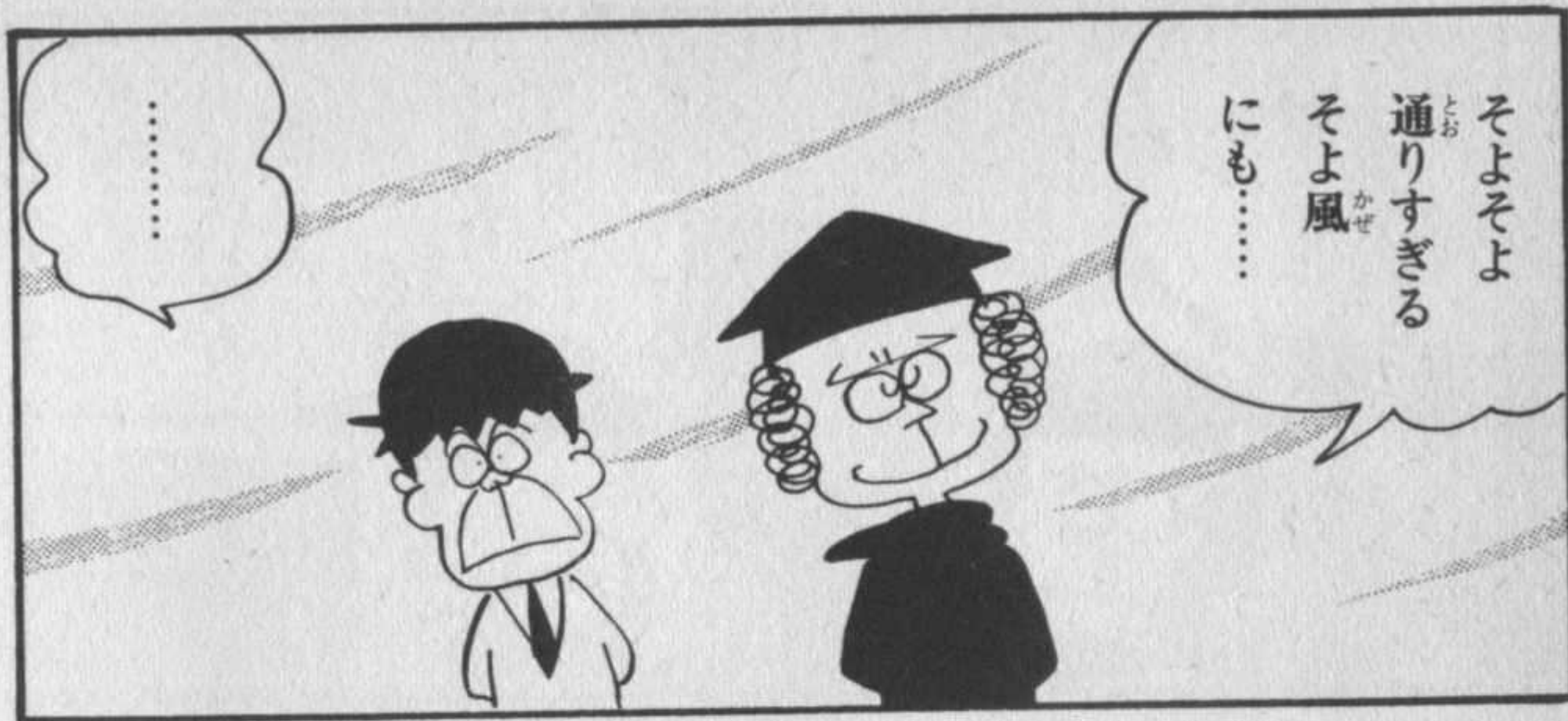






第4章 生死不二

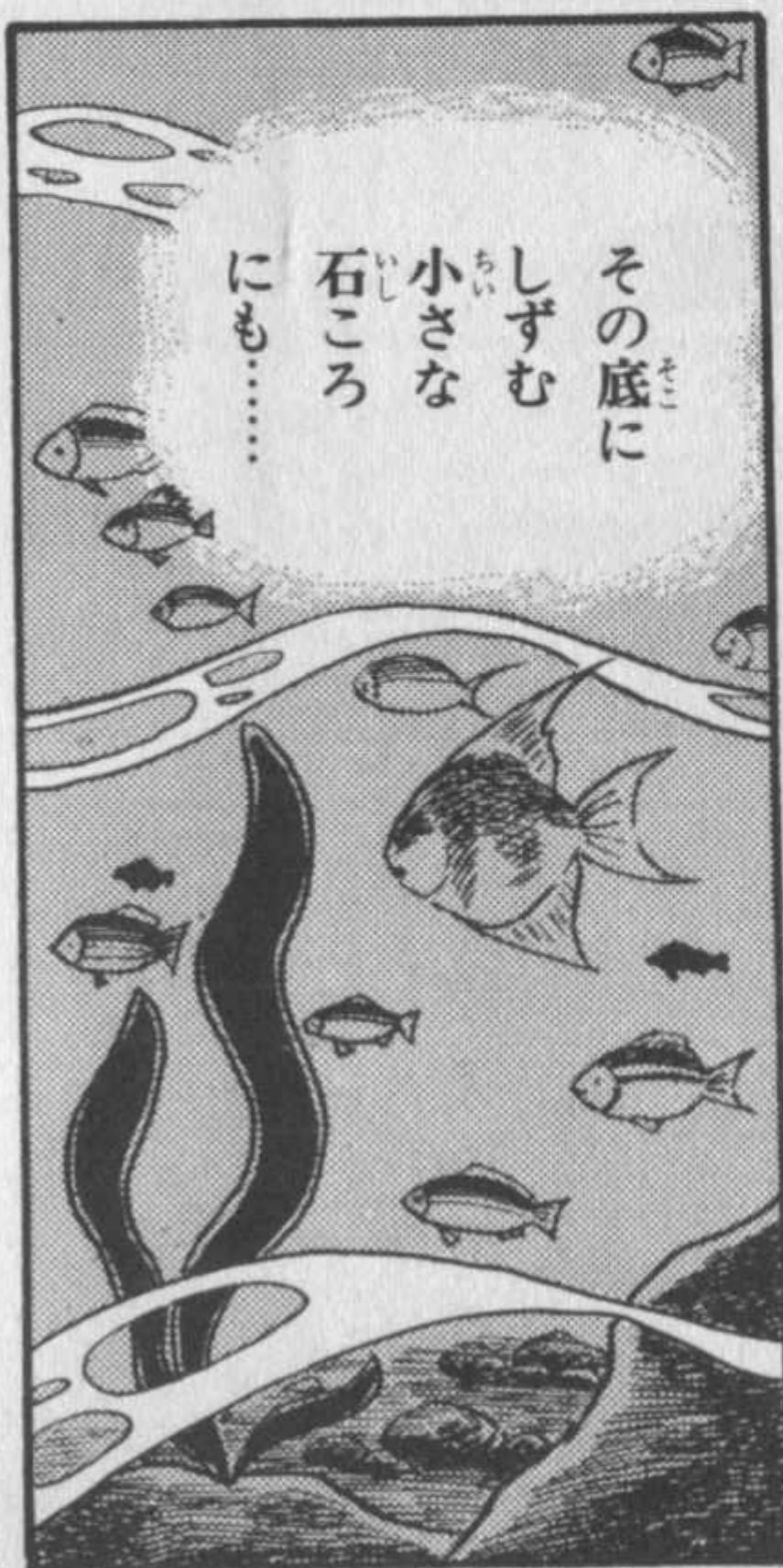




あれくるう
おおなばら
大海原
にも！



その底に
しずむ
小さな
石ころ
にも...



ふき上げる^あ
だいようがん
大溶岩の
なかにも

しゃくねつの
たいよう
太陽の
なかにも…







第5章

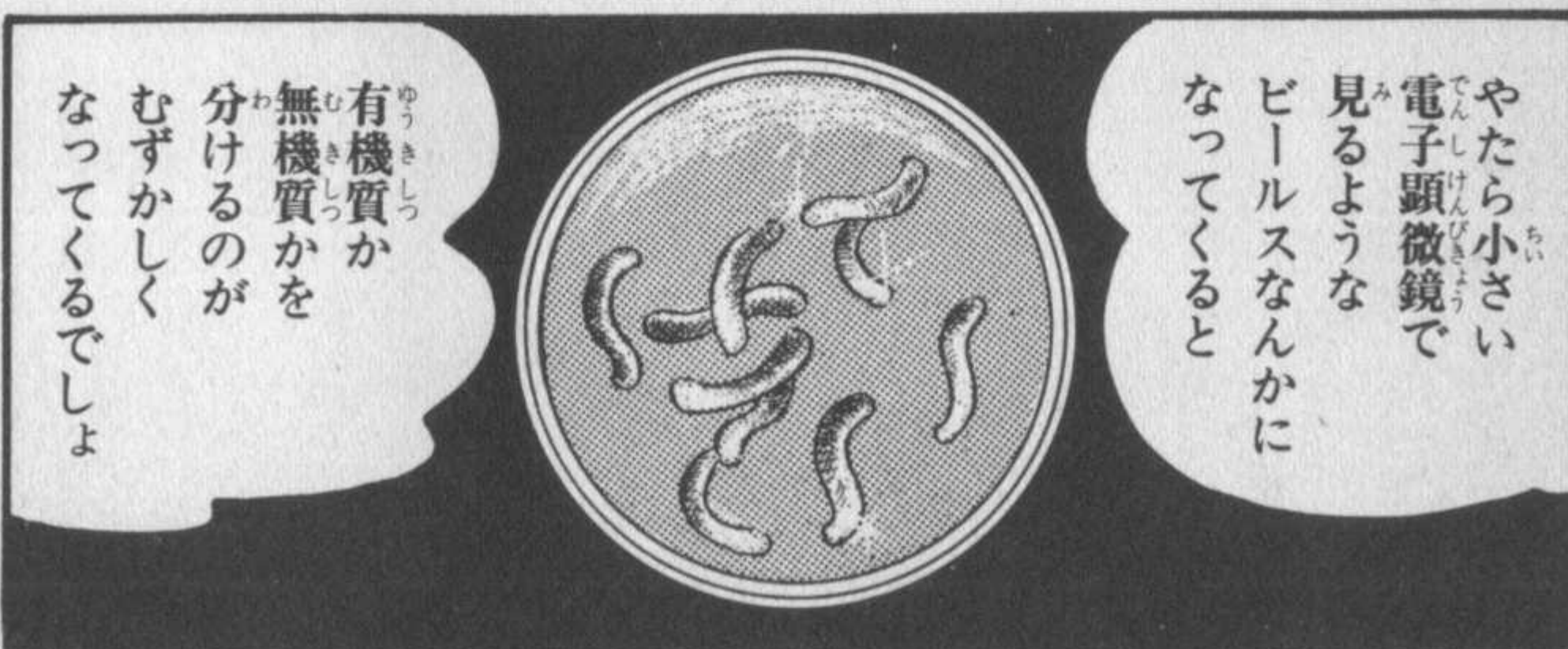
有情と非情





第5章 有情と非情







第5章 有情と非情





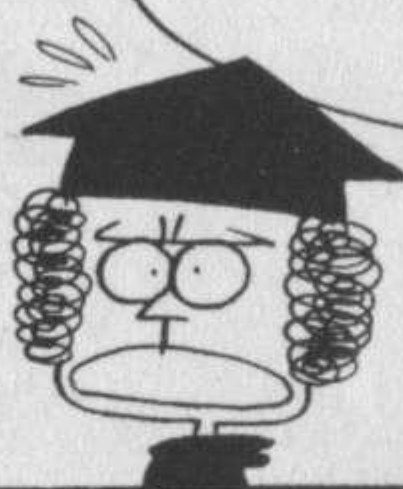
第5章 有情と非情



ここで
有情^{うじょう}
非情^{ひじょう}の
区別^{くべつ}を
はつきり
させて
おきます

私^{わたし}と
石^{いし}つころの
関係^{かんけい}
ですね

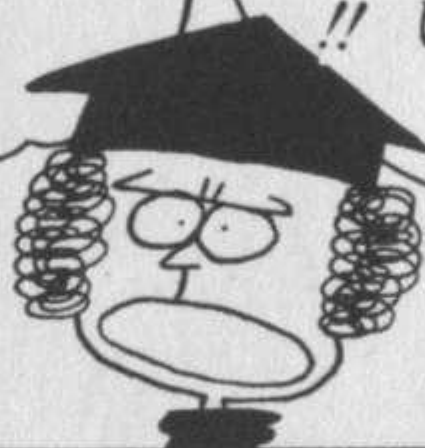
まだ
いって
る
よ……



科学^{かがく}者が
なやんだ
ビールスや
なんかは
ひつくるめて
非情^{ひじょう}の
はんちゆうに
はいります!!

ああいった
ものは
思考^{しこう}感情^{かんじ}を
もたない
からです

なるほど



と、すれば
この
草^{くさ}や木^きや
花^{はな}は……

これも
ぜんぶ
非情^{ひじょう}に
なるわけ
ですね

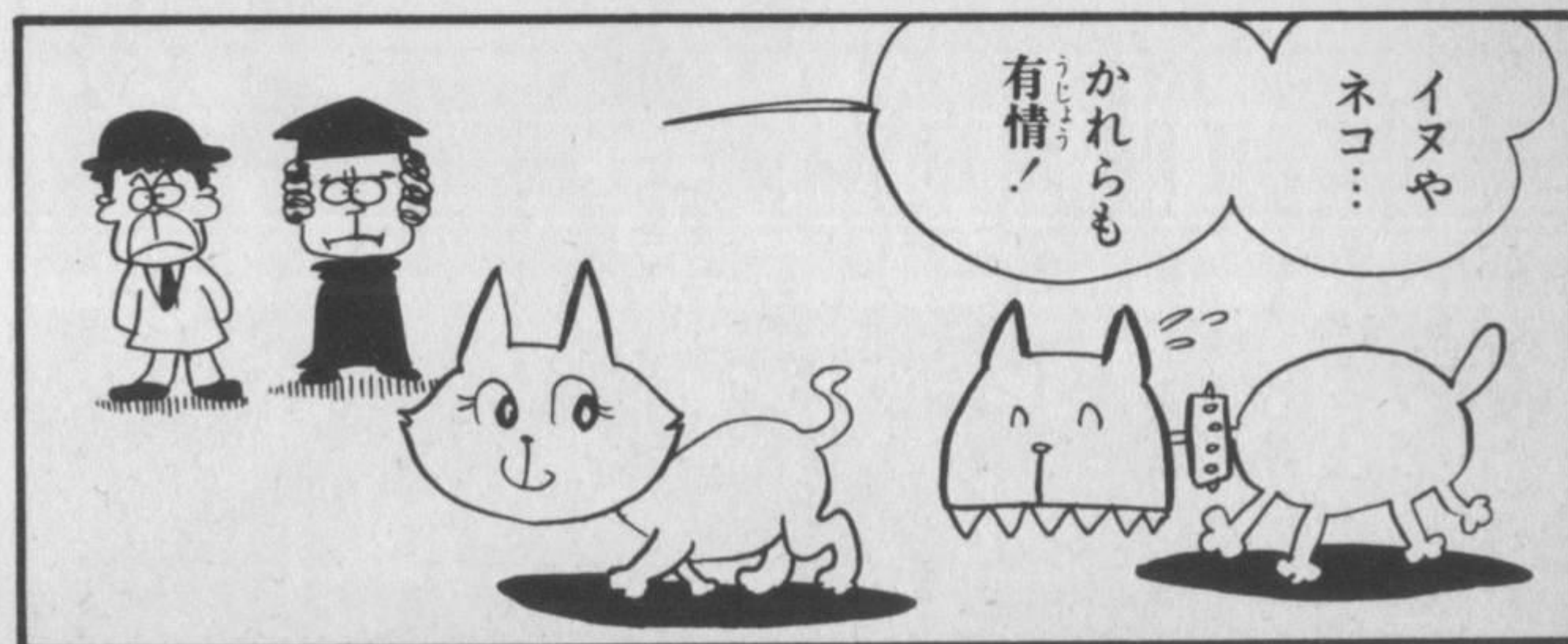


第5章 有情と非情







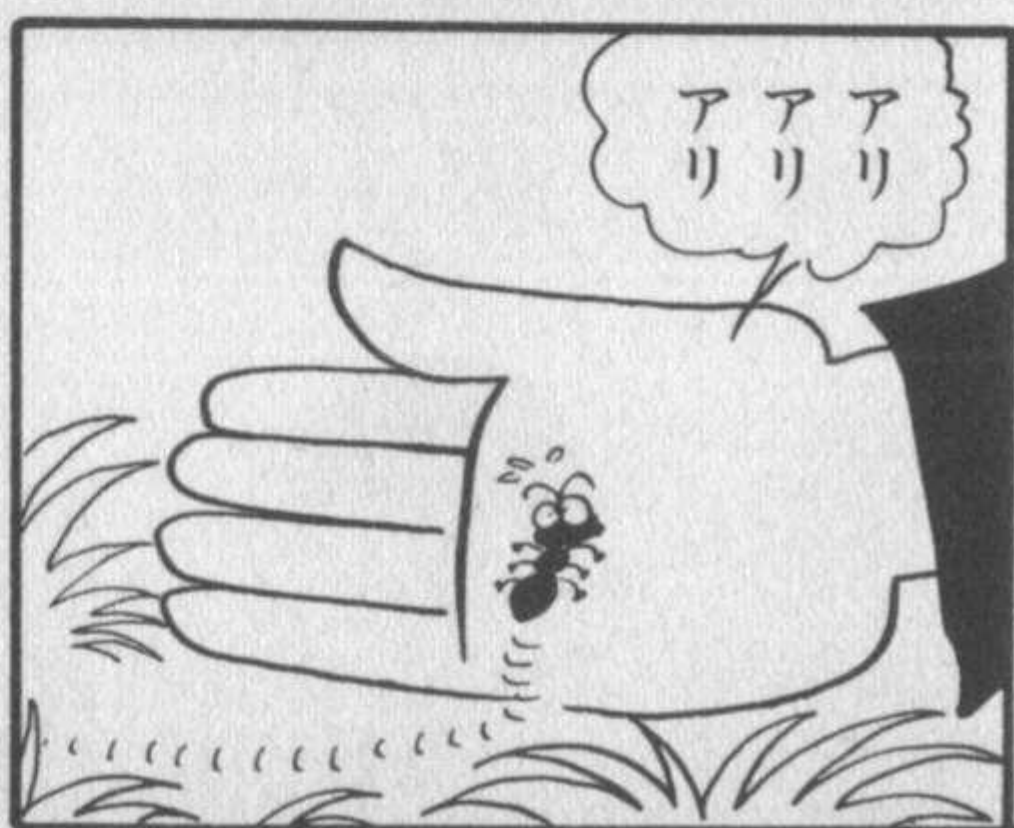
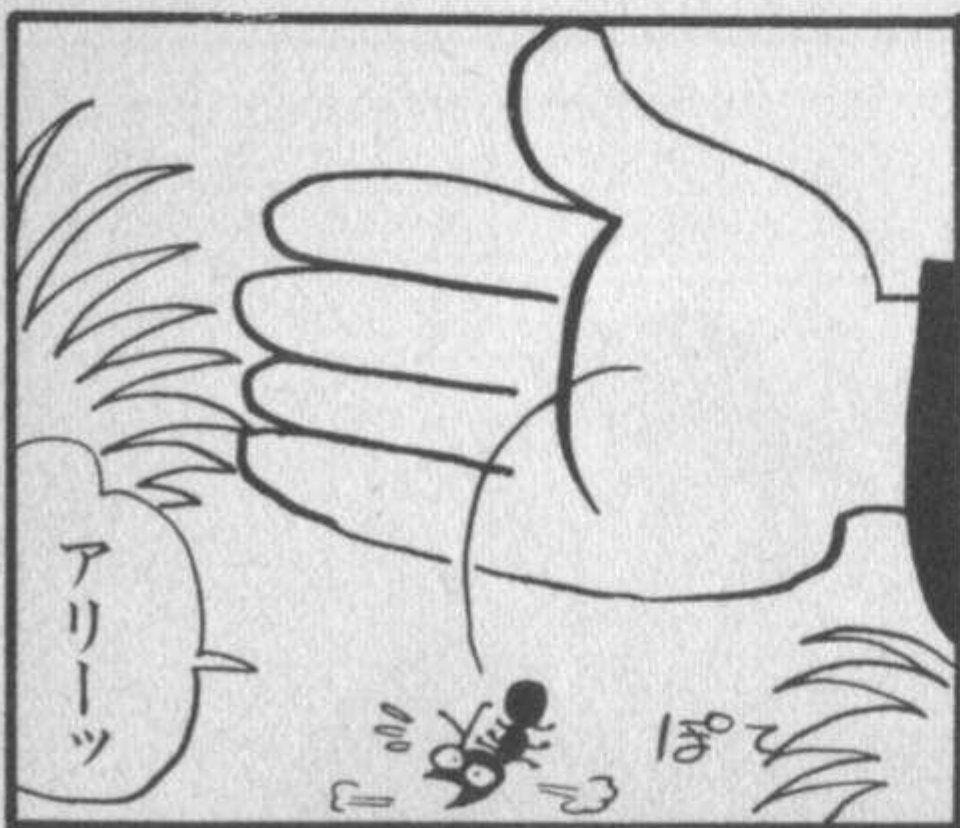
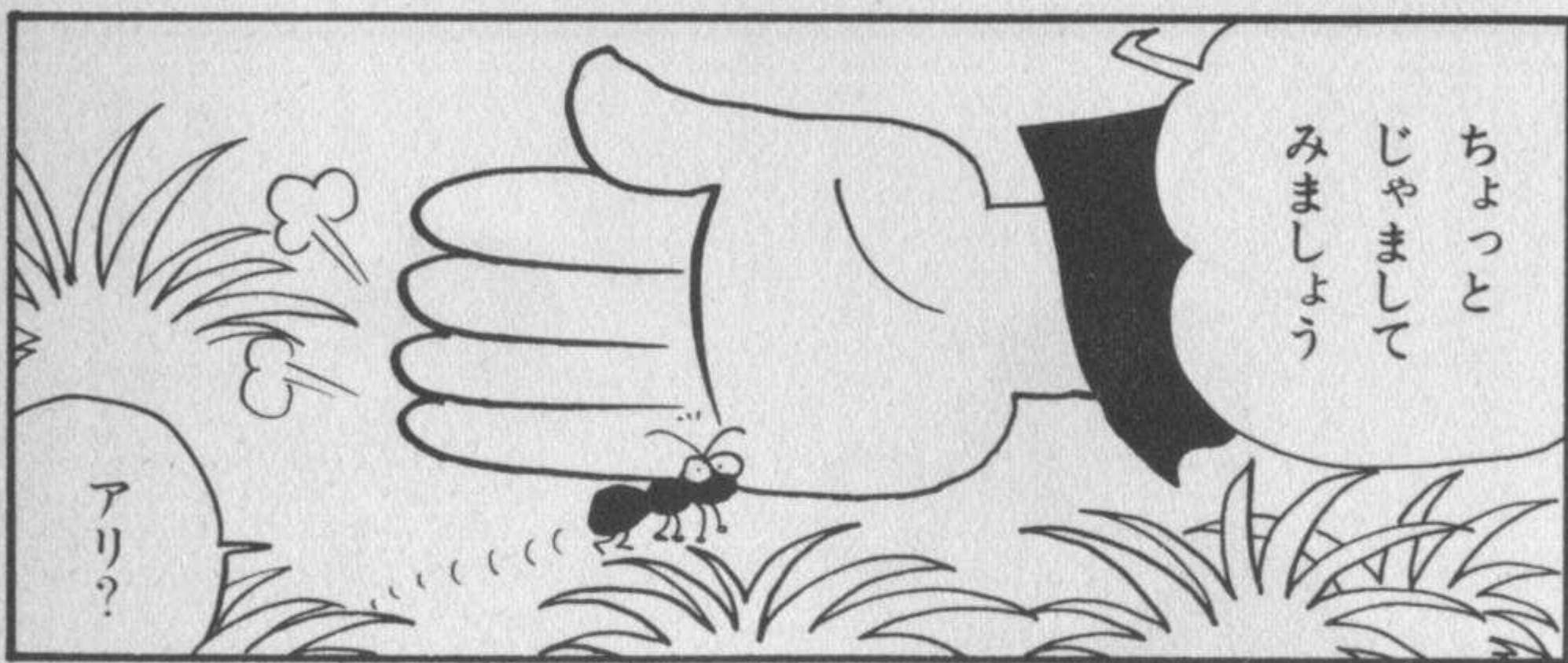


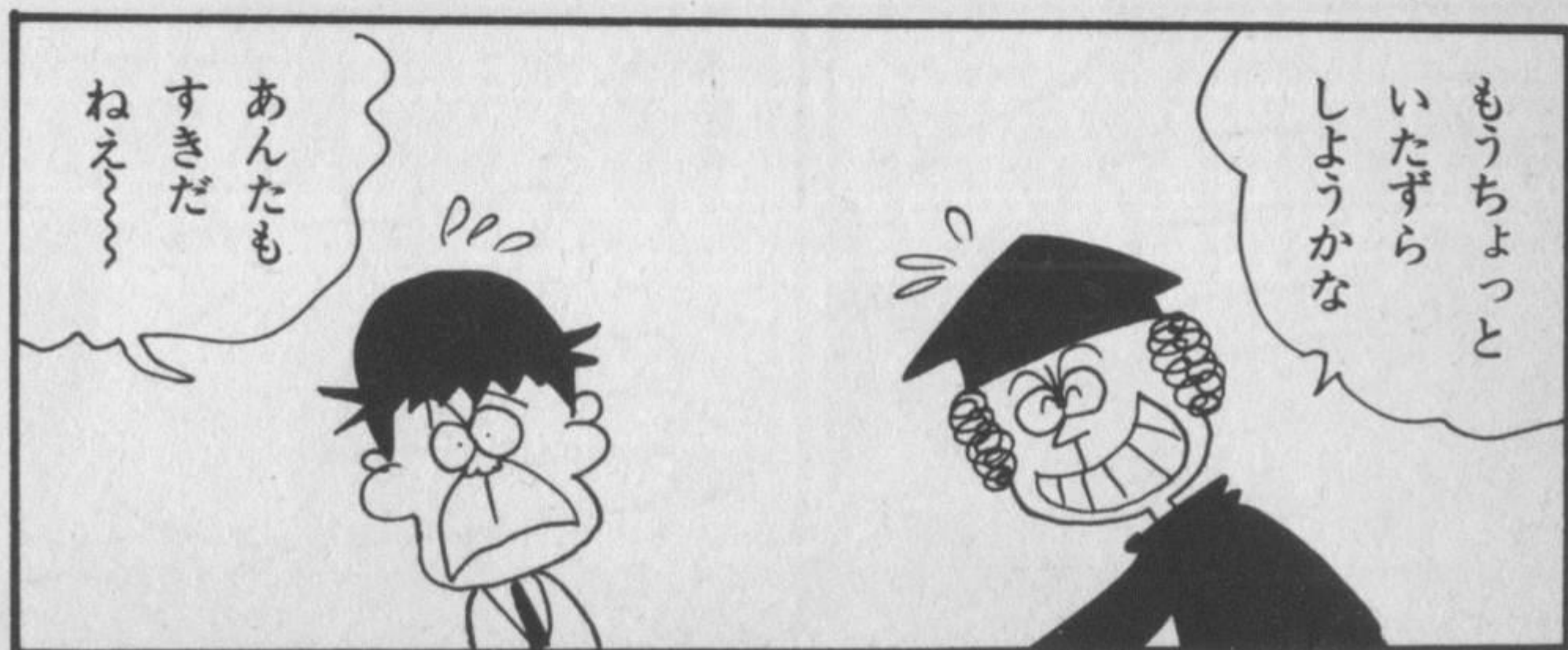
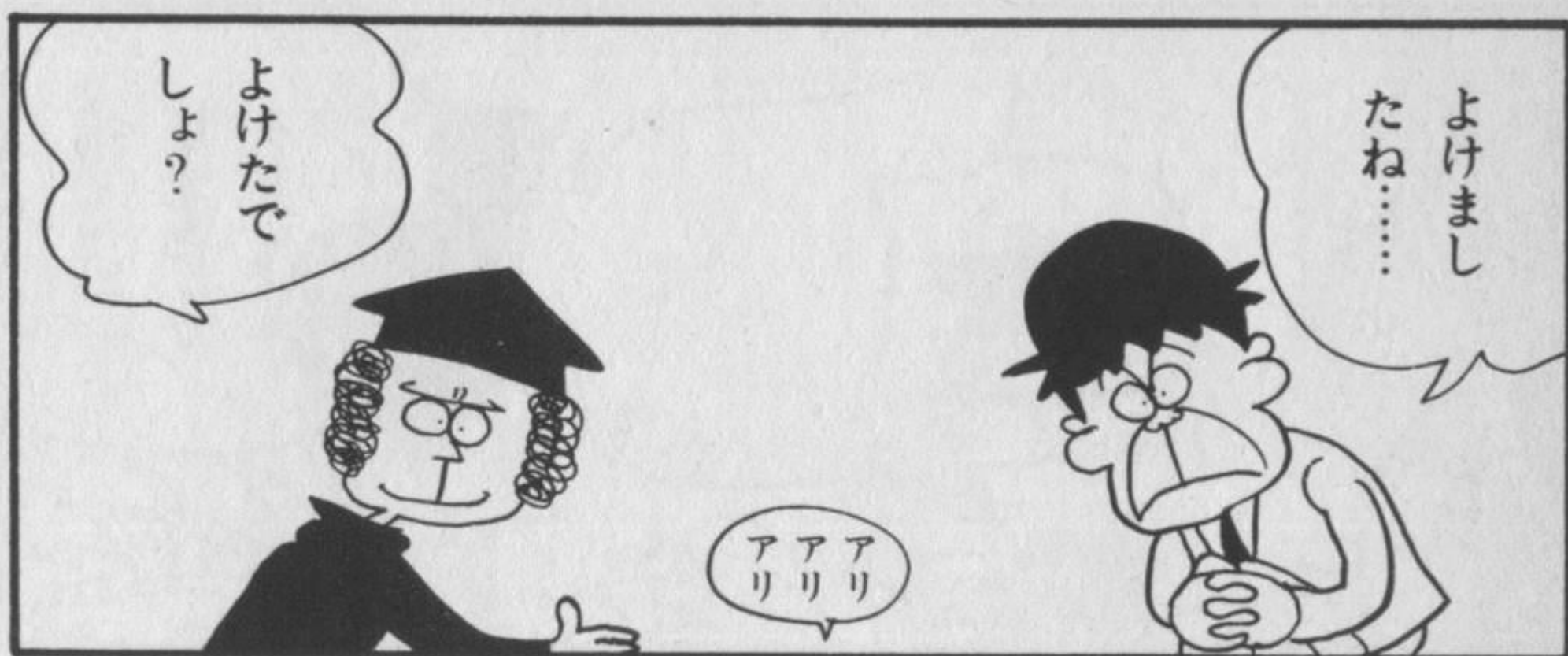
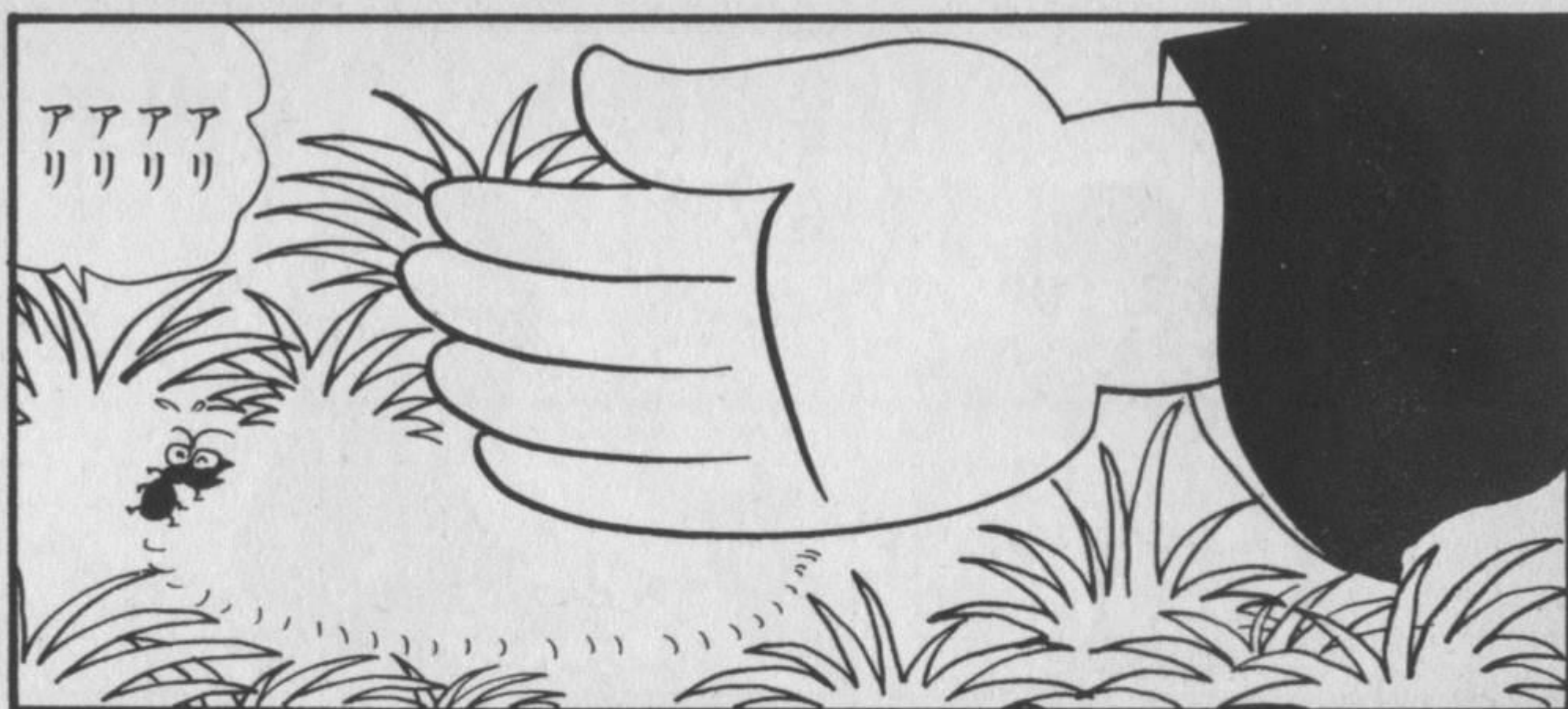
第5章 有情と非情



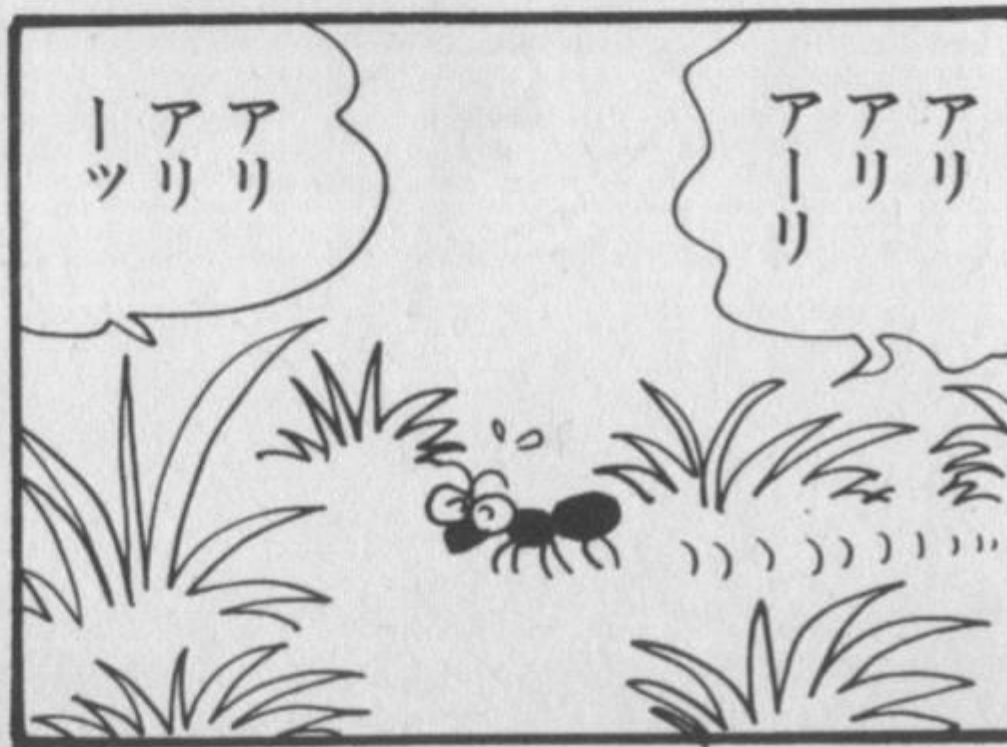
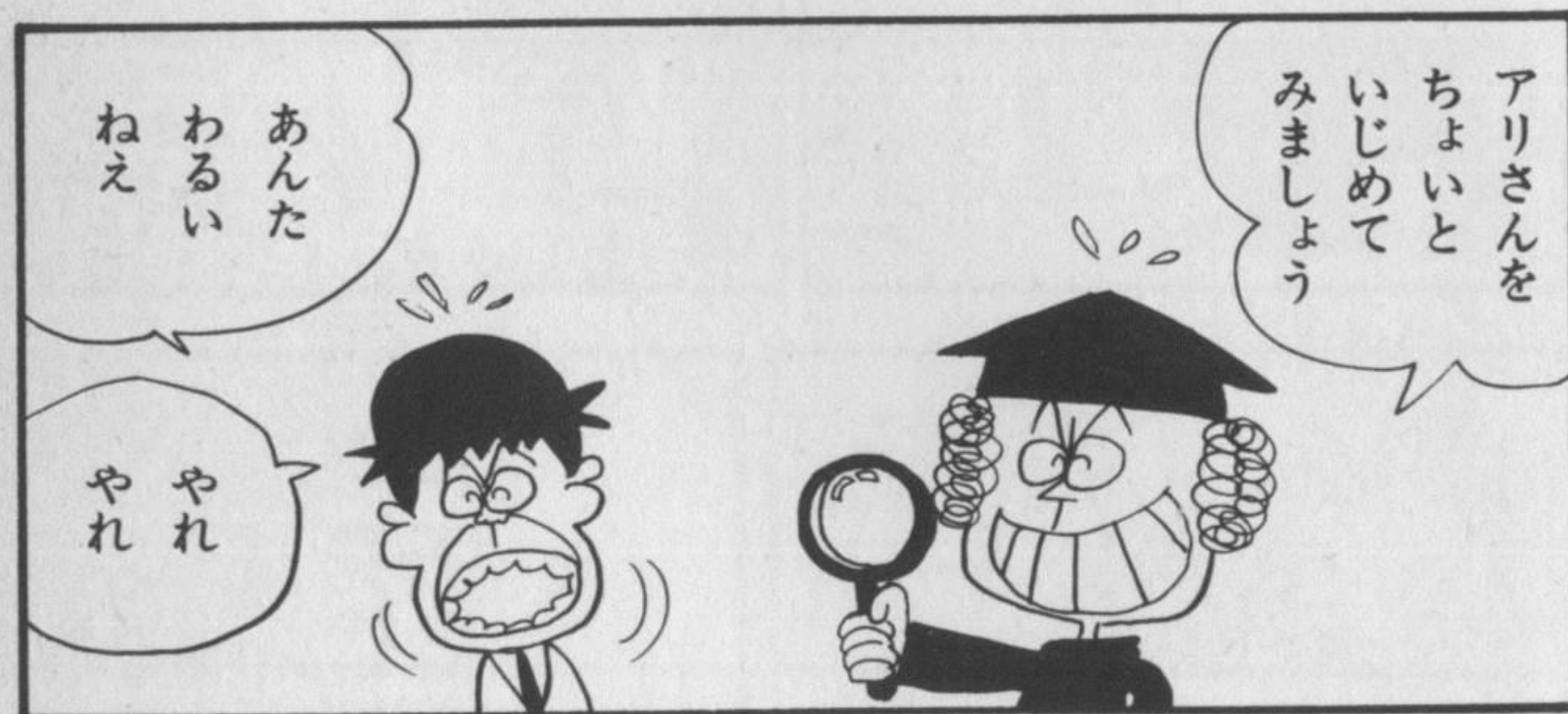
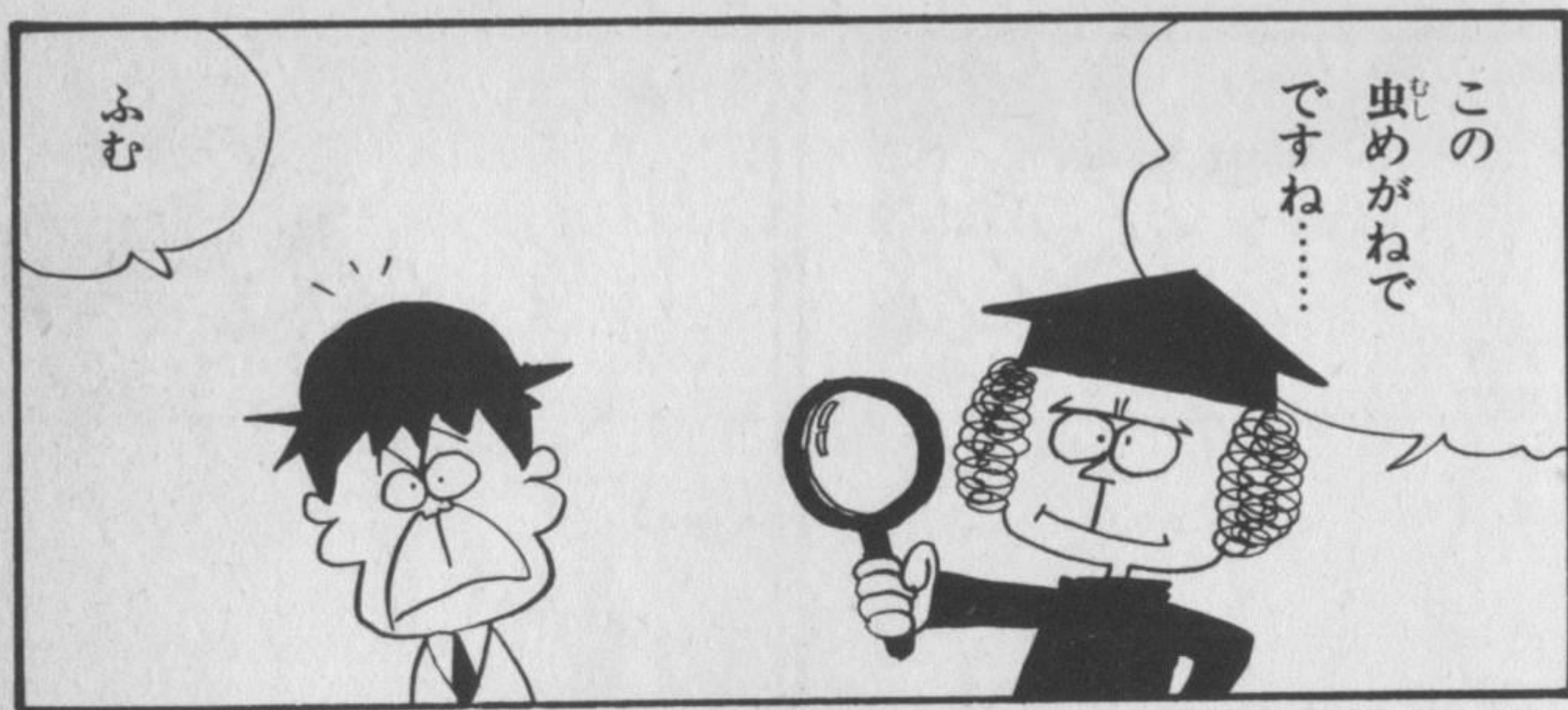


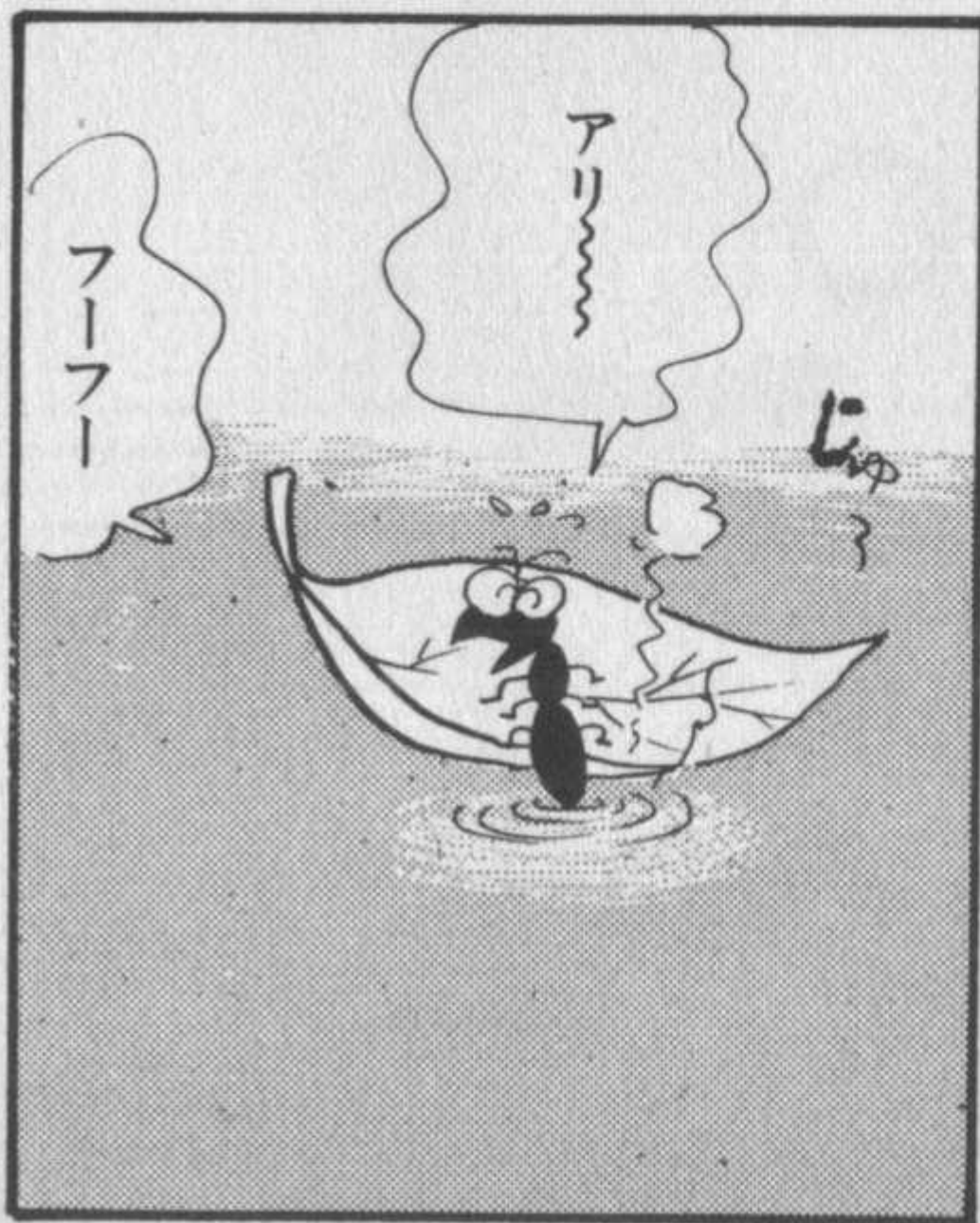
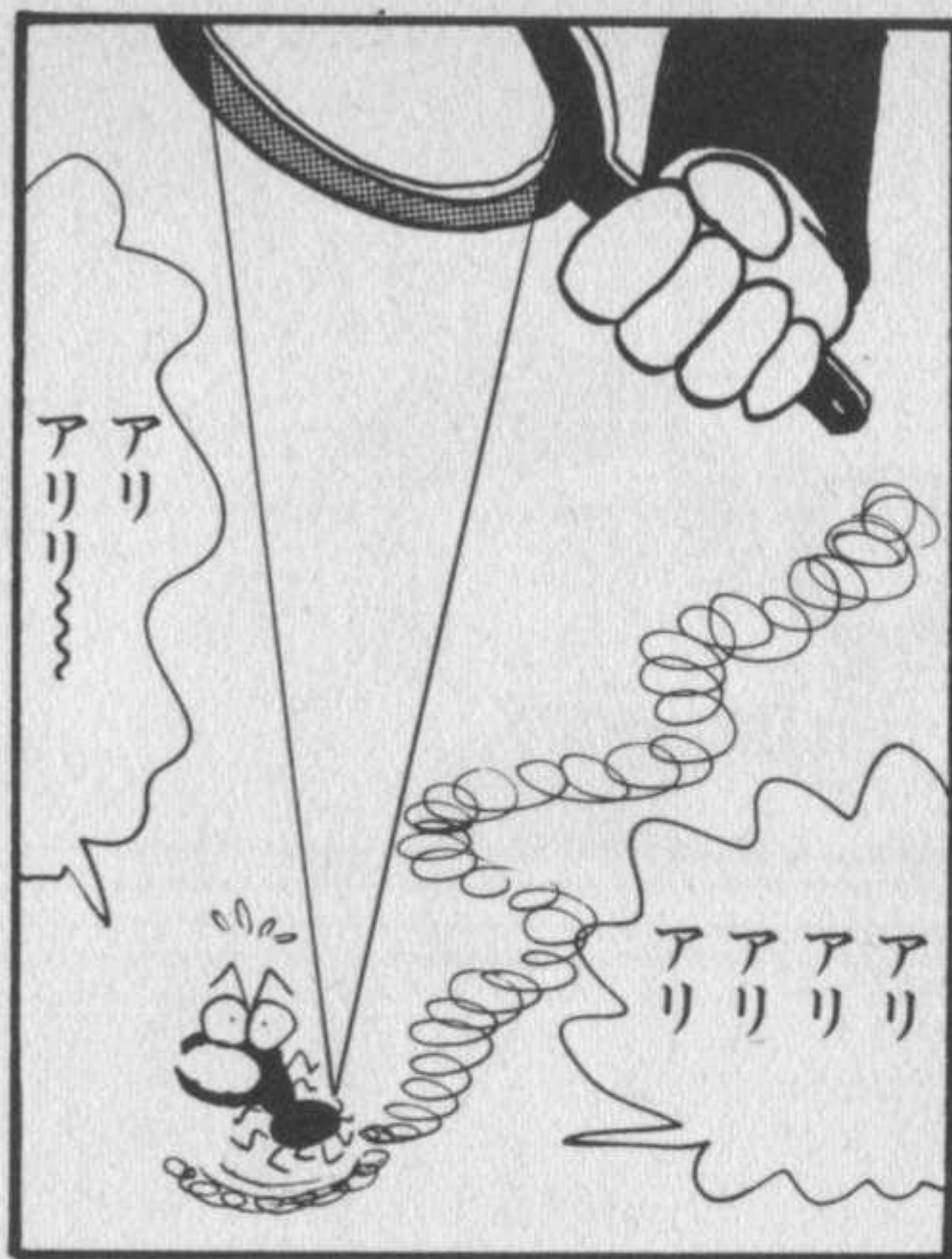
第5章 有情と非情



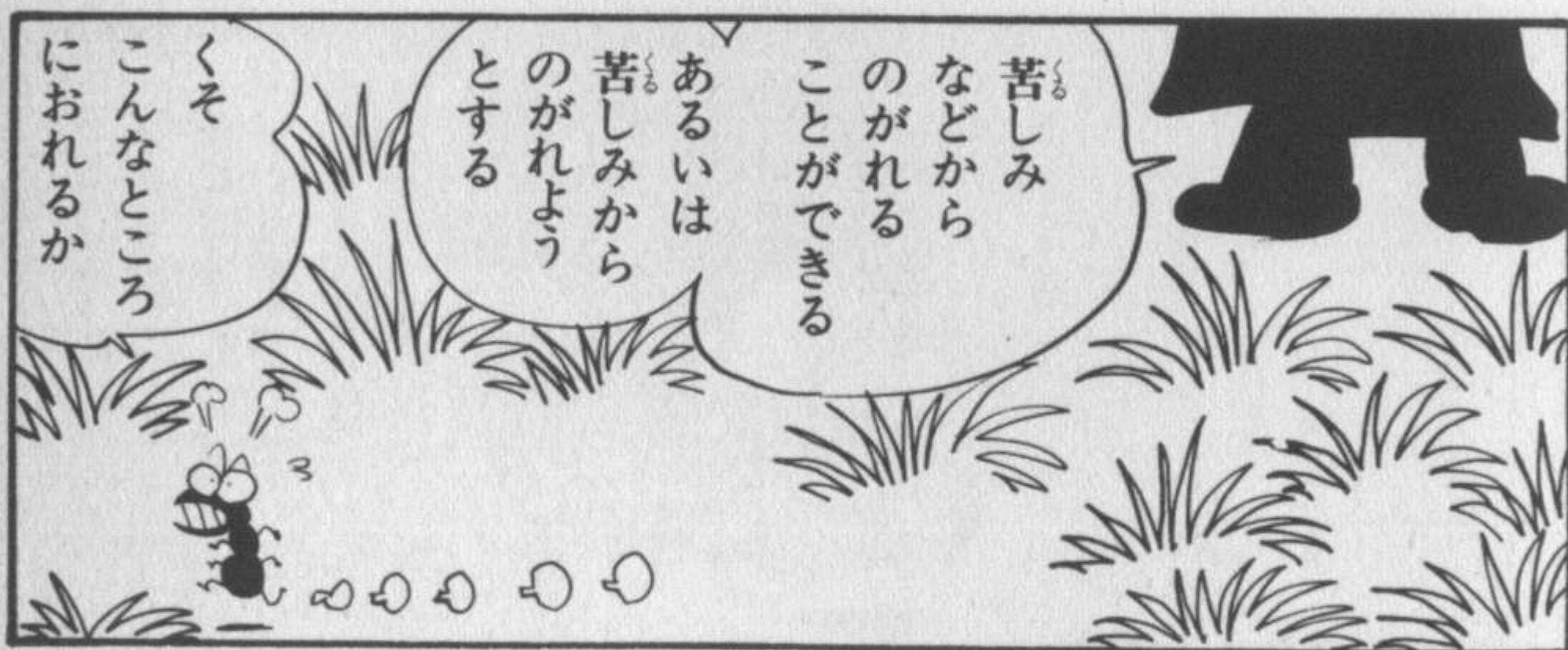


第5章 有情と非情

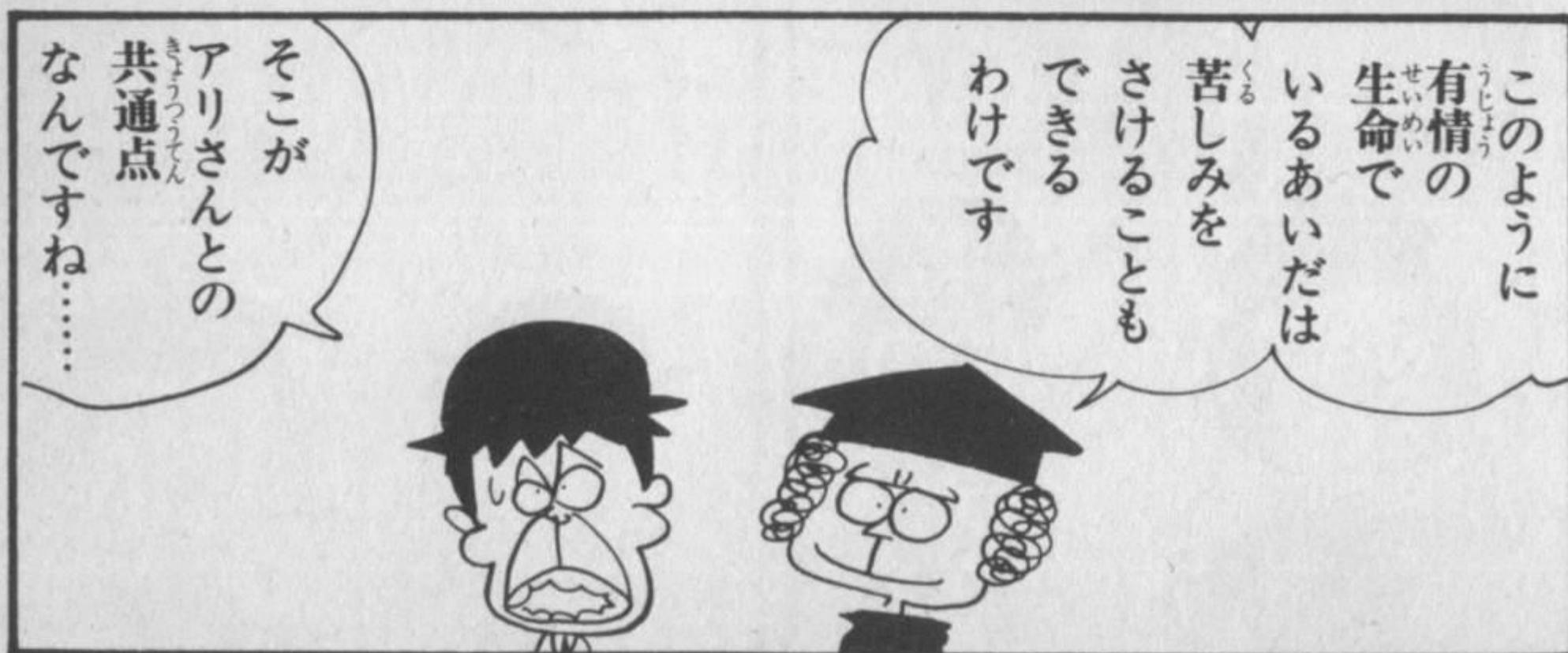




第5章 有情と非情





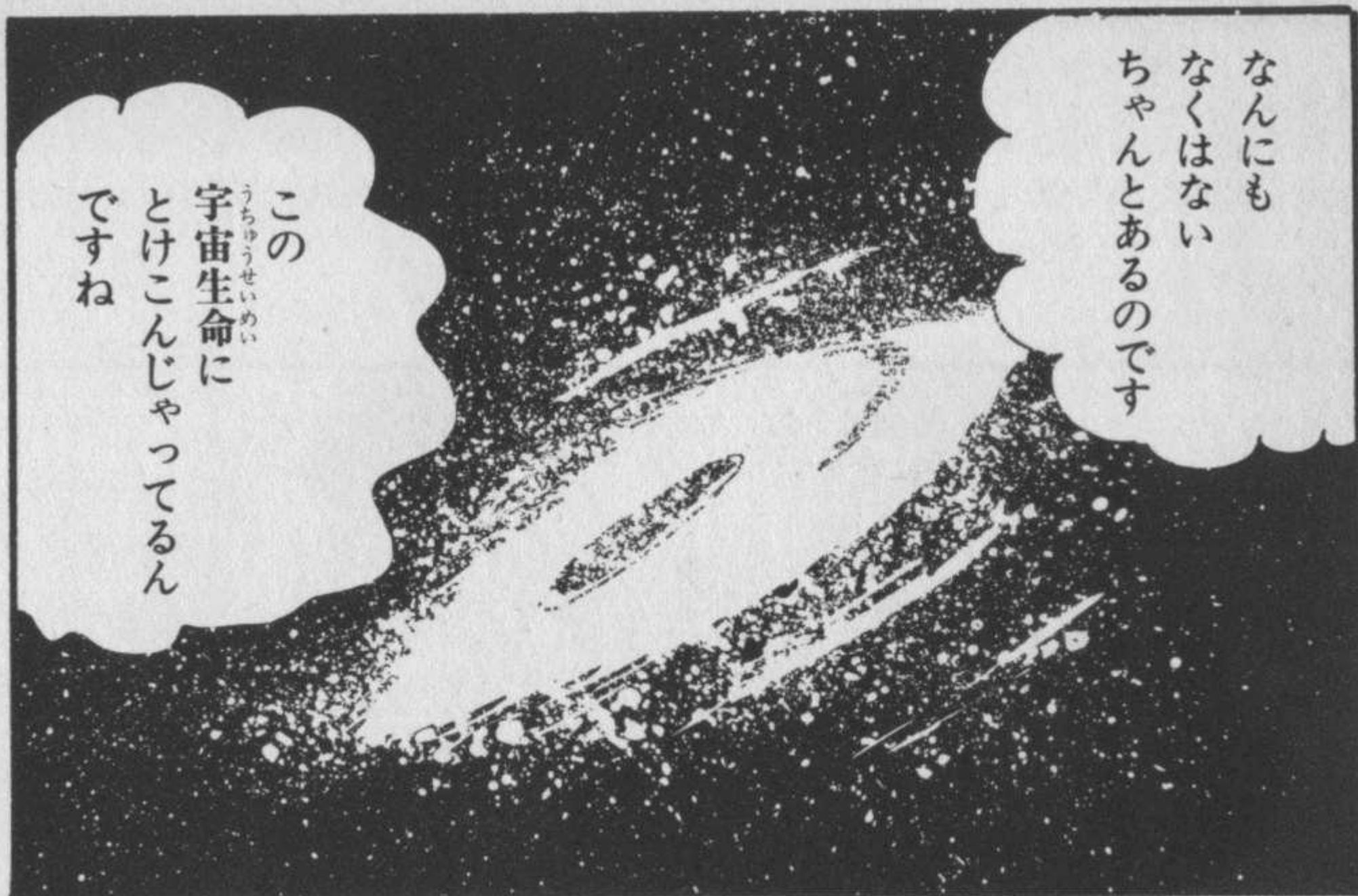




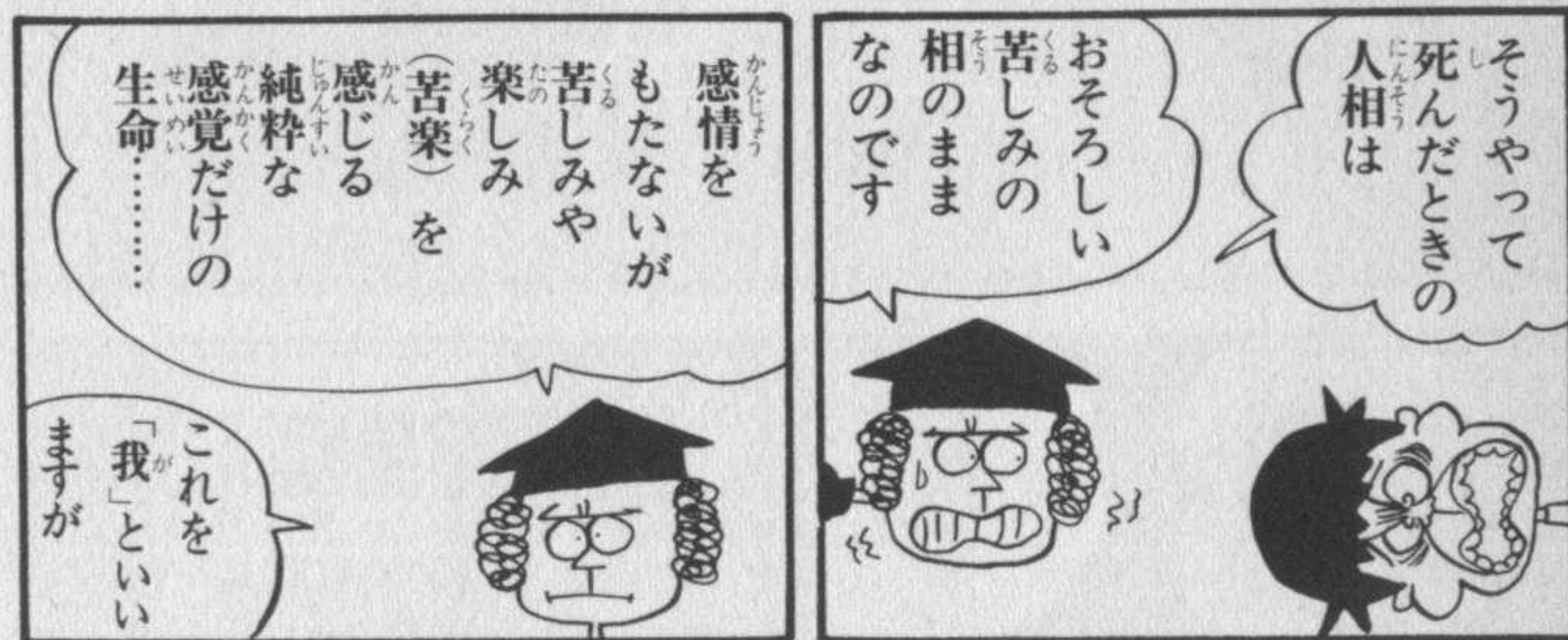
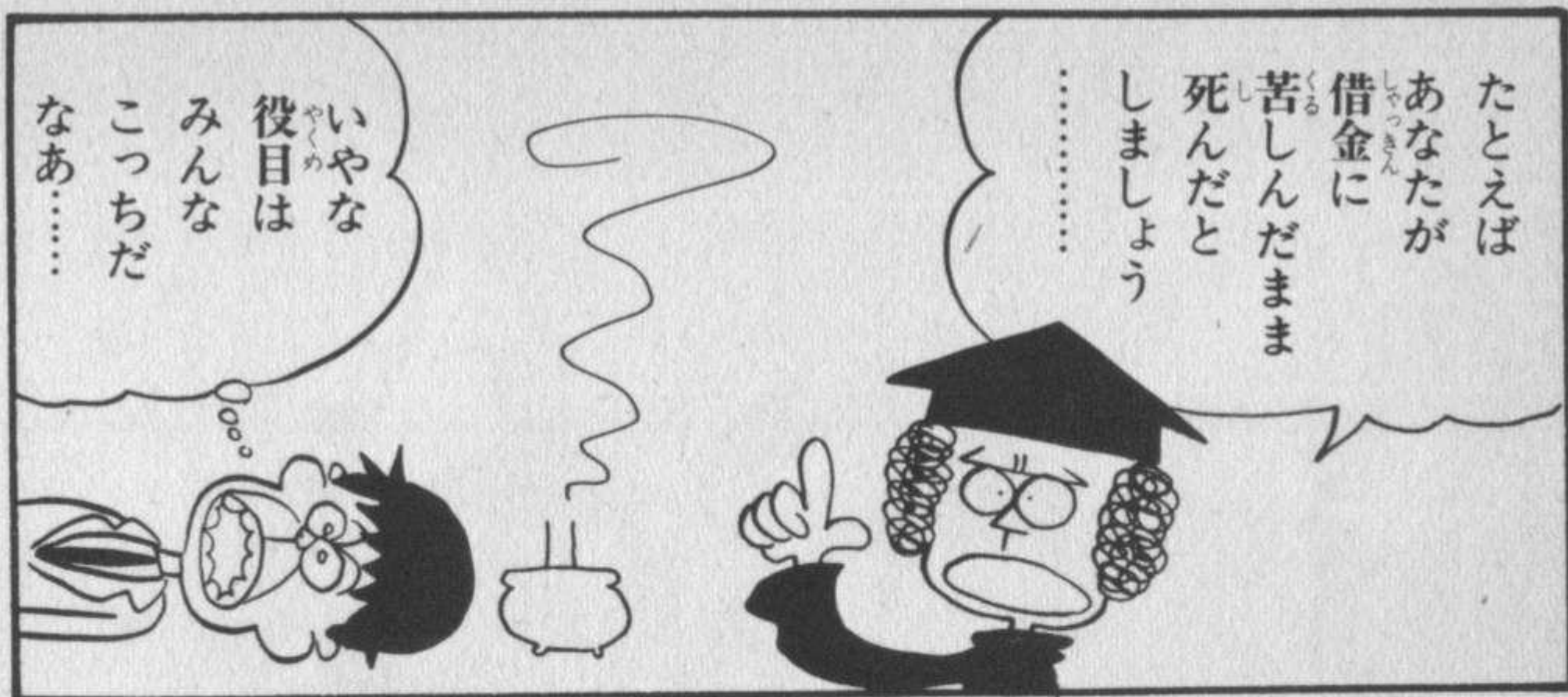
空^{くう}

自分^{じぶん}じゃ
わからないから
これで
いいんですっ

なんにも
ないじゃ
ありま
せんか!!







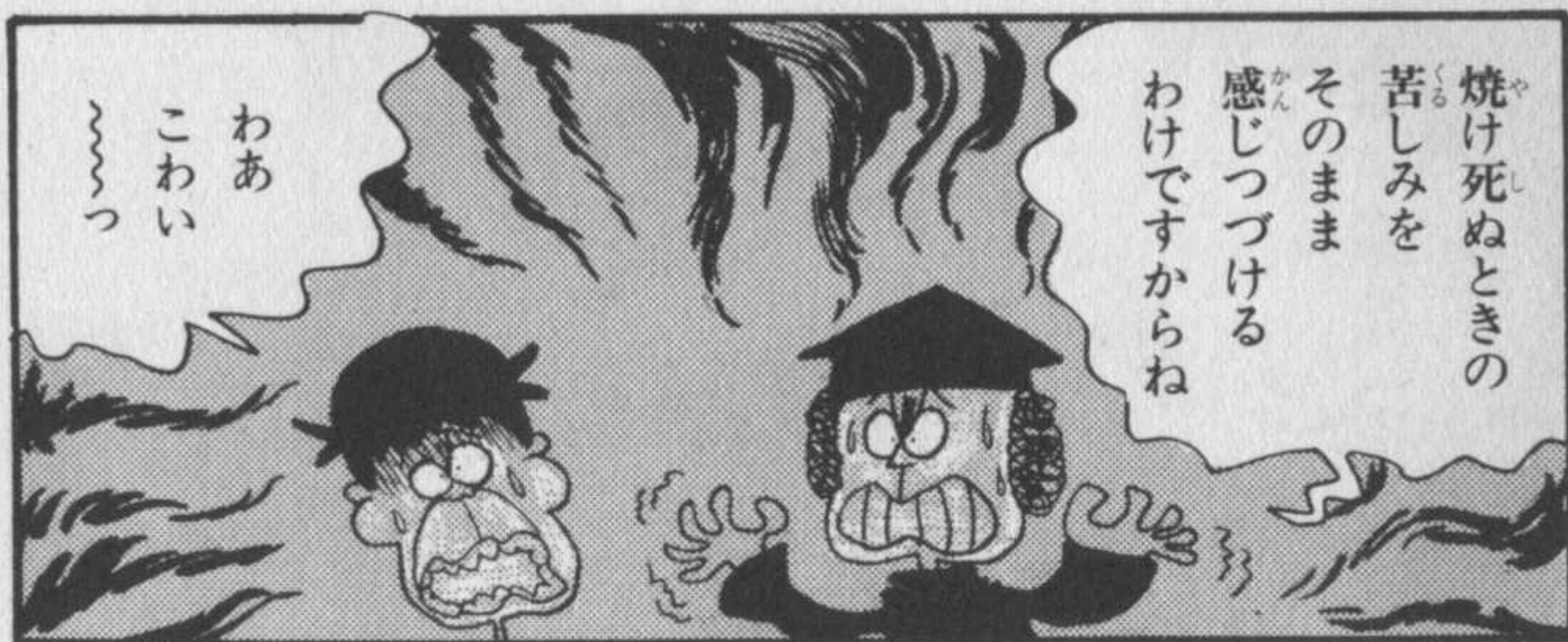
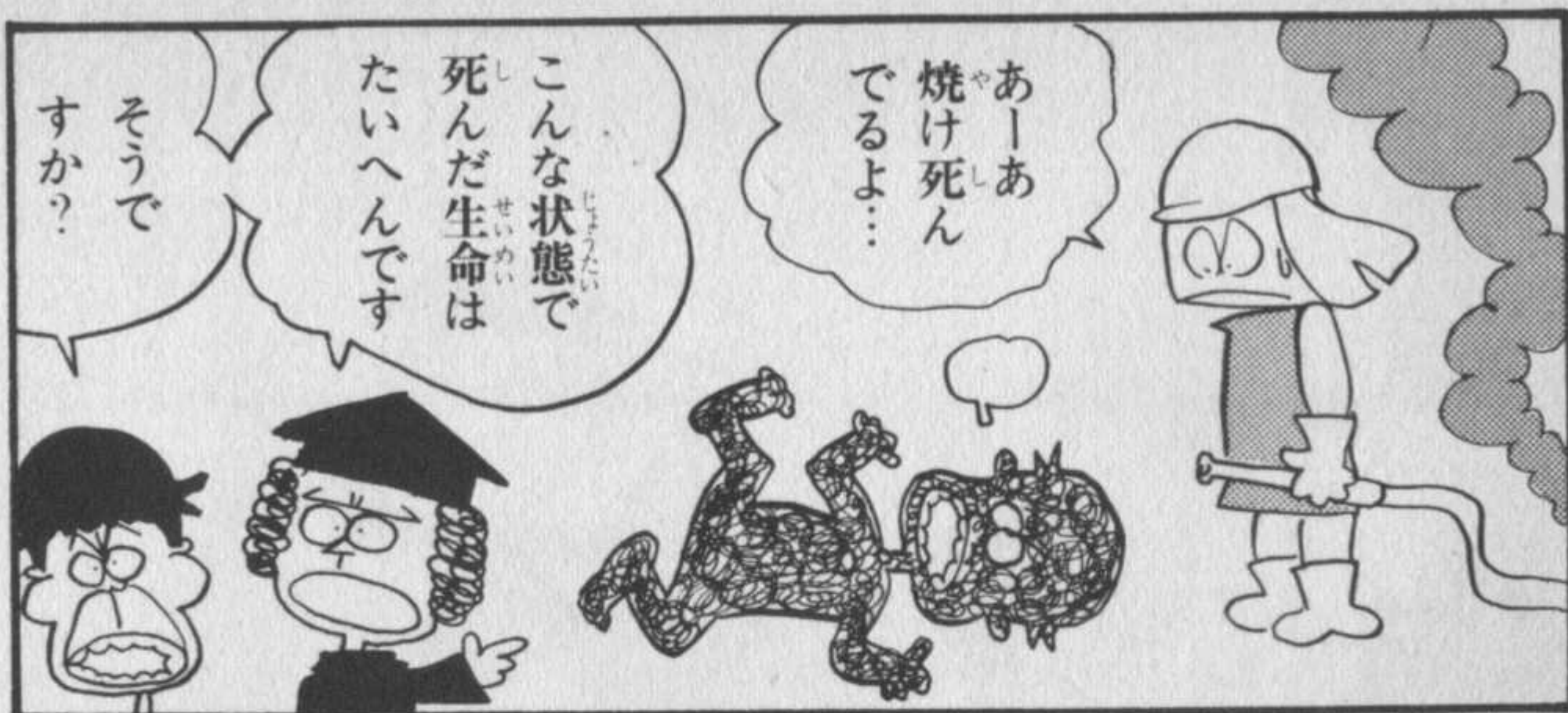
第5章 有情と非情





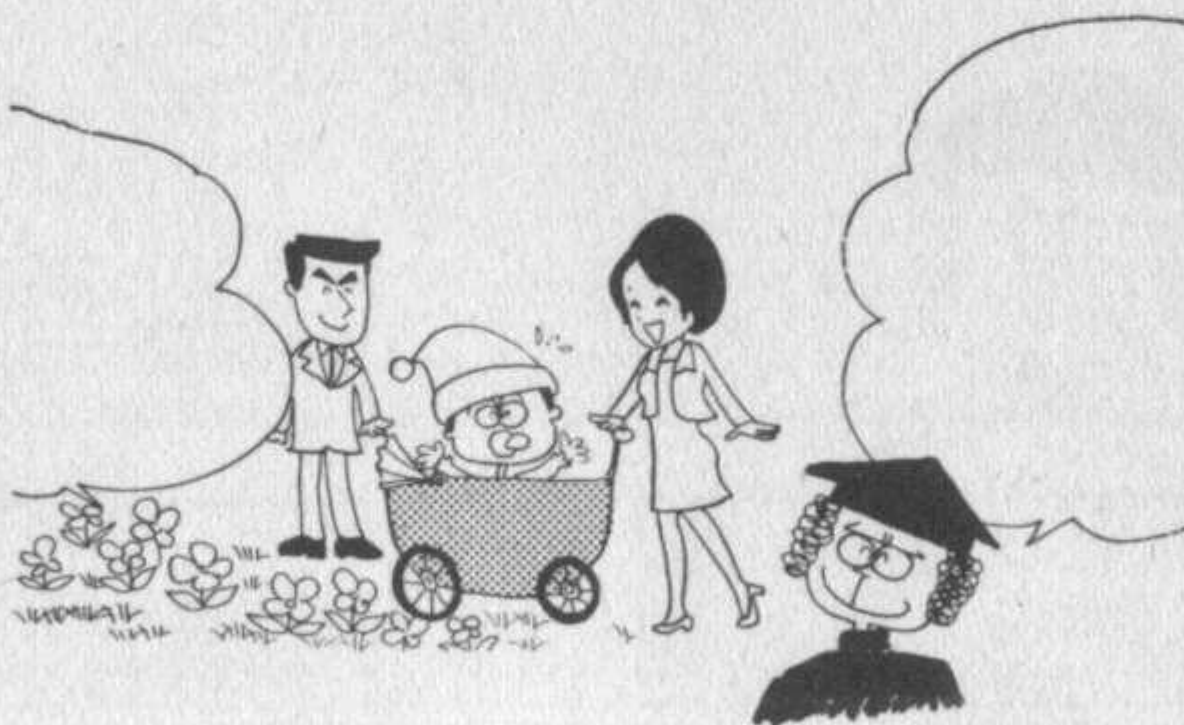
第5章 有情と非情

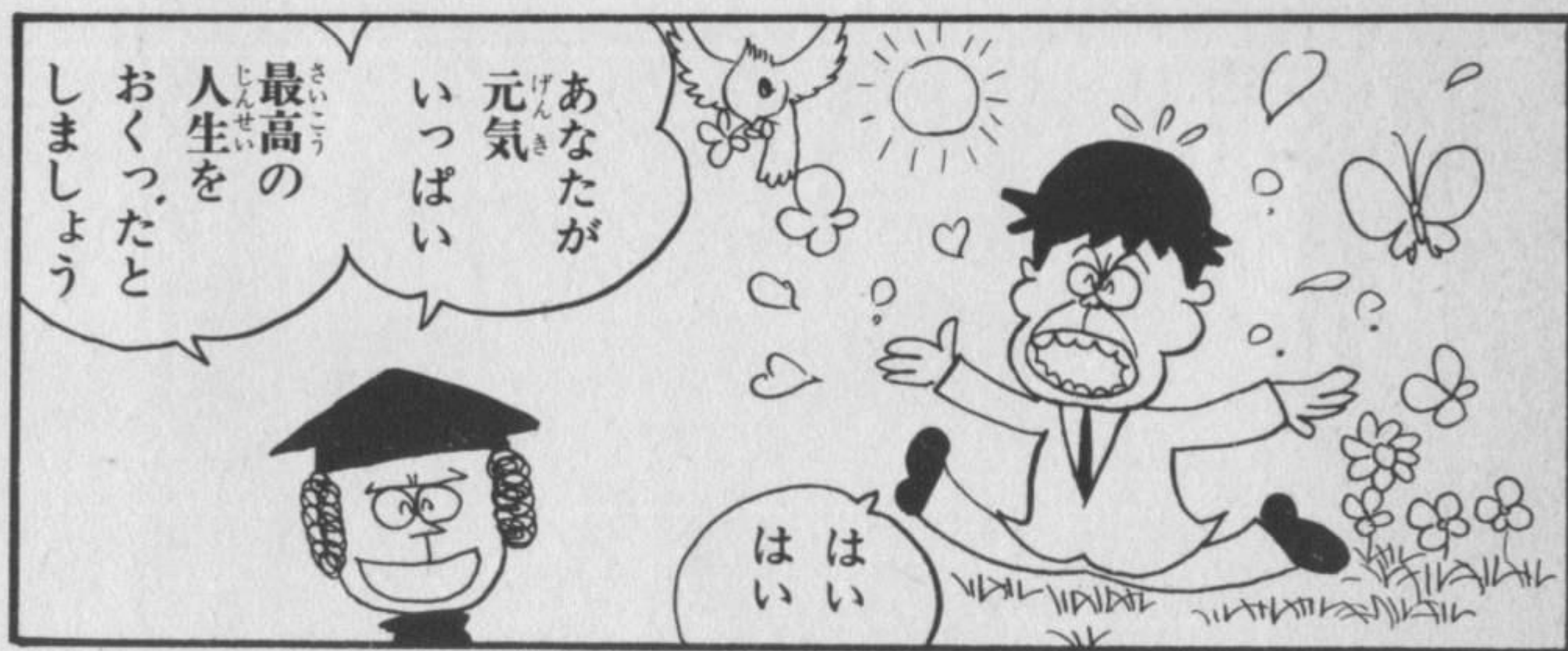


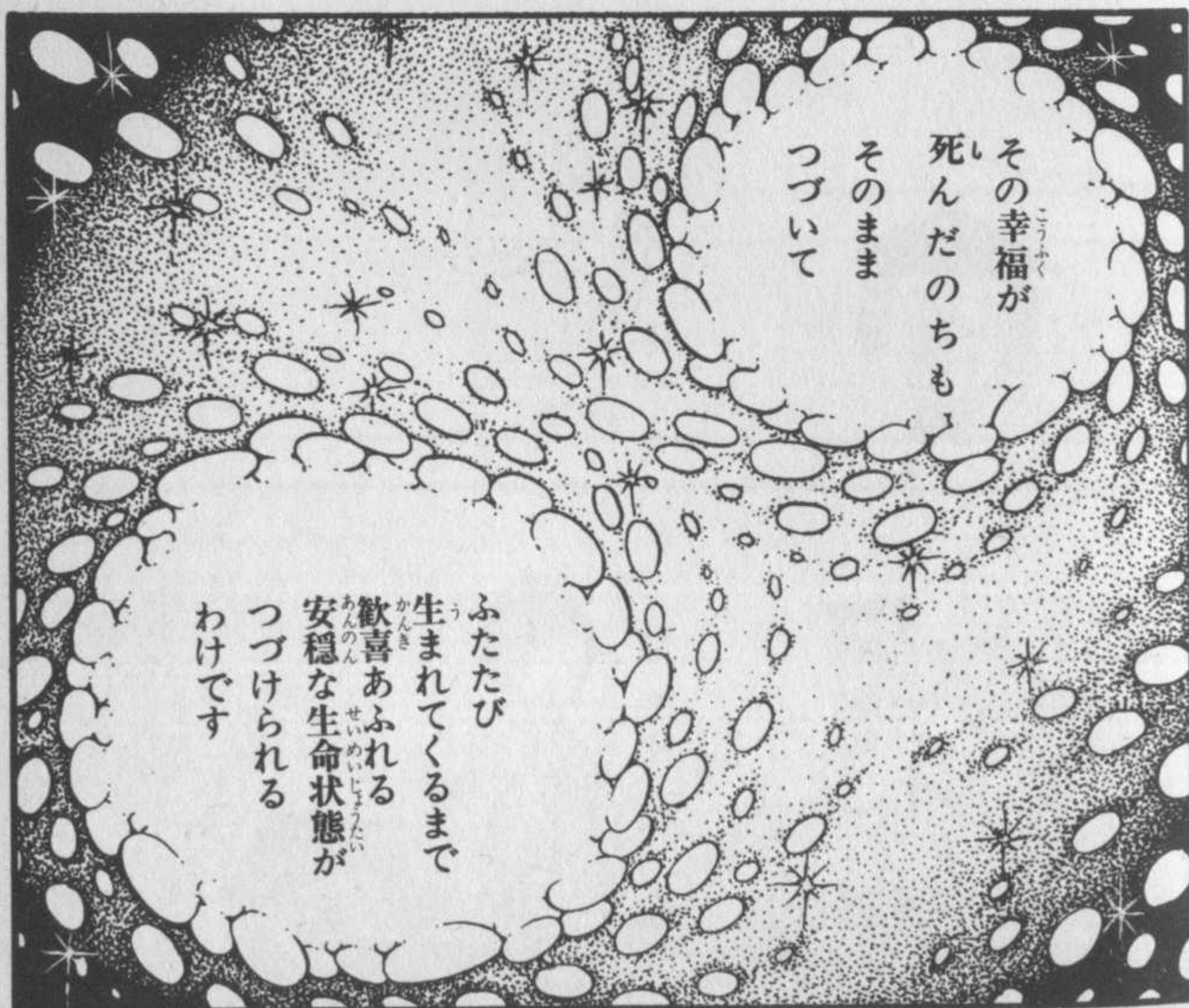


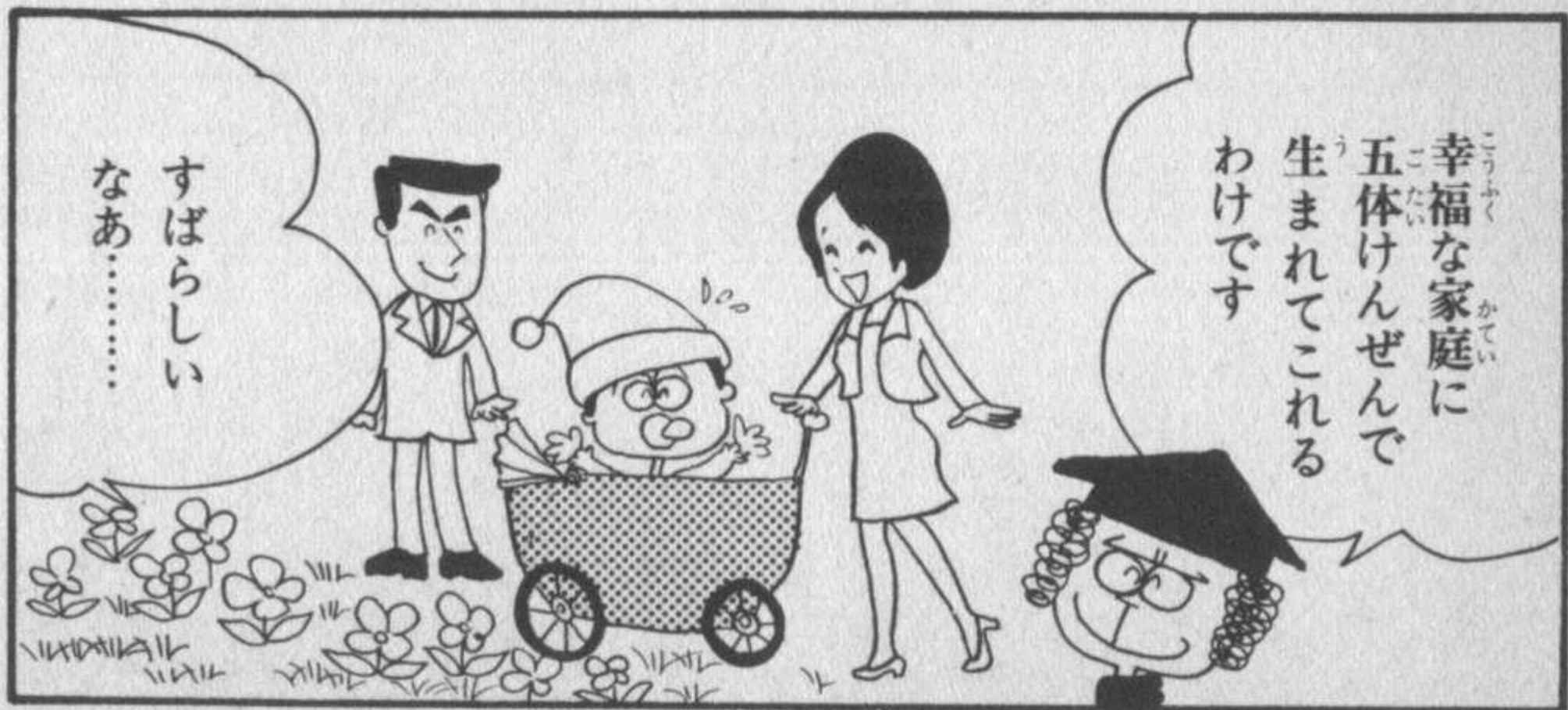
第6章

成仏とは







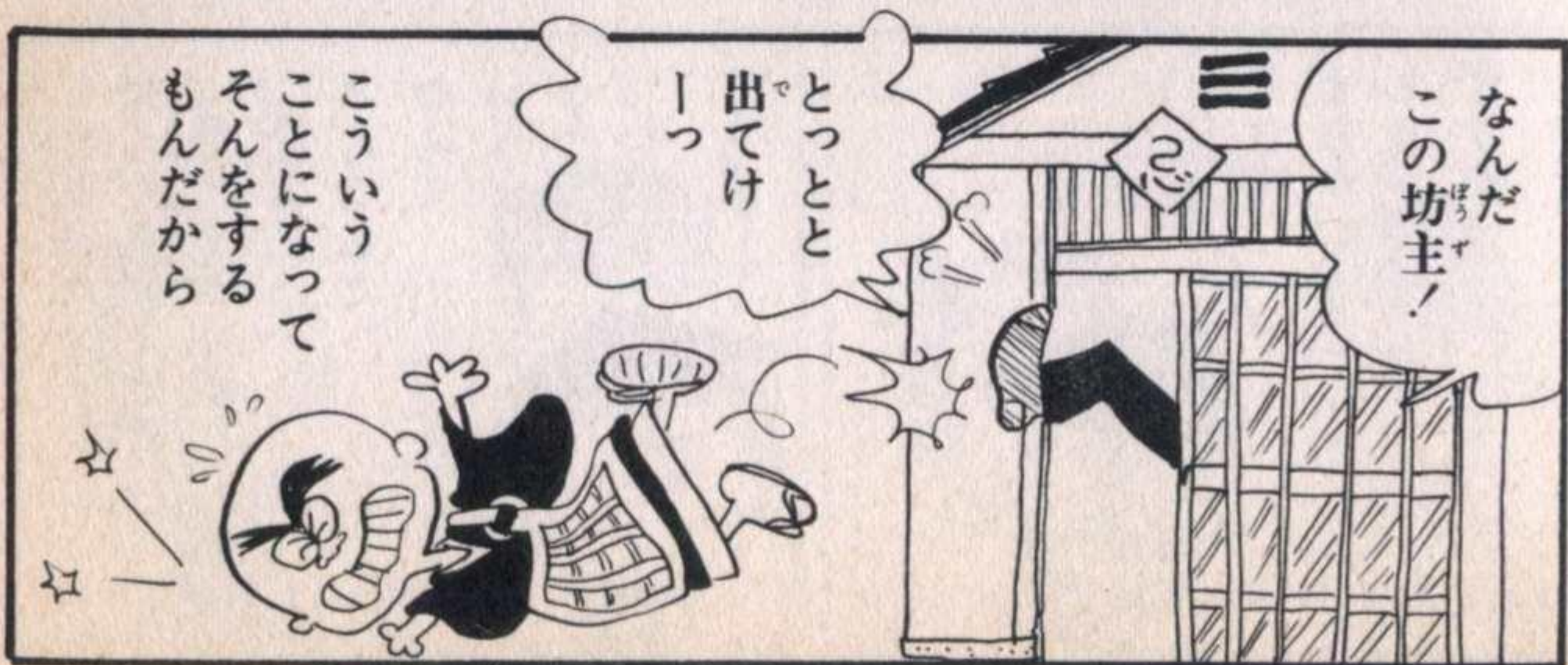
















地獄と仏とは
いづれの所に
候ぞと(中略)
委細にたづね
候へば我等が
五尺の身の内に
候とみへて候

(御書全集一四九一ページ)

そこのところ
まえにも
よんで
くれまし
たね

意味が
よく
わかん
なかつ
たけど

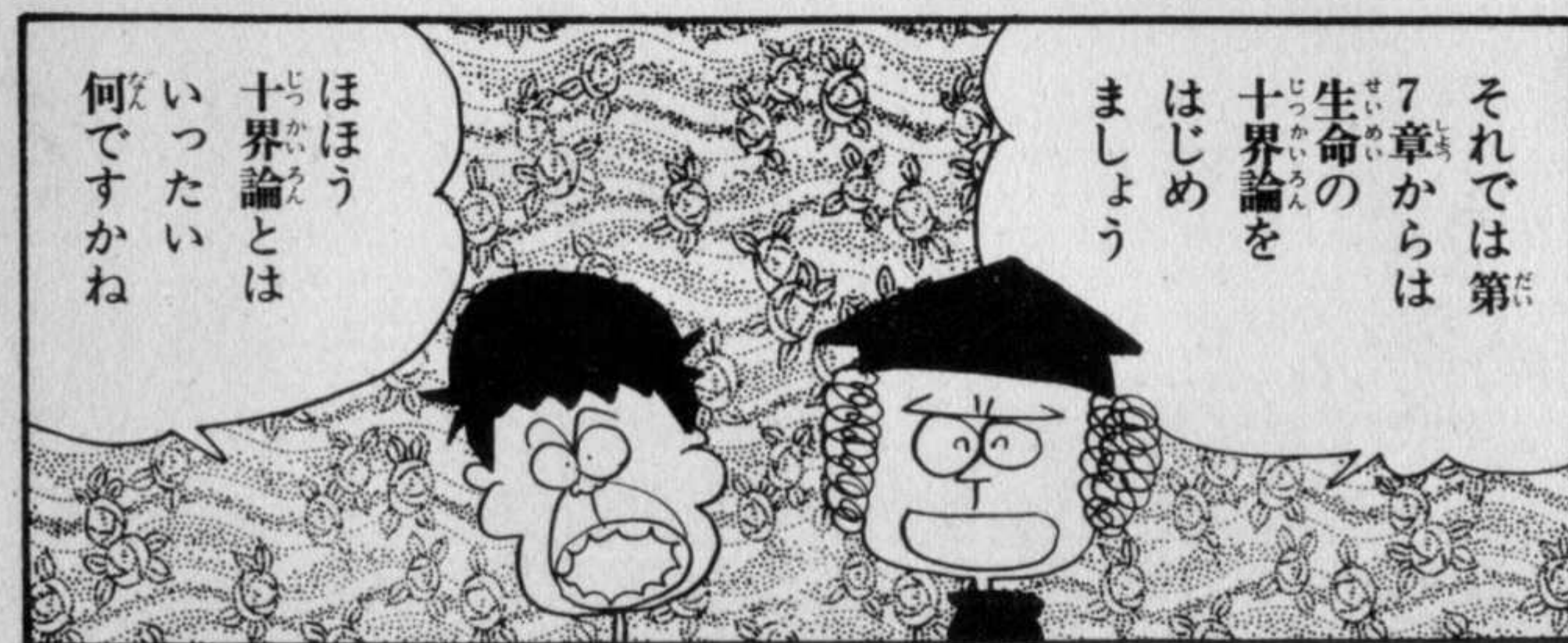
つまり
私たちの
生命のなかには
仏の
生命も
あるけど

地獄や
畜生の
生命も
あるんです

はあ……

あんたなんか
地獄の
生命の方
に
ちかいです

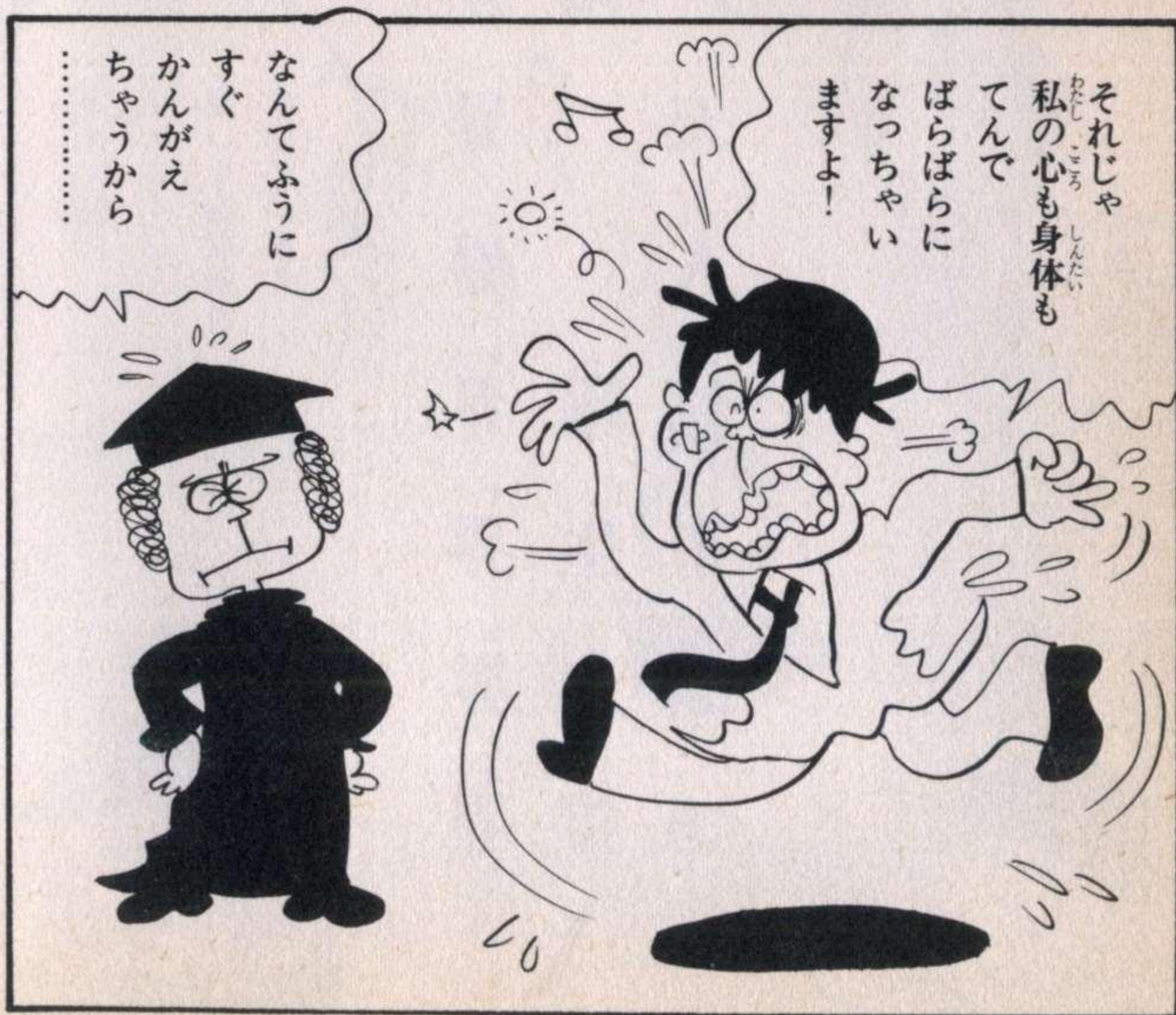
なんだ
なんだ
なんだ

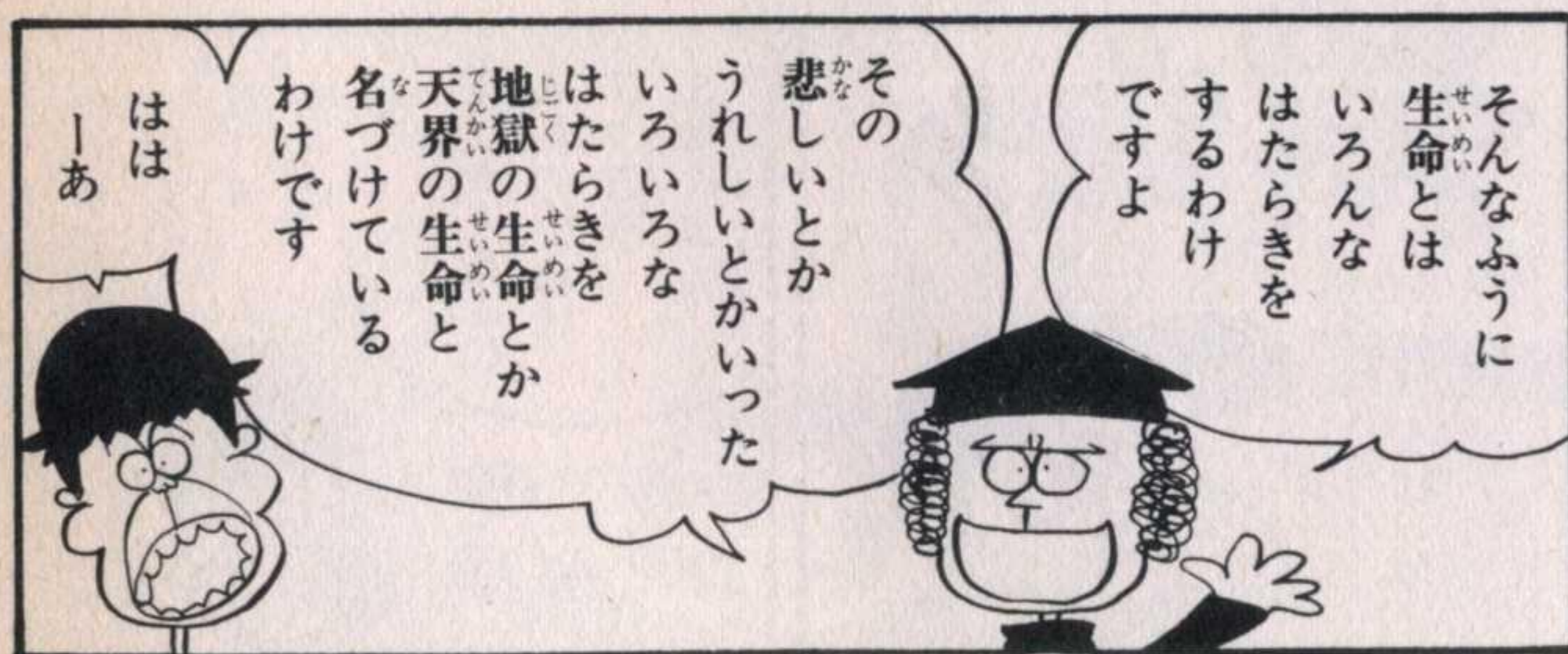


第 7 章

十界論

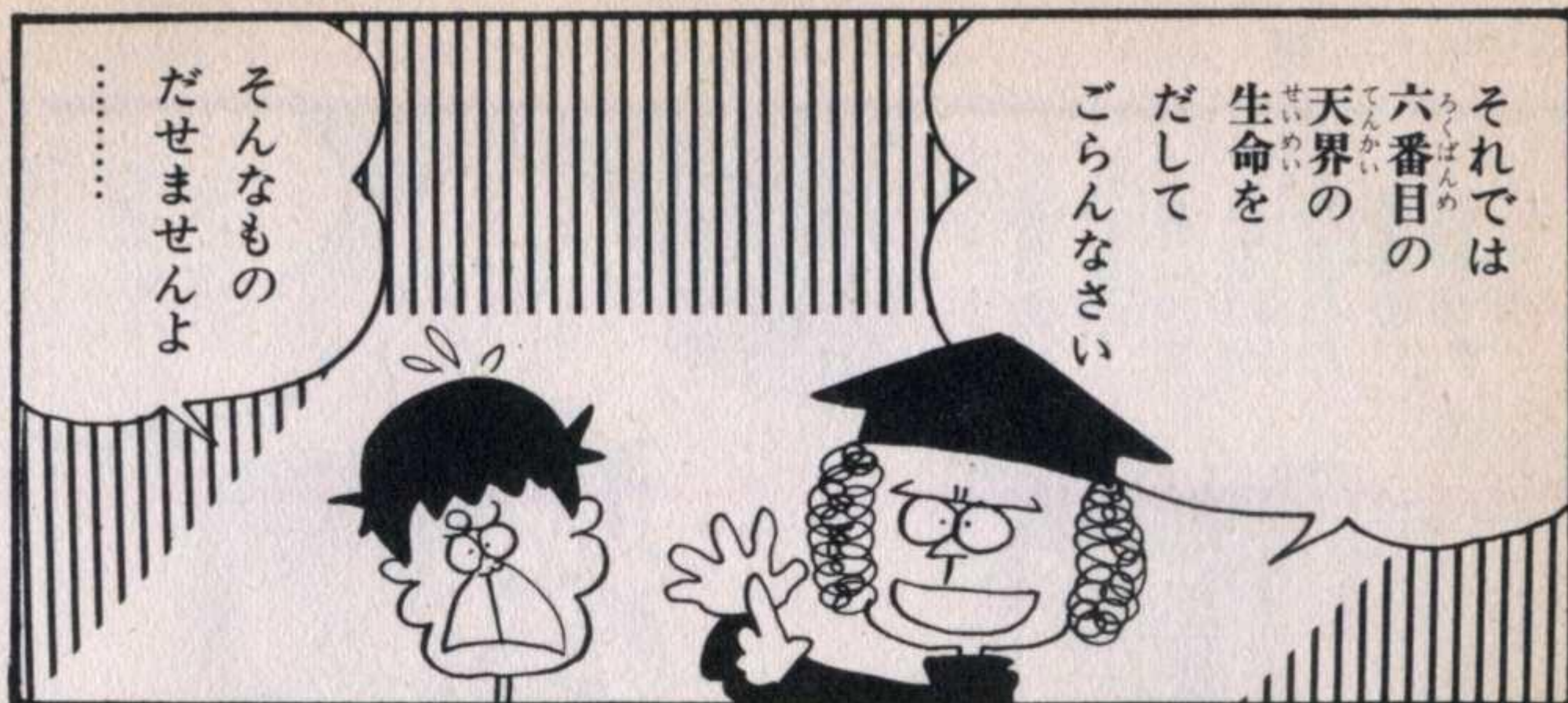


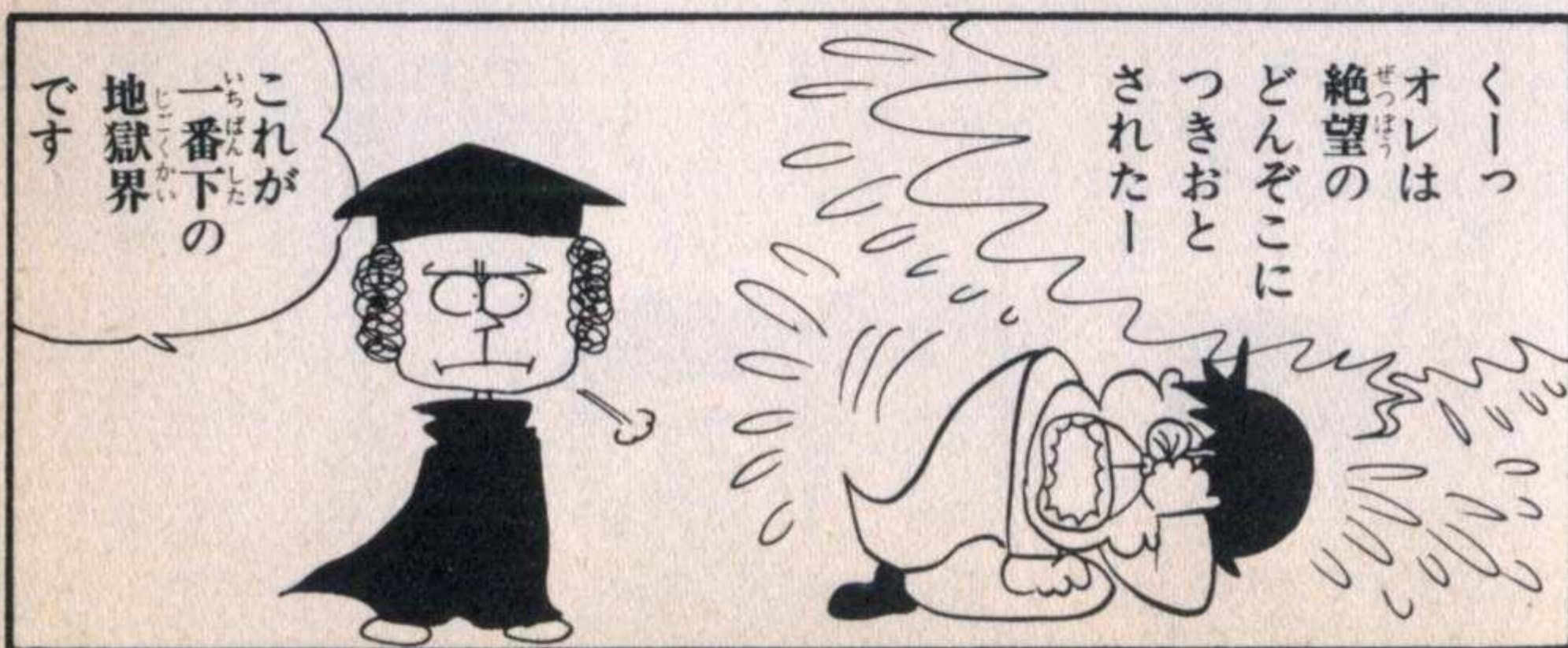
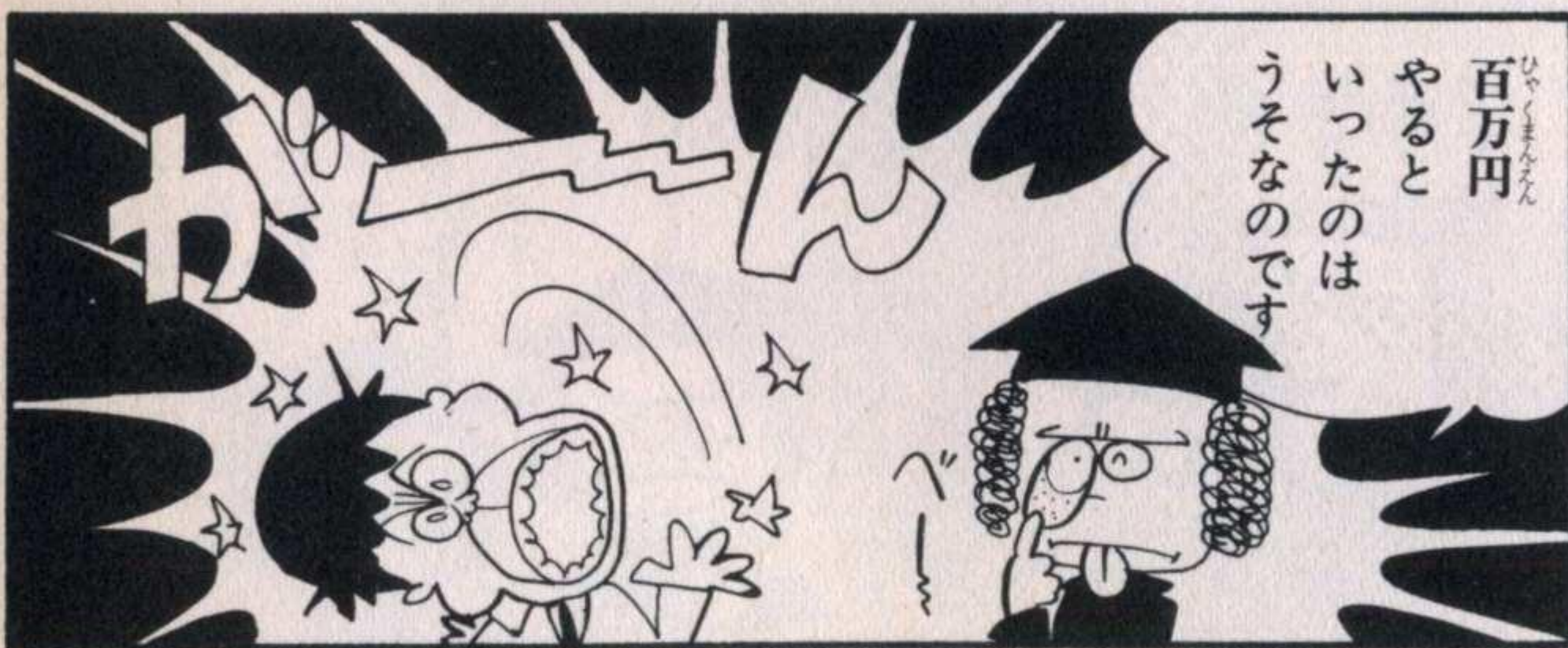


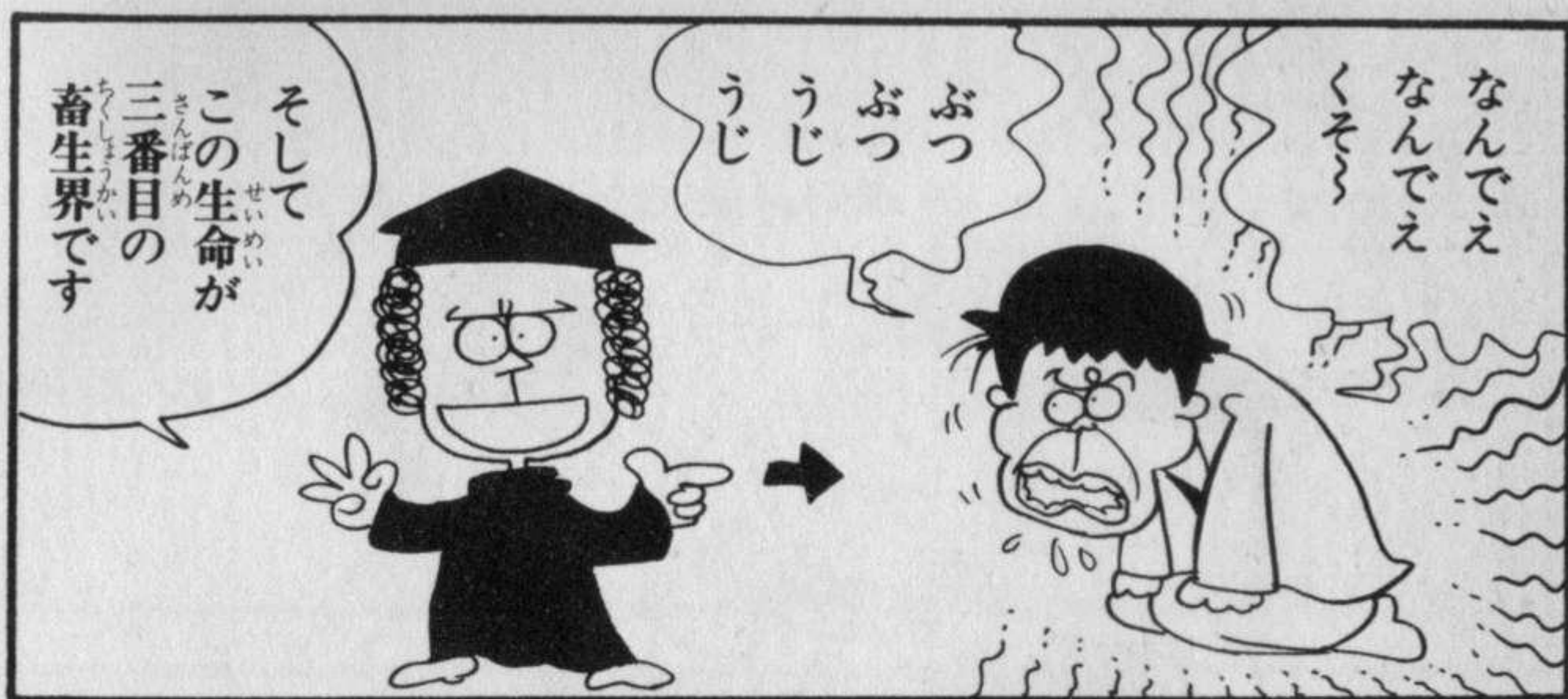














あなたは
これで
すな

一、地獄界

二、餓鬼界

三、畜生界

四、修羅界

五、人界

六、天界

の六つを

もう
経験

したわけでは

あつ
そーか

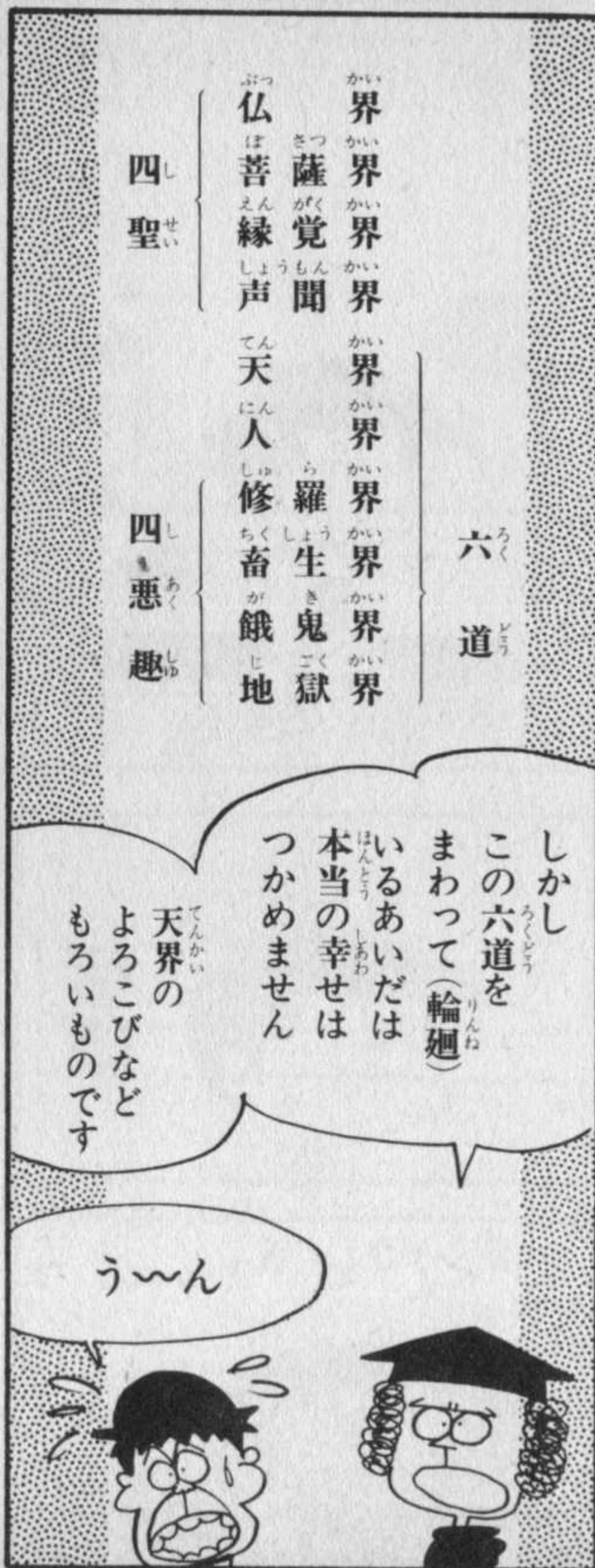
これら六つの
生命は
我々が生活して
ふつう
もつともよく
あらわれてくる
生命です

なるほど
なるほど

ふつうの人は
この六つの道を
ぐるぐると
まわっているの

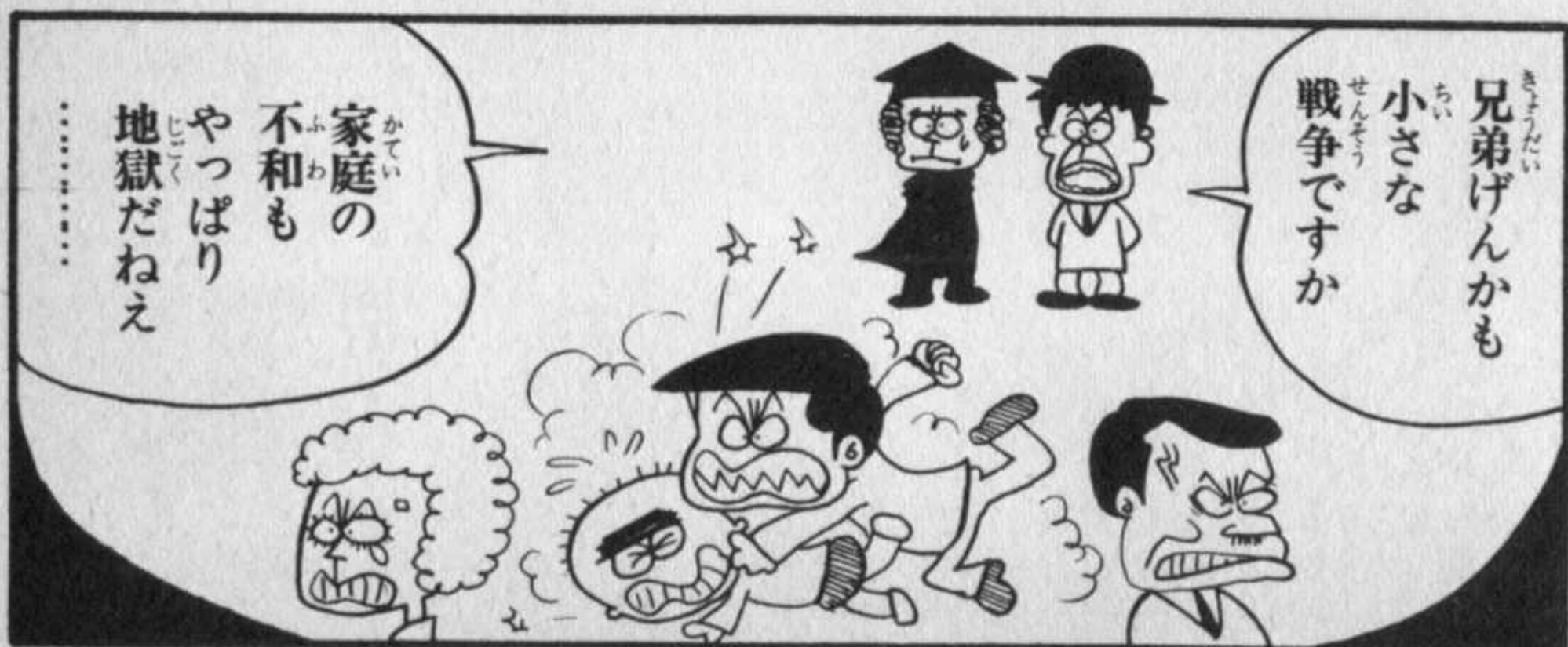
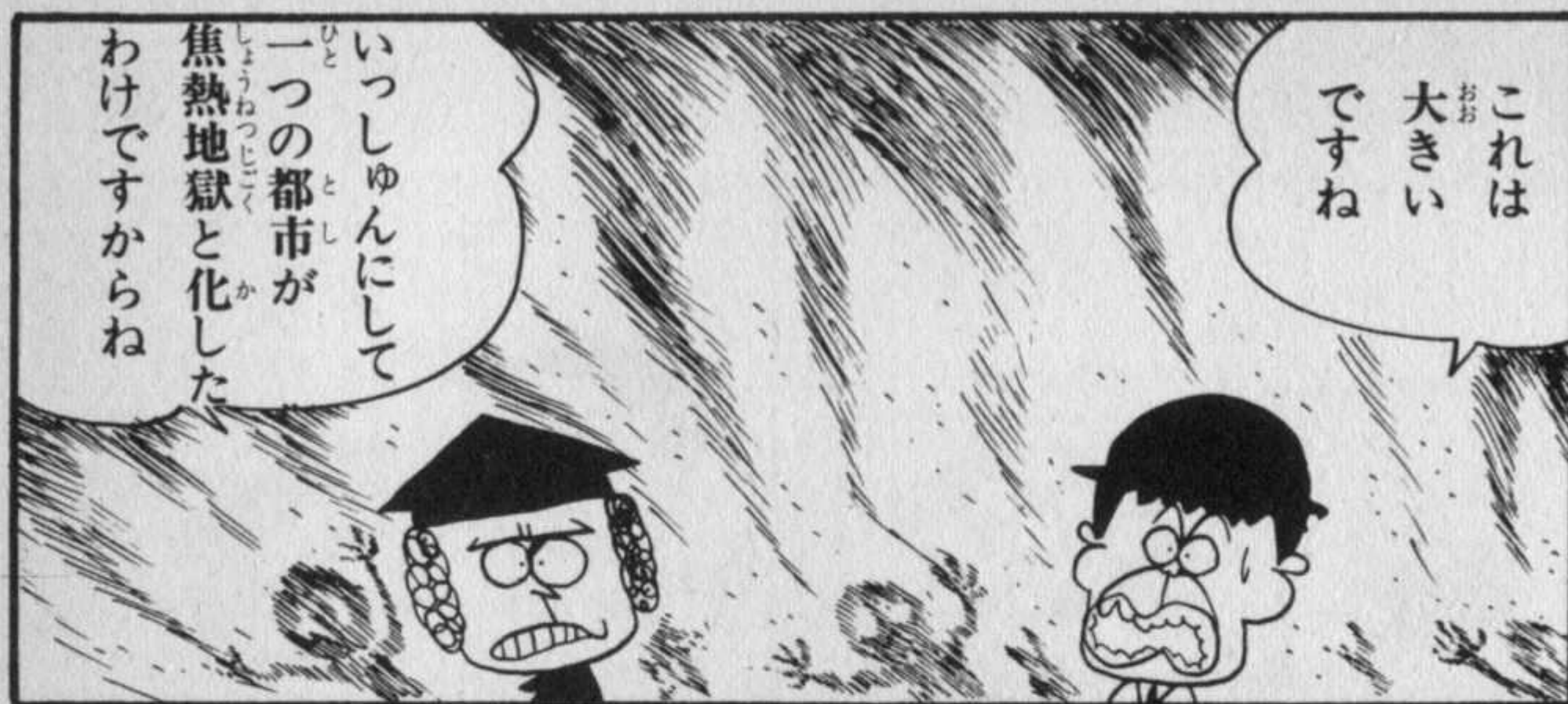
これを
六道
輪廻と
いい

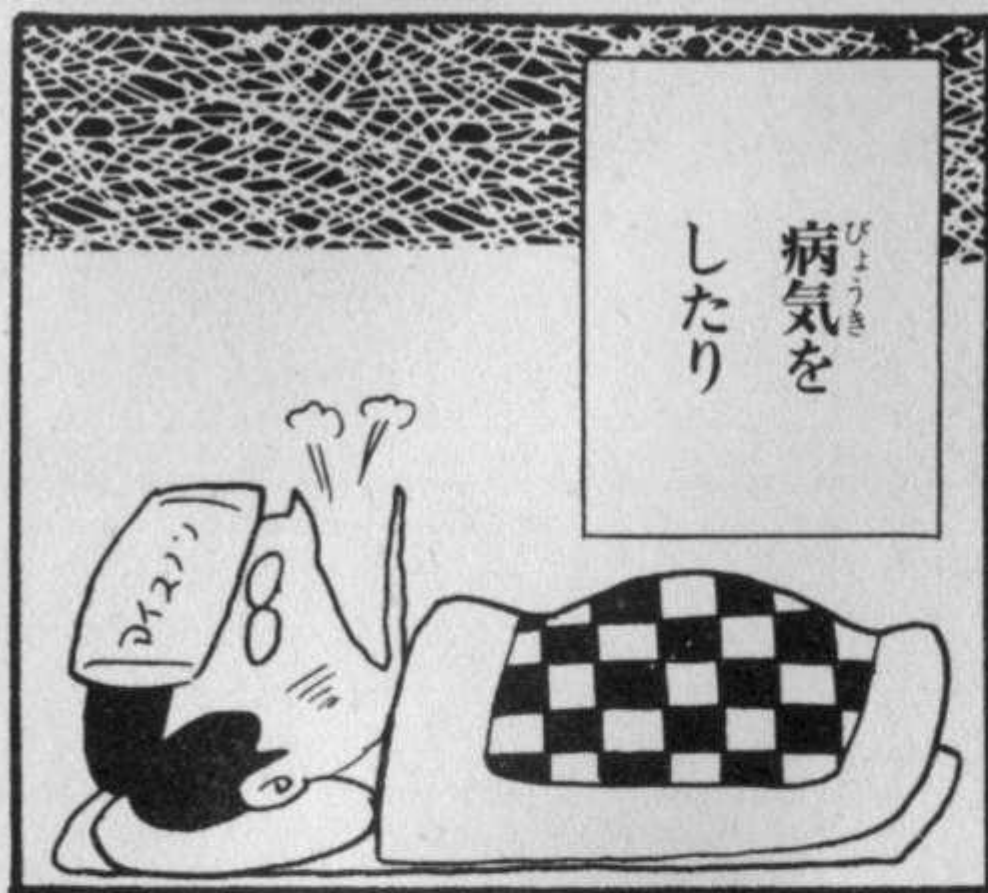
ロクドー
リンネ
ねえ...



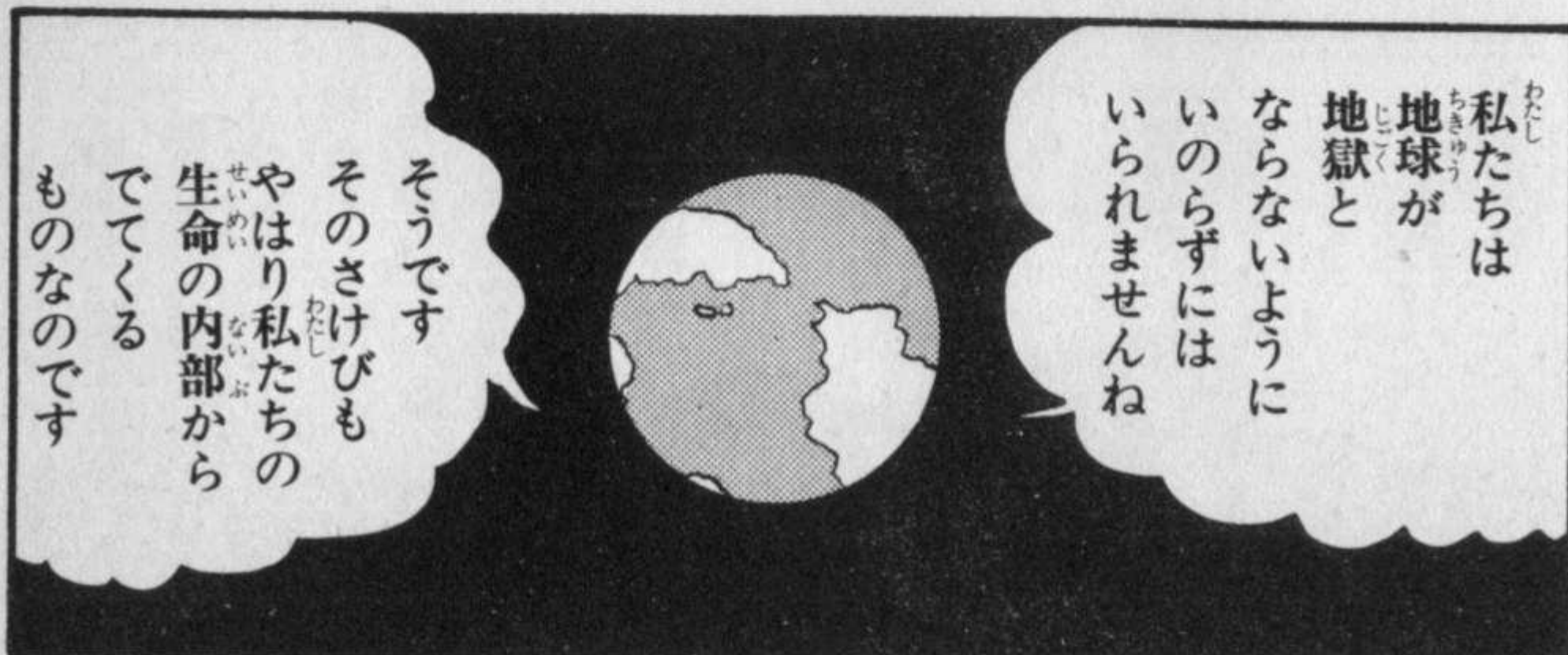
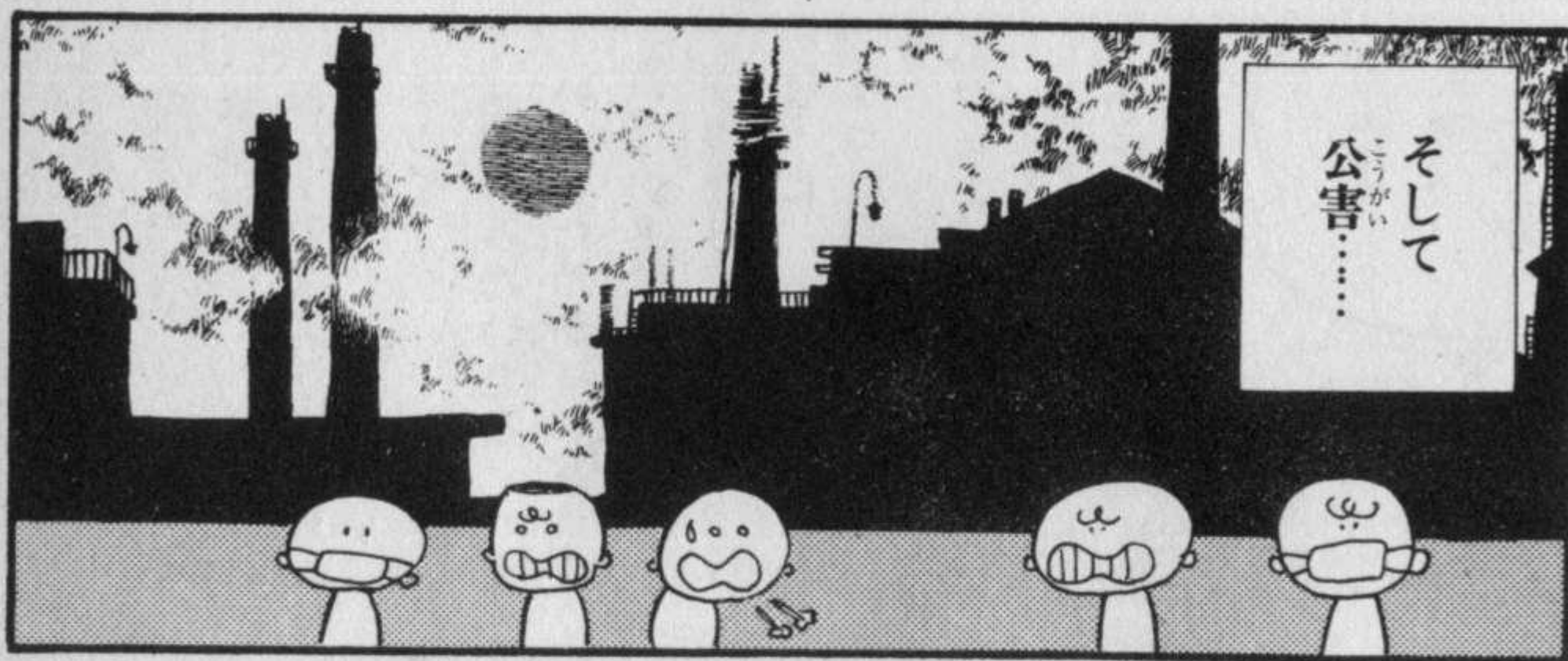
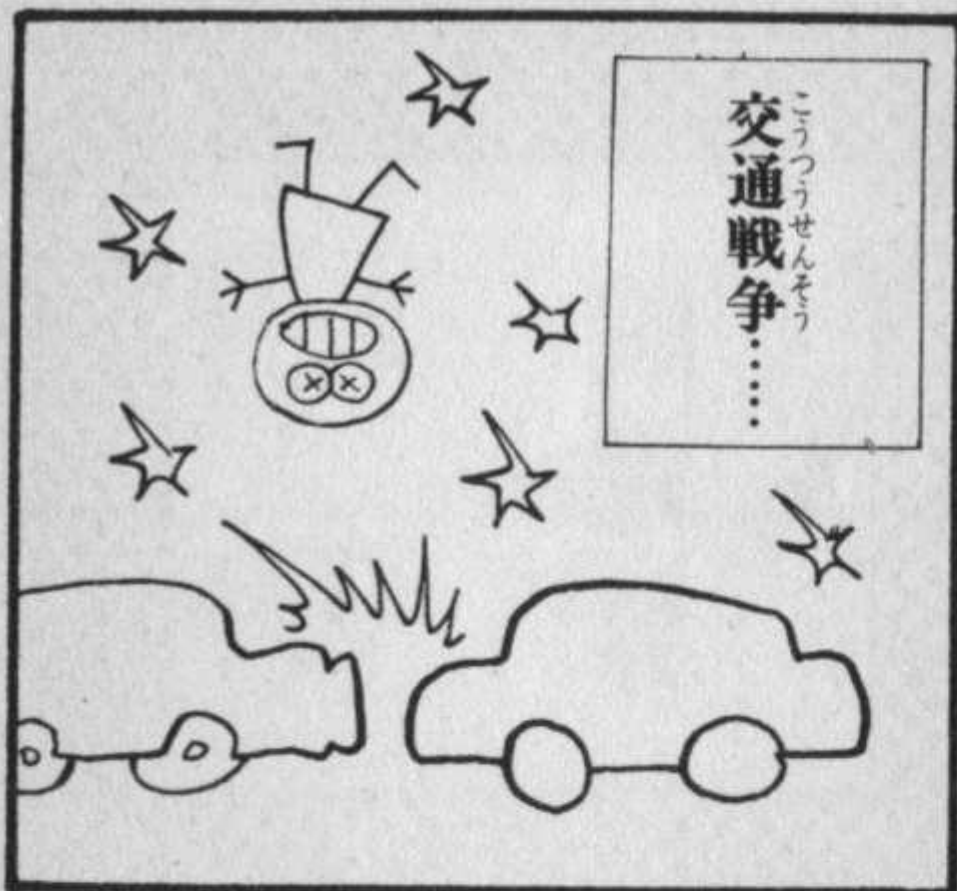








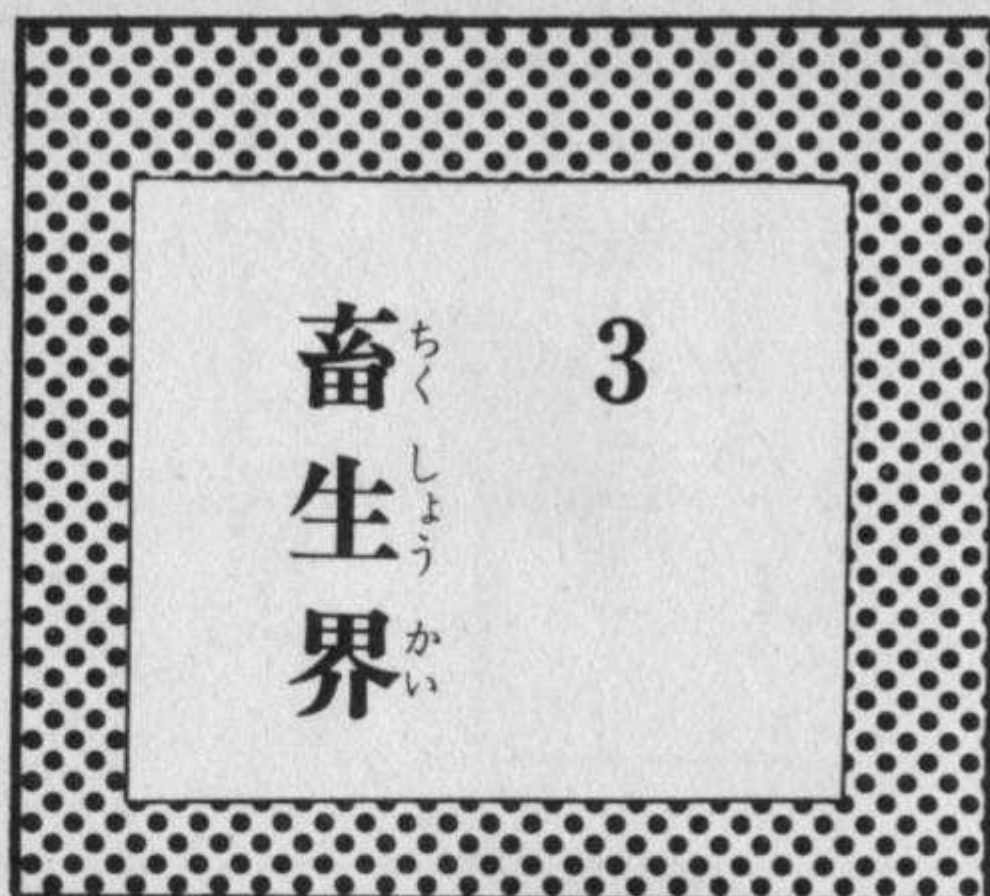
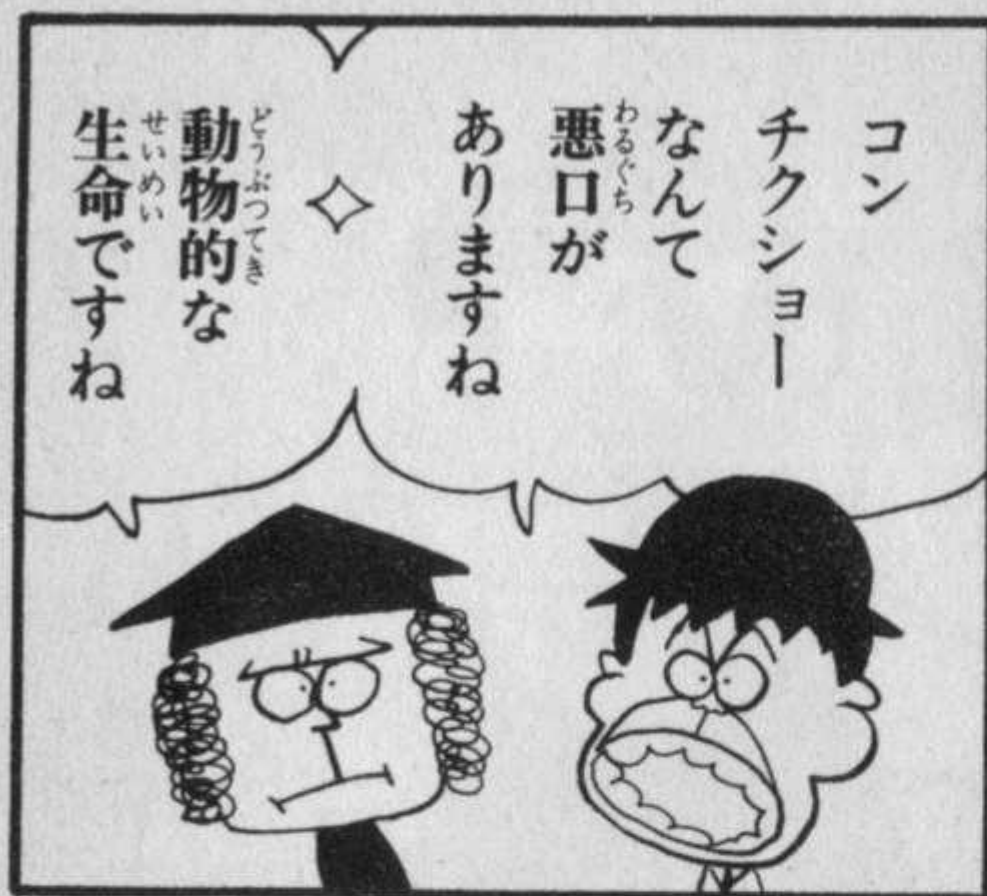
第7章 十界論

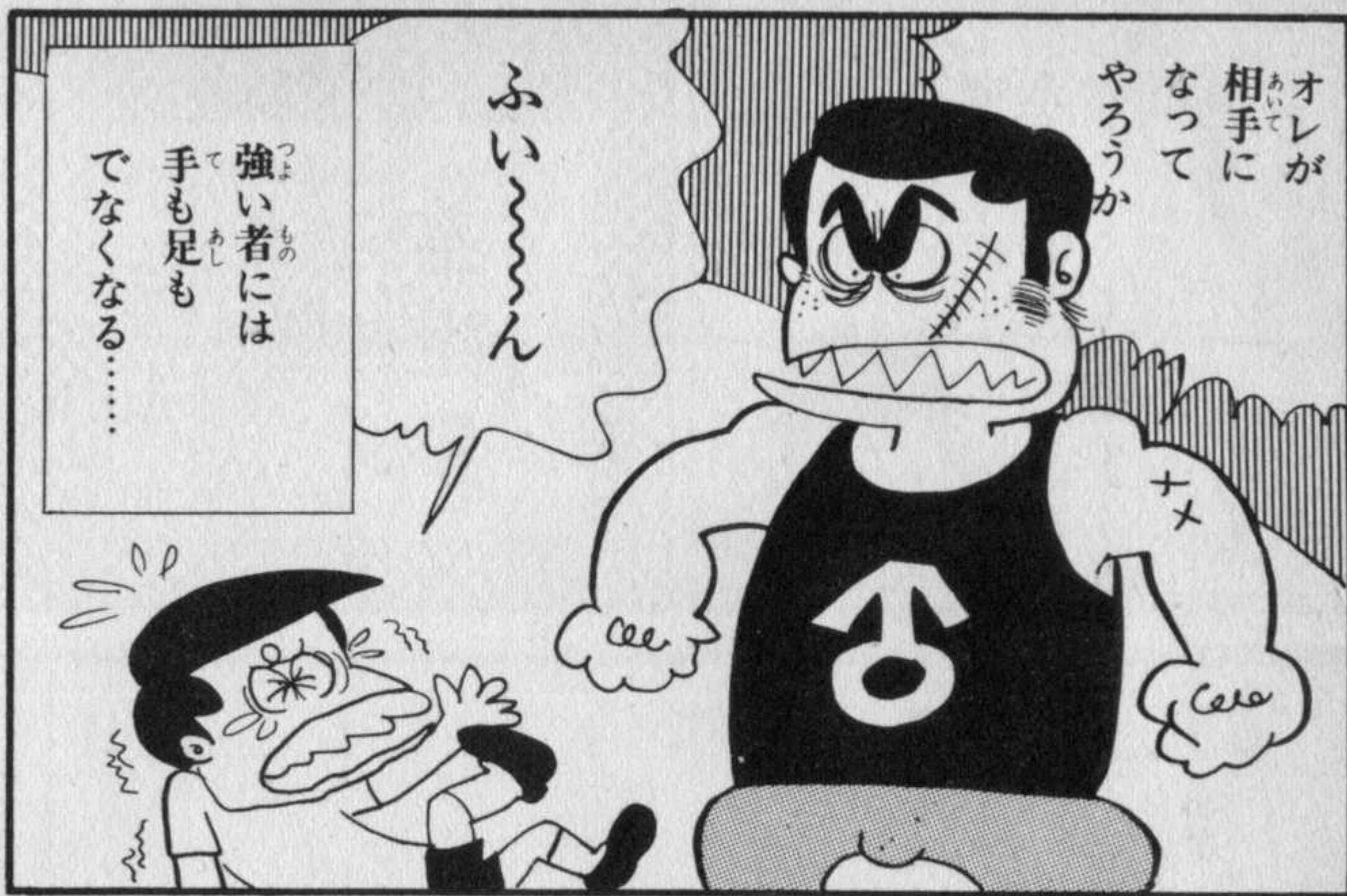














4 修羅

阿修羅の
ように
戦う……

なんて言葉が

よく
使われて
ますね

はい

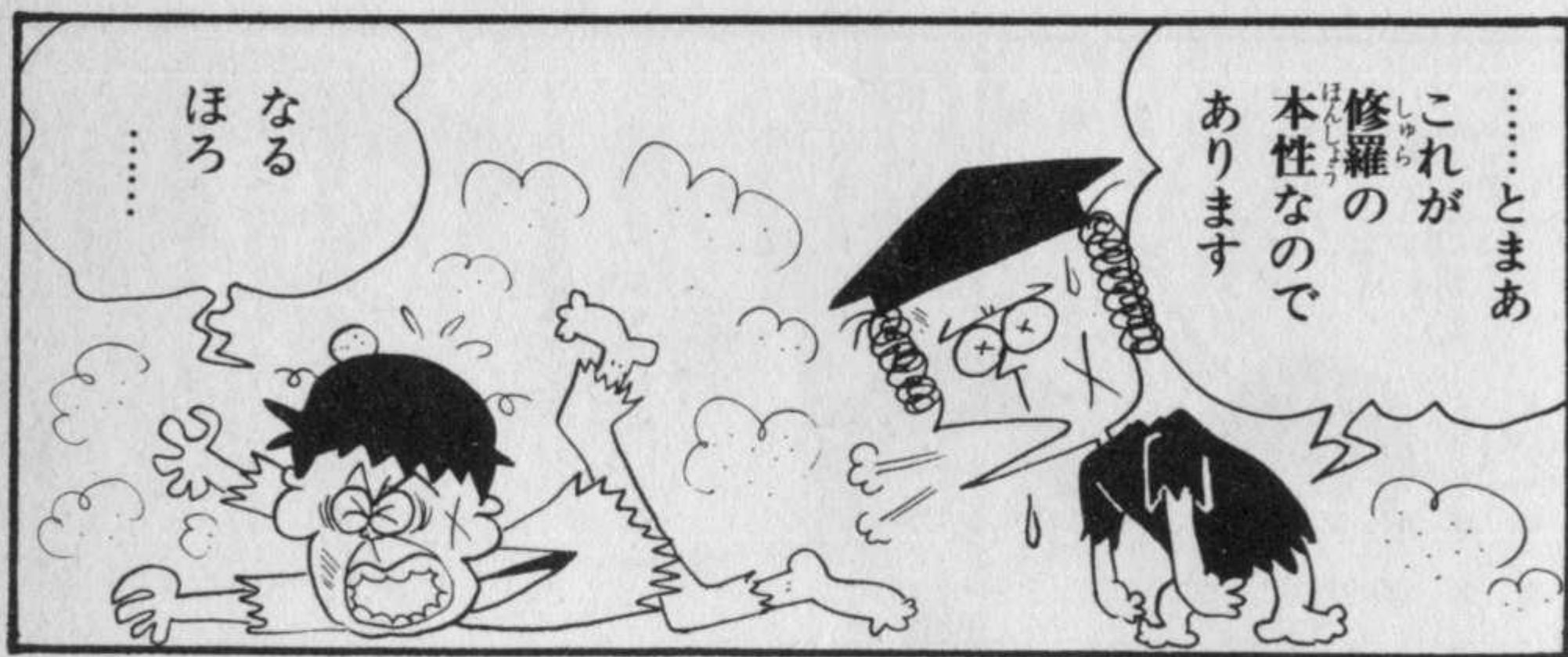
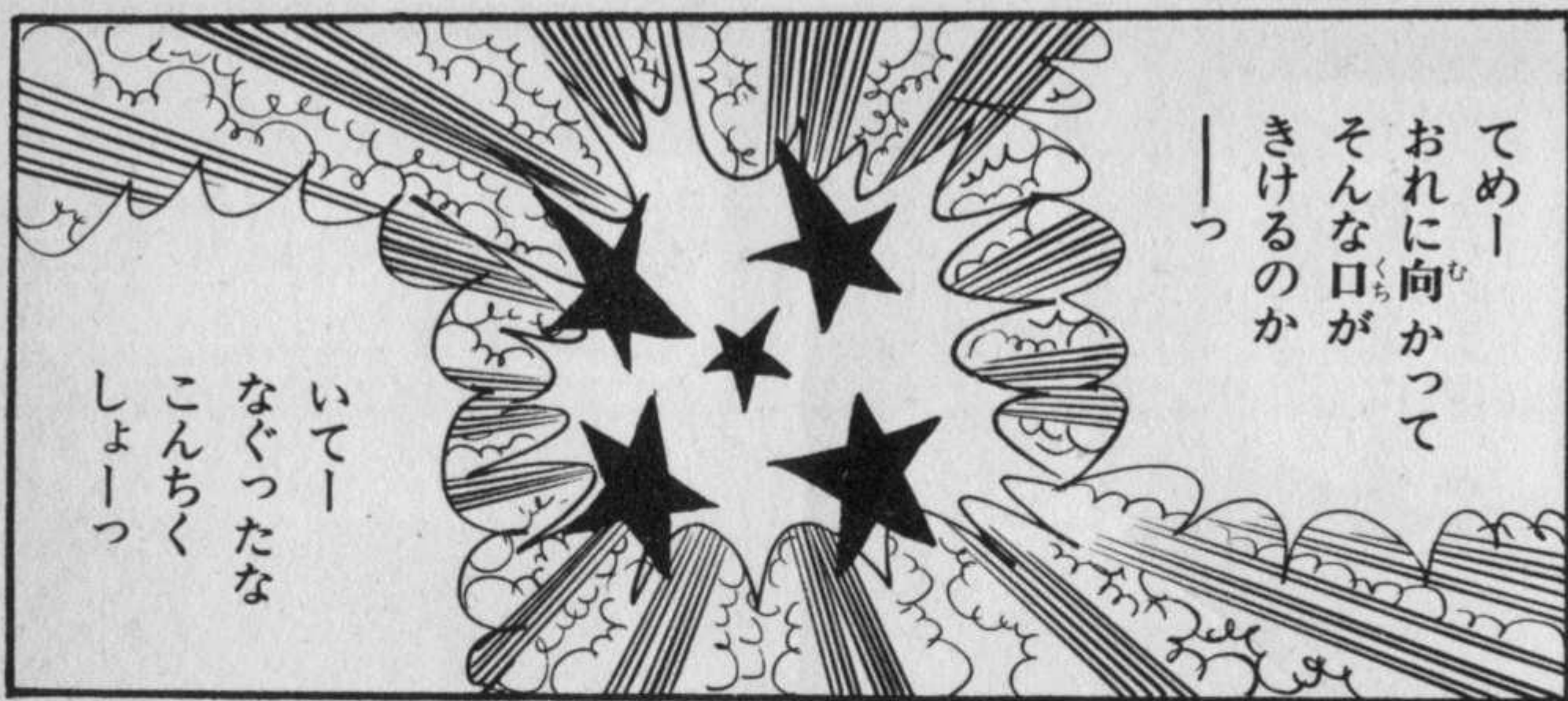
ですから
修羅と
いうのは
戦いの
生命で
あります
!!

お力

あんた
私という
前に
いっちゃ
いけませんよ

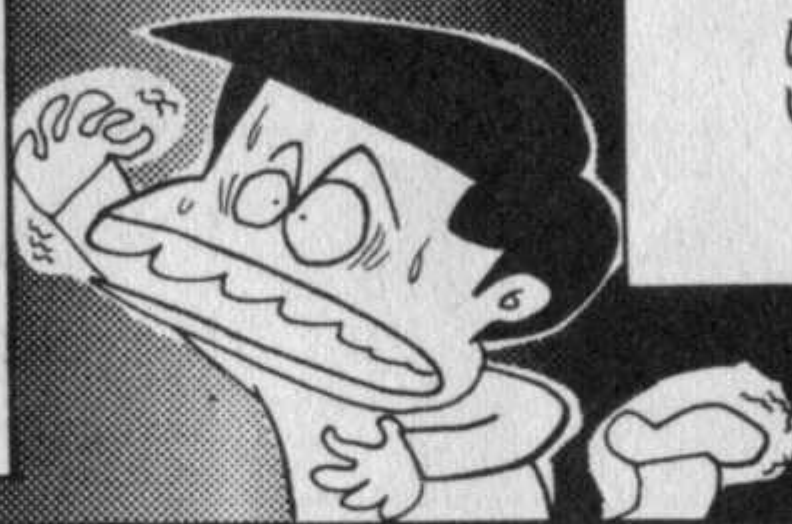
うるせえっ
こんなことは
先にいった方が
勝ちだっ

なに
おーっ



地獄も 餓鬼も 畜生も みんな 自分の本能の あがきだけで せいっぱい でしょ

とても 他の生命に攻撃を かけるよゆうがない



ところが 修羅になると 人よりえらく 自分を見せたいとか

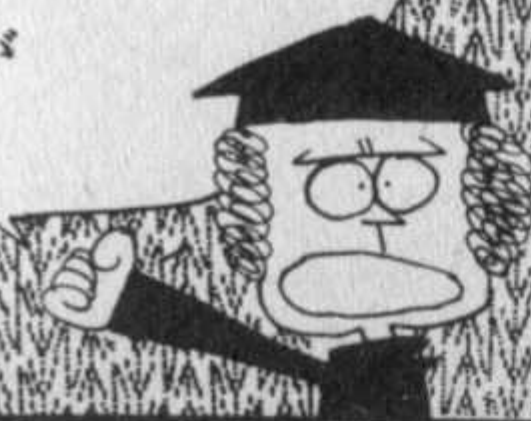
人より強く なりたいという エゴイズムが めばえて います

なるほど 少しは 強いわけ ですね



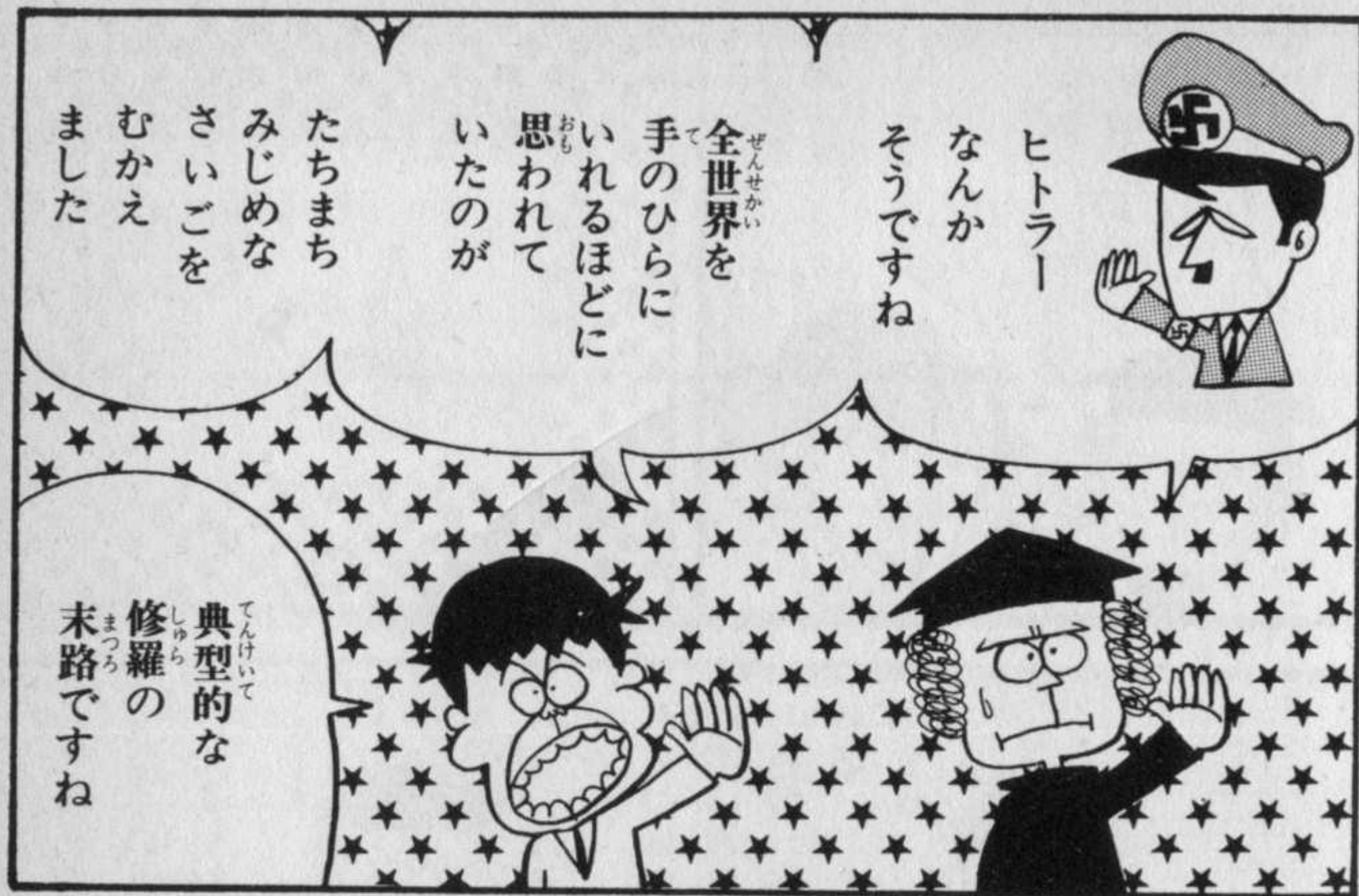
ひとより勝ちたいとか ひとをバカにする エゴの心が 他人に対して やきもちをやいたり 怒ったり憎んだり みえをはったり させるのですね

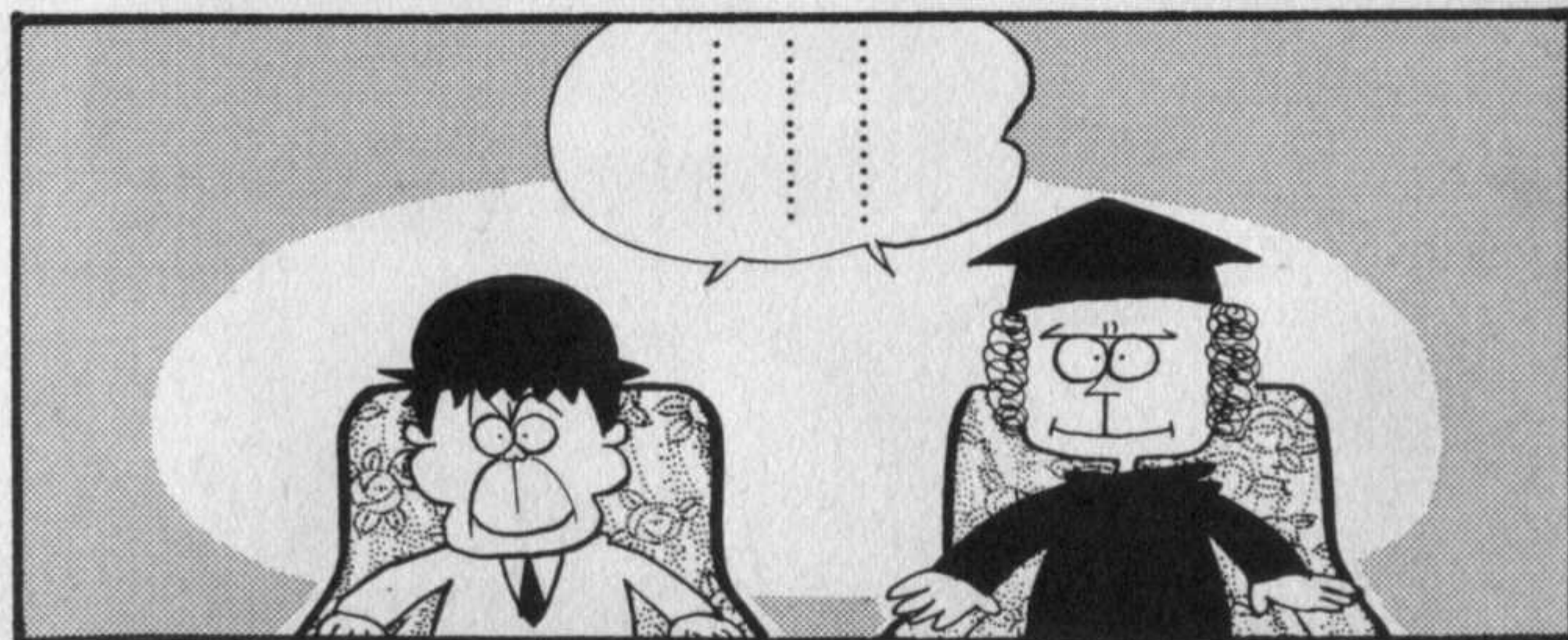
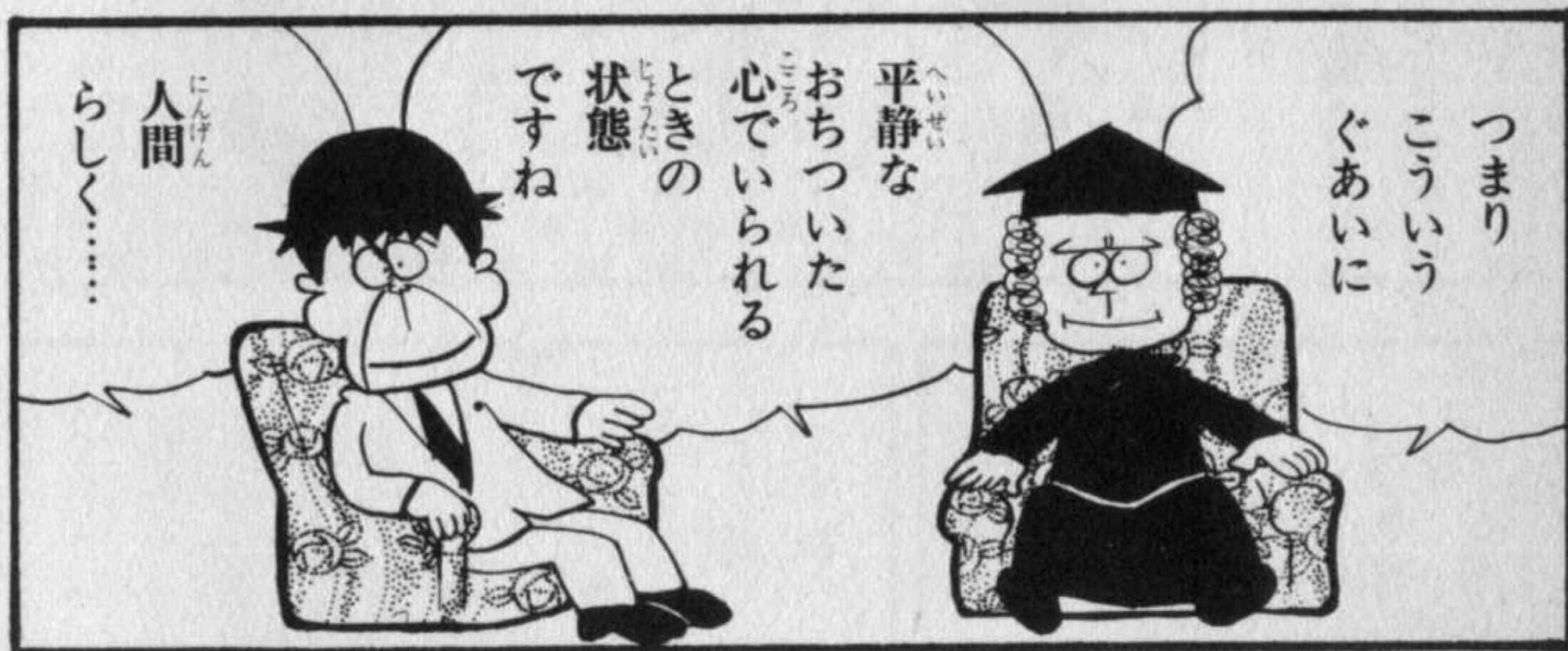
狂気とは いえ 生命に エネルギーが あるのです





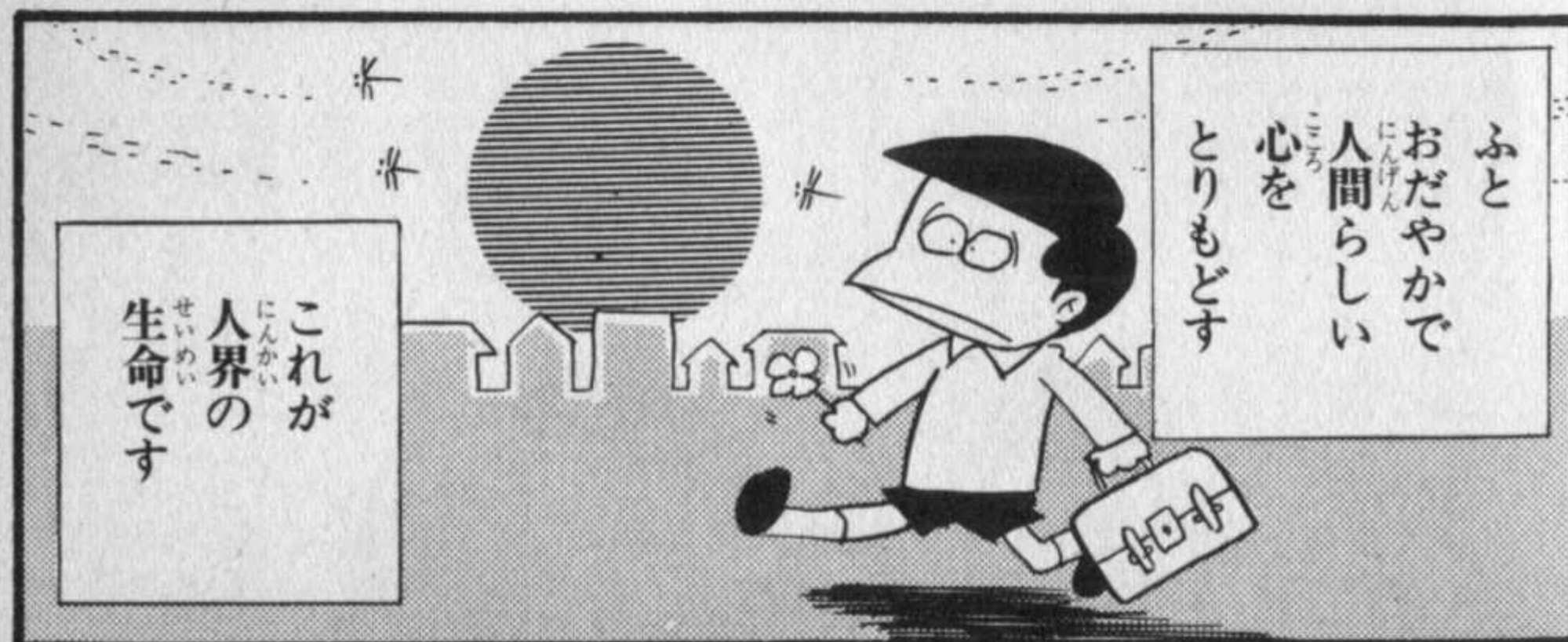
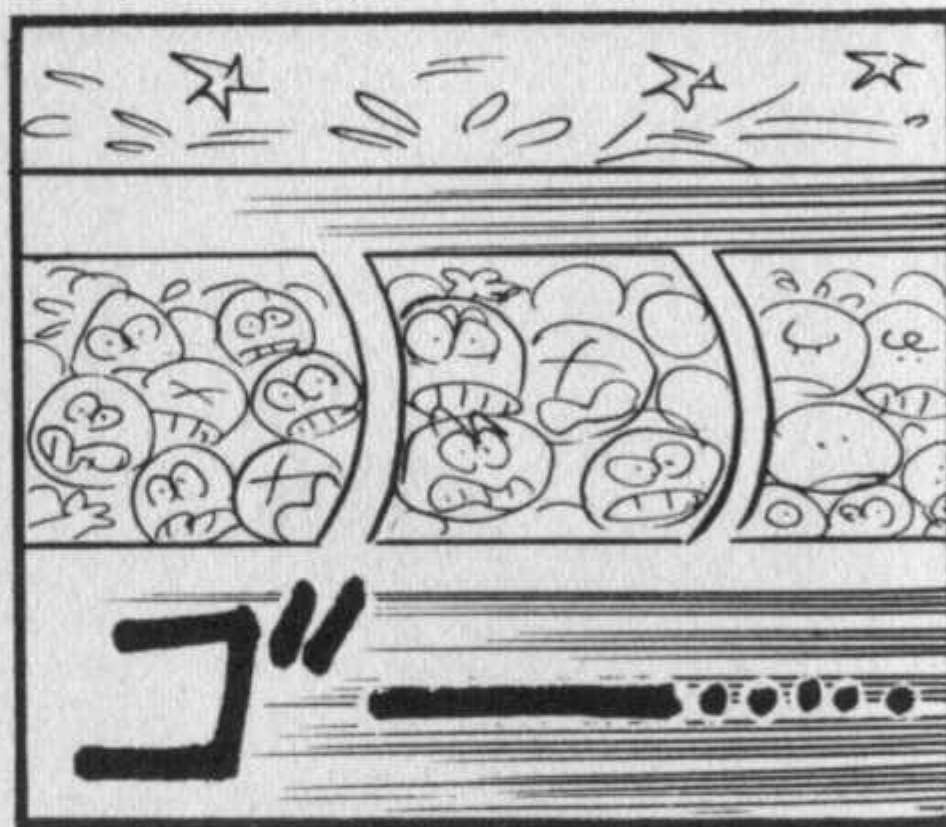




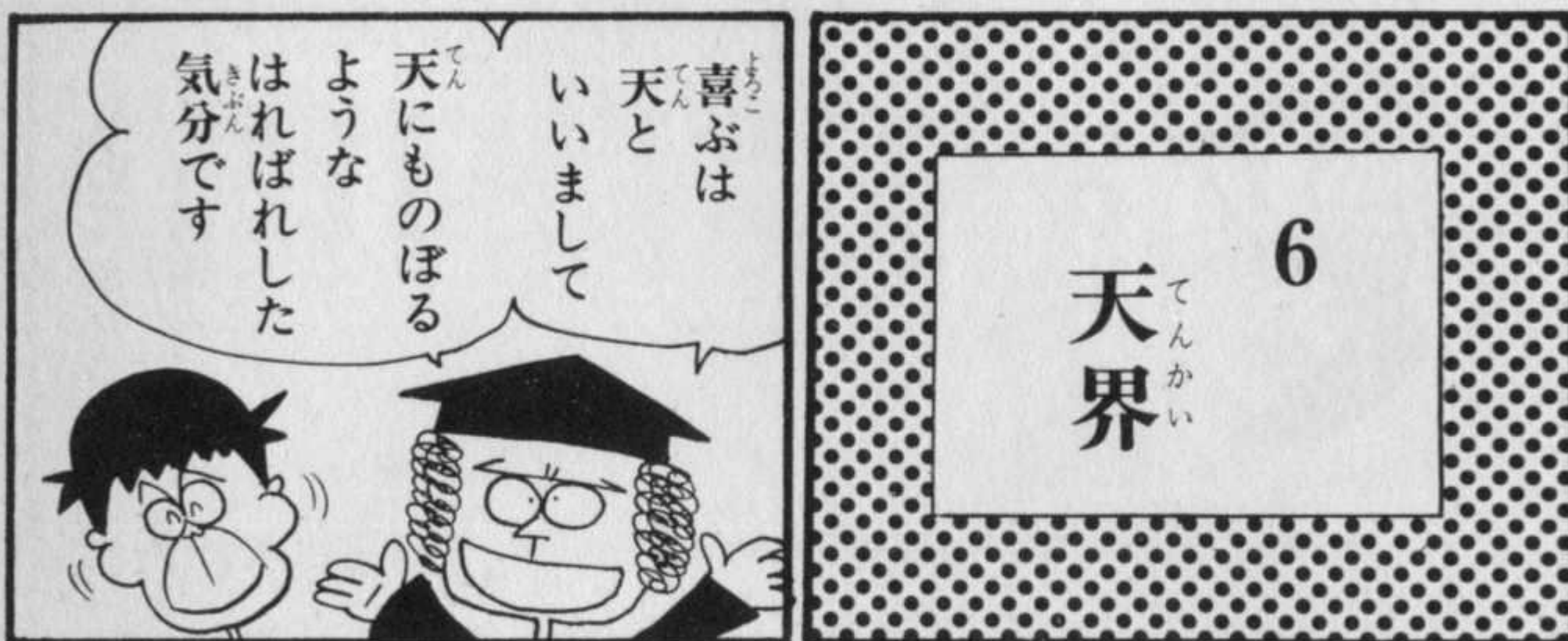
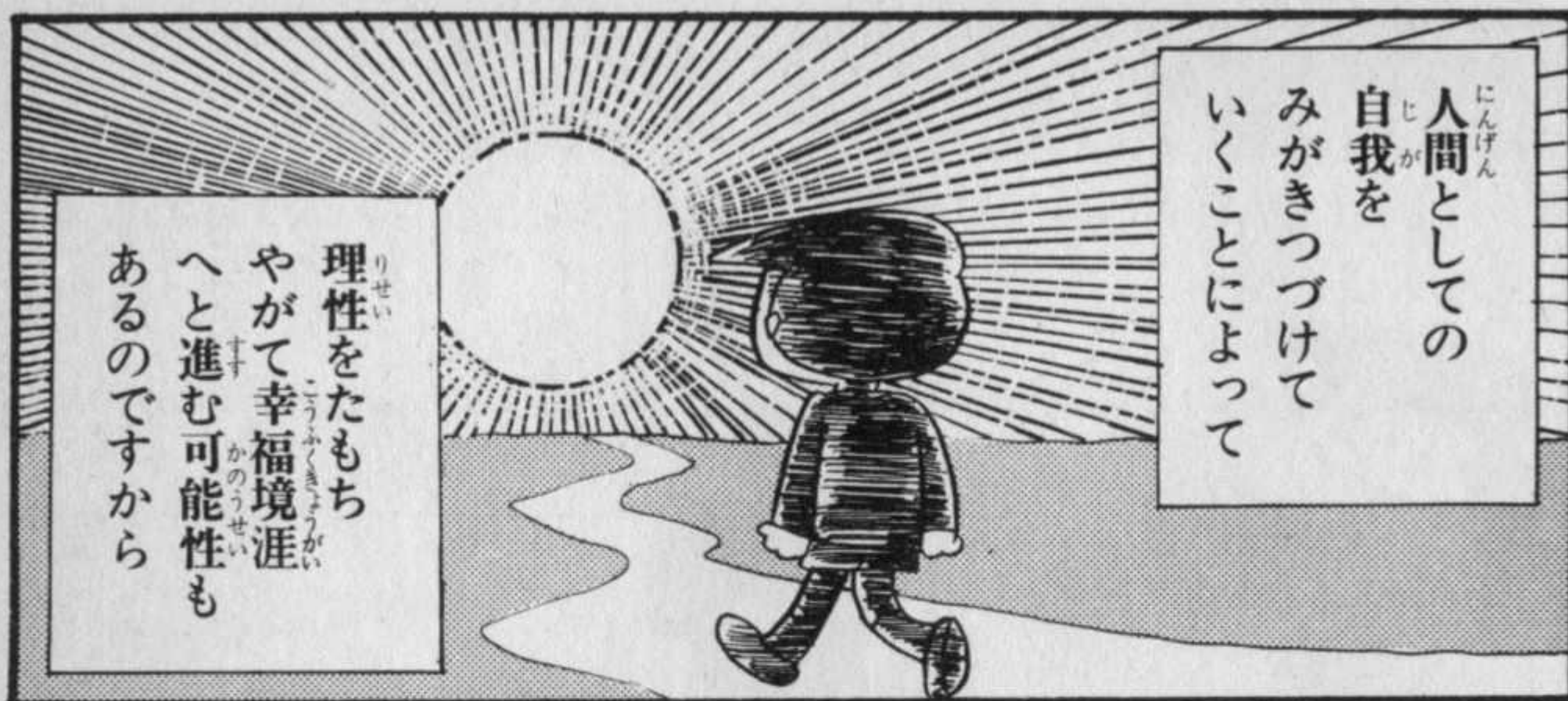


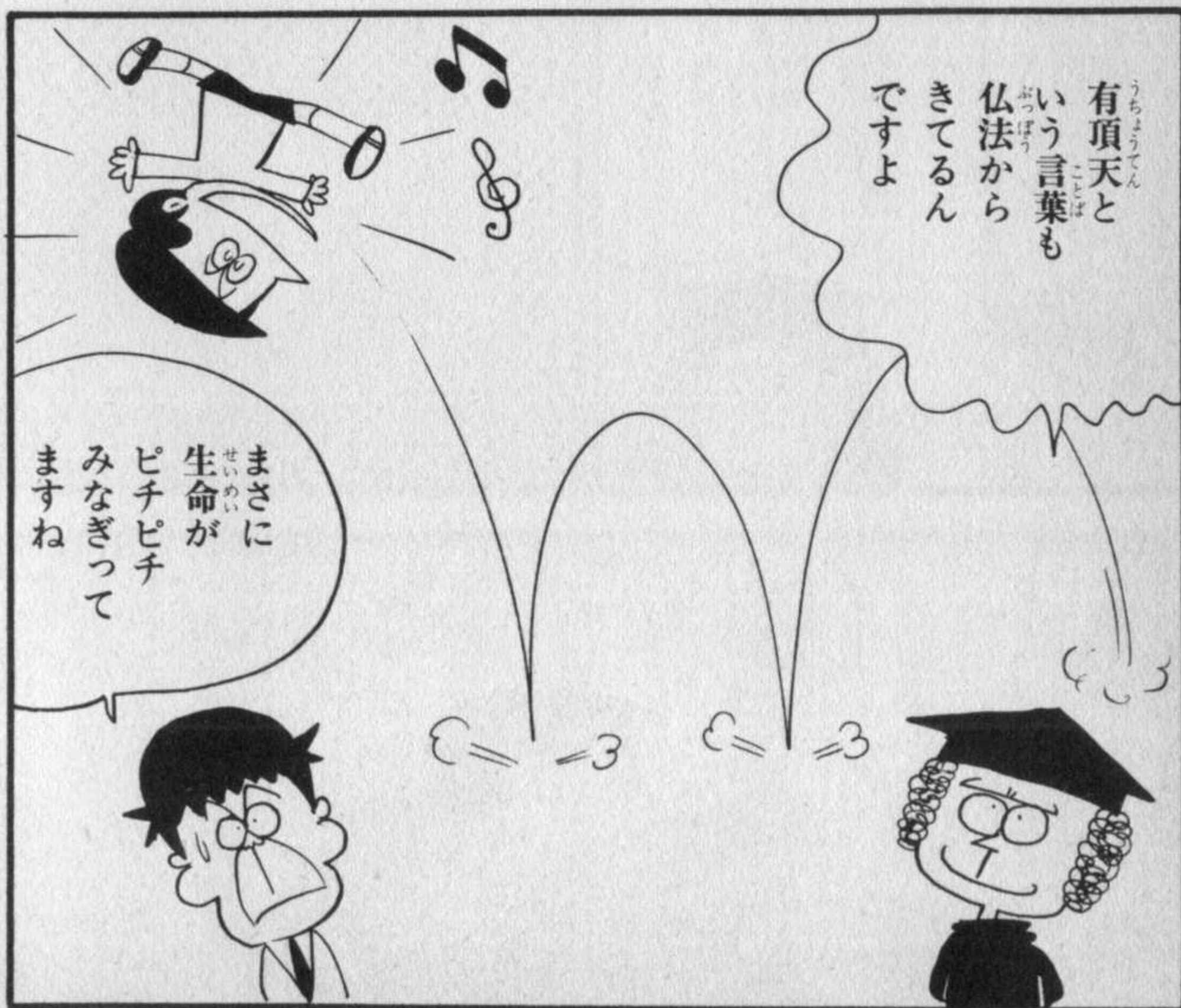


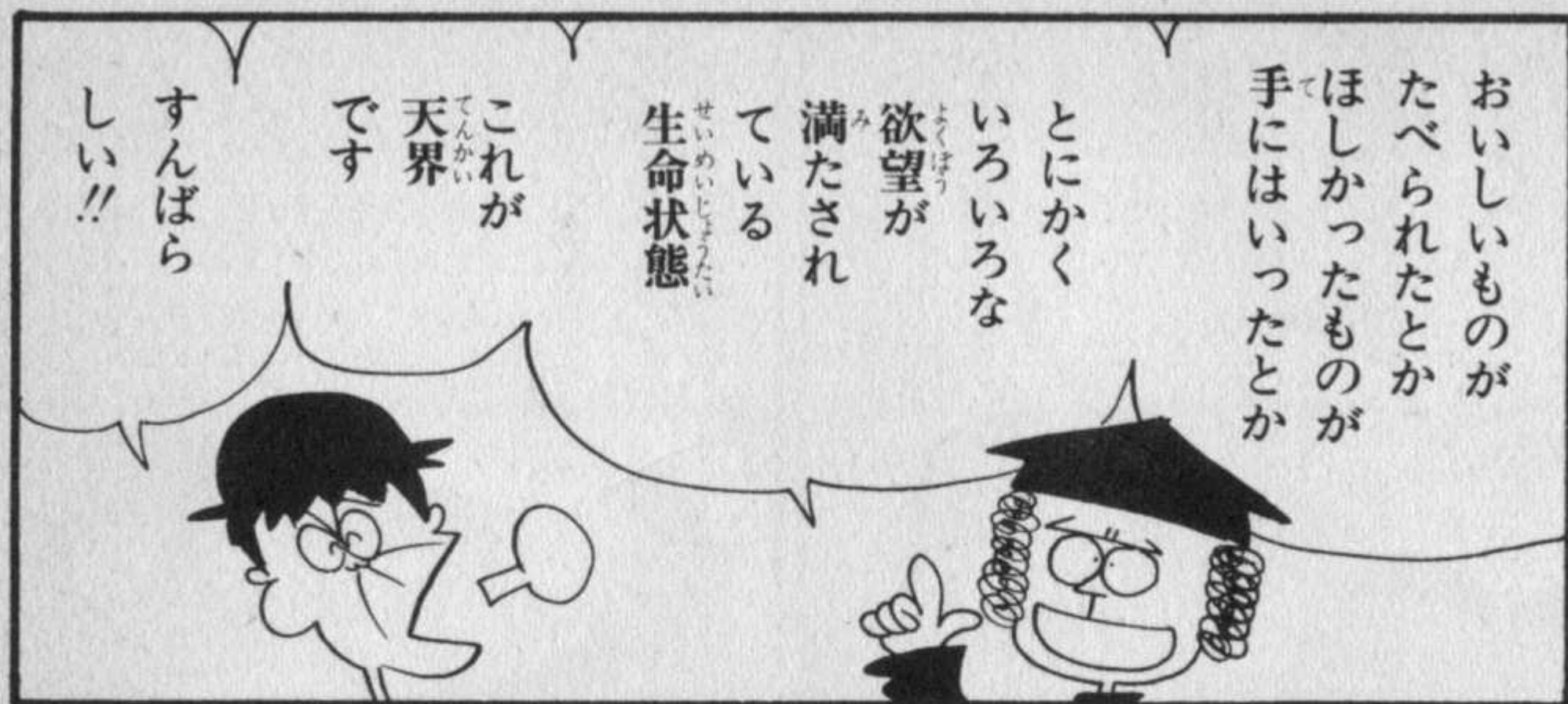
まんいん電車に
もまれて
やっと家の近くまで
帰ってきたとき.....











なんで
てんかい
天界が
おそろしいん
ですか？

さつき
オール5をとった
じっかいほう
十界坊やを
みてごらん

おいつ
ぼくは
オール5を
とった
おれい
男だぞ

へへーっ

かた
もめい

くつ
みがけ

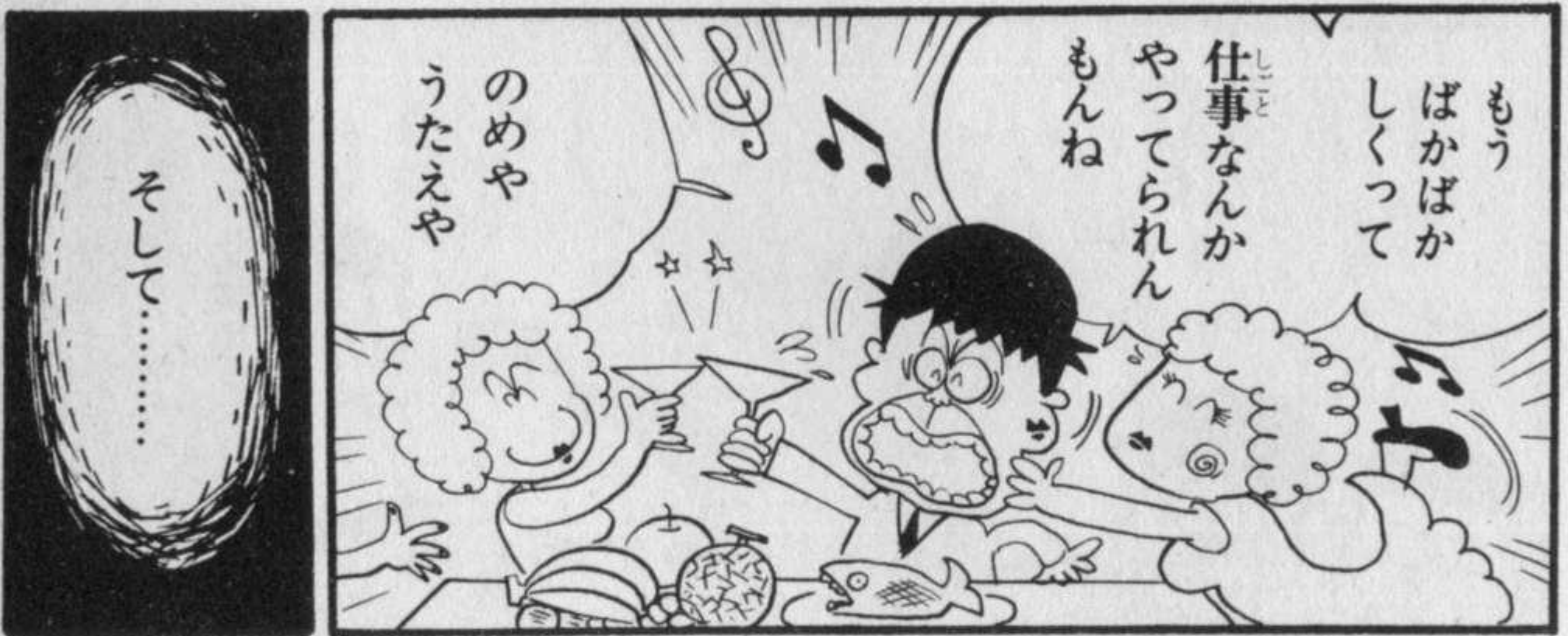
わっはっは
えー
きもち
だなあ

な、な、な
なんです
ありや

てんかい
天界の
ましよう
魔性が
すがた
姿を
あら
現わし
はじめたの
です

ましよう
魔性
？

ひと
人を人とも
おも
思わなく
なるの
ですね……

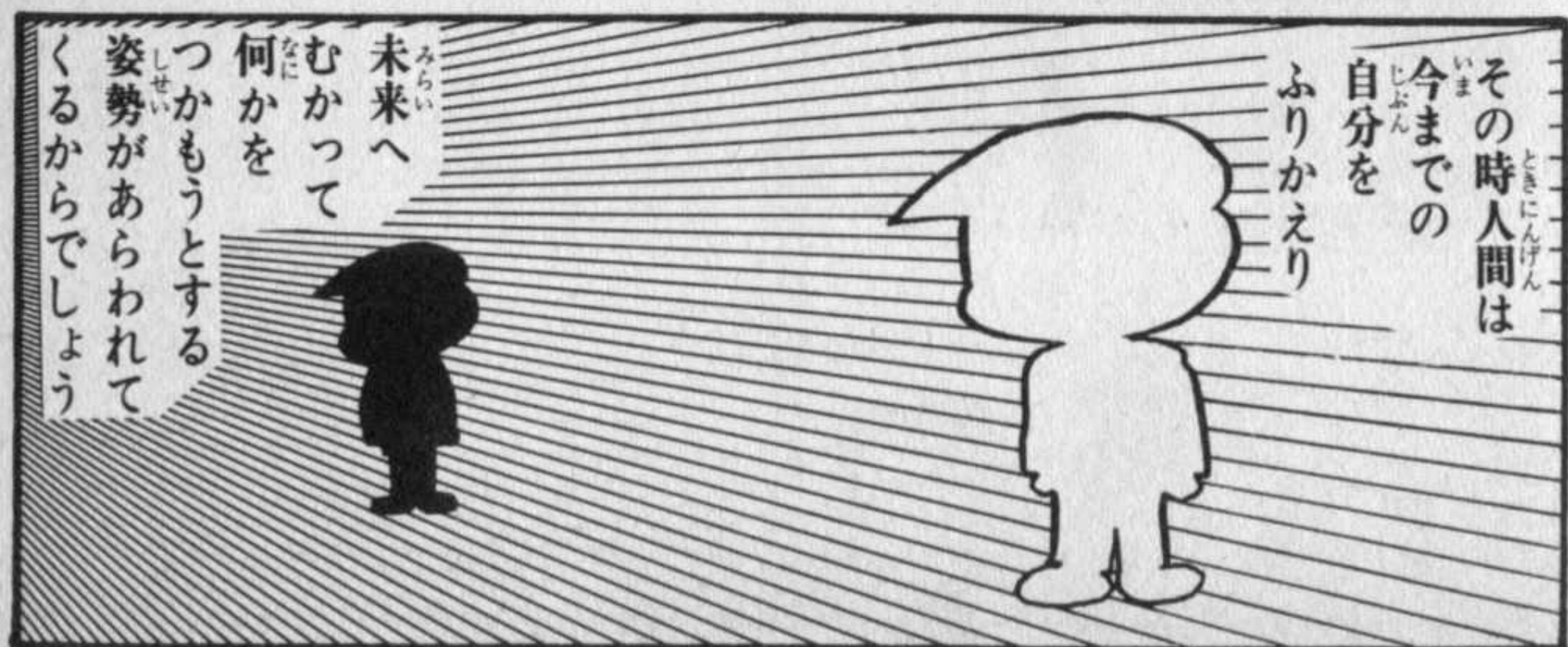




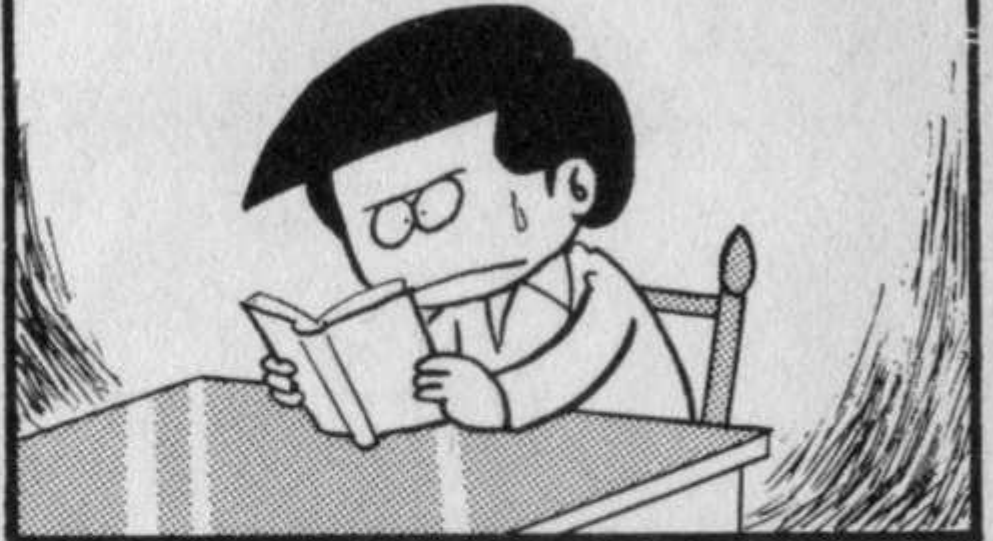








本を読んで
人生の
生き方を
つかもうと
努力を
はじめます



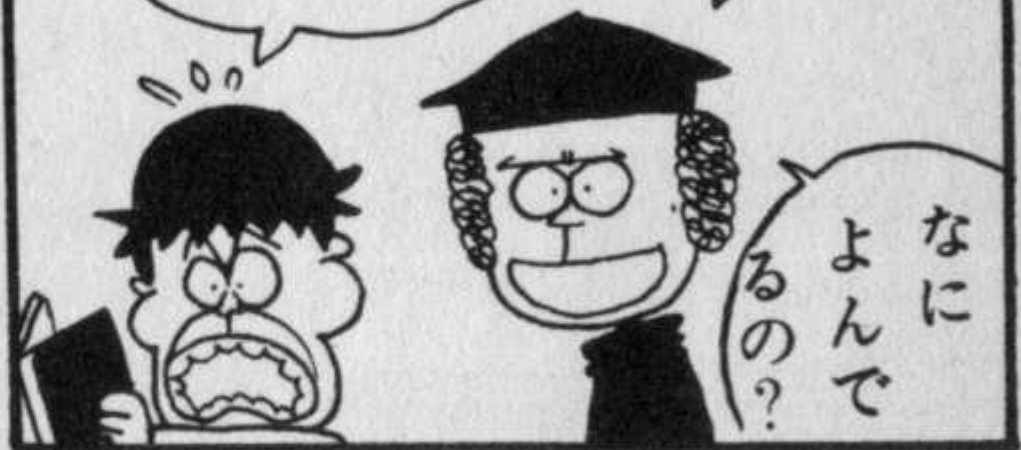
心を強く
ゆさぶるような
文章との
出会い……

感激の波が
自分の人生をも
変えていく
気持ちになるでしょう



それが
声聞界の
生命
です

わーっ
すごい
うーん
すごい！



なに
よんで
るの？

このマンガ
とっても
おもしろ
い！！

そんなの
だめっ



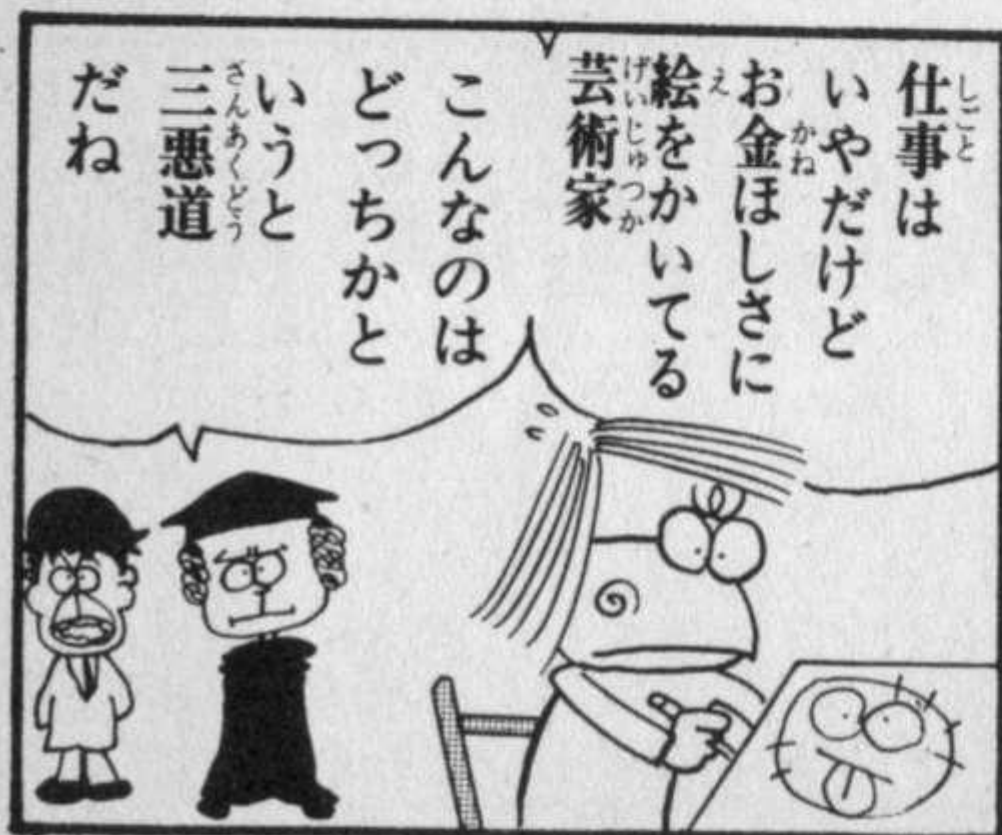
科学者なんか
必死で研究に
とりくんで
いる……



わたしたちが
おんがく
音楽を聞いて
感動する……

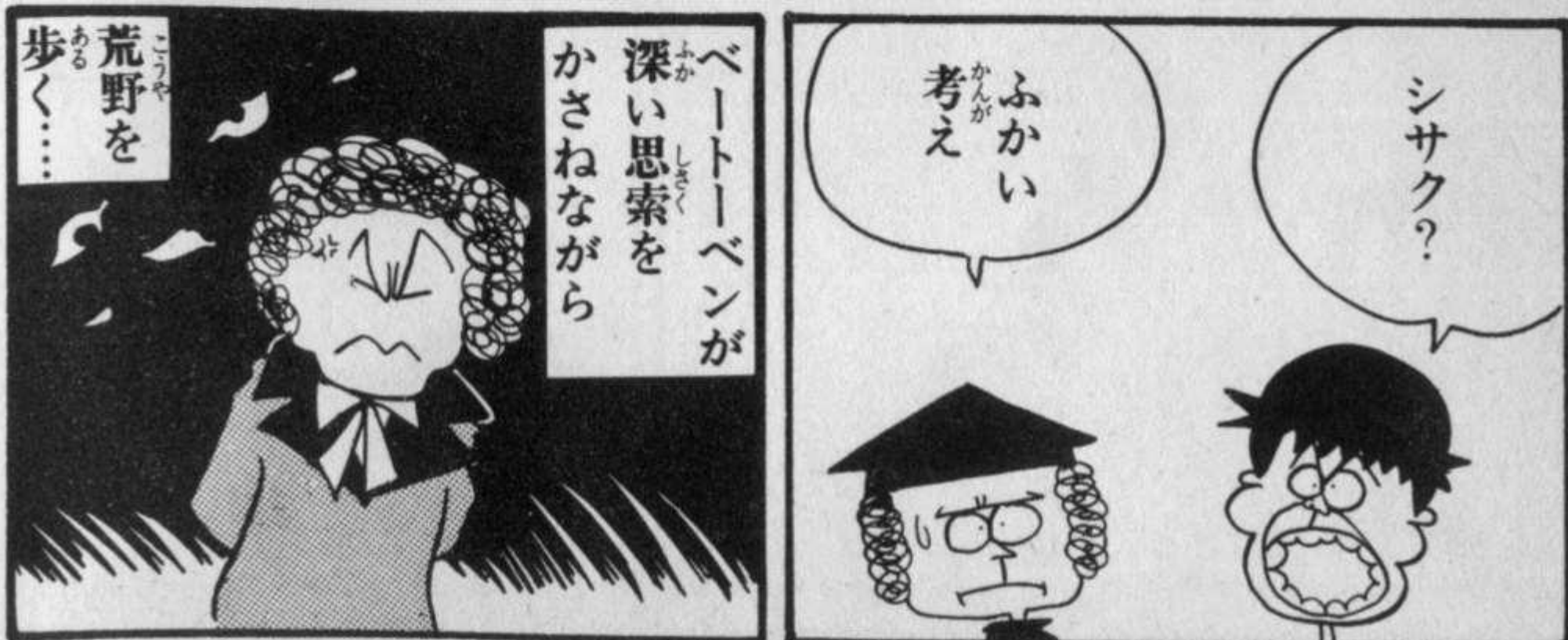
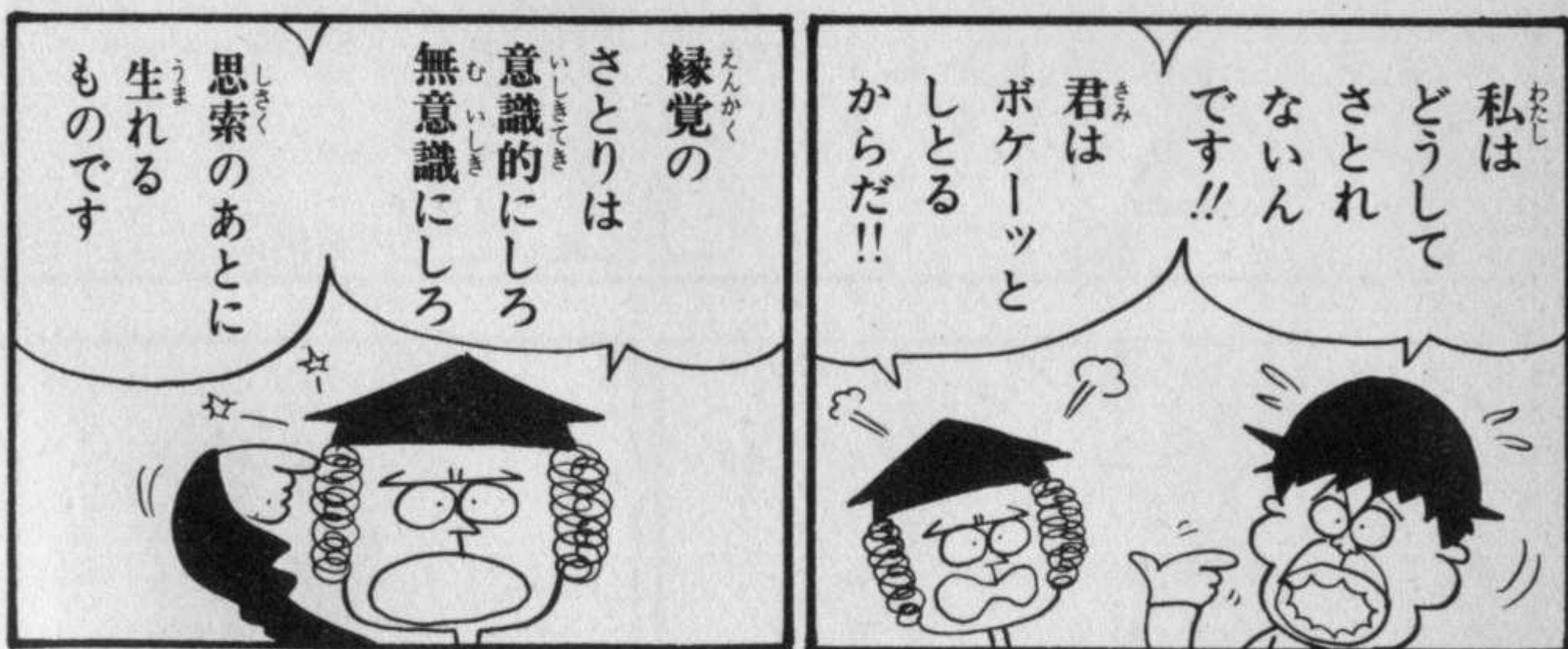
すばら
しい！！









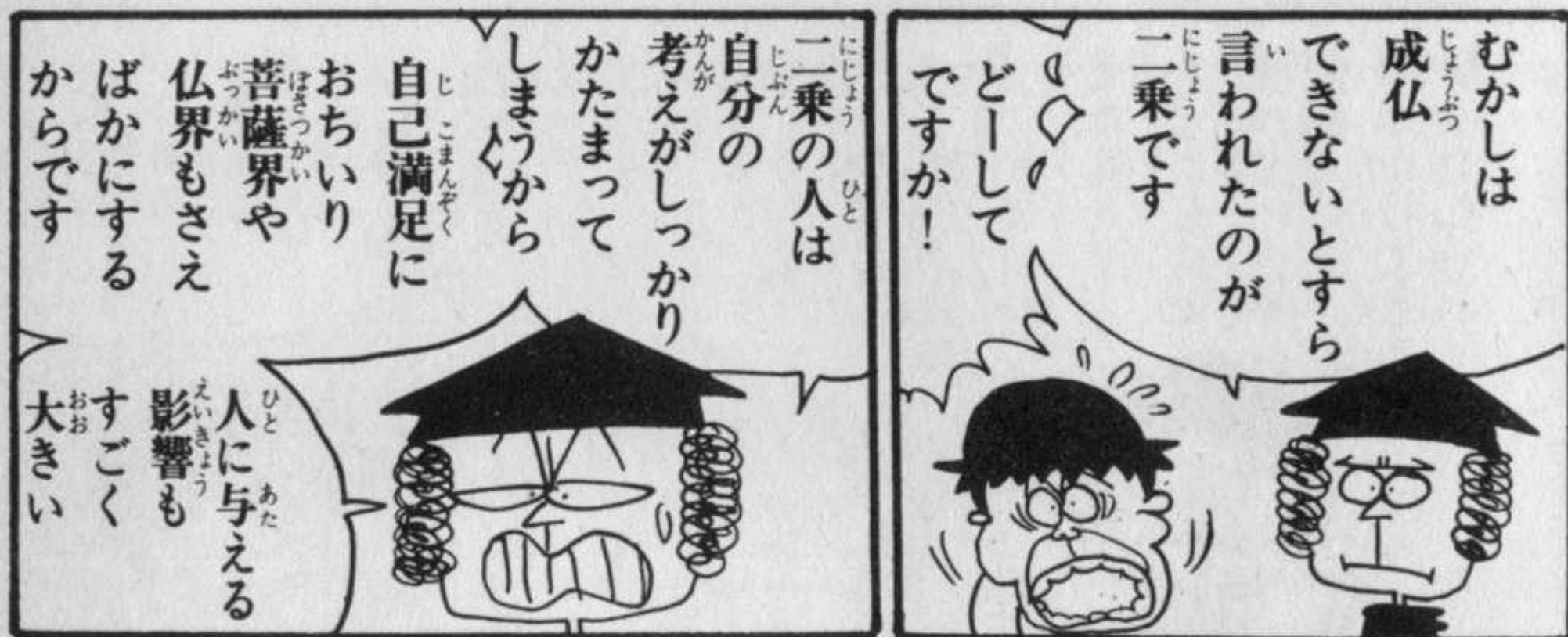








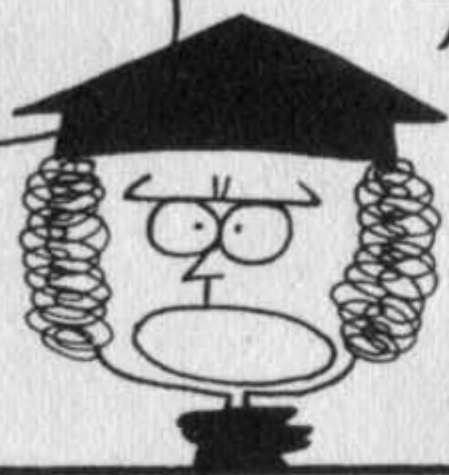




9 菩薩界

六道輪廻を
すぎ……

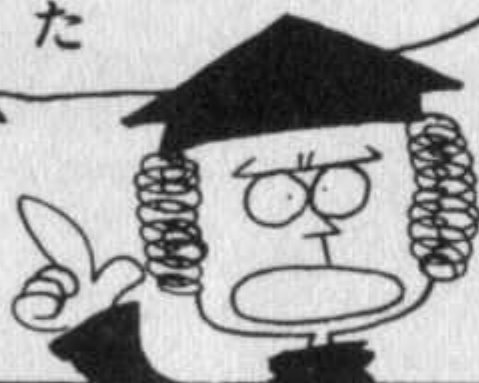
二乗の
生命まで
行ってみただけ……



まだ
真実の
幸福は
つかめ
ない

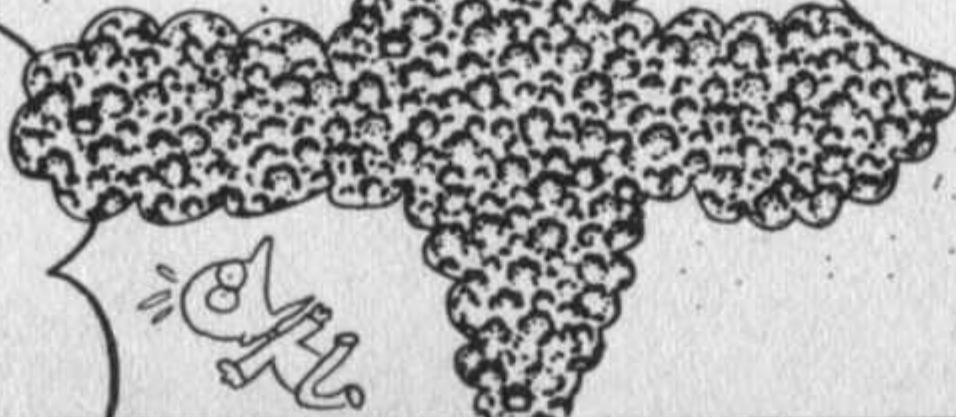
なぜ
でしょ？

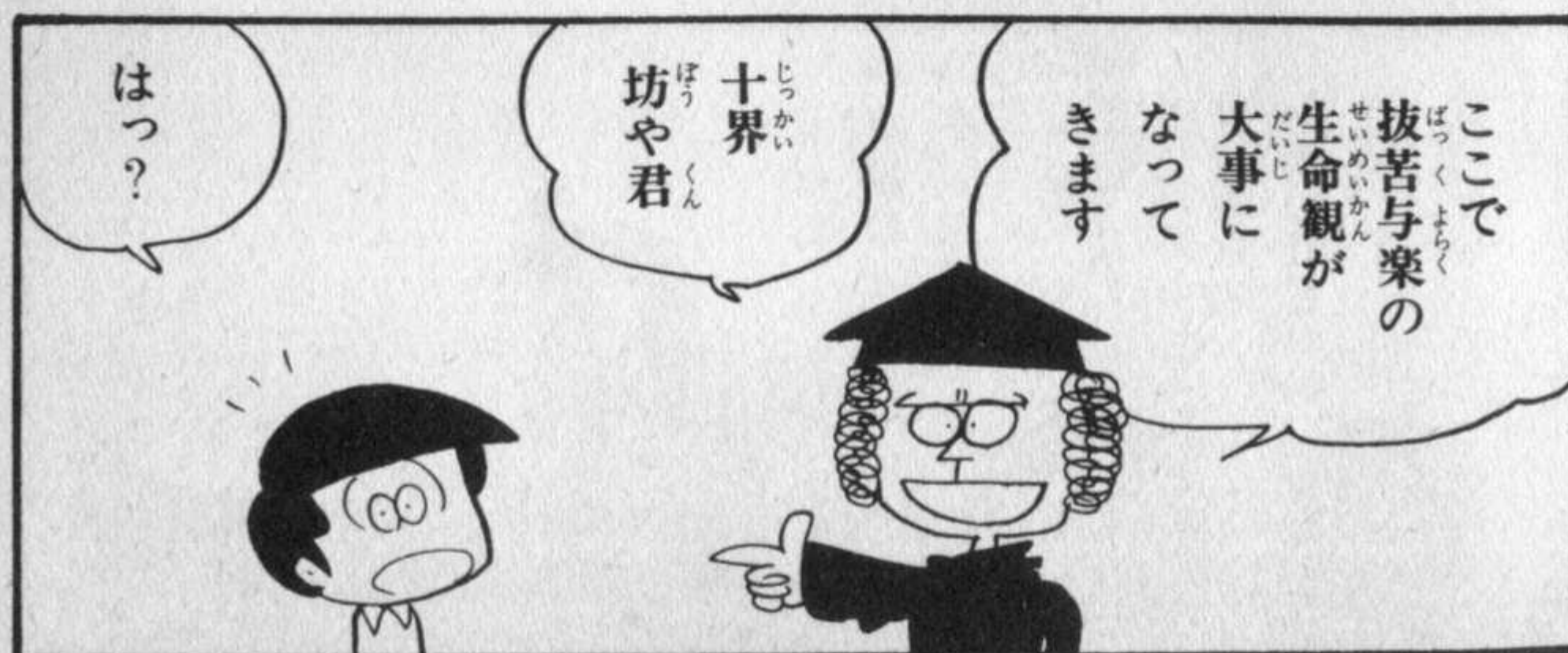
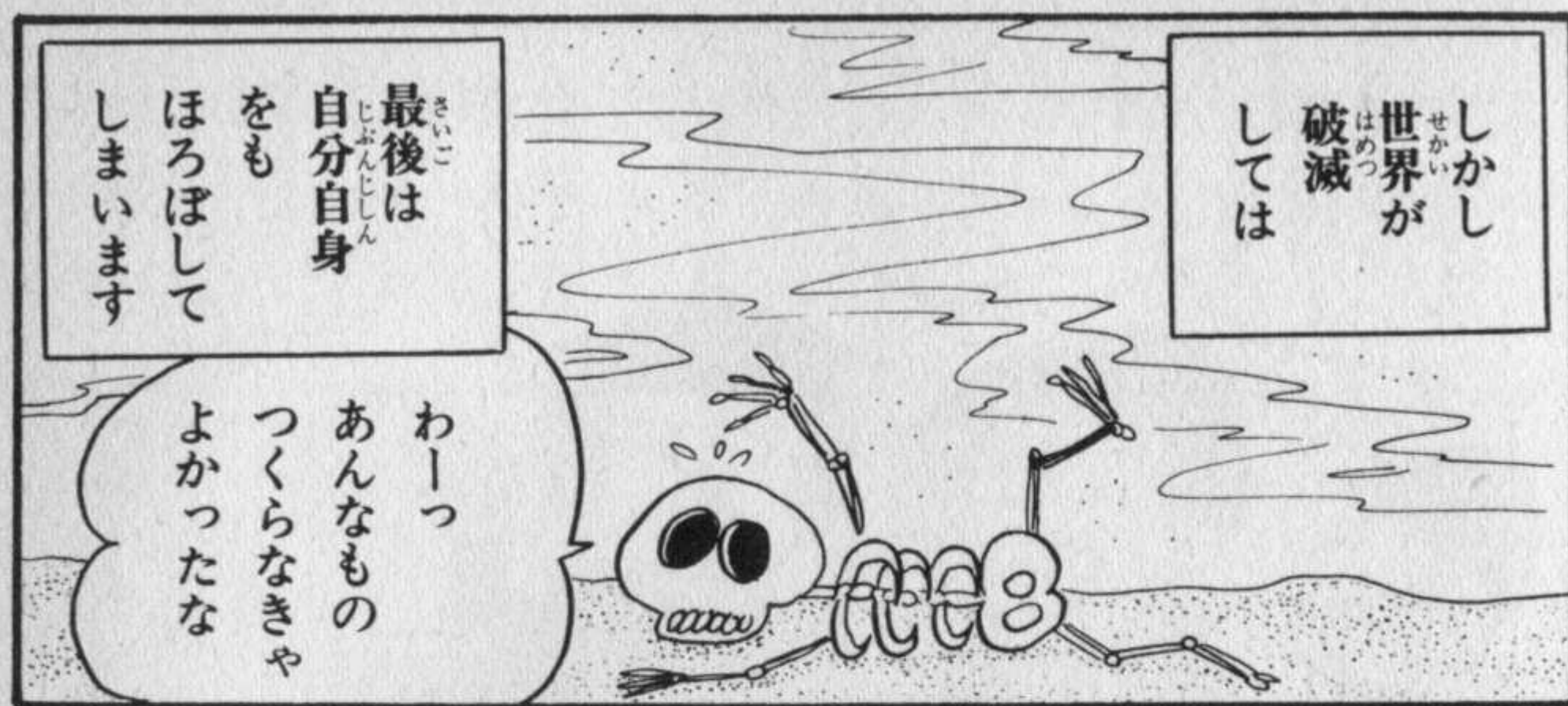
それは
今まで
自分の
幸福だけを
おいかけてきた
からです



とくに
二乗は
自分だけの
いきがいを
追求して

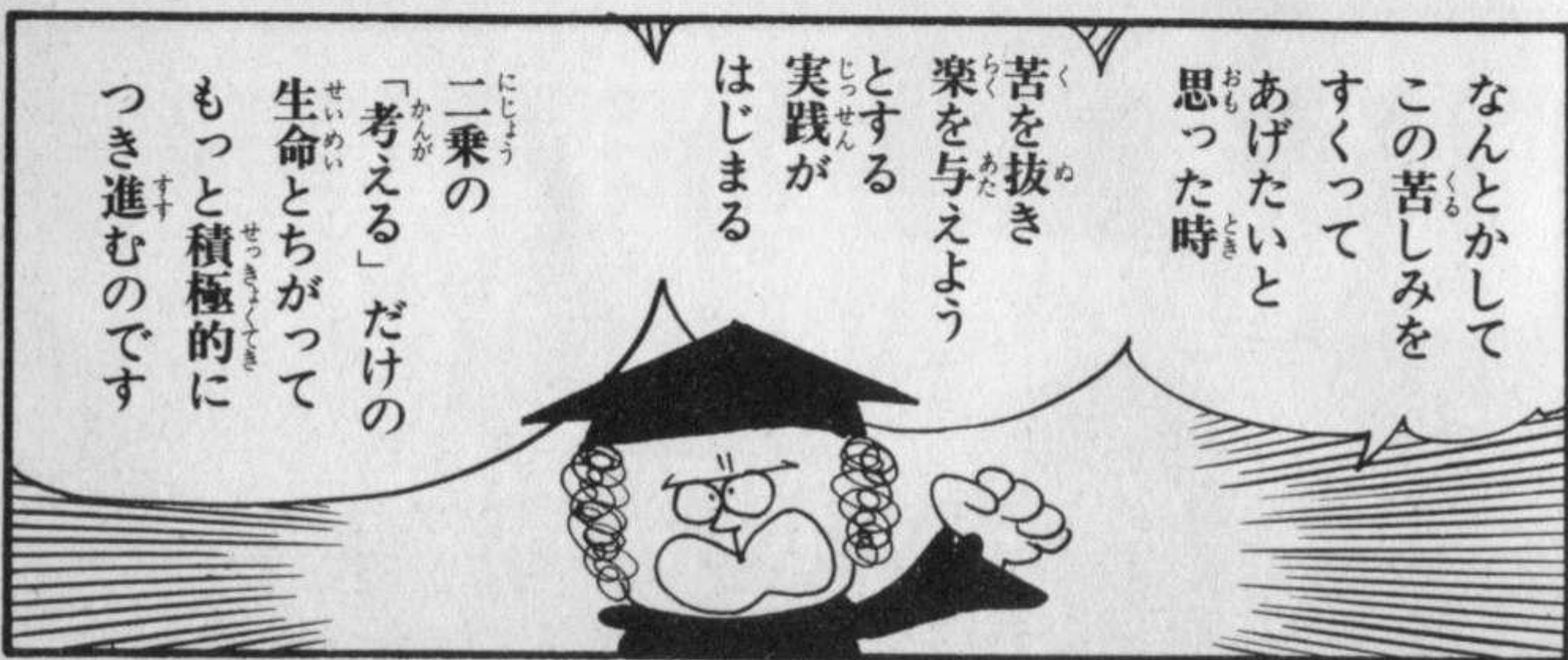
他人が
不幸に
なっても
平気でした





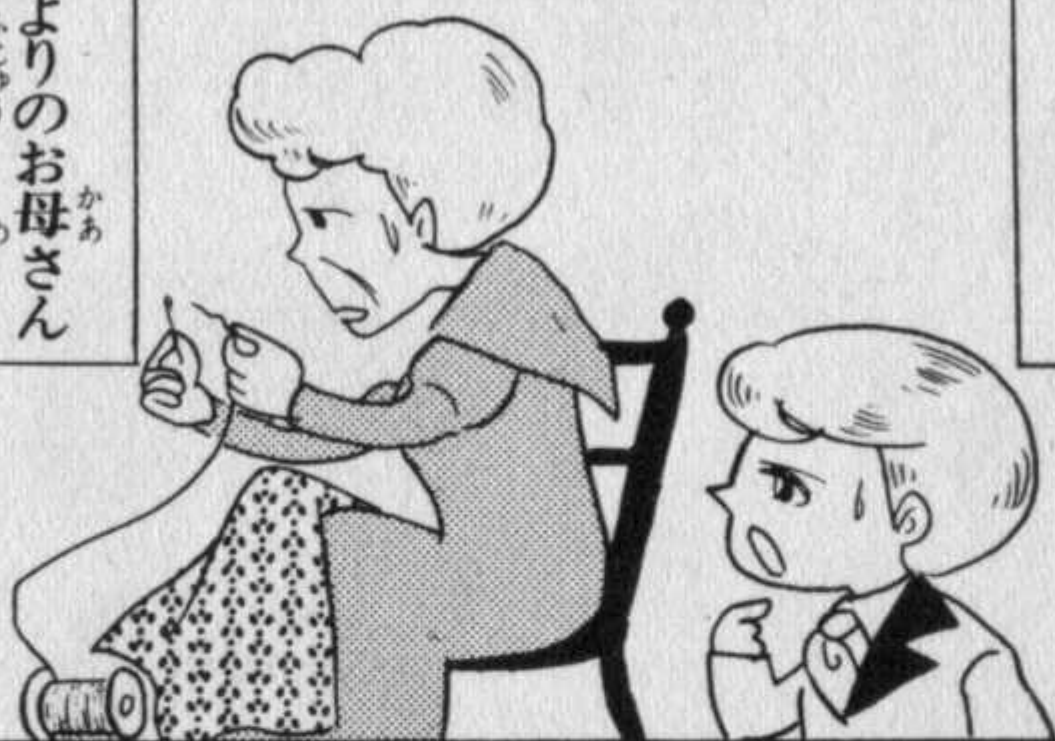


第7章 十界論



こういう
話も
あります

とし
年よりのお母さん
が不自由な目
でぬいものを
しているのを
見た少年が……



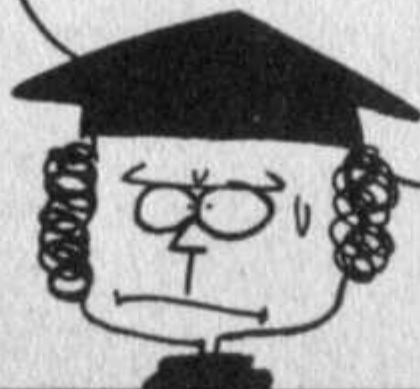
世のなかには
お母さん
おなじように
夜おそくまで
はりしごとを
している人
がたくさん
いるのだ……

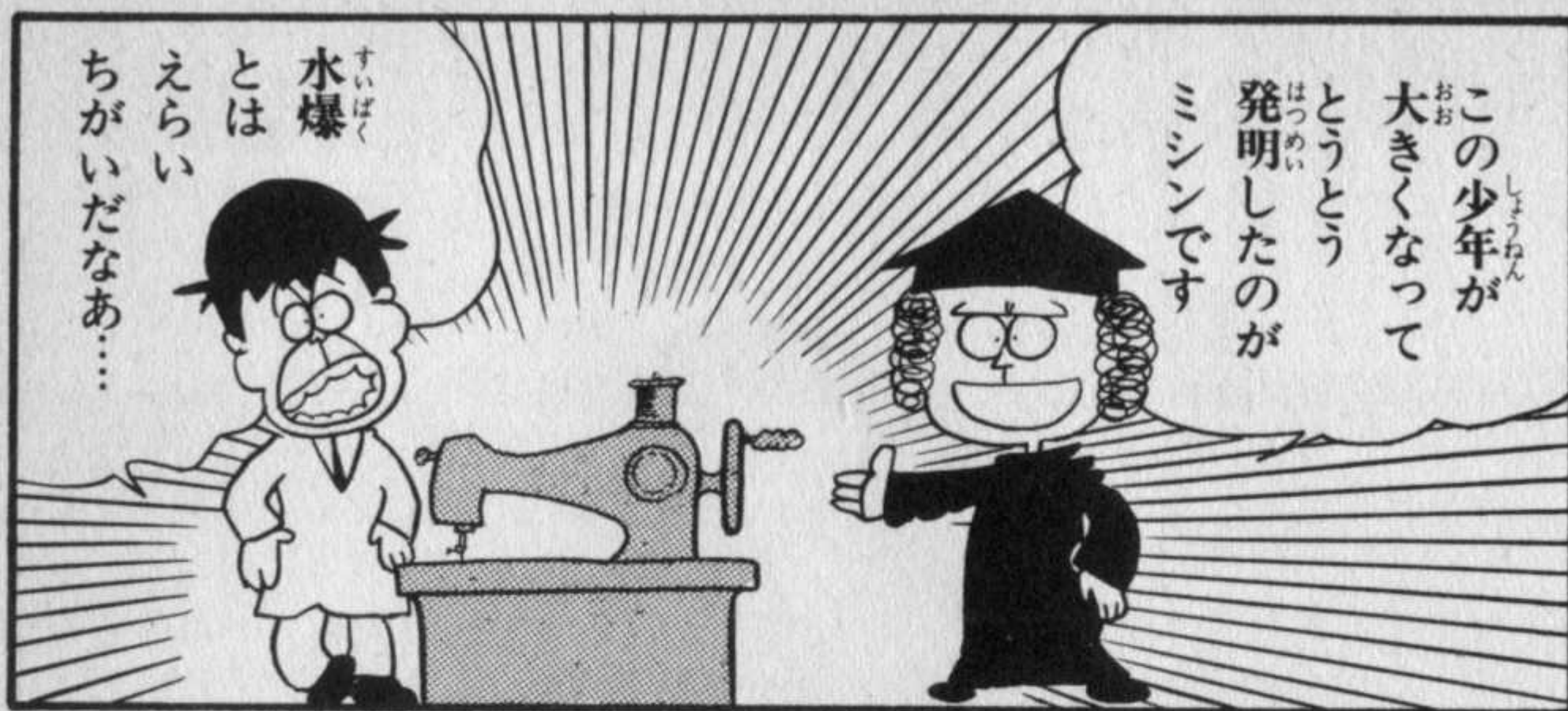
なんとかして
そんな人びとに
楽を
させて
あげたい……



この時の
少年の心は
すでに
お母さん
だけでなく
無限の人びとの
苦しみと一体に
なっている
「同苦」
している

えらい
やつちや
なあ……





人命救助も
菩薩の
行動……



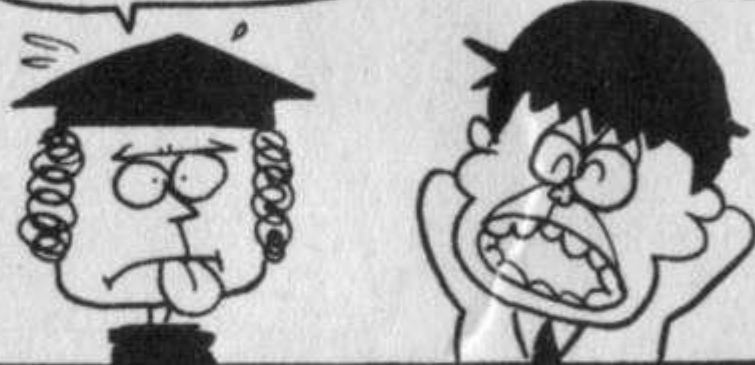
慈善
事業も
菩薩の
生命の
はたらき
です



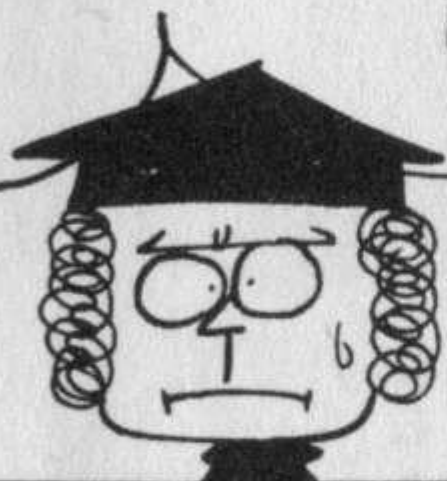
不幸な人を
救おう

それが
幸福への
道です
か？

さんねん
ながら……



今まで
のべたのは
進化の
菩薩と
いつて
最高の
菩薩では
ないのです



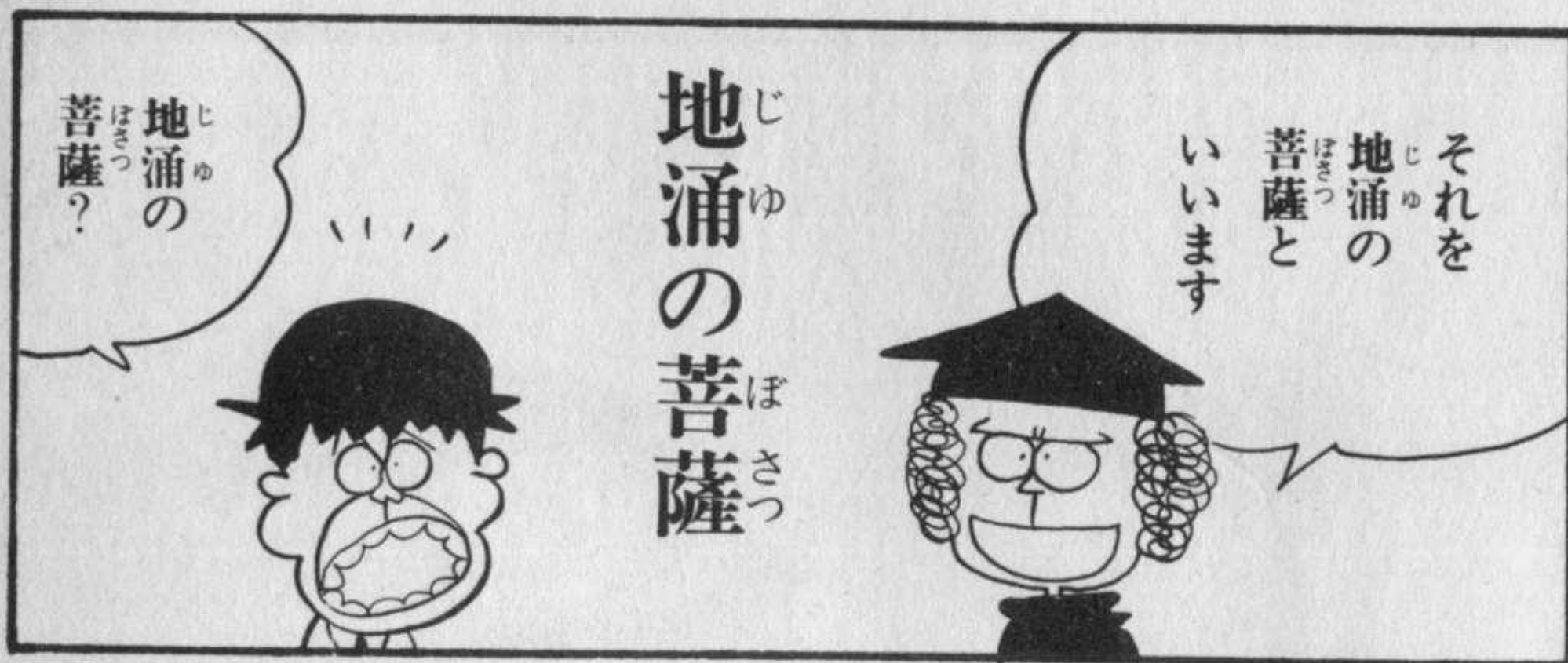
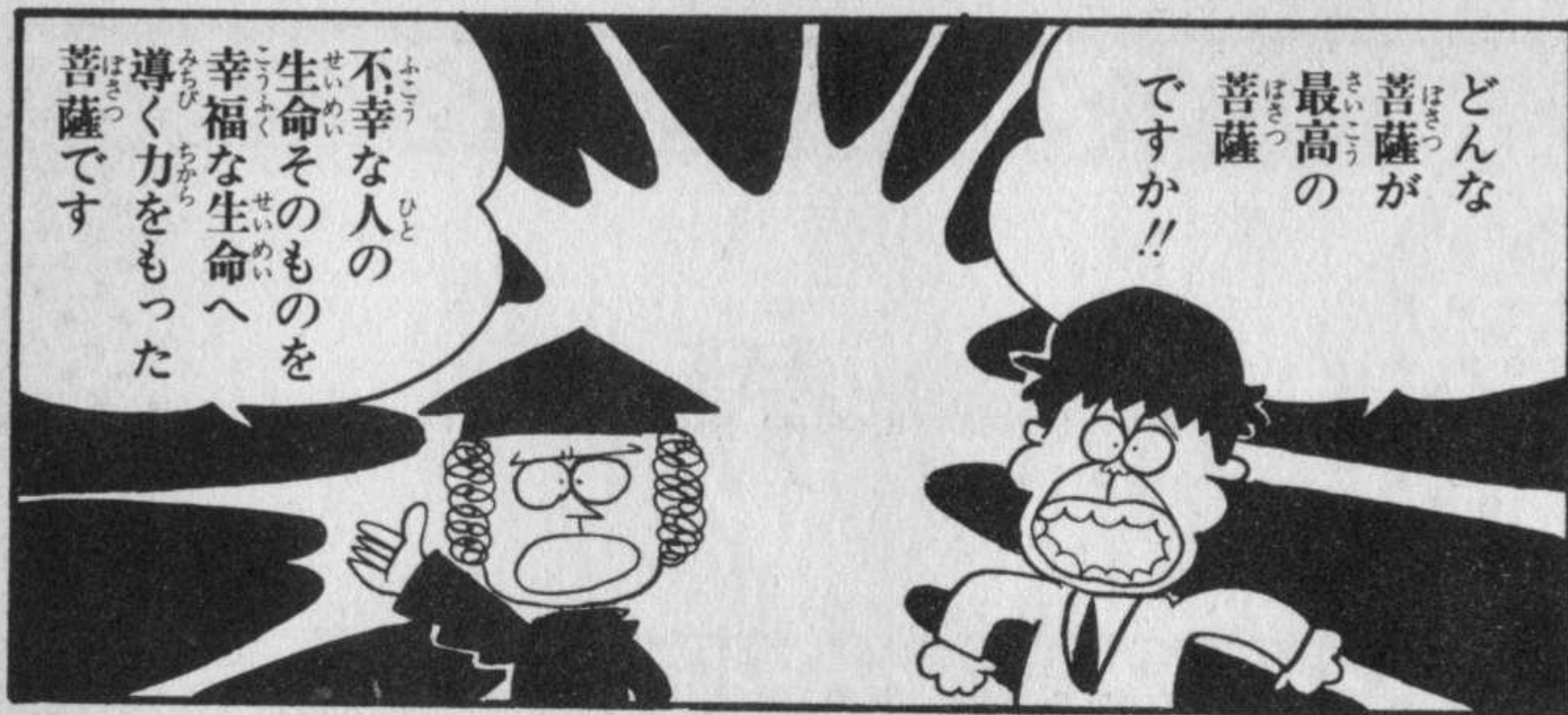
あなたが
いくら
人に
お金を
あげても

もらった
人が
必ずしも
幸福に
なれるとは
限りませんし

あなたは
びんぼうに
なるばかり
です

なんだ
なんだ



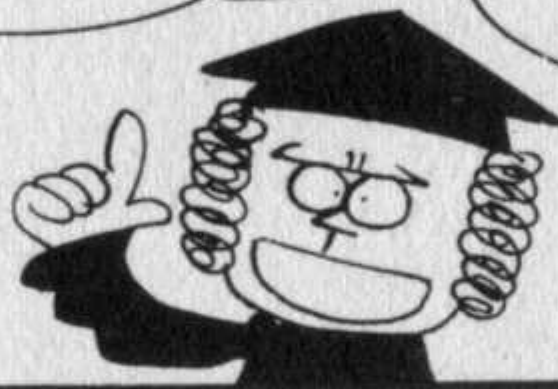


10 かい ぶつ 界 仏

さてこの
マンガが
はじまって
いままで……

いろんな
ところで
ぶっかい
仏界の
いちめん
一面を
あなたに
おしえて
きましたね

そうでし
たっけ

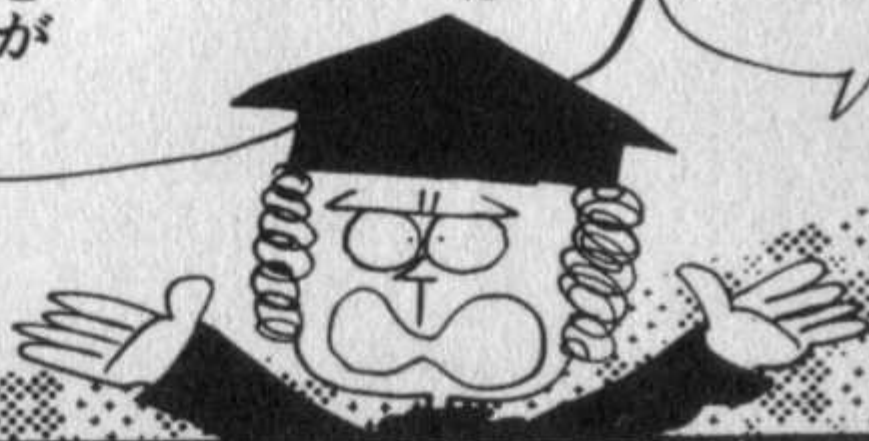


たとえば
第2章の
因果論で

われわれは
過去
現在
未来の
「三世」を
見ぬくことが
なかなか
できない……

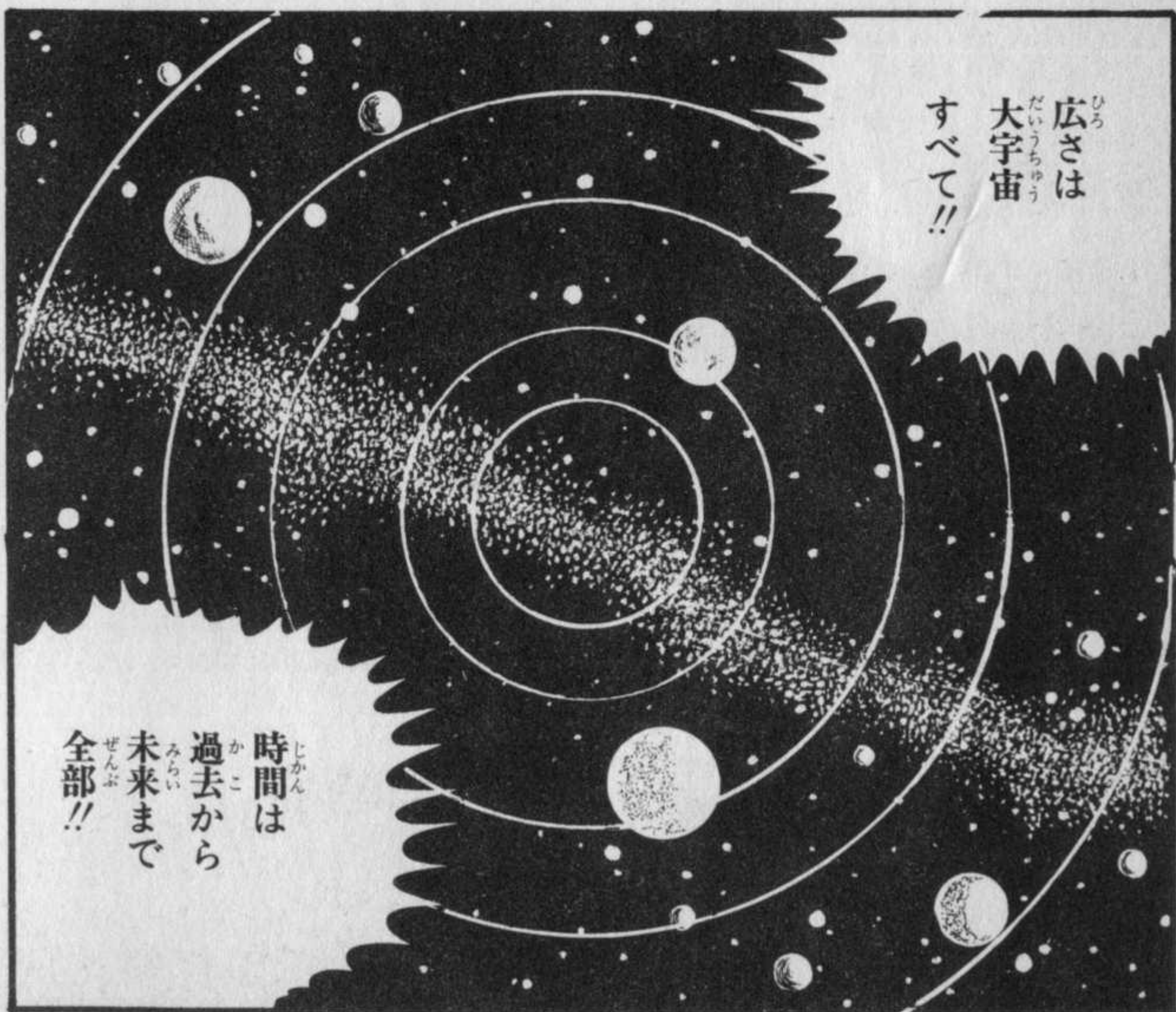
しかし
仏法に
よつてのみ
それが
可能である
……と

うん
思い
だした！



第7章 十界論





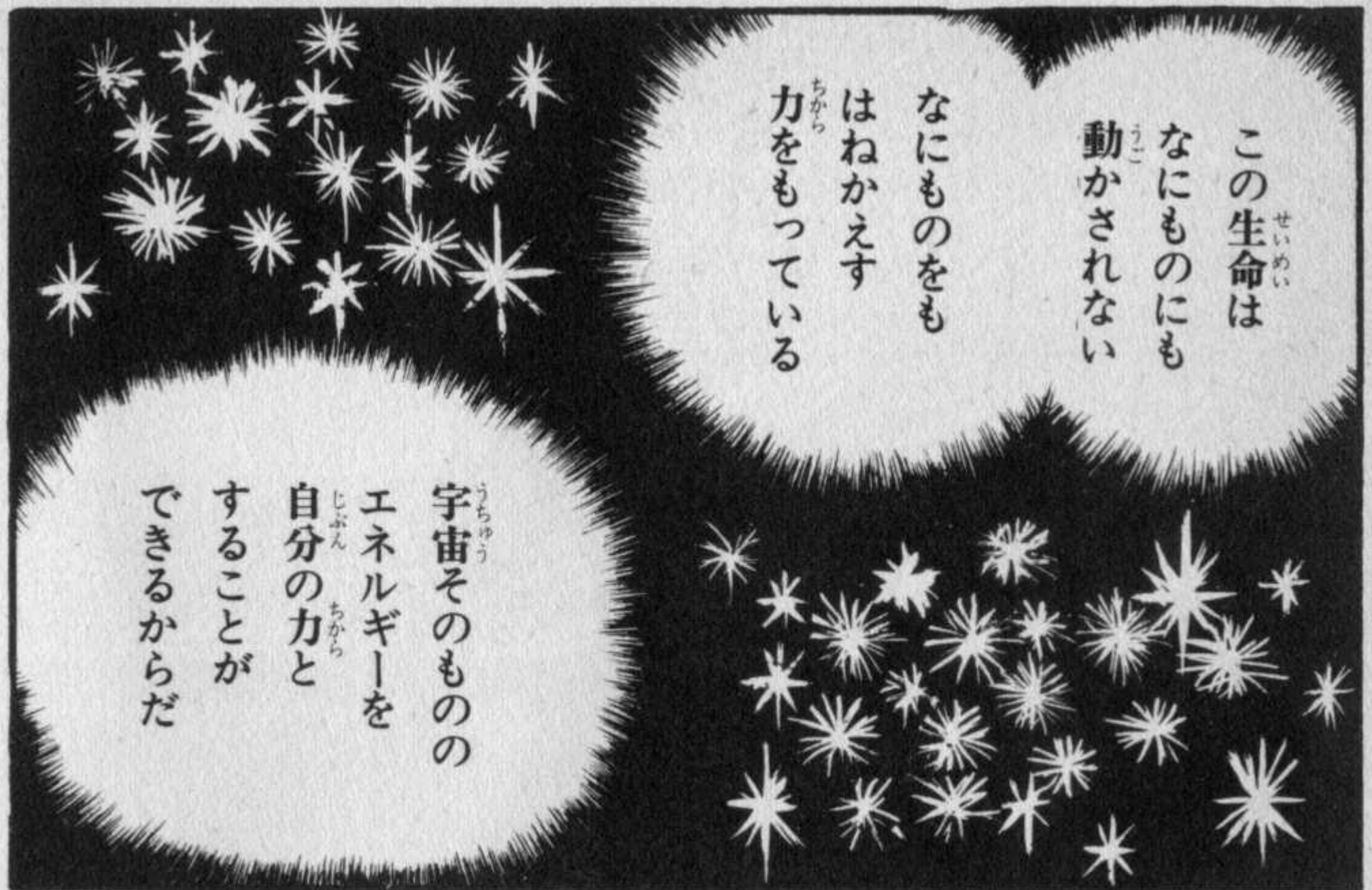
自分自身じぶんじしんの
生命せいめいは
この宇宙うちゅうの
はじまりから
ずっと
あった！

そして
これから
宇宙うちゅうとともに
あり
つづける……

三世さんぜ
十方じゅうほう

それがすべて
自分自身じぶんじしんの
生命せいめいだ

自己じこの
生命せいめいは
永遠えいゑんの広がり
永久えいきゅうの時間じかんを
そのなかに
もっている……



この生命せいめいは
なにものにも
動かうごされない

なにものをも
はねかえす
力ちからをもっている

宇宙うちゅうそのものの
エネルギーを
自分じぶんの力ちからと
することが
できるからだ



その
絶対的ぜったいてき幸福こうふくは
決して
くずれる事ことはない

つねに
最高さいこうの境涯きやうがいへと
自分じぶんを
導みちびくことができる

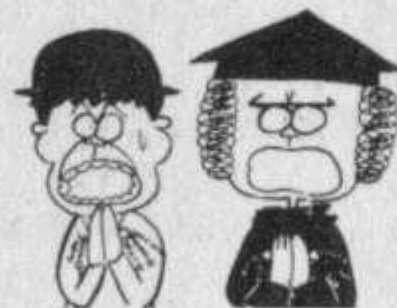
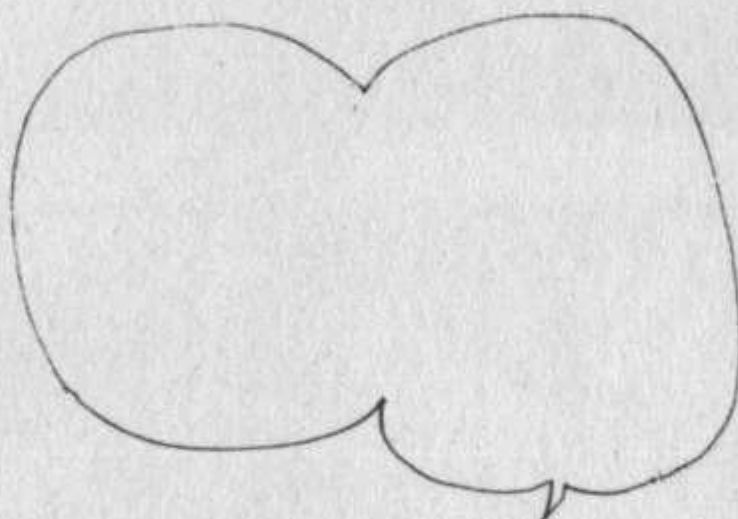
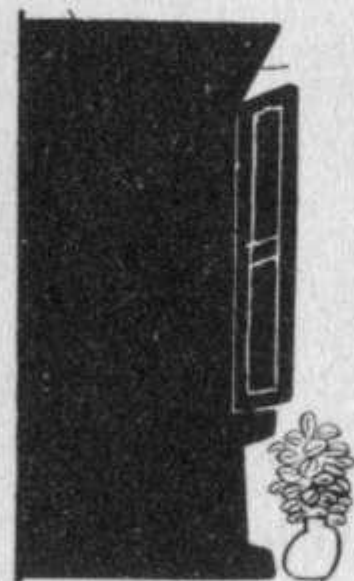
ということとは
全宇宙ぜんうちゅうの生命せいめいをも
幸福こうふくにできる
力ちからをもつ

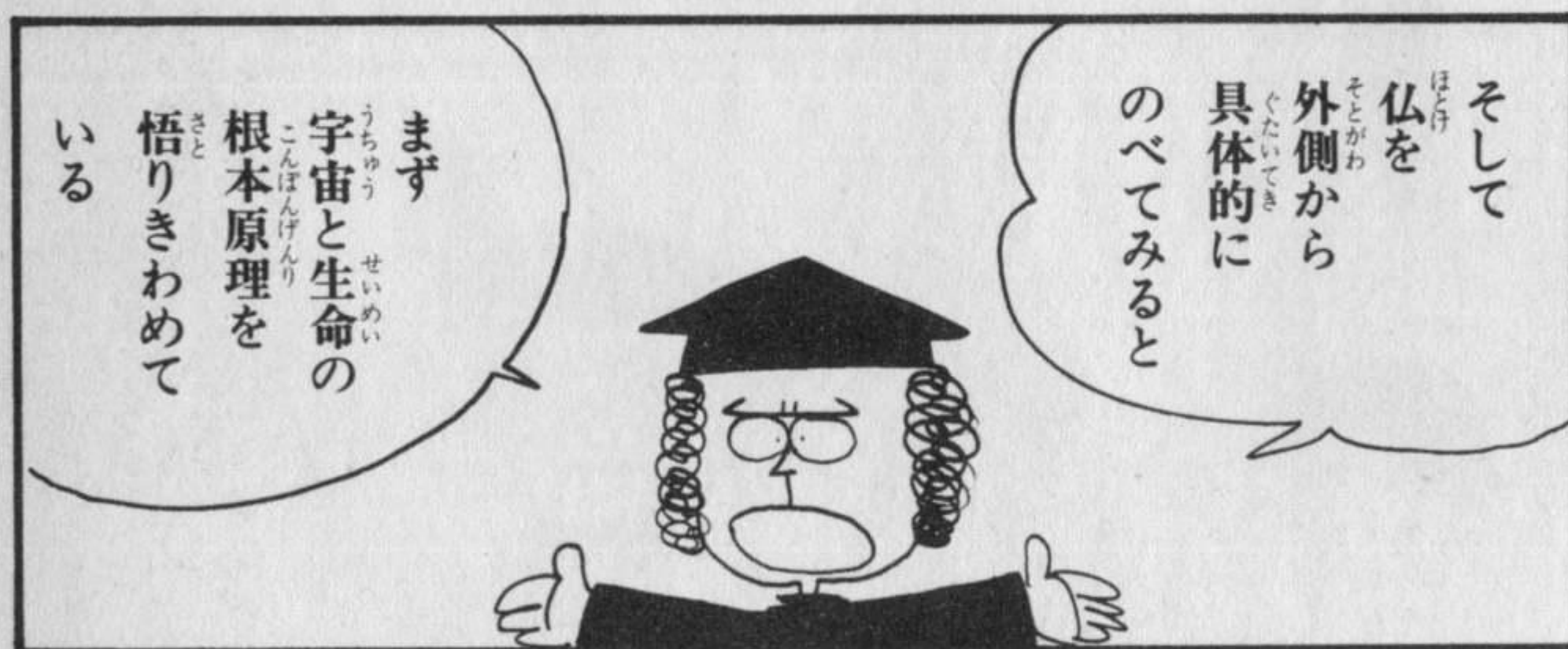
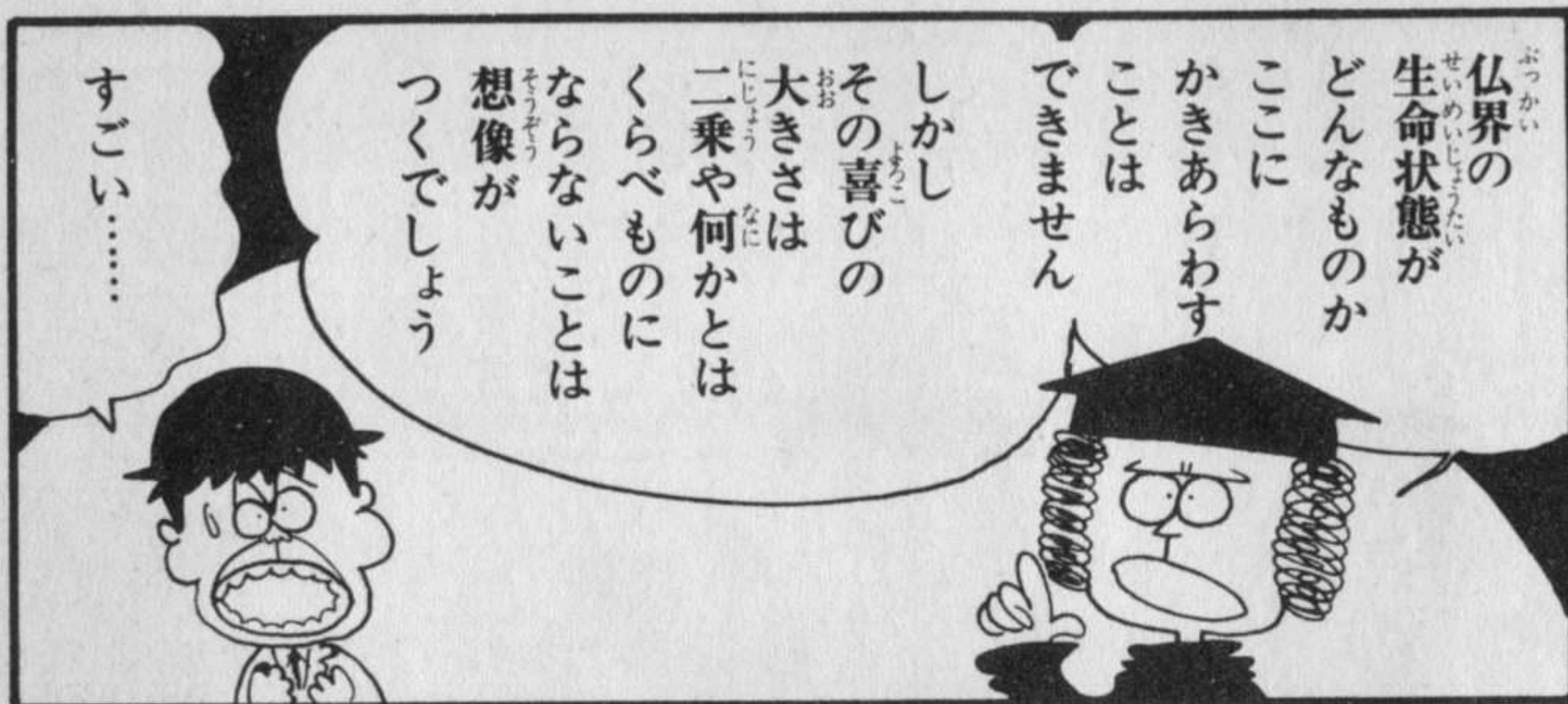
その
ちから
力を……
その
せいめい
生命エネルギーを
つかんだもの……

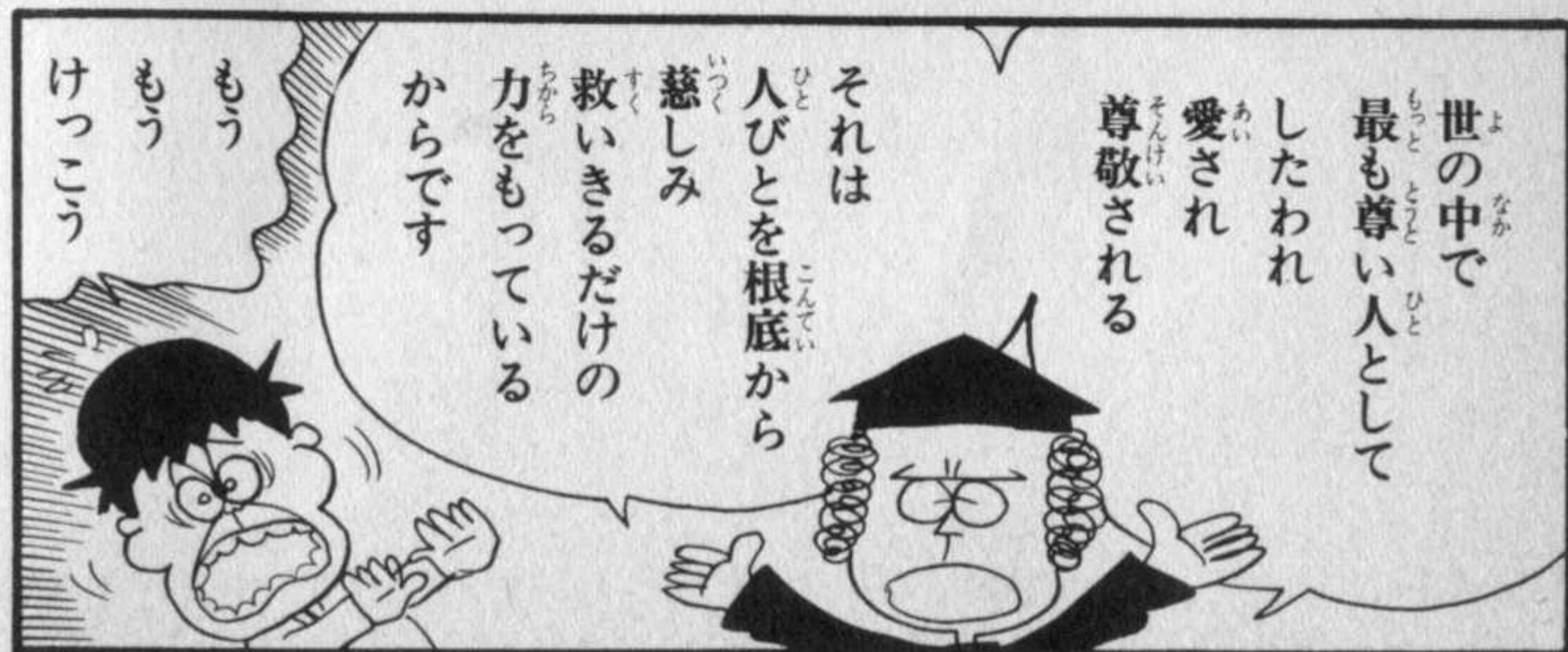
それが
ほとけ
仏だ!!

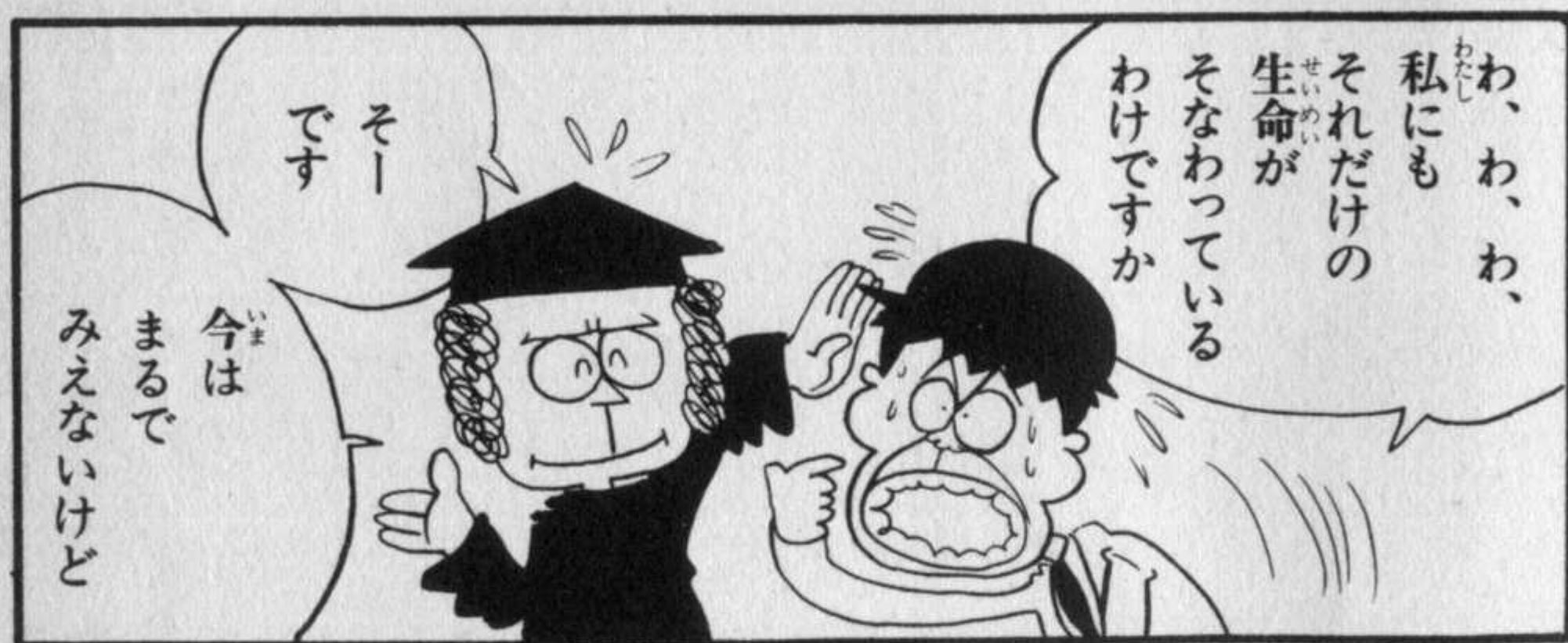
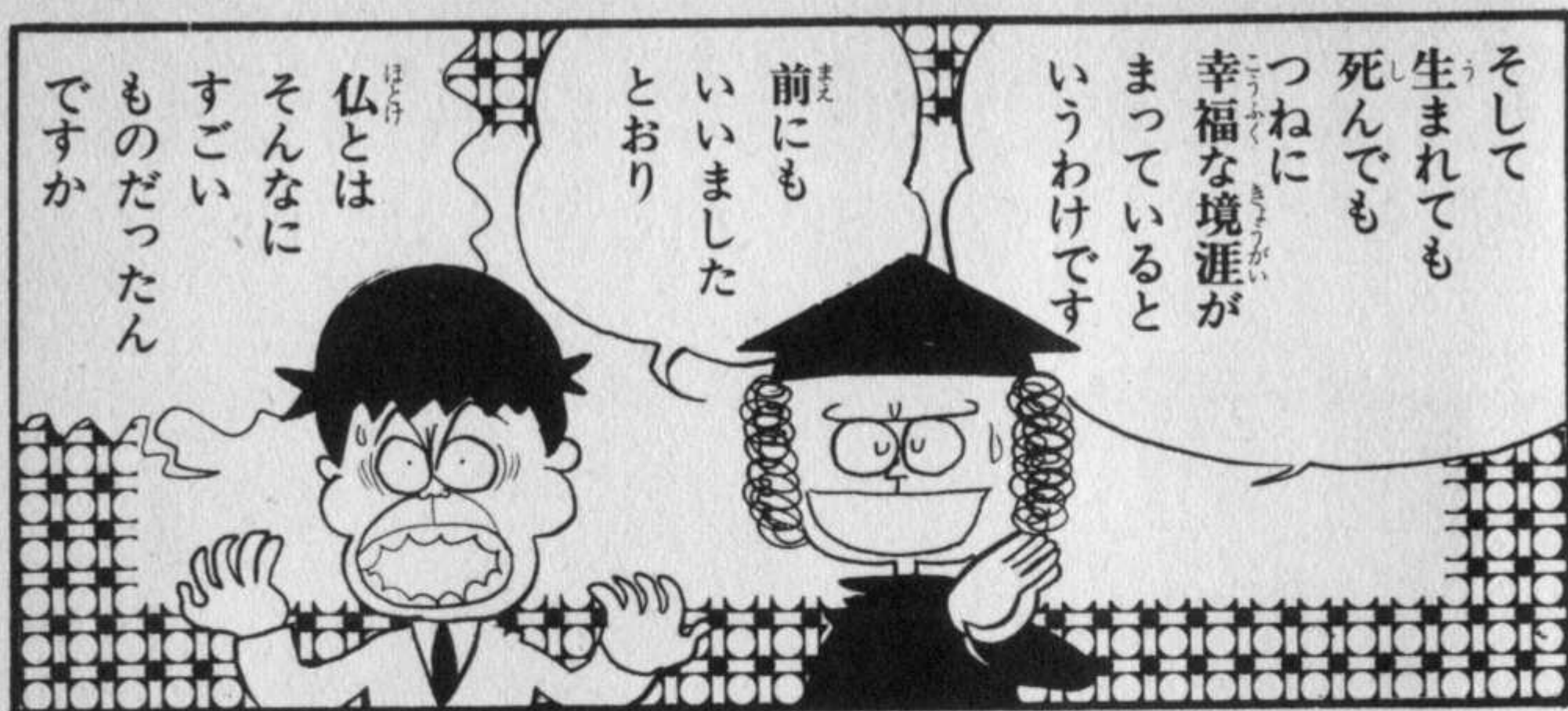
終章

仏の生命

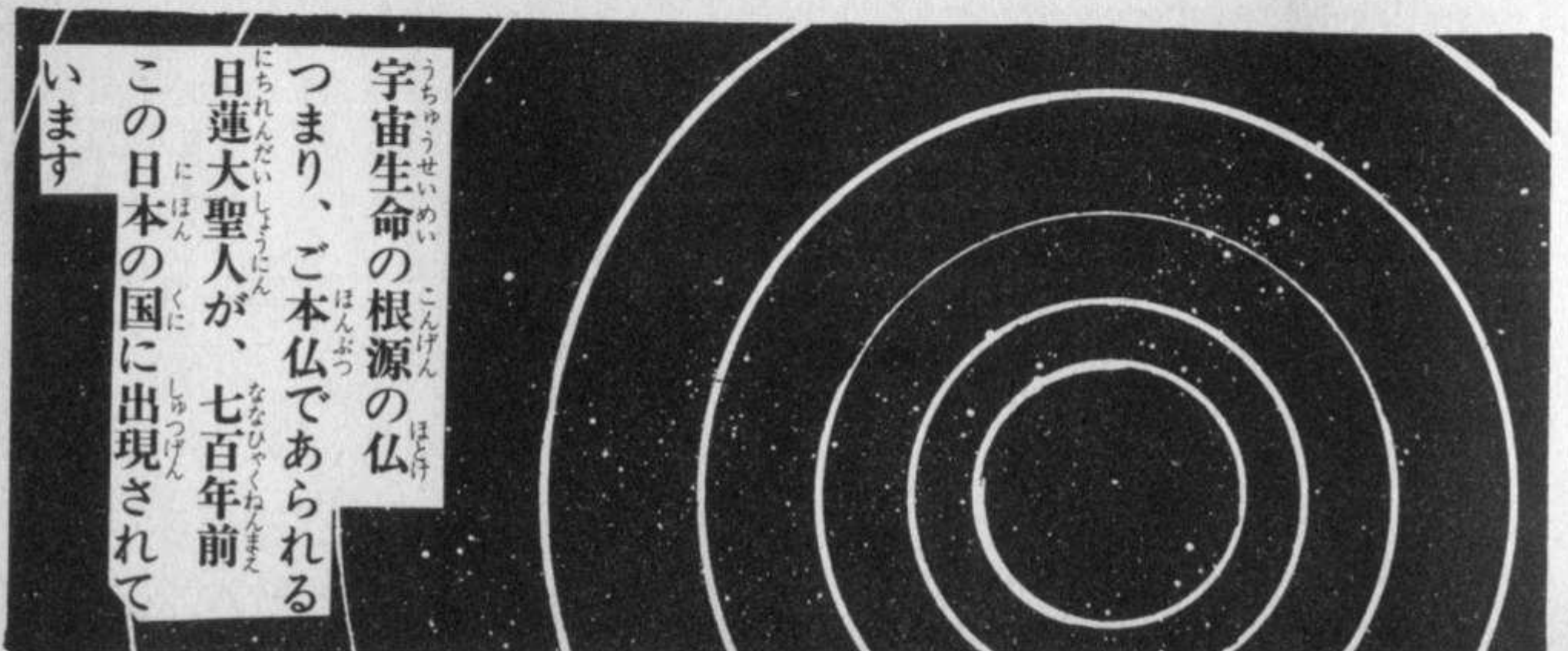










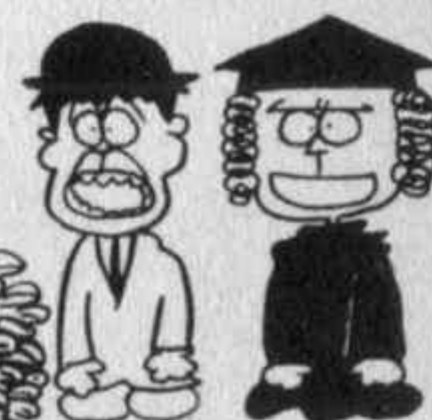
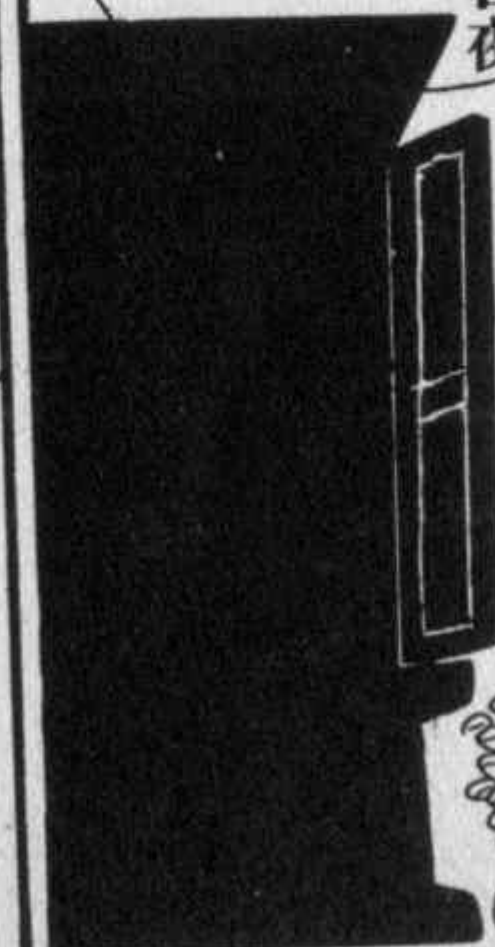




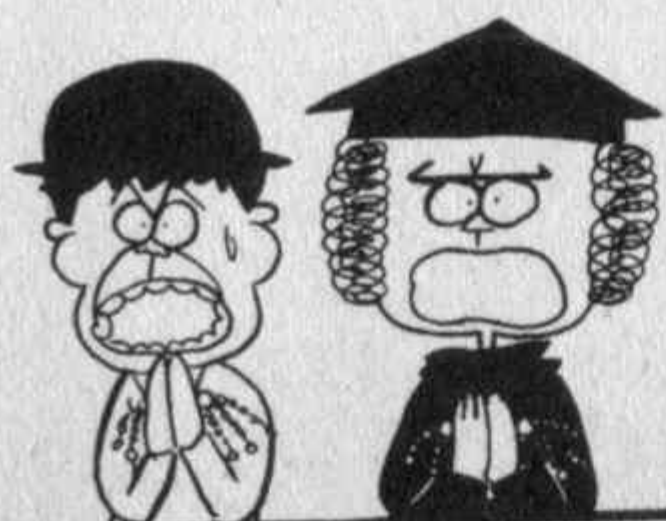
そして大宇宙に
みなぎる仏の生命を
南無妙法蓮華經の
御本尊として
あらわされ未来永遠の
すべての人のために
のこしてくださった
のです
この大御本尊は
げんさい大石寺の
正本堂に
御安置されています

この大御本尊の
お写しの
御本尊を

私たちは日夜
おがんで
いる
わけです



そして—
南無妙法蓮華經の
お題目を
この御本尊に
むかって
となえたとき……
私たちの生命に
仏界がわきでて
くるのです









ひとをさいこうの
幸福へと
みちびくと
いうことは

まえにならった
因果の理法に
てらしあわせて
かんがえてみると…

自分自身に
またその
しあわせが
かえってくる
ということですね
!!

その
とおり
です
!!

いっしゅうがいの
一生涯
この大仏法を
たもちつづけ…

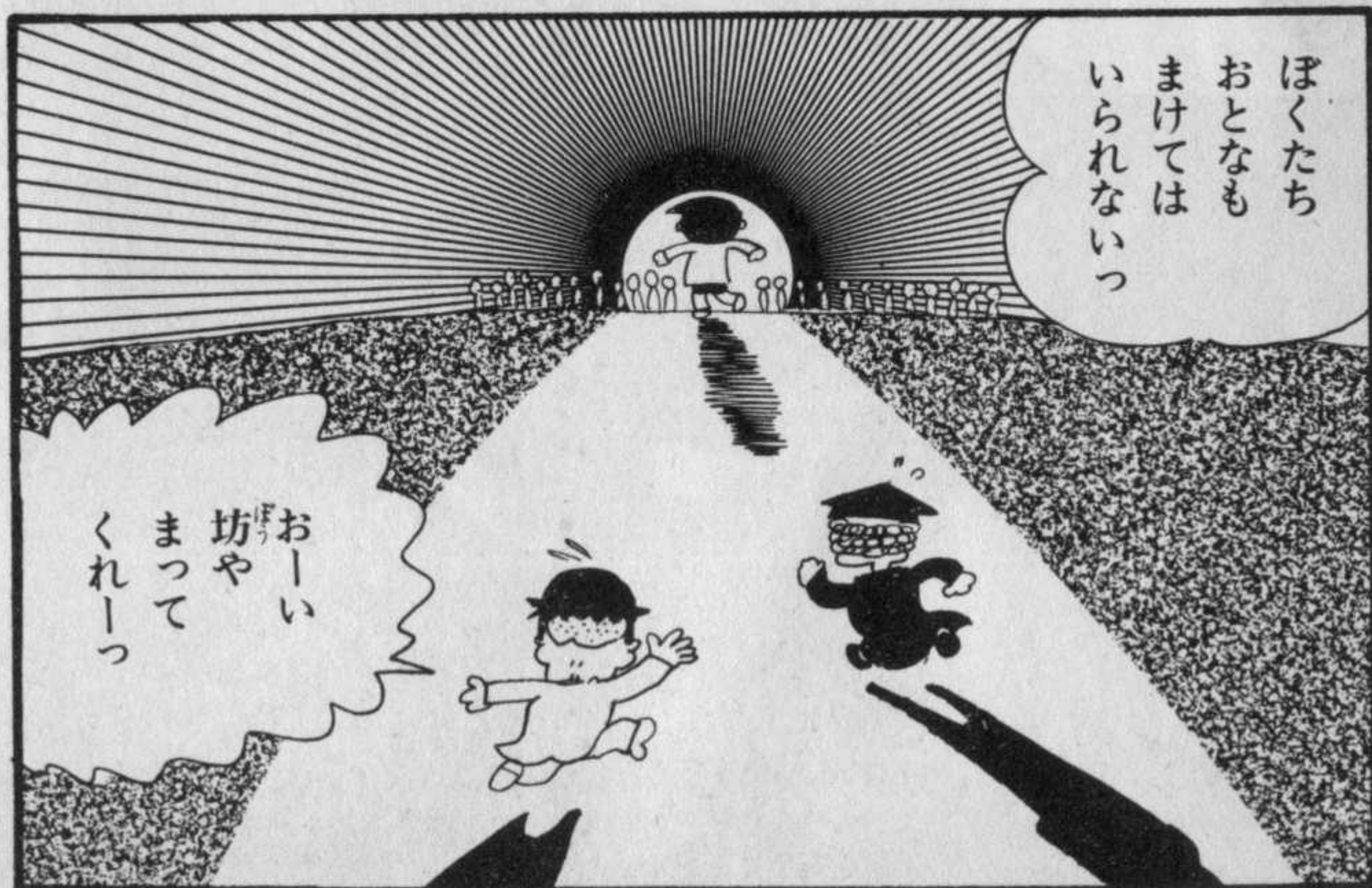
じこ
自己の生命を
みがいて
みがいて
みがきぬき

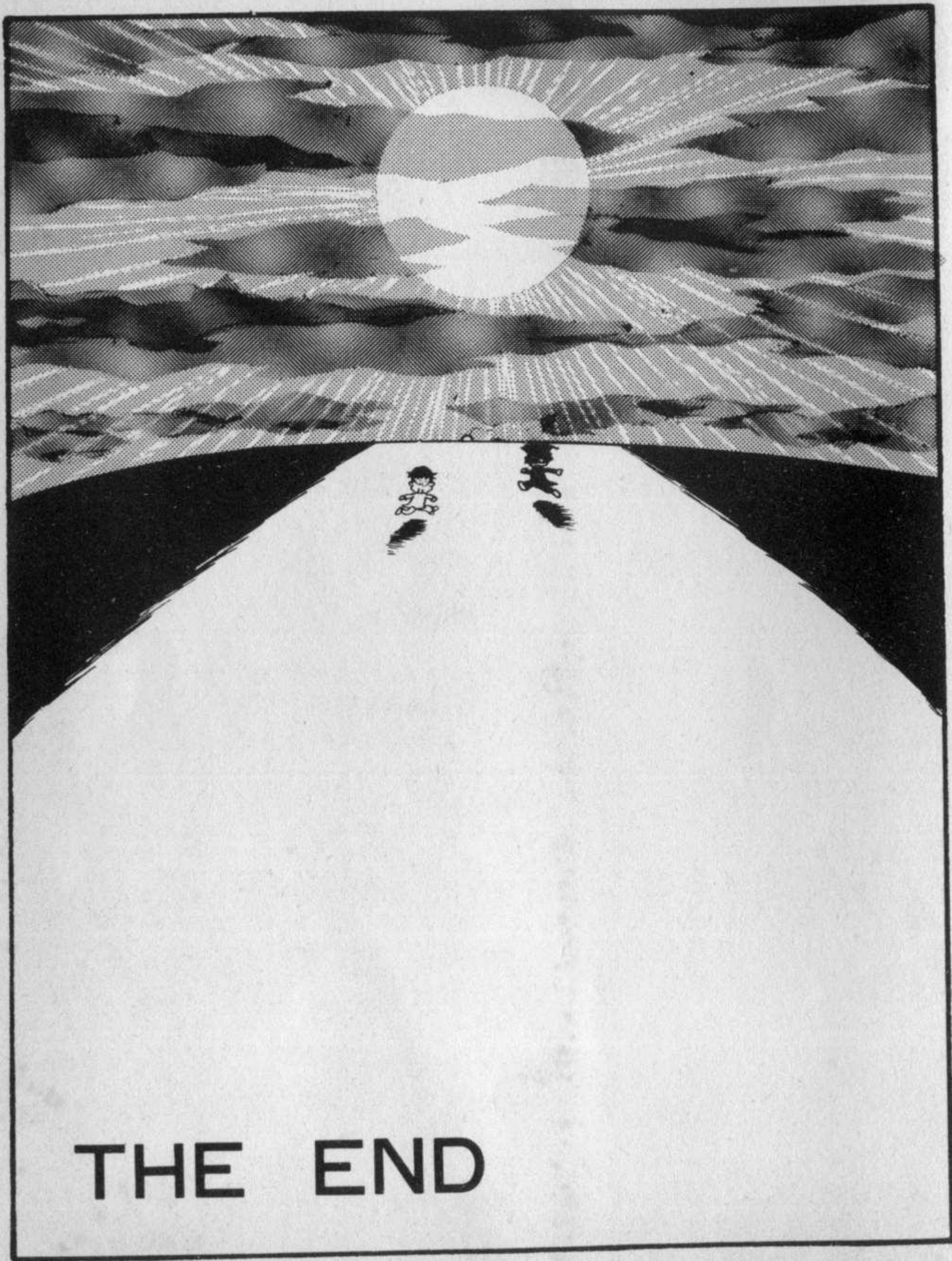
じゆ
地涌の菩薩として
りつぱに
かつやく
していく

このすばらしい
人生、
かがやかしい
生き方

にんげんかくめい
それが人間革命
こうせんふへ
広宣流布への
道なのです!!







THE END



聖教コミックス⑤

教学博士

昭和50年12月1日発行

昭和52年5月3日17刷

劇画
原作 みなもと 太郎

発行者 美坂 房洋

発行所 聖教新聞社

東京都新宿区信濃町18

TEL 東京(353) 6111代

印刷所 図書印刷株式会社

落丁・乱丁本はお取り替えいたします。

© Taro Minamoto 1975 Printed in Japan

